

令和2年度
市町村支援技術者養成事業
報告書

令和3年2月

一般社団法人 全国林業改良普及協会

目 次

事業のあらまし	1
Ⅰ. 事業の目的	2
Ⅱ. 事業の内容	2
1. カリキュラム等、検討業務	2
2. 森林経営管理制度円滑化対策研修	2
3. 技術力維持・向上対策研修	2
4. 情報共有ネットワーク化	2
Ⅲ. 事業の年間スケジュール	3
1. 森林経営管理制度円滑化対策研修	4
2. 技術力維持・向上対策研修、情報共有ネットワーク化	5
森林経営管理制度円滑化対策研修	7
Ⅰ. 森林経営管理制度円滑化対策研修の目的	8
Ⅱ. 研修カリキュラムの構築	8
1. カリキュラム構築にあたっての考え方	8
2. カリキュラムと個別研修項目の内容	10
Ⅲ. 研修の実施方法	13
1. 運営体制	13
2. 研修の開催県	13
3. 研修の準備	13
4. 受講生への連絡	14
5. 事前課題の受取	14
6. 新型コロナウイルス感染対策	14
7. 研修実施に当たっての事前調整	15
Ⅳ. 研修実施結果	17
1. 研修の実施概要	17
Ⅴ. 森林経営管理制度円滑化対策研修の実施状況	24
①北海道・東北ブロック	25
②関東ブロック	30
③中部・近畿①ブロック	35
④中部・近畿②ブロック	40
⑤西日本ブロック	45
⑥四国ブロック	50
⑦九州ブロック	55
Ⅵ. アンケートからみる研修の成果	60
1. アンケート結果の概要	60
Ⅶ. 研修の実施における課題と改善点	66
森林経営管理制度円滑化対策研修・参考資料	69
1-1 森林経営管理制度円滑化対策研修アンケート調査票	70
1-2 森林経営管理制度円滑化対策研修ふりかえりシートの様式	72
1-3 各ブロックの評価アンケート調査票	75
1-4 ブロック事務局名簿	117
1-5 新型コロナウイルスに対応した森林経営管理制度円滑化対策研修の実施方法について	119
1-6 研修における新型コロナウイルス感染症の感染防止対策について	122
1-7 体温・体調等記録用紙例	124

技術力維持・向上対策研修	127
I. 研修の実施概要	128
1. 運営体制	128
2. 技術力維持・向上対策研修の実施概要	128
II. 各ブロックの研修実施状況	145
1. 北海道ブロック	146
2. 東北ブロック	151
3. 関東ブロック	156
4. 中部ブロック	161
5. 近畿中国ブロック	166
6. 四国ブロック	171
III. 主な意見と課題の整理及び総括	176
1. 外部講師の主な意見	176
2. アンケート結果の概要(ブロック別)	179
3. アンケート結果の概要(全体)	185
4. 運営改善報告書の概要	187
5. 実践研修の課題の整理	189
6. 総括	191
情報共有ネットワーク化	193
I. サイトの開設状況	194
1. 市町村支援技術者養成事業ポータルサイト	194
2. 実践研修受講生向けサイト	195
3. 森林総合監理士PRサイト	197
4. 森林総合監理士ネットワークサイト	199
II. 総括	203
技術力維持・向上対策研修・参考資料	205
1-1 実践研修講師リスト(外部講師、林野庁講師)	206
1-2 実践研修修了者名簿	210
1-3 実践研修ふりかえりシートの様式例	212
1-4 実践研修アンケート調査票	214
1-5 実践研修タイムスケジュールの事例	215
1-6 研修における新型コロナウイルス感染症の感染防止対策について	218
1-7 体温・体調等記録用紙例	220
2-1 安全管理マニュアル	222
2-2 本事業で使用している研修関係用語の説明	233

事業のあらまし

事業のあらまし

I. 事業の目的

森林経営管理制度の円滑な運用に向け、市町村に対し適切な指導・助言等の支援を行う都道府県職員等の技術者を養成・確保するため、森林経営管理制度に対応した研修カリキュラムの検討及び技術者養成のための研修の運営並びに技術者(森林総合監理士等を含む)の技術力の維持・向上を図るための実践的な継続教育の実施等を行う。

II. 事業の内容

1. カリキュラム等、検討業務

(1)カリキュラムの作成

市町村が森林経営管理制度を円滑に運営できるよう、市町村を支援できる都道府県職員等の人材を育成するため、森林経営管理制度円滑化対策研修に係るカリキュラム・講師、研修資料等の研修カリキュラム案(「カリキュラム案」という)を作成するとともに、受講生のアンケート結果の分析や林野庁担当官との打合せ等を基に当該研修の実施結果を考察し、翌年度に向けたカリキュラム案の改善点の整理を行う。

(2)基本テキストの作成

林野庁で企画した原稿を元に、研修等で使用する基本テキストを作成する。

2. 森林経営管理制度円滑化対策研修

市町村が森林経営管理制度を円滑に運用できるよう、適切な指導・助言等を行う都道府県職員等の技術者を養成することを目的として、森林経営管理制度に基づく意向調査の実施や、経営管理権集積計画の作成、林業経営者への事業発注に関する手法等の技術的な知見等の習得を図るものとし、ブロック単位で講義形式及び対話形式により実施する。

3. 技術力維持・向上対策研修

市町村への指導・助言の役割を担うべき森林総合監理士をはじめとする技術者の技術水準の維持・向上を図ることを目的として、森林経営管理制度、地域の森林・林業の再生、林業の成長産業化等の課題をテーマに、現地検討及び討議等を通じて現場レベルでの課題解決策を共有する研修(「実践研修」という)をブロック単位で実施する。

4. 情報共有ネットワーク化

森林経営管理制度を運営していく上での課題への対応や先進的な地域活動の支援を行うため、森林総合監理士等相互間の情報共有や連携を推進するためのホームページを運営するとともに、森林総合監理士を広く一般にPRするための一般向けのサイトの運営と、森林総合監理士相互間の情報共有に供するための森林総合監理士専用サイト(パスワード等を設定)の運営等を行い、森林総合監理士等のネットワーク構築を行う。

Ⅲ. 事業の年間スケジュール

次頁図のとおりである。

Ⅲ. 事業の年間スケジュール

1. 森林経営管理制度円滑化対策研修

事業の内容	4月				5月				6月				7月				8月				9月				10月				11月				12月	1月	2月	
	第1週	第2週	第3週	第4週	第1週	第2週	第3週	第4週	第5週	第1週	第2週	第3週	第4週	第5週	第1週	第2週	第3週	第4週	第1週	第2週	第3週	第4週	第1週	第2週	第3週	第4週	第1週	第2週	第3週	第4週						
北海道・東北ブロック	4～8	11～15	18～22	25～28	祝: 4・5・6																															
関東ブロック																																				
中部・近畿①ブロック																																				
中部・近畿②ブロック																																				
西日本ブロック																																				
四国ブロック																																				
九州ブロック																																				
その他																																				

研修準備期間
受講者照会
研修の課題等の整理
受講生や関係者への連絡及び調整 ・研修の準備 ・研修の集計等、研修の課題抽出
講師照会、依頼
事業報告書作成

↔ 本研修

2. 技術力維持・向上対策研修(実践研修)、情報共有ネットワーク化

事業の内容	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月	1月	2月	
	第1週	第2週	第3週	第4週	第1週	第2週	第3週	第4週	第1週	第2週	第3週	第4週	第1週	第2週	第3週	第4週				
技術力維持・向上対策研修(実践研修)	4~8 11~15 18~22 25~28 祝: 4・5・6	1~5 8~12 15~19 22~26 29~7/31	6~10 13~17 20~24 27~31 祝: 23・24	3~7 10~14 17~21 24~28 祝: 10	1~3 2~4 7~8 16~18 8~10 11~13	5~9 12~16 19~23 26~30 祝: 3	2~6 9~13 16~20 23~27 祝: 23													
北海道ブロック																				
東北ブロック																				
関東ブロック																				
中部ブロック																				
近畿中国ブロック																				
四国ブロック																				
その他																				
情報共有ネットワーク化																				

研修準備期間

受講者照会

講師照会、依頼

実践研修外部講師へ意見照会

・受講生や関係者への連絡及び調整
・研修の実施・報告
・アンケート集計等、研修の課題抽出

森林総合監理士PRサイト、森林総合監理士ネットワークサイト

森林総合監理士等技術者活動支援事業ポータルサイト、受講生サイト

森林総合監理士のサイト開設

← 本研修
→ 事前打合せ

研修の課題等の整理、事業報告書作成

森林経営管理制度円滑化対策研修

森林経営管理制度円滑化対策研修

I. 森林経営管理制度円滑化対策研修の目的

本研修は、「令和2年市町村支援技術者養成事業委託事業」において行われる研修事業のうちのひとつである。事業の目的は、市町村が森林経営管理制度を円滑に運用できるよう、適切な指導・助言等を行う都道府県職員等の技術者を養成することである。

II. 研修カリキュラムの構築

1. カリキュラム構築にあたっての考え方

ア 基本的な考え方

本研修は平成31年4月に施行された「森林経営管理法」に基づく森林経営管理制度の円滑な運用を図るため、市町村の森林・林業担当者に対し適切な指導・助言等ができる都道府県等の技術者の養成を目的として実施されるものであった。

制度への取組も2年目となり、全国各地で地域特性を活かした本制度の推進に向けた様々な取組が進められている。地域によって様々な課題が整理され、その課題解決に向けた多くの試行錯誤が行われている。そうした先行する市町村のノウハウ等を学びながら、制度の導入にあたって、適切な運用方法を検討し、市町村に対して指導・助言等ができるよう、特に応用力を養うことを主たる目的としてカリキュラムの作成を行った。

イ 研修内容の検討

森林経営管理制度の運用を円滑に進めるために、上記の基本的な考え方も念頭に、研修においてどのような内容を理解させることが効果的かの検討を行った。

研修全体の流れとしては、まず、基本的なものとして、①森林経営管理制度そのものに係る理解をさらに深めること、その上で、②現状における他の市町村の取組に対する理解を通じて、研修生自身の今後の対応にあたっての応用力の強化を図ることとした。

さらに制度における個別の手続きに関する理解を深めることが必要との観点から、③市町村が再委託を行う民間事業者を選定する上で必要となる、優れた民間事業者についての理解の促進と、④「経営管理権集積計画」の模擬的作成を通じた基本の理解と疑問点の解消、⑤「市町村森林経営管理事業」を実施する上で必要となる適切な森林施業に対する理解の促進を図ることとした。④については発表、質問、意見交換などの手法を用いることにより応用力を養うこととした。

そして、研修生が市町村に対して効果的な支援・指導を行えるようになるためとの観点から、⑥制度の実施主体である市町村の制度に対する考え方や抱える課題に対する理解の促進を図ることとした。詳細については以下のとおりである。

① 森林経営管理制度そのものに係る理解の促進

森林経営管理制度については、これまで林野庁が各都道府県において制度に関する説明会を開催していることや林野庁が「森林経営管理制度に係る事務の手引」（令和2年12月24日付け最終改正）を作成していることから、研修生は制度の概要については一定の理解をしていると思われるが、この制度が創設された背景や制度の目的を十分理解することで市町村支援にあたって応

用の幅を広げること、また、制度の要となる市町村が作成する「経営管理権集積計画」のポイントや作成手順などについて、理解を深め、これまでの疑問を解消するため、研修項目「森林経営管理制度の概要と現状」及び「経営管理権集積計画の作成」を行う。

② 他の都道府県や市町村の取組に対する理解と今後の対応における応用力の強化

研修生の属する都道府県内の任意の市町村の意向調査実施（予定）状況を調べて、その結果を意向調査の事例として提出し、研修生が相互に発表・紹介を行い、それに対して質問や意見交換を行うことで、他都道府県等の市町村の意向調査の取組の詳細や背景、課題についての理解を促すとともに、これらを通じて研修生が自らの地域への応用を考えることなどより、今後の市町村支援における応用力を養うため、研修項目「経営管理権集積計画の作成」（講義と事前課題「意向調査の実施状況」についての研修生からの発表、意見交換）を行う。

③ 市町村が再委託を行う民間事業者を選定する上で必要となる、優れた民間事業者についての理解の促進

森林経営管理制度では、市町村は森林所有者から管理経営の委託を受けた森林のうち、林業経営に適した森林については民間事業者に再委託をすることができるが、この民間事業者について、法律（第36条第2項）では、①経営管理を効率的かつ安定的に行う能力を有すると認められること、②経営管理を確実に行うに足る経理的な基礎を有すると認められることの2つの要件に適合することが必要とされている。

また、その基準については「森林経営管理法の運用について」（平成30年12月21日付け林野庁長官通知）においてその考えが示されている。

このような基準を満たす優良な民間事業者の経営や事業実行に対する考え方を知り、その特徴を把握した上で、今後の再委託等の事務に取り組むことが可能となるよう、研修項目「制度運用のための優良民間事業者との意見交換」を行う。

④「経営管理権集積計画」の模擬的作成を通じた基本の理解と疑問点の解消

「経営管理権集積計画」とは、市町村が所有者に代わって森林の経営管理を行うことが必要かつ適当と認める場合に、当該森林の経営管理を行う権利を市町村が取得するために定める計画である。

「経営管理権集積計画」の模擬的作成を事前課題として研修生に課し、計画作成プロセスの体験を通じて疑問点等を明らかにし、研修においてこれらの疑問点を解消することなどにより、計画の概要や作成手順の理解を促進させるため、研修項目「経営管理権集積計画演習」を行う。

⑤「市町村森林経営管理事業」を実施する上で必要となる適切な森林施業に対する理解

経営管理権集積計画により市町村が森林所有者から委託を受けた森林は、林業経営が成り立つかどうかにより、①民間事業者に再委託されるものと、②市町村自らが管理するものとに区分される。

このうち、市町村自らが管理経営を行う際に実施する「市町村森林経営管理事業」について法律では、「事業の対象となる森林の状況を踏まえて、複層林化その他の方法により、その森林について経営管理を行うものとする」（第33条第2項）とされている。

このため、複層林化を含めた森林づくりの考え方や手法についての理解を促進するため、研修項目「市町村森林経営管理事業のための森林施業」を行う。

⑥制度の実施主体である市町村の制度に対する考え方や抱える課題に対する理解の促進

都道府県職員が市町村に対して支援・指導をする際に、市町村が森林経営管理制度に対してどのような考えを持っているか、何を課題と考えているかなどについて理解していることは、支援・指導を円滑に行う上でも重要である。このため、本制度に対して先進的あるいは積極的に対応している市町村からの事例紹介を通じて、市町村の考え方等を理解するため、研修項目「先進市町村の取組事例」を行う。

ウ 研修効果を高める研修手法の採用

研修生間での発表（報告）や意見交換、林野庁からのコメントやアドバイスなどを受けることを通じて応用力を養うこととし、研修方法は講師から講義を受ける方法のみならず、研修生に事前に課した、事前課題1「森林経営管理制度に対する質問」、事前課題2「意向調査の実施状況」、事前課題3「模擬的 経営管理権集積計画の作成」などを研修資料として活用し、研修生による発表（報告）や意見交換等が活発に行われる方法を採用した。

また、発表（報告）や意見交換において、研修生の積極的な参加を可能とするよう、進行役（コーディネーター）が研修生の積極的参加を促すよう運営に努めた。

このような方法を採用することで、他の研修生や林野庁に対する質問や意見交換を通じて、森林経営管理制度への理解を深めることができるとともに、他の都道府県や市町村での経営管理制度についての取組状況や抱える課題、そして対応などについても知ることができ、研修生それぞれが今後直面する課題等に対応するための貴重な知見となり応用力を広げることができると考えられた。

2. カリキュラムと個別研修項目の内容

研修期間は研修生の業務を念頭に比較的参加が容易と考えられる3日間（実質の研修期間2日間）とし、上記1. イの研修内容の考え方を踏まえ、3日間の研修の研修項目のねらい、概要及び進め方については以下を基本とした。なお、研修項目の割当時間については、ブロックによって若干異なるため、本研修第1回目の北海道・東北ブロックのカリキュラムに基づいて紹介する。

1日目午後

【講義】「森林経営管理制度の概要と現状」(13:10～14:30)

ねらい：森林経営管理制度の意義や概要、制度に関連する都道府県や市町村の対応についての理解を深めること目的とする。

研修概要：教材に基づき説明した後、事前課題1である「森林経営管理制度に対する質問等」のうち、制度全般に関する質問への回答や意見交換を行いながら講義を進める。また、都道府県や市町村の対応について、全国的な動向や特徴のある事例を紹介する。

進め方：研修にあたって、これまでの林野庁の説明会などで十分理解できなかった点などをクリアにしてもらうため、予め研修生から事前課題（1）「森林経営管理制度に対する質問等」を提出してもらい、この点にも触れながら講義を行う。さらに、制度の取組が全国的にどのような状況であるのか、特徴のある市町村の事例等についても紹介する。

【講義・意見交換】「経営管理権集積計画の作成」(14:45～16:30)

ねらい：意向調査の実施から経営管理権集積計画の作成までの基本的な流れや集積計画に記載す

べき内容を理解する。

研修概要：集積計画の標準的な作成方法等についての説明のほか、事前課題1のうち、経営管理権集積計画に関する質問への回答や意見交換を行いながら講義を進める。

さらに、事前課題「意向調査の実施状況」についての受講生からの発表について意見交換を行う。

進め方：事前課題2の提出資料「意向調査の実施状況」により、次について研修生が発表する。研修生が所属する都道府県内の任意の市町村の意向調査実施（予定）状況、基本的な考え方、進め方、進捗状況等、都道府県や支援組織の支援状況、取組の課題、受講生や林野庁と意見交換したい事項等。発表者の選定は、当該ブロックの研修に参加した都道府県のバランス等も考慮する。

それらの発表に対して、他都道府県の研修生からの質問や意見交換を行ってもらおう。また、適宜林野庁からコメント等をもろう。

2日目午前

【講義・意見交換】「制度運用のための優良民間事業者との意見交換」(9:15~10:55)

ねらい：都道府県は、経営管理実施権の設定を希望する民間事業者を公募・公表することとなっており、この際、市町村は都道府県が公表するにふさわしい者を推薦することができることとなっている。また、市町村は経営管理実施権配分計画を定める場合、都道府県が公表した民間事業者の中から、経営管理実施権を設定する民間事業者を選定することとなっている。

このため、優れた民間事業者の経営姿勢や現場の活動などの特徴を理解することで、民間事業者の選定等に係る判断や育成方法の検討に必要な能力を養う。

研修概要：優れた民間事業者の活動や取組について、民間事業者から説明を受け、質疑や意見交換を行い、その特徴をまとめる。

進め方：民間事業者からの説明を受けて、意見交換等を行い、研修生は優良な民間事業者の特徴のポイントを整理する。これに対して民間事業者から正しく特徴を捉えているかどうかの観点でコメントをもろう。

【講義・意見交換】「先進市町村の取組事例」(11:10~12:10)

ねらい：森林経営管理制度の実施主体である市町村がどのような考えで制度に対する取組を行い、どのような課題を有しているかについて理解を深める。

研修概要：積極的に取り組んでいる（取り組もうとしている）市町村等から取組内容や課題についての説明を受け、質問や意見交換を行う。

進め方：市町村による説明終了後に、質問及び意見交換の時間を十分に確保する。

2日目午後

【演習】「経営管理権集積計画演習」(13:00~16:45)

ねらい：事前課題3で作成した模擬的「経営管理権集積計画」の発表と林野庁からのコメント、受講生間の意見交換等を通じて、計画を作成するにあたっての対象森林の考え方、経営管理の内容の検討等について、様々な視点から考えられる力を身に付けてもらう。

研修概要：受講生が事前課題3で作成した模擬的「経営管理権集積計画」について、作成にあたって生じた疑問点や課題なども含めて発表を行った後、これに対する質疑や意見交換を行いながら演習を進める。

進め方：研修生より提出のあった模擬的な経営管理権集積計画について、各県少なくとも1名の研修生に発表してもらおう。発表にあたっては事前課題3の模擬的「経営管理権集積計画」により作成した、基本編2課題（「集積計画の本文（個別事項、共通事項、別添）」「集積計画対象森林を明らかにする図面」と応用編により説明してもらおう。

発表に対して他の研修生から、例えば、自分が作成にあたって困難と思ったことを発表者がどのようにクリアしたかなどの質問等をしてもらい、計画の作成方法について理解を深めてもらう。また、研修生の発表、質問等に対して、必要に応じて林野庁からコメントをもらう。最後に、林野庁で検討した団地A及び団地Bの集積計画の作成例について解説する。

3日目午前

【講義】「市町村森林経営管理事業のための森林施業」(9:15～10:45)

ねらい：市町村森林経営管理事業に関連し、森林づくり全般に対する考え方について最新の知見により理解を深める。

研修概要：針広混交林化等に向け、自然的条件等の状況に応じた施業方法を選択できるように、森林づくり全般に関する講義を行う。

進め方：講義終了に質問時間を十分に確保する。

【講義】「経営管理権集積計画の作成等に係る留意事項」(10:55～11:55)

ねらい：集積計画の作成等を行うにあたって、特に留意すべきポイントについて、習得してもらい、「経営管理権集積計画演習」を通して身に付けてもらった知見とあわせ、今後、市町村等に対して適切に指導・助言できる能力を習得してもらう。

研修概要：集積計画の実例も交えながら、計画の作成等に当たって留意すべき事項等について講義を行う。

進め方：研修全体を通じての質問等を受ける。

Ⅲ. 研修の実施方法

1. 運営体制

別図のとおり研修運営を行った。

2. 研修の開催県

研修を開催した都道府県は次のとおり。()内は受講対象とする主な都道府県を割り振ったが、他のブロックへの参加も可能とした。

(1) 北海道・東北ブロック 開催県：宮城県（北海道、青森県、岩手県、秋田県、宮城県、山形県、福島県）

(2) 関東ブロック 開催県：栃木県（東京都、埼玉県、神奈川県、千葉県、群馬県、栃木県、茨城県、新潟県）

(3) 中部・近畿①ブロック 開催県：石川県 中部（長野県、富山県、石川県、福井県）、近畿（滋賀県、京都府、大阪府）

(4) 中部・近畿②ブロック 開催県：静岡県 中部（愛知県、岐阜県、静岡県、山梨県）、近畿（三重県、奈良県、和歌山県）

(5) 西日本ブロック 開催県：鳥取県 中国（岡山県、広島県、山口県、島根県、鳥取県）、近畿（兵庫県）

(6) 四国ブロック 開催県：高知県 四国（徳島県、香川県、愛媛県、高知県）

(7) 九州ブロック 開催県：鹿児島県 九州（福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県）

3. 研修の準備

①研修開催県との打合せ内容

- ・推薦いただいた外部講師（制度に先進的に取り組む市町村）の確認
- ・外部講師（優良民間事業者）の選定
- ・研修日程の確認
- ・研修会場の確認
 - *基本的に県庁所在地等の主要都市で、駅からのアクセスが容易な会場を選定。
- ・都道府県独自のコロナウィルス感染対策防止の確認

②各ブロックの打合せ内容

研修の実施に際し、諸準備を行うことを目的に、研修を実施した7県に研修運営をサポートするブロック事務局を設置した。各ブロック事務局との打合せ内容は次のとおり。

- ・研修会場の選定・確認
 - *コロナウィルス感染対策防止の対応として、募集人員の2倍以上の収容人員の会場を確保。
- ・必要な機材や課題等を確認
- ・受講生の座席位置の検討等
- ・役割分担、研修の流れの確認
- ・県庁への情報提供と協力依頼

- ・研修開催時の基本的なコロナウイルス感染防止策の共有

4. 受講生への連絡

○受講案内

各都道府県の受講生と研修窓口（森林経営管理制度）に向けて、ブロックごとに研修の案内の第一報「受講の手引き」とともに事前課題の作成要領等を送付した。

- ・受講の手引き
- ・研修の概要
- ・カリキュラム
- ・事前課題について（受講生に研修前に作成・提出いただく資料）
- ・模範的「経営管理権集積計画」の作成要領
- ・受講生名簿（各ブロックごと）
- ・コロナウイルス感染防止対策について（共通）
- ・体温・体調等記録用紙（共通）

○問い合わせ先

研修会場等、研修運営についての問い合わせ先は、各ブロック事務局とし、研修内容、事前課題内容についての問い合わせ先は、事務局・全国林業改良普及協会とした。

5. 事前課題の受取

受講生からの事前課題の受け取りは各ブロック事務局が行い、事前課題の締め切り日を目途に未提出者に督促を行った。ブロック事務局は取りまとめた事前課題を事務局・全国林業改良普及協会へ送付した。事務局では課題内容を確認し、内容に不足があった場合には各受講生に直接連絡して対応を行った。おおよその事前課題を事務局が受け取った段階で、林野庁と課題の共有を行った。

6. 新型コロナウイルス感染対策

令和2年度の研修実施にあたって、いわゆるコロナ禍の中でこれまでどおりの集合形式での研修が実施できるかどうか危ぶまれた。

本研修は、講師の講義のみによるものではなく、受講生との意見交換、受講生の課題発表など、受講生とともに作り上げる研修であり、このような研修方法により研修効果を高めることとしていたことから、集合形式での研修が困難となれば、十分な研修効果が得られないことが心配されたところである。

しかしながら、7ブロックでの研修が9～11月の実施となり、コロナウイルスの感染が小康状態にあった時期であったことから、国が示すコロナ禍でのイベント実施の方法等を十分に踏まえ、研修会場においては、体温計、アルコールなどの消毒薬を準備するほか、講師と受講生の間にはアクリル板を設置し、講師等にはフェイスガードを着用していただくなどの措置を講じるとともに、受講生に対しても研修開始の2週間前から検温を行うように指示し、研修期間中も研修開始時には事務局で検温を行い、それらを記録用紙に記録させるとともに、研修中において体調不良となった場合には研修参加を中止してもらい旨予め伝えるなどの対応を行い、研修生自身が十分なコロナ対策を行うように促したところである。

なお、検温記録は事務局で保管し、その後の万が一に備えたところである。

このような対応の下、研修においてコロナ感染が発生することはなく、無事に研修を実施することができた。

これらの対応に関しての資料は、事前に林野庁と行った考え方の整理（参考資料 1-5）、研修生に対する指示事項（参考資料 1-6、参考資料 1-7）である。

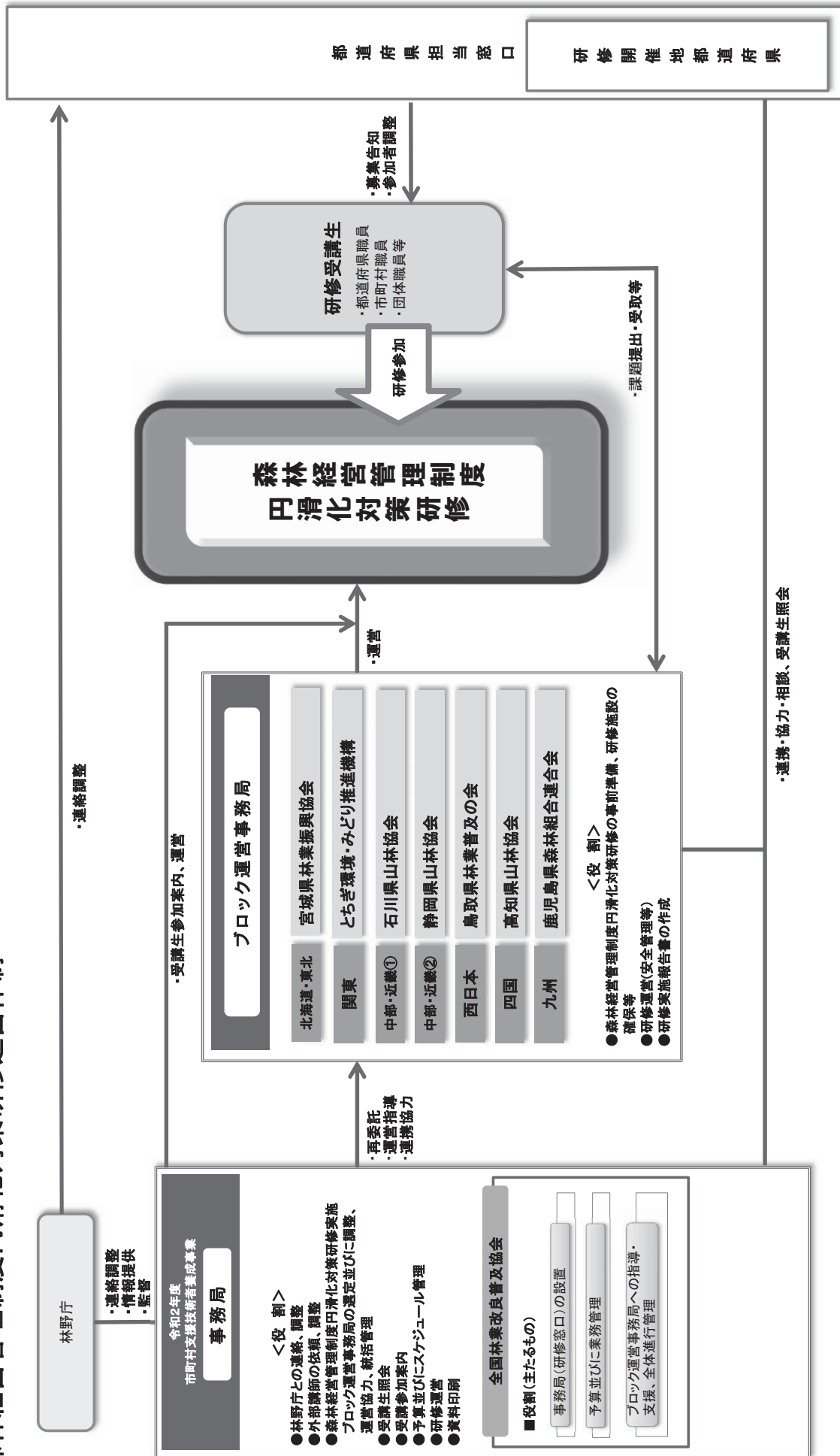
7. 研修実施に当たっての事前調整

研修の目的や構成、講師に依頼する講義の研修における位置づけなどが適切に伝わっていない場合、講師の人選、講義の内容が十分研修の目的に沿ったものとならないことがある。

このため、関係者には複数回連絡をとるなどして、これらについて説明を行ってきた。今回の研修においてもこれまでどおりそのような対応を取り、講師には十分理解されていたと考えていたが、直前になって提出された資料を確認したところ、十分な理解が得られていないことが判明し、急遽具体的な修正依頼を行った事例があった。

講師の理解が得られたかどうかは提出された資料により初めて確認ができるが、講師の事情もあり、十分な時間をもって資料を提出していただくことができないこともある。そのため、その後は過去の講義の資料を送るなどして、ポイントとなるところを説明して理解を得ることとした。また、このような調整を含め事前調整には、森林経営管理制度に関する一定の知識と林業に関する知識が必要とされたところである。

1. 森林経営管理制度円滑化対策研修運営体制



IV. 研修実施結果

1. 研修の実施概要

(1) 研修実施場所・研修日程

研修は全国7ブロック（北海道・東北、関東、中部・近畿①、中部・近畿②、西日本、四国、九州）において9月から11月にかけて実施した。

ブロック名	日程	研修会場	
		施設名	所在地
北海道・東北	9月16日 ～18日	仙都会館	宮城県仙台市青葉区中央 2-2-10
関東	11月24日 ～26日	地方職員共済組合栃木県職員 会館 ニューみくら	栃木県宇都宮市昭和 1 丁目 3 番 6 号
中部・近畿①	10月27日 ～29日	金沢勤労者プラザ	石川県金沢市北安江 3-2-20
中部・近畿②	10月20日 ～22日	<1～2日目> 静岡県男女共同参画センター あざれあ	静岡県静岡市駿河区馬淵 1 丁目 17 番 1 号
		<3日目> レイアップ御幸町ビル	静岡県静岡市葵区御幸町 11-8
西日本	10月6日 ～8日	鳥取市民交流センター	鳥取県鳥取市幸町 71
四国	9月28日 ～30日	高知市町村職員共済会館	高知県高知市本町 5 丁目 3-20
九州	11月10日 ～12日	宝山ホール (鹿児島県文化センター)	鹿児島県鹿児島市山下町 5-3

(2)カリキュラム例

ブロックによって、会場の利用時間が若干異なったため、ブロックごとの研修開始・終了時間は30分程度前後した。次に示すのは、令和2年度の本研修第1回目の北海道・東北ブロックのカリキュラム例である。

森林経営管理制度円滑化対策研修（北海道・東北ブロック）カリキュラム										休憩マーク			
		9:10	10:00	11:00	12:00	12:45	14:00	15:00	16:00	～17:00			
9月16日 (水) 1日目		会場の利用時間9:00～17:00のため、9時から10分間準備、9:10に研修開始とする				開講式・オリエンテーション(25分) 12:45～	事務局	【講義】森林経営管理制度の概要と現状(80分) 13:10～14:30	林野庁	【講義・意見交換】経営管理権集積計画の作成*事前課題「意向調査の実施状況」の発表・意見交換を含む(105分) 14:45～16:30	林野庁 受講生からの発表	ふりかえり(20分)	事務連絡(10分)
		休憩(15分)					休憩(15分)						
9月17日 (木) 2日目	日程説明等(5分)	【講義・意見交換】制度運用のための優良民間事業者との意見交換(100分) 9:15～10:55	【講義・意見交換】先進市町村の取組事例(60分) 11:10～12:10		昼食(50分)	【演習】経営管理権集積計画演習(前半)(105分) 13:00～14:45		【演習】経営管理権集積計画演習(後半)(105分) 15:00～16:45		ふりかえり(10分)	事務連絡(5分)		
		林業事業者の担当者	市町村の担当者			受講生からの発表 アドバイス：林野庁		受講生からの発表 アドバイス：林野庁					
休憩(10分)													
9月18日 (金) 3日目	日程説明等(5分)	【講義】市町村森林経営管理事業のための森林施業(90分) 9:15～10:45	【講義】経営管理権集積計画の作成・実施等に係る留意事項(60分) 10:55～11:55	総括(20分) 11:55～12:15	ふりかえり(20分)	閉講(5分)	～12:40終了						
		森林総研	林野庁	林野庁									
※各講義や演習における()は予定時間であり、変更となる可能性があります。													
※開始・終了時刻は、会場の利用条件等により変更となる可能性があります。													

(3) 研修講師

北海道・東北ブロック

講義・演習名	講師等	所属
【講義】森林経営管理制度の概要と現状	三間知也	林野庁森林利用課森林集積推進室
【講義・意見交換】経営管理権集積計画の作成	三間知也	林野庁森林利用課森林集積推進室
【講義・意見交換】制度運用のための優良民間事業者との意見交換	佐藤太一	株式会社 佐久
【講義・意見交換】先進市町村の取組事例	千葉哲彦	登米市 農林振興課
【演習】経営管理権集積計画演習	室木直樹	林野庁森林利用課森林集積推進室
【講義】市町村森林経営管理事業のための森林施業	佐藤 保	国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所
【講義】経営管理権集積計画の作成・実施等に係る留意事項	室木直樹	森林利用課 森林集積推進室

関東ブロック

講義・演習名	講師等	所属
【講義】森林経営管理制度の概要と現状	山口雄大	林野庁森林利用課森林集積推進室
【講義・意見交換】経営管理権集積計画の作成	室木直樹	林野庁森林利用課森林集積推進室
【講義・意見交換】制度運用のための優良民間事業者との意見交換	高瀬洋之	たかはら森林組合
【講義・意見交換】先進市町村の取組事例	斎藤敦子	矢板市農林課
【演習】経営管理権集積計画演習	室木直樹	林野庁森林利用課森林集積推進室
【講義】市町村森林経営管理事業のための森林施業	佐藤 保	国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所
【講義】経営管理権集積計画の作成・実施等に係る留意事項	室木直樹	森林利用課 森林集積推進室

中部・近畿①ブロック

講義・演習名	講師等	所属
【講義】森林経営管理制度の概要と現状	安高志穂	林野庁森林利用課森林集積推進室
【講義・意見交換】経営管理権集積計画の作成	大石貴久	林野庁森林利用課森林集積推進室

【講義・意見交換】制度運用のための優良民間事業者との意見交換	片山健二	かが森林組合
【講義・意見交換】先進市町村の取組事例	井海之傑 (代理 間明弘光)	白山市林業水産課 (石川県林業公社 林業アドバイザー)
【演習】経営管理権集積計画演習	室木直樹	林野庁森林利用課森林集積推進室
【講義】市町村森林経営管理事業のための森林施業	佐藤 保	国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所
【講義】経営管理権集積計画の作成・実施等に係る留意事項	室木直樹	森林利用課 森林集積推進室

中部・近畿②ブロック

講義・演習名	講師等	所属
【講義】森林経営管理制度の概要と現状	三間知也	林野庁森林利用課森林集積推進室
【講義・意見交換】経営管理権集積計画の作成	三間知也	林野庁森林利用課森林集積推進室
【講義・意見交換】制度運用のための優良民間事業者との意見交換	望月貴治	株式会社 白糸植物園
【講義・意見交換】先進市町村の取組事例	渡邊直樹	富士市林政課
【演習】経営管理権集積計画演習	山口雄大	林野庁森林利用課森林集積推進室
【講義】市町村森林経営管理事業のための森林施業	佐藤 保	国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所
【講義】経営管理権集積計画の作成・実施等に係る留意事項	三間知也	森林利用課 森林集積推進室

西日本ブロック

講義・演習名	講師等	所属
【講義】森林経営管理制度の概要と現状	三間知也	林野庁森林利用課森林集積推進室
【講義・意見交換】経営管理権集積計画の作成	三間知也	林野庁森林利用課森林集積推進室
【講義・意見交換】制度運用のための優良民間事業者との意見交換	嶋沢和幸	鳥取県東部森林組合
【講義・意見交換】先進市町村の取組事例	下石直生 東 勇太	鳥取市林務水産課 八頭町役場産業観光課
【演習】経営管理権集積計画演習	三間知也	林野庁森林利用課森林集積推進室

【講義】市町村森林経営管理事業のための森林施業	佐藤 保	国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所
【講義】経営管理権集積計画の作成・実施等に係る留意事項	三間知也	森林利用課 森林集積推進室

四国ブロック

講義・演習名	講師等	所属
【講義】森林経営管理制度の概要と現状	室木直樹	林野庁森林利用課森林集積推進室
【講義・意見交換】経営管理権集積計画の作成	室木直樹	林野庁森林利用課森林集積推進室
【講義・意見交換】制度運用のための優良民間事業者との意見交換	宮本昌博	中村市森林組合
【講義・意見交換】先進市町村の取組事例	室町爽子	四万十市農林水産課
【演習】経営管理権集積計画演習	室木直樹	林野庁森林利用課森林集積推進室
【講義】市町村森林経営管理事業のための森林施業	佐藤 保	国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所
【講義】経営管理権集積計画の作成・実施等に係る留意事項	室木直樹	森林利用課 森林集積推進室

九州ブロック

講義・演習名	講師等	所属
【講義】森林経営管理制度の概要と現状	三間知也	林野庁森林利用課森林集積推進室
【講義・意見交換】経営管理権集積計画の作成	三間知也	林野庁森林利用課森林集積推進室
【講義・意見交換】制度運用のための優良民間事業者との意見交換	田中佑樹	有限会社 田中林業
【講義・意見交換】先進市町村の取組事例	山中敏博 坂元成康 山之口 猛	鹿児島市農林水産部生産流通課 鹿児島県森林組合連合会 森林経営管理市町村サポートセンター (鹿児島県森林組合連合会)
【演習】経営管理権集積計画演習	山口雄大	林野庁森林利用課森林集積推進室
【講義】市町村森林経営管理事業のための森林施業	佐藤 保	国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所
【講義】経営管理権集積計画の作成・実施等に係る留意事項	三間知也	森林利用課 森林集積推進室

(4) 研修受講者

ブロック	都道府県名	都道府県別受講者内訳					ブロック別受講者内訳				
		計	都道府県	市町村	団体	国有林	計	都道府県	市町村	団体	国有林
北海道 東北	北海道	5	5				24	14	8	2	0
	青森県	5	2	1	2						
	岩手県	1	1								
	宮城県	4	3	1							
	秋田県	0									
	山形県	3	1	2							
	福島県	6	2	4							
	福島県	3	1	2							
関東	茨城県	0				13	4	8	1	0	
	栃木県	7	1	6							
	群馬県	1	1								
	埼玉県	0									
	千葉県	1	1								
	東京都	0									
	神奈川県	1			1						
	山梨県	0									
	新潟県	1		1							20
富山県	2	2									
石川県	12	6	3	3							
福井県	0										
長野県	0										
愛知県	0										
三重県	0										
滋賀県	1	1									
京都府	1	1									
大阪府	1	1									
和歌山県	1	1									
国有林	1				1						
中部近畿②	山梨県	1	1			20	4	10	6	0	
	静岡県	14	2	7	5						
	愛知県	1	1								
	京都府	1		1							
	和歌山県	3		2	1						
西日本	京都府	1	1			19	9	6	3	1	
	兵庫県	6	2	3	1						
	鳥取県	10	5	3	2						
	島根県	0									
	岡山県	0									
	広島県	0									
	山口県	0									
	愛媛県	1	1								
	国有林	1									1
四国	山口県	1	1			22	13	5	4	0	
	徳島県	0									
	香川県	0									
	愛媛県	9	3	2	4						
	高知県	12	9	3							
九州	福岡県	1	1			14	7	5	2	0	
	佐賀県	1		1							
	長崎県	2	2								
	熊本県	1	1								
	大分県	1			1						
	宮崎県	2		1	1						
	鹿児島県	6	3	3							
	沖縄県	0									
合計		132	63	46	21	2	132	63	46	21	2

(5) 研修受講者の年齢構成、男女比

① 年齢構成

年齢構成の表からは、全受講生 132 名のうち、名簿に年齢の記録がない（スポット参加）の 19 名については除いている。

表 受講生の所属ごとの参加者数

		10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	計
全受講生		1	16	27	41	18	9	1	113
所属	都道府県		5	10	23	16	3		57
	市町村	1	9	13	16	2	2		43
	団体		2	4	2		4	1	13

(単位:人)

表 受講生の所属ごとの年代別割合

(各属性を 100%としたときの割合)

		10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代
全受講生		0.9	14.2	23.9	36.3	15.9	8.0	0.9
属性	都道府県	0.0	8.8	17.5	40.4	28.1	5.3	0.0
	市町村	2.3	20.9	30.2	37.2	4.7	4.7	0.0
	団体	0.0	15.4	30.8	15.4	0.0	30.8	7.7

(単位:%)

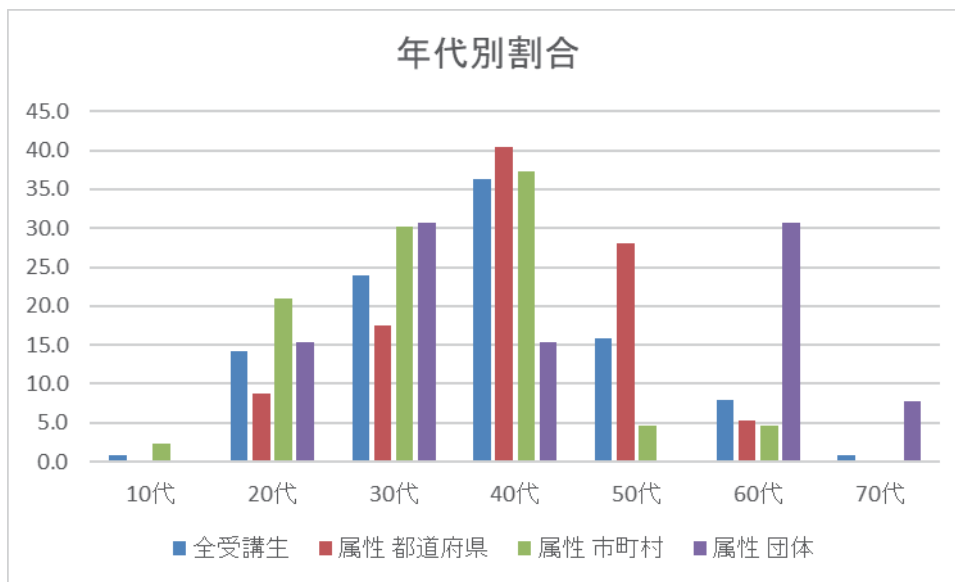


図 受講生の属性ごとの年代別割合 (各属性を 100%としたときの割合)

② 男女比

	総数	男性	女性
人数(人)	132	112	20
比率(%)	100	84.8	15.2

V. 森林経営管理制度円滑化対策研修の実施状況

森林経営管理制度円滑化対策研修の実施状況を共有する資料として、各ブロックでの研修の概要をまとめた「実施報告書」、受講生のアンケートを集計した「アンケート結果」を作成した。

研修の実施状況を記録写真（北海道・東北ブロック）によって、以下に紹介する。

		
<p>研修会場全景：1日目</p>	<p>森林経営管理制度の概要と現状：1日目</p>	<p>事例発表の流れ説明：1日目</p>
		
<p>制度運用のための優良民間事業者との意見交換（外部講師）：2日目</p>	<p>受講生からの事業者に対する経営姿勢や特徴などを集約：2日目</p>	<p>先進市町村の取組事例（外部講師）：2日目</p>
		
<p>経営管理権集積計画演習（事前課題発表）：2日目</p>	<p>市町村森林経営管理事業のための森林施業（外部講師）：3日目</p>	<p>経営管理権集積計画の作成等に係る留意事項：3日目</p>
		
<p>研修総括：3日目</p>	<p>受講風景1</p>	<p>受付時の検温（コロナウィルス感染対策）</p>

①森林経営管理制度円滑化対策研修 北海道・東北ブロック実施報告書

1 日程・研修場所 令和2年9月16日(水)～9月18日(金)
研修会場 仙都会館5階5A会議室(宮城県仙台市)

2 研修受講者数:24名 [男性:21名 女性:3名]
(道県職員14名、市町村職員8名、公益社団法人2名)

北海道	5名	青森県	5名	岩手県	1名	宮城県	4名
山形県	3名	福島県	6名				

途中欠席者数:1名

3 研修実施概要

○予定どおり全カリキュラムを修了

○研修運営状況、研修生の様子など

・初日、オリエンテーションと森林経営管理制度の概要と現状、経営管理権集積計画の作成。後者の講義では、北海道・青森・岩手・宮城・山形・福島各1名の計6名の受講生から事前課題の「意向調査の実施状況」について発表があったが、持ち時間が不足気味であった。

・2日目は、制度運用のための優良民間事業者との意見交換(南三陸町(佐久)におけるFSC認証を活用した取り組み/株式会社佐久)、先進市町村の取組事例(～大切な森林を次の世代へ～登米市の森林経営管理制度の取り組みについて/宮城県登米市)による講義が行われた。午後の経営管理権集積計画演習では、課題に対する理解度に温度差が感じられた。2、3日目は、受講生のうち1名が体調不良のため欠席(診察結果は熱中症)。

・3日目は、カリキュラムどおり、定刻どおりに終了。



2日目:制度運用のための優良民間事業者との意見交換



2日目先進市町村の取組事例

○今回の研修で工夫したこと

[工夫点]

・講師からの一方的な講義だけでなく受講生の発表の場の機会を設けるなど双方向による講義を工夫していた。事業者や自治体担当者による事例発表、現場(実践)主義の講義内容。

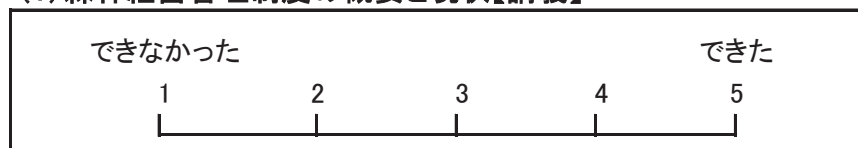
・コロナ禍での感染対策の措置。

森林管理円滑化対策研修(ブロック研修) 北海道東北ブロック アンケート集計結果

回収率： 21名 / 24名 (88%)

I 本研修のねらい・内容をそれぞれの程度理解できましたか？

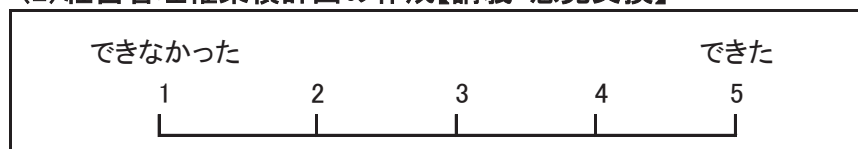
(1) 森林経営管理制度の概要と現状【講義】



平均：4.2

- 1 (0名)
- 2 (0名)
- 3 (0名)
- 4 (16名) 林野庁の担当者から直接話が聞け、ためになった／新しい情報も得られて良かった
- 5 (5名) 内容のおさらいとコメントで理解を深めた／丁寧な説明だった

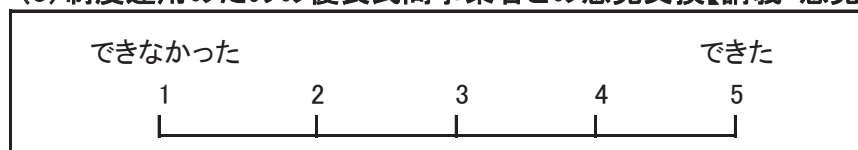
(2) 経営管理権集積計画の作成【講義・意見交換】



平均：3.9

- 1 (0名)
- 2 (1名) 時間が足りなかった
- 3 (5名) 意見、質問の時間は多く取ってほしい／取組課題や意見交換の項目が参考になった
- 4 (11名) 今後の進め方に参考になった
- 5 (4名) 他道県の取組状況や考え方など勉強になった

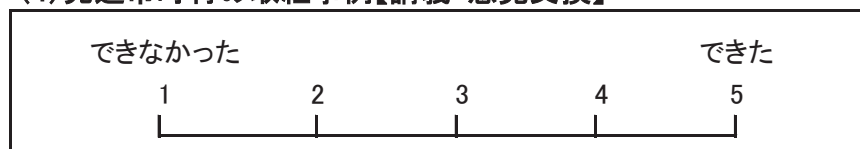
(3) 制度運用のための優良民間事業者との意見交換【講義・意見交換】



平均：4.3

- 1 (0名)
- 2 (1名) 森林経営管理制度に関する取り組み内容がなく、今回の研修にはそぐわないと思った
- 3 (2名) 意欲と能力のある事業者の取り組みを学べて良かった
- 4 (8名) 地域に根差した林業事業者の話聞くことができ参考になった
- 5 (11名) FSC®を基軸に地域発展に貢献している取組事例を聞いて大変参考になった

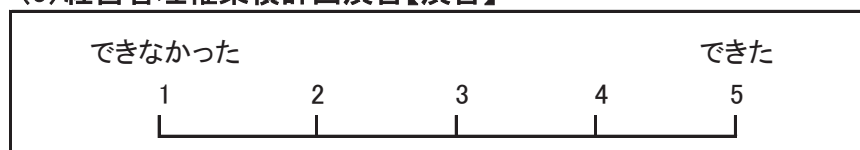
(4) 先進市町村の取組事例【講義・意見交換】



平均：4.2

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (2 名) 市への県のサポート体制がしっかりしていることに興味した
- 4 (14 名) 具体的な流れややり方の話を聞くことができ参考になった
- 5 (6 名) 意向調査をコンサルに委託した内容が参考になった

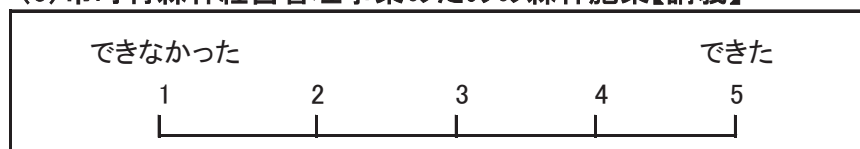
(5) 経営管理権集積計画演習【演習】



平均：3.8

- 1 (0 名)
- 2 (2 名) 勉強不足で分からない点が多く、引き続き勉強する必要性を強く感じた
- 3 (5 名) 他の方の作成例や林野庁の方の作成例で以前よりもイメージができるようになった
- 4 (11 名) 集積計画を考える、様々なヒントを得ることができた
- 5 (4 名) 集積計画作成の注意点を振り返ることができた

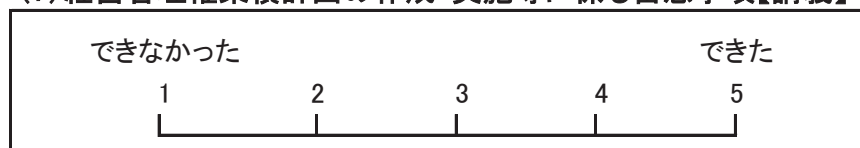
(6) 市町村森林経営管理事業のための森林施業【講義】



平均：4.2

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (2 名) 天然更新の認識不足が分かった
- 4 (14 名) 天然更新の難しさを知ることができた
- 5 (6 名) 天然更新を進めるポイントとして各種データを紹介して分かりやすい講義だった

(7) 経営管理権集積計画の作成・実施等に係る留意事項【講義】



平均：4.3

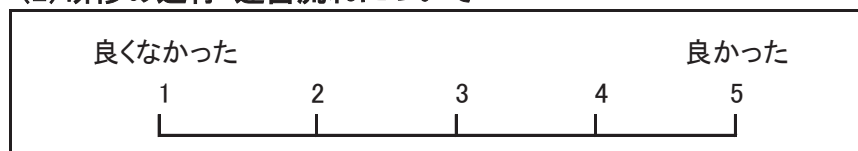
- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (1 名) 内容が盛りだくさんで覚えるのが大変だが、市町村に情報提供していきたい
- 4 (13 名) 重要なポイントが聞けた／所有権界と筆界の違いについて理解した
- 5 (6 名) 法律改正のポイント、国土地理院の内容が理解できた／理解度が増した

IV 研修の進行・運営、研修設備等に関する評価

(1) 研修に係る事務局からの事前連絡等は十分できていましたか？

- 1：できていた（20名）
2：できていない（1名） 課題を提出した時に届いた旨の確認メールが欲しかった

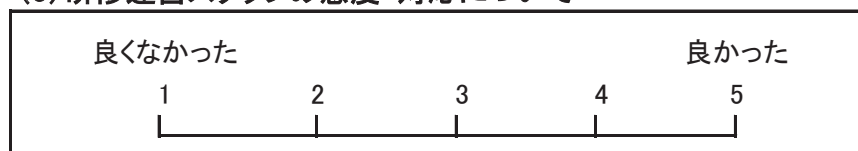
(2) 研修の進行・運営流れについて



平均：3.9

- 1（1名） 段取りが悪い
2（0名）
3（4名） パワーポイントの色、大きさをもっと大きく見えるものにした方が良かった
4（11名） 新しい生活様式での研修の進行は問題なかった
5（5名） スムーズで良かった

(3) 研修運営スタッフの態度・対応について



平均：4.5

- 1（1名） 運営が研修に集中していない場面があった。今後のブロックでは改善してほしい
2（0名）
3（2名）
4（3名） 良かった
5（15名） 丁寧な対応、同じ目線で対応していただいた

(4) 今後、どのようなサポートや研修等があったら良いとお考えですか？

- ・ 今後地域の市町村へ支援するため資料提供を願う
- ・ 各県より提出された事例書の森林集積推進室での手直しや共通の特に多い修正すべきところが記された資料
- ・ パワーポイントのデータ共有
- ・ 後学のため、研修資料のファイル提供をお願いしたい
- ・ 林野庁の熱量は、県、市町村、末端まで伝わっているとは言えないため、説明会、研修は数多く続けてほしい
- ・ 経営管理制度上、必要な事務の細かい研修(境界明確化、集積計画の作成などポイントを絞ったもの)
- ・ 経験年数に応じて内容を変えてほしい
- ・ 新しい制度等に対応した研修にしてほしい
- ・ 意欲能力のある経営者の企画提案スキルアップ研修
- ・ 事業体の育成向けの研修。特に自分の森林を持っていない先進的な事業体の経営計画、皆伐、再造林の取組
- ・ 市町村を対象とした税の使い方

- ・ 森林以外への譲与税の活用法、考え方など

(5)その他、自由に感想をお聞かせ下さい。

(研修の中で特に印象に残った講義があれば教えて下さい。)

- ・ 全て参考になった
- ・ 国からのコメント等、非常に参考になる
- ・ 林野庁担当者の熱を感じた。率直なお話しが聞けて良かった
- ・ 今回の研修を受けて「自分の頭が固い」と感じた。もっと柔軟に業務を進めていきたいと感じた
- ・ 集積計画作成方法。事前の課題が出され、それについての振り返りをする研修方法で知識を深めることができた
- ・ 優良民間事業者（株式会社佐久）の講義
- ・ 林野庁の講義は具体的で大変分かりやすかった
- ・ 集積計画の演習発表は様々な意見、考えが聞けて良かった
- ・ 事前課題3つの課題設定の難易度が高いと感じた
- ・ グループ討議がないならリモートでの研修でも良いと思う
- ・ 他県の人と話さない、話せない研修は初めてだった。せめて席順をかえるなり話しやすいようにしてほしい
- ・ 研修時間が少ないためメニューは広くしないで作成書類の内容検討の具体的な指導としてほしい
- ・ 林野庁との意見交換の時間をもっと増やしてほしい
- ・ 講義を撮影していたようなので、動画をDVDで欲しい。聞いた内容を改めて市町村に伝えるが、時間、能力的に厳しい
- ・ 意見交換が多いので、学校形式より口の字の方が良いと思った
- ・ 時間がないため、ふりかえりシートは1日目のはじめに配ってほしい

Ⅲ 森林管理円滑化対策研修の評価

40点未満	(0 名)	
40点台	(0 名)	
50点台	(0 名)	
60点台	(0 名)	
70点台	(3 名)	資料は極力少なく、要点を分かりやすくしてほしい
80点台	(7 名)	他県と全く話ができなくて残念
90点台	(6 名)	時間が少し不足気味
100点	(5 名)	

平均： 87 点

②森林経営管理制度円滑化対策研修 関東ブロック実施報告書

1 日程・研修場所 令和2年11月24日(火)～11月26日(木)
研修会場 地方職員共済組合栃木県職員会館ニューみくら(栃木県宇都宮市)

2 研修受講者数:13名 [男性:12名 女性:1名]
(県職員4名、市職員8名、民間事業者1名)

福島県	3名	群馬県	1名	栃木県	7名	千葉県	1名
神奈川県	1名						

3 研修実施概要

○予定どおり全カリキュラムを修了

○研修運営状況、研修生の様子など

・1日目林野庁森林集積推進室の概要講義と、意向調査に関する受講生の発表があり、その後の質疑応答は時間超過での途中打ち切りとなってしまった。

・2日目午前は、制度運用のための優良民間事業者との意見交換(たかはら森林組合)と先進市町村の取組事例(森林経営管理制度の取組/栃木県矢板市)の取組状況、実践事例の報告を聴き、質疑応答が行われた。

・午後の集積計画演習では、各受講者が提出した課題について策定意図等を発表し、質問や意見を受ける流れで進められ、すべての発表に対し、林野庁講師からのアドバイスがあった。

・午後後半は、林野庁講師から、計画策定例が説明され、質疑応答、ふりかえりの後、予定時間での終了となった。

・最終日は、森林総合研究所による講義と、林野庁講師からの事業実施における留意事項等の説明と総括があり、終了した。

・休憩時間を惜しんで意見交換等をしている研修生が多くみられ、他自治体の情報収集等もブロック会議の大きな意義と感じた。



2日目:制度運用のための優良民間事業者との意見交換(たかはら森林組合・栃木県)



2日目:先進市町村の取組事例(栃木県矢板市)

○今回の研修で工夫したこと

[工夫点]

・感染防止対策としての座席配置、会場の換気・消毒、受付時の検温・手指消毒等、参加者の健康管理にできる限り配慮した。

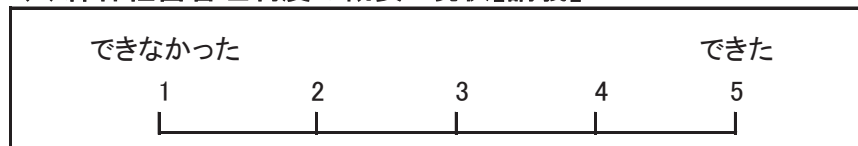
・資料は、事前に袋詰めし、まとめて配付することで準備時間の短縮に努めた。

森林管理円滑化対策研修(ブロック研修) 関東ブロック アンケート集計結果

回収率： 12名 / 13名 (92%)

I 本研修のねらい・内容をそれぞれの程度理解できましたか？

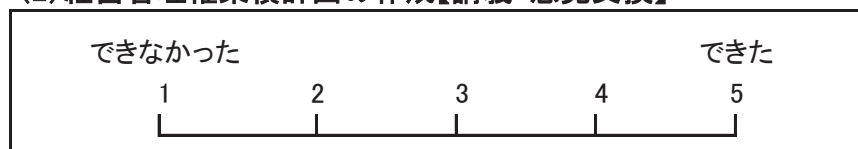
(1) 森林経営管理制度の概要と現状【講義】



平均：3.9

- 1 (0名)
- 2 (0名)
- 3 (2名) 制度概要は理解できるが集積計画をどのように活用できるかメリットを見出しにくい
- 4 (7名) 制度についての確認と全国の現状についての情報は今後の参考になると感じた
- 5 (1名) 分かりやすくまとまった資料で説明して頂いたので理解しやすかった

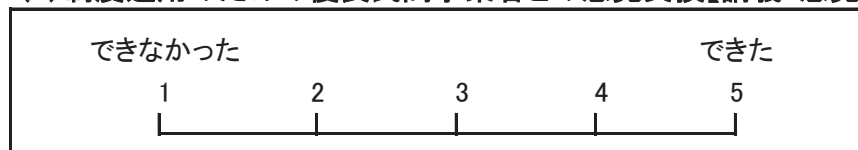
(2) 経営管理権集積計画の作成【講義・意見交換】



平均：3.6

- 1 (0名)
- 2 (0名)
- 3 (4名) 意識調査がどのようなものか理解が深まった／再度資料を自分なりに整理したい
- 4 (6名) 意識調査についての正しい理解を得ることができた
- 5 (0名)

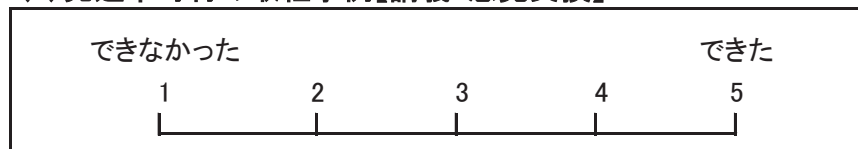
(3) 制度運用のための優良民間事業者との意見交換【講義・意見交換】



平均：4.2

- 1 (0名)
- 2 (0名)
- 3 (3名) 林分の材積の量、価格の算出方法を知ることができ有益だった／参考になった
- 4 (3名) 積極的に事業を行っている森林組合の事例に触れることができた
- 5 (5名) 見積額の提示や作業員のモチベーションが上がる賃金システム等経営努力を感じた

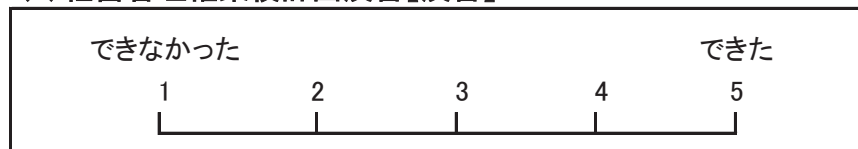
(4) 先進市町村の取組事例【講義・意見交換】



平均：4.0

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (3 名) 市の先進的取組を聞いて興味深い
- 4 (5 名) 積極的な取り組みに触れ、参考にしたいと考えた
- 5 (3 名) 制度への取り組みや意向調査の事前準備等、その後の流れなどを知ることができた

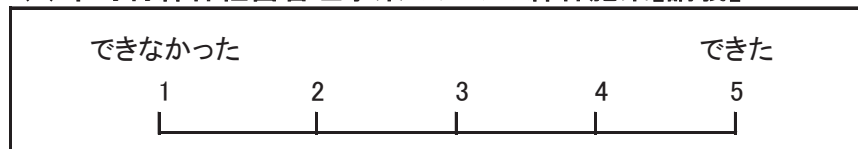
(5) 経営管理権集積計画演習【演習】



平均：4.0

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (1 名) 計画を立てる上での参考になった
- 4 (9 名) 自ら取り組む良い機会が効果的に理解が進んだ／有意義だった
- 5 (1 名)

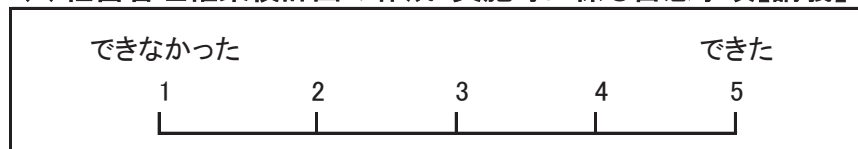
(6) 市町村森林経営管理事業のための森林施業【講義】



平均：4.2

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (1 名)
- 4 (8 名) 実際の森づくりにあたっての考え方を知ることができた
- 5 (3 名) 広葉樹林化について、いかに大変で時間がかかることなのか理解することができた

(7) 経営管理権集積計画の作成・実施等に係る留意事項【講義】



平均：3.8

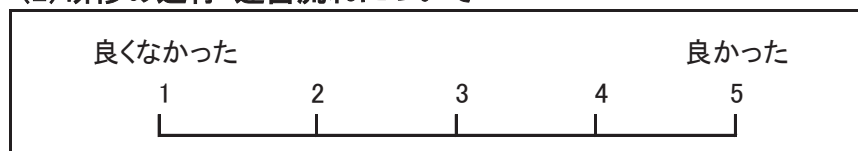
- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (4 名) もう少し時間をとって説明してもらえると良かった／今後取り組む際の参考としたい
- 4 (4 名) 集積計画策定後は再委託が望ましいとこの研修に参加するまではそう思っていた
- 5 (2 名)

IV 研修の進行・運営、研修設備等に関する評価

(1) 研修に係る事務局からの事前連絡等は十分できていましたか？

- 1：できていた（10名）
2：できていない（0名）

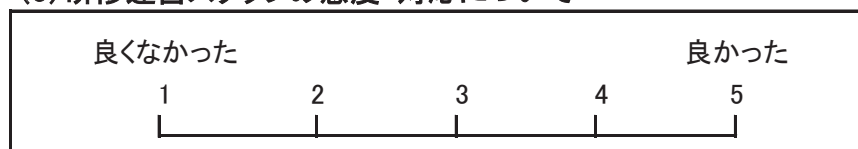
(2) 研修の進行・運営流れについて



平均：4.3

- 1（0名）
2（0名）
3（2名）もう少し問題を議論する雰囲気が必要だと思う／配布資料の整理が不十分と思われる
4（3名）全体として時間が足りなかった／講義の進捗に合わせて時間の管理をされていた
5（5名）事前の入念な準備のお陰でストレスなく取り組めた

(3) 研修運営スタッフの態度・対応について



平均：4.8

- 1（0名）
2（0名）
3（0名）
4（2名）
5（8名）丁寧に案内して頂けて大変助かった／コロナ対策等大変な中ご対応頂き感謝

(4) 今後、どのようなサポートや研修等があったら良いとお考えですか？

- ・ 林野庁の方が何時でも連絡すれば対応して頂けるのは有難いですが、県でも支援制度をとって頂けると大変助かる
- ・ 研修の内容が充実している分、庁内に持ち帰って展開するのが心配。このような有益な機会が増えると良い
- ・ 市町村職員は森林施業について詳しく学ぶ機会が少ないのでそのようなサポートや研修があると良い
- ・ 現地検討会

(5)その他、自由に感想をお聞かせ下さい。

(研修の中で特に印象に残った講義があれば教えて下さい。)

- ・ 全てが印象的であった
- ・ 広葉樹の天然更新について

Ⅲ 森林管理円滑化対策研修の評価

40点未満 (0 名)

40点台 (0 名)

50点台 (0 名)

60点台 (0 名)

70点台 (3 名) 内容が多すぎて十分に理解する時間が不足／資料が整理されていない

80点台 (1 名) ややスピードが速くてついていけないところがあった

90点台 (2 名) 研修の時間が十分でなく、駆け足で進んでしまったところがある

100点 (3 名)

平均: 86 点

③森林経営管理制度円滑化対策研修 中部・近畿①ブロック実施報告書

1 日程・研修場所 令和2年10月27日(火)～10月29日(木)
研修会場 金沢勤労者プラザ304・305研修室(石川県金沢市)

2 研修受講者数:20名 [男性:16名 女性:4名]
(府県職員12名、市町職員4名、国有林職員1名、団体職員3名)

新潟県	1名	富山県	2名	石川県	12名	和歌山県	1名
滋賀県	1名	京都府	1名	大阪府	1名	国有林	1名

3 研修実施概要

○予定どおり全カリキュラムを修了

○研修運営状況、研修生の様子など

・1日目、林野庁森林集積推進室から経営管理制度の概要についての講義があり、受講者から木質利用の取扱や森林環境税と森林環境譲与税との関係などについて、質問があった。

・2日目は、制度運用のための優良民間事業者との意見交換(かが森林組合の概要/かが森林組合)と先進市町村の取組事例(白山市の森林経営管理制度の取組/白山市)が報告された。受講者からかが森林組合に対して、意向調査発注時の契約方法や事業体が市町に求めていることなどについて質問がなされた。白山市に対しては、意向調査地区の選定方法や所有者が不明な森林の扱いなどについての質問がなされた。

・3日目は、森林総合研究所から森林管理をしていく上での考え方などについて講義があった。目標とする林型など技術的な観点でおおいに参考になった。また、森林集積推進室から筆界推定にかかる手法などについて講義がなされた。

・講義中はもとより、講義終了後にも受講者は講師に個別事案について相談するなど、有意義な研修となった。



制度運用のための優良民間事業者との意見交換(かが森林組合)



同意見交換で民間事業者に示された受講者からのコメント

○今回の研修で工夫したこと

[工夫点]

・広い会議室を使用するなど、新型コロナウイルスの感染予防対策を十分に講じた上での開催となった。

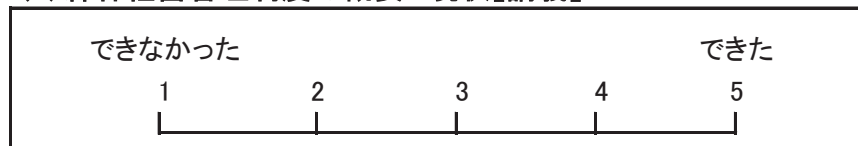
・それぞれの県や市町村での進捗状況に差があると思うが、森林経営管理集積計画に絞って研修し、同計画を事前課題で策定させるなど、より実践的な内容であった。それぞれの持ち場に帰って、業務に生かせると感じた。

森林管理円滑化対策研修(ブロック研修) 中部・近畿①ブロック アンケート集計結果

回収率： 19名 / 20名 (95%)

I 本研修のねらい・内容をそれぞれの程度理解できましたか？

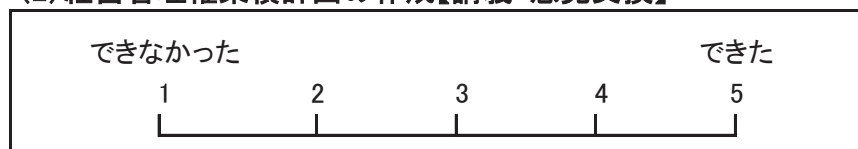
(1) 森林経営管理制度の概要と現状【講義】



平均：4.5

- 1 (0名)
- 2 (0名)
- 3 (0名)
- 4 (8名) 森林経営管理制度の基本から話を聞いて良かった／講義により理解を深められた
- 5 (7名) 譲与税の活用の検討の視点、市町村指導の参考となる／分かりやすい説明だった

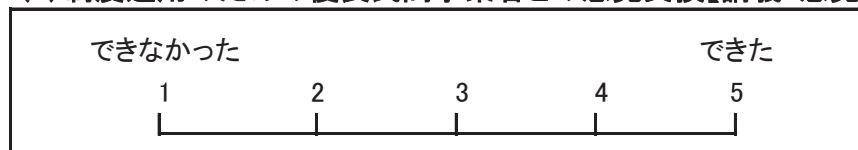
(2) 経営管理権集積計画の作成【講義・意見交換】



平均：4.1

- 1 (0名)
- 2 (0名)
- 3 (4名) 近県の情報をもっと知りたい／説明は分かりやすかった
- 4 (6名) 意向調査を実施している町が多く、参考にさせて頂きたい
- 5 (5名) 他の市町と情報共有が出来た／各県の悩みや問題点が聞けて有意義だった

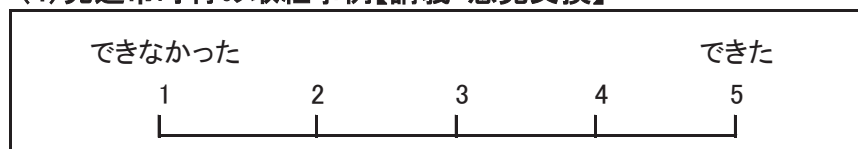
(3) 制度運用のための優良民間事業者との意見交換【講義・意見交換】



平均：4.4

- 1 (0名)
- 2 (0名)
- 3 (1名) 当市と全く違う状況の中での取組事例を当事者から聞いたことが良かった
- 4 (8名) 森林経営管理制度に対する熱意等を聞いて良かった／良い事例で参考となった
- 5 (9名) 地域の森林組合と協力して制度を運用する方法が分かった

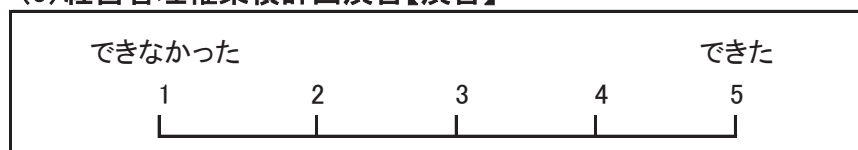
(4) 先進市町村の取組事例【講義・意見交換】



平均：4.4

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (2 名) 担当者の市職員から是非ご講義頂きたかった
- 4 (7 名) 地理や土地柄に合わせた制度運用があり、様々な視点があると感じた
- 5 (9 名) アドバイザーと市との連携の重要性、有意性がよく理解できた

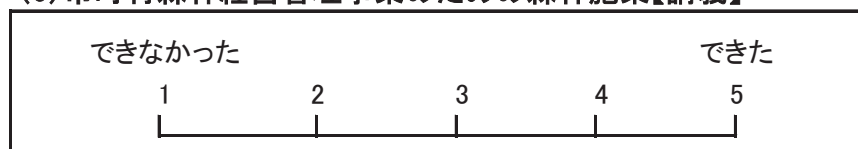
(5) 経営管理権集積計画演習【演習】



平均：3.5

- 1 (1 名) 課題が深まった
- 2 (3 名) 集積計画の作成をしたことが無いので難しかった／よく見直して身につけていきたい
- 3 (2 名) 受講生の理解度や取り組みの差が大きかった／学ぶべき事がまだまだたくさんあると感じた
- 4 (3 名) 自らが考えた集積計画に対する添削・指導を直接頂けたことは大きな収穫であった
- 5 (4 名) 集積計画の規模感を掴めた／計画作成のポイントを学ぶことができた

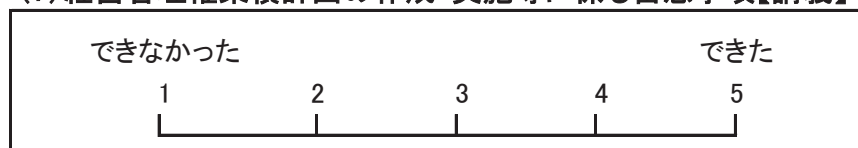
(6) 市町村森林経営管理事業のための森林施業【講義】



平均：4.5

- 1 (0 名)
- 2 (1 名) 経験がなく、用語から覚えていく必要を感じた
- 3 (1 名) 内容の専門性が高く理解が追いつかなかった
- 4 (4 名) 天然更新完了基準を基本として考えていたがそれだけでは難しいことが分かった
- 5 (12 名) 現地に合わせた施業が重要であることが分かった／大変興味深い内容であった

(7) 経営管理権集積計画の作成・実施等に係る留意事項【講義】



平均：4.4

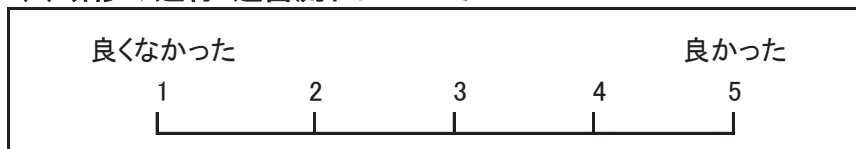
- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (2 名) 全国的な事から地元に使えそうなものを考えていく必要を感じた
- 4 (7 名) 境界明確化の進め方について参考になった
- 5 (9 名) 集積計画の作成にあたって、市町村等に指導、助言するポイントを学ぶことができた

IV 研修の進行・運営、研修設備等に関する評価

(1) 研修に係る事務局からの事前連絡等は十分できていましたか？

- 1：できていた（17名）
- 2：できていない（0名）

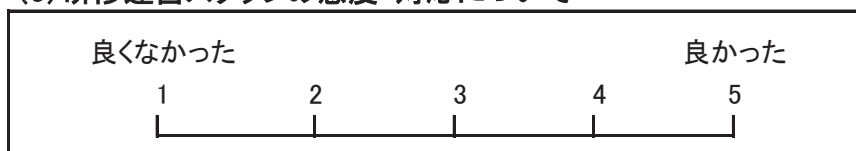
(2) 研修の進行・運営流れについて



平均：4.4

- 1（0名）
- 2（0名）
- 3（1名） 事前のファイリング、付箋等されているとスムーズかと感じた
- 4（8名） 時間が長くなった場合の休息のタイミングを工夫してほしい
- 5（9名） スムーズな進行・運営がされていたと思う

(3) 研修運営スタッフの態度・対応について



平均：4.6

- 1（0名）
- 2（0名）
- 3（1名）
- 4（5名） 最前列で受講したが、スタッフとの距離が近すぎた
- 5（12名） 研修運営の円滑化に努力されていた／コロナ対応がしっかりできた

(4) 今後、どのようなサポートや研修等があったら良いとお考えですか？

- ・この研修の実施箇所（ブロック）が増えれば良いと考える（距離的な問題、社会情勢等から、このような有益な研修に参加できないのはもったいないと考えるため）
- ・県単位で良いのもう少し市町村向けの内容の研修をお願いしたい
- ・市町村向けの基礎からのサポートがあると良いと思う
- ・制度開始から1年半が経ち、市町村の取組状況に差ができていることから進捗に応じた市町村向け研修を複数用意してほしい
- ・事例がでたとき、事例を含めた内容の研修
- ・優良事例とともに上手く進んでいない事例を紹介し、原因分析と対処方法を話し合う研修の実施
- ・先進・優良事例のみを集めた研修
- ・先進事例地の現地研修等
- ・市、県、企業のレベルを合わせて協議したい（市のみ、県のみ、企業のみなど）
- ・配布資料が分かりやすく充実しており受講できて良かった。今後適時アップデートされた資料等が閲覧できる体制を充実してほしい
- ・このような森林経営管理法の研修や所得者不明土地に関する法整備の講義があると助かる
- ・税の用途に関する研修（森林整備以外の取り組み）

- ・ 事業体へ対する理解を深めたり良い関係を構築できる内容の研修
- ・ 実際の意向調査票事例集が欲しい

(5)その他、自由に感想をお聞かせ下さい。

(研修の中で特に印象に残った講義があれば教えて下さい。)

- ・ 資料1のスライド9「制度による効果」
- ・ かが森林組合専務の講義（意見交換）
- ・ 広葉樹更新の手法などは今後に掛かる話なので特に印象に残った
- ・ 市町村森林経営管理事業のための森林施業の講義
- ・ 各県の意向調査実施状況について聞けて良かった
- ・ 勉強になった講義、市町での実務の状況等、全てが印象に残った
- ・ このような研修は大変有意義であり市町村にはもっと参加してほしい
- ・ もっと多くの事業体の取組事例を聞きたかった
- ・ 意向調査実施後、集積計画に至る過程での課題について意見交換する場があれば良い
(今後増加するものと思われる)
- ・ 森林経営管理制度は民法等を踏まえて慎重に対応すべき点もある事を補足されていた講義を聞いて、制度運用の注意点についてより詳しく説明があればと思った
- ・ 法律関係の講義を今後もお願いしたい
- ・ 林野庁からの説明時間がもう少しゆっくと説明してほしい

Ⅲ 森林管理円滑化対策研修の評価

40点未満	(0 名)	
40点台	(0 名)	
50点台	(0 名)	
60点台	(0 名)	
70点台	(1 名)	市町村でやっていない内容があったため
80点台	(6 名)	参加者の市町村と都道府県を分けた方が良かった
90点台	(5 名)	3日間では足らなかった
100点	(4 名)	業務を効率的に進める内容が含まれていた

平均： 89 点

④森林経営管理制度円滑化対策研修 中部・近畿②ブロック実施報告書

- 1 日程・研修場所 令和2年10月20日(火)～10月22日(木)
研修会場 ・1、2日目静岡県男女共同参画センターあざれあ2階(静岡県静岡市)
・3日目レイアップ御幸町ビル5階(静岡県静岡市)

- 2 研修受講者数:20名 [男性:19名 女性:1名]
(府県職員4名、市町村職員10名、団体職員6名)

山梨県	1名	静岡県	14名	愛知県	1名	京都府	1名
和歌山県	3名						

3 研修実施概要

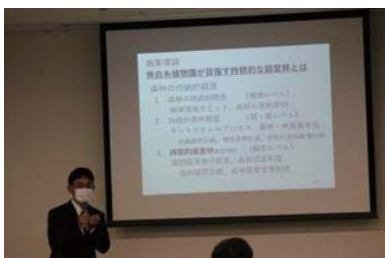
○予定どおり全カリキュラムを修了

○研修運営状況、研修生の様子など

・2日目午前は、制度運用のための優良民間事業者との意見交換((株)白糸植物園/富士宮市)と先進市町村の取組事例(森林経営管理制度を活用した富士市の取組状況について/富士市)の報告があった。富士市の取組に対しては、制度の運用実際や発生している課題等についての参加者の関心が高く、活発な意見交換が行われた。

・3日目は、市町村森林経営管理事業として森づくりを進めるにあたり参考となる、最新の知見に基づく森林施業技術が紹介された。目標林型を定めるための情報や広葉樹林化のコストや期間について、受講者にとって有用な講義となった。

・全体としては、事前課題の作成に取り組んだことにより、単なる講義の受講にとどまらず、発表や意見交換を通じて、各受講生が主体的に参加する姿が認められ、講義終了後にも受講者同士や講師との情報交換も積極的に行われ、自らの抱える課題の解決につなげていたことが印象的であった。



制度運用のための優良民間事業者との意見交換((株)白糸植物園)



先進市町村の取組事例(富士市)

○今回の研修で工夫したこと

[工夫点]

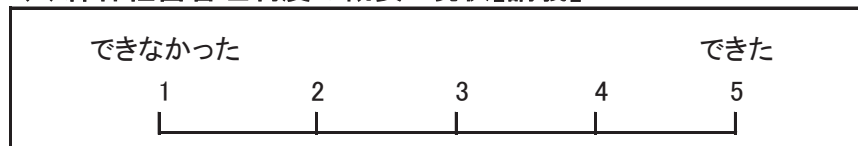
- ・開催県の推薦枠として、「静岡県森林整備アドバイザー」4名のスポット参加を得て、アドバイザーとしての市町村等への支援経験に基づくコメントを頂くことができた。
- ・新型コロナウイルス感染対策として、「新しい生活様式」に対応した研修となるよう、会議室定員の半分以下の人数、パーティション設置、マスク・フェイスシールド着用、受付時の体温測定、休憩時の換気などを適切に実施し、参加者の健康管理に配慮した。

森林管理円滑化対策研修(ブロック研修) 中部・近畿②ブロック アンケート集計結果

回収率： 19名 / 20名 (95%)

I 本研修のねらい・内容をそれぞれの程度理解できましたか？

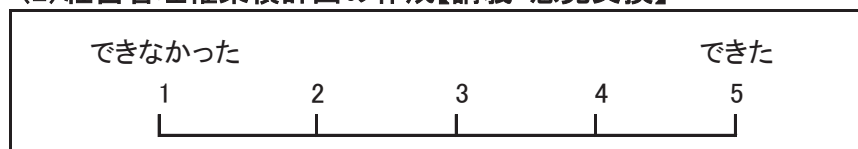
(1) 森林経営管理制度の概要と現状【講義】



平均：4.6

- 1 (0名)
- 2 (0名)
- 3 (0名)
- 4 (7名) 経営管理制度の運用方法について最新の考え方を知ることができた
- 5 (9名) 森林整備の必要性や意向調査から森林経営管理権までの流れが理解できた

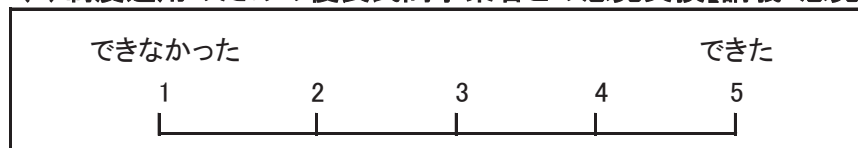
(2) 経営管理権集積計画の作成【講義・意見交換】



平均：4.3

- 1 (0名)
- 2 (0名)
- 3 (2名) 大変参考になった／他事例も聞けて良かった
- 4 (8名) 意向調査の考え方やコツについて理解が深まった
- 5 (7名) 他県の取り組みや進捗で今後の業務に活かせる場所があったので参考にしたい

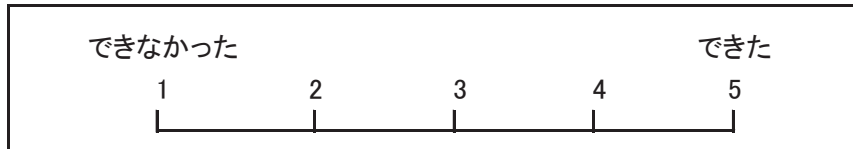
(3) 制度運用のための優良民間事業者との意見交換【講義・意見交換】



平均：4.7

- 1 (0名)
- 2 (0名)
- 3 (0名)
- 4 (6名) 理念に基づいた森林経営で信頼できると思った／経営戦略に驚いた
- 5 (12名) 長期的な経済林を目指す具体的なプランを持っていることに刺激を受けた

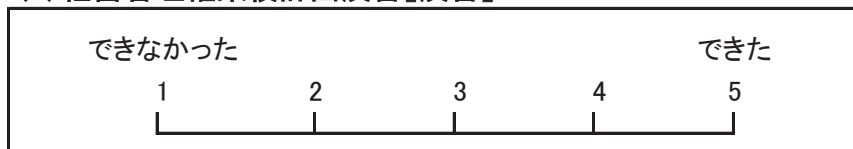
(4) 先進市町村の取組事例【講義・意見交換】



平均：4.6

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (0 名)
- 4 (6 名) 配分計画まで進んでいる事例を聞くことができ参考になった
- 5 (11 名) 実務に活かせる内容ばかりだった／計画制作時の資料にさせて頂く

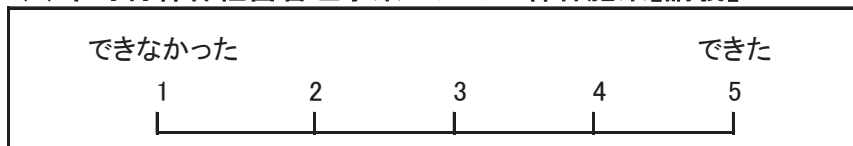
(5) 経営管理権集積計画演習【演習】



平均：3.9

- 1 (0 名)
- 2 (2 名) 全体を説明するのではなく、重要なポイントだけを説明した方がよかった
- 3 (3 名) 集積計画作成のポイントを講義と課題発表を通して理解できた
- 4 (4 名) 研修生による様々な考えを聞き勉強になった
- 5 (6 名) 集積計画の考え方（経営の仕方）が様々なことを実感した

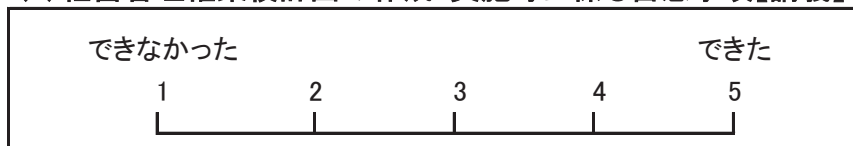
(6) 市町村森林経営管理事業のための森林施業【講義】



平均：4.4

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (2 名) 人工林を天然林に帰化することは困難だと分かった
- 4 (6 名) 針広混交林化の難しさがデータから分かった／技術的問題点が理解できた
- 5 (10 名) 目標林型の考え方、それに誘導するための方法等、今後の業務に役に立つものになった

(7) 経営管理権集積計画の作成・実施等に係る留意事項【講義】



平均：4.4

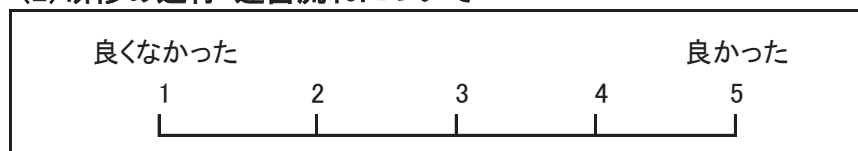
- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (1 名) 境界を明確にするにあたり、所有者同士の合意が必要だと分かった
- 4 (8 名) 法令関係の最新の話が聞いて参考になった／民法改正情報が役に立ちそうである
- 5 (8 名) 発注方法や制度を取り巻く状況が分かった／土地の扱いに係る講義が参考になった

IV 研修の進行・運営、研修設備等に関する評価

(1) 研修に係る事務局からの事前連絡等は十分できていましたか？

- 1：できていた（16名）
- 2：できていない（0名）

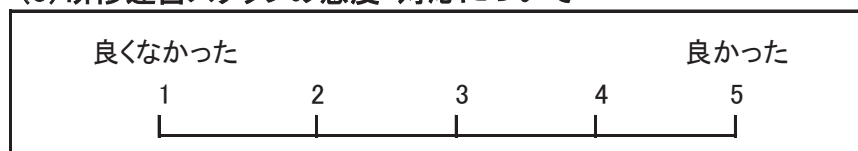
(2) 研修の進行・運営流れについて



平均：4.3

- 1（0名）
- 2（0名）
- 3（2名） 内容を詰め込みすぎた部分があると思う
- 4（7名） 時間オーバーが複数回あった／親切に対応して頂けた
- 5（7名） 能動的に参加できるよう工夫されていて知識が定着した／大変受講しやすかった

(3) 研修運営スタッフの態度・対応について



平均：4.9

- 1（0名）
- 2（0名）
- 3（0名）
- 4（2名）
- 5（14名） 丁寧に対応頂いた／コロナへの配慮などしっかりやって頂いた

(4) 今後、どのようなサポートや研修等があったら良いとお考えですか？

- ・ 今回のような研修を各都道府県に行って頂けると嬉しい
- ・ 全国の事例を知る研修
- ・ 先進事例や各市町村の取組例についてこれまで以上に展開して頂きたい。今回の研修でも、他市町村の取組みがとても参考になった
- ・ 更に市町村取組情報を流してほしい
- ・ コロナ対策で難しいと思うが、都道府県や市町村の担当レベルのグループ座談会
- ・ 集積計画作成時の技術的な助言
- ・ 今後も集積計画を作ってみるという演習は実施してほしいと思う
- ・ 制度の詳しい説明や国の動きは丁寧に説明する場を設けて頂きたい
- ・ 針広混交林化のやり方について
- ・ 森林情報の扱い方（この情報を使えば経営に適する適さないの判断ができる等）。GIS活用方法
- ・ 林務担当者として知っておくべき基礎知識の研修があれば受講したい
- ・ 林学に関する知識を深められる研修があったら良い
- ・ 県へのお願いになるが、統一の見解が欲しい

(5)その他、自由に感想をお聞かせ下さい。

(研修の中で特に印象に残った講義があれば教えて下さい。)

- ・ 3日通して非常に分かりやすかった。特に林野庁の講義がとても勉強になった
- ・ 森林管理制度の概要、集積計画の作成例
- ・ 研修の内容は理解できたが難しかったと思う。管理制度の市町の責任を取り上げたところが参考になった
- ・ 静岡県の中の市町村の動向を聞いて良かった
- ・ 書面等では見えない事情等を教えて頂き大変興味深かった
- ・ 他県、他市町村ともっと意見交換等をしたかった（休憩時間での話しに限界があった）
- ・ 事前課題が難しかった。進め方のサポートとなる資料等がもっと欲しかった

Ⅲ 森林管理円滑化対策研修の評価

40点未満	(0 名)	
40点台	(0 名)	
50点台	(0 名)	
60点台	(0 名)	
70点台	(0 名)	
80点台	(2 名)	事前課題に日常業務が圧迫されてしまった
90点台	(7 名)	受講生間での意見交換がもう少しできたら良かった
100点	(7 名)	大変良かった、参考になった

平均： 94 点

⑤森林経営管理制度円滑化対策研修 西日本ブロック実施報告書

1 日程・研修場所 令和2年10月6日(火)～10月8日(木)
研修会場 鳥取市役所多目的室1(鳥取県鳥取市)

2 研修受講者数:19名 [男性:15名 女性:4名]
(府県職員9名、市職員6名、国有林1名、民間事業者3名)

京都府	1名	兵庫県	6名	愛媛県	1名	鳥取県	10名
国有林	1名						

3 研修実施概要

○予定どおり全カリキュラムを修了

○研修運営状況、研修生の様子など

・1日目、箕輪富男・林野庁森林利用課長の開講の挨拶から研修がスタートし、森林経営管理制度の概要と現状、経営管理権集積計画の作成へと講義が進められた。

・2日目、制度運用のための優良民間事業者との意見交換(鳥取県東部森林組合の経営方針及び取組状況)では、働く人を大切にする職場、人材確保の方法などが披露された。先進市町村の取組事例(鳥取市の森林経営管理制度の取り組みについて、八頭町における森林経営管理制度の取組)では、2つの異なるタイプ市町から先進の取組事例が報告された。

・3日目は、市町村森林経営管理事業のための森林施業、経営管理権集積計画の作成・実施等に係る留意事項について講義された。

・全体としては、広めの研修会場が準備できたことで、コロナ対策がとりやすい安全な研修会が運営できたと考えられた。



林野庁箕輪課長あいさつ:1日目



経営管理権集積計画演習:2日目

○今回の研修で工夫したこと

[工夫点]

・講演、講義及び発表者には、マスクあるいはフェイスシールドを着けていただき、前面に飛沫防止ボードを置く措置を講じた。

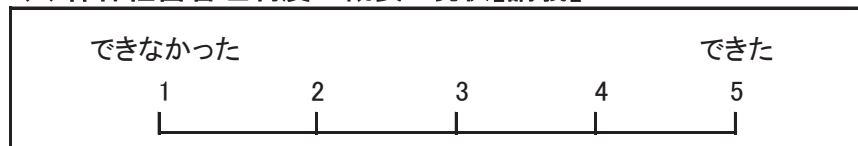
・会場の音響施設に不具合があり固定及び移動マイクが使用できなかったが、3台のマイク・スピーカーシステムを代替機として使用した。音が聞き取れないなどの障害はなかった。

森林管理円滑化対策研修(ブロック研修) 西日本ブロック アンケート集計結果

回収率： 18名 / 19名 (95%)

I 本研修のねらい・内容をそれぞれの程度理解できましたか？

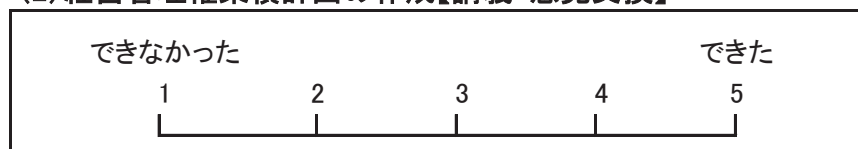
(1) 森林経営管理制度の概要と現状【講義】



平均：3.9

- 1 (1名) 質問の意図が資料でくまれていなかった
- 2 (2名) 説明は分かりやすかったが、初めての制度でやや難解だった
- 3 (2名) 初めて携わる業務研修で中程度の理解度／ポイントを押さえて具体的な説明が良かった
- 4 (6名) 制度概要等概ね理解できた／考えを改める部分もあることが分かった
- 5 (7名) 事前学習と本日講義で理解が深まった／市町村への指導の進め方の参考になった

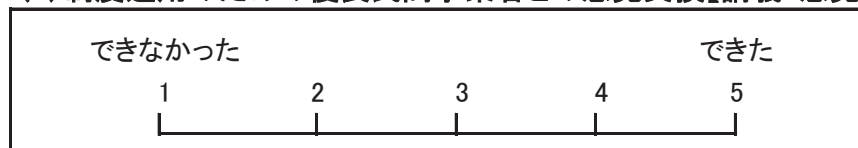
(2) 経営管理権集積計画の作成【講義・意見交換】



平均：3.7

- 1 (1名) 参加者としての議論が深まらなかった
- 2 (1名) 制度を軽視していたと感じた
- 3 (5名) 他の自治体の事例が参考になった／市町村への指導時のポイントは押さえられた
- 4 (7名) 基本の流れを確認できた／意向調査の実際の状況等を聞いて良かった
- 5 (4名) 各市町村の意向調査の状況を本市での実施に役立てたい

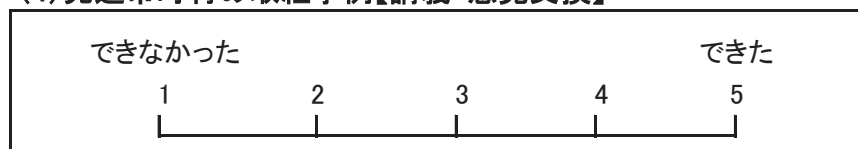
(3) 制度運用のための優良民間事業者との意見交換【講義・意見交換】



平均：4.4

- 1 (0名)
- 2 (0名)
- 3 (2名) 優良事業者の特徴について理解が深まった
- 4 (7名) 従業員確保、森林所有者への利益還元確保の内情が分かり勉強になった
- 5 (8名) 大変優良な民間事業者の事例だった／他の事業者の考えが分かって良かった

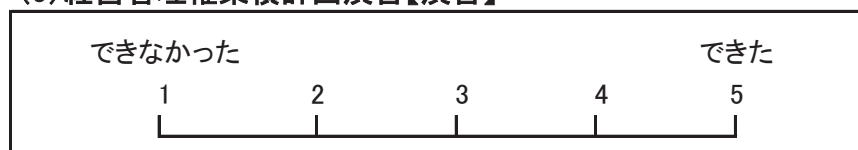
(4) 先進市町村の取組事例【講義・意見交換】



平均：4.3

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (3 名) 2自治体の抱える実情と課題が全部ではないが、少し分かった
- 4 (6 名) 意向調査結果の解析が参考となった／他市町村の事例を伝えられるよう工夫したい
- 5 (8 名) 意向調査の取組経験からの様々な提案が良く理解できた

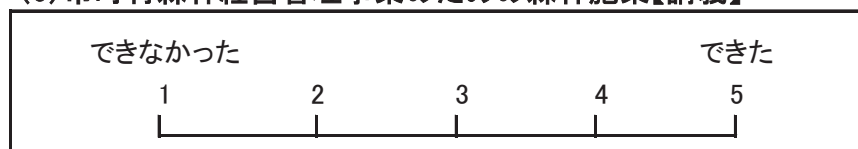
(5) 経営管理権集積計画演習【演習】



平均：3.4

- 1 (1 名) 基礎知識が無く難しかった
- 2 (3 名) 発表には準備が必要／作成には経験が必要
- 3 (5 名) 自分で取り組むことでどのような点で困るのかを知ることができた
- 4 (5 名) 他の方の発表や作成例をみて森林管理の心を入れ込むことが必要だと気づいた
- 5 (3 名) 集積計画の様々なパターンが示され参考になった。持ち帰って再度検討したい

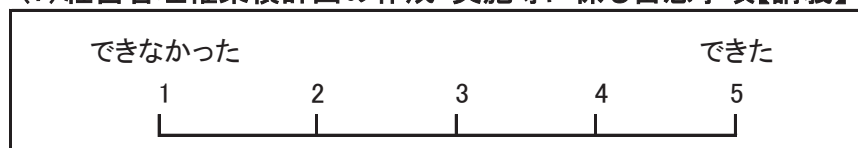
(6) 市町村森林経営管理事業のための森林施業【講義】



平均：3.9

- 1 (0 名)
- 2 (1 名) 食害対策か、事前の判断が重要と感じた
- 3 (4 名) 広葉樹林化は現実には長いスパンとなり、所有者に話をすることは難しいと感じた
- 4 (6 名) 一番重要なのは森林であること、荒らさないこと、前生稚樹、原則など勉強になった
- 5 (5 名) 広葉樹林化の難しさを改めて理解することができた

(7) 経営管理権集積計画の作成・実施等に係る留意事項【講義】



平均：3.6

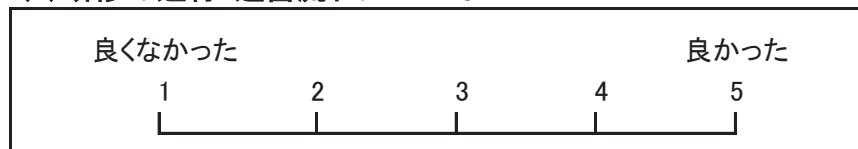
- 1 (0 名)
- 2 (1 名) 理解には自信がないが、活用はできる
- 3 (6 名) 各種法改正の利点と積極的に活用していきたい
- 4 (7 名) 配分計画の指導になると思うので予め内容を勉強できて良かった
- 5 (2 名) 国の法改正のポイントが分かったのが良かった

IV 研修の進行・運営、研修設備等に関する評価

(1) 研修に係る事務局からの事前連絡等は十分できていましたか？

- 1：できていた（16名）
2：できていない（1名） 資料の解像度が悪かったので生ファイルが良かった

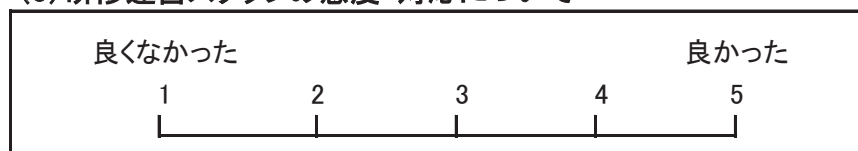
(2) 研修の進行・運営流れについて



平均：4.1

- 1（1名） 会場設営はトイレの導線がつぶれている。講師の方への拍手を促しても良かったと思う
2（0名）
3（4名） 休憩の頻度がもう少しほしい／全体的に時間が不足していたと思う
4（5名） 内容が盛りだくさんだったがうまく運営していた／最終日の終了時間をもう少し早く
5（8名） 事前の説明で研修が取り組みやすかった

(3) 研修運営スタッフの態度・対応について



平均：4.9

- 1（0名）
2（0名）
3（1名）
4（0名）
5（16名） 新型ウイルス対策等大変な中、気持ちよく受講できた

(4) 今後、どのようなサポートや研修等があったら良いとお考えですか？

- ・ 森林経営管理制度についてはもう少し走ってから浮き彫りになった内容・成果等を伝達してもらえる研修があればありがたい
- ・ 制度も進み、多くの事例が集まってきていると感じるが、これらを基に情報提供、共有が進めば良いと思う。特に失敗事例が知りたい
- ・ 重箱の隅をつつくような対応事例の講義
- ・ 初級編の開催
- ・ 市町村担当者が替わっても実施いただける体制をお願いしたい
- ・ 集積計画の実例をもとにした工夫や改善点などを共有する研修会の開催
- ・ 同制度に係る他部局（法律、土木など）横断的なもの
- ・ 意向調査、集積計画、配分計画、市町村管理事業などの実例を一通り学習できる研修
- ・ QGISや森林クラウドを含む情報交換会
- ・ QGIS研修
- ・ 自分の理解が追いついていないところがあるが、内容はとても濃く有意義なものなのでオンラインへの対応をお願いしたい

(5)その他、自由に感想をお聞かせ下さい。

(研修の中で特に印象に残った講義があれば教えて下さい。)

- ・ 全て良い勉強になった
- ・ 民間事業者（東部森林組合長）の話
- ・ 林野庁講師の説明はよく理解できた。説明が上手
- ・ 市町村の現状を知られたこと
- ・ 森林管理のための森林施業。実践的で分かりやすかった
- ・ 研修を受けて個人の考え方により計画が変わる。答えがあるようでない。本当に奥が深い制度
- ・ 少ない人数での研修だったため、重すぎず発言しやすい空気感だった
- ・ 公用車の駐車について会場の厚意で駐車料が無料となったのはありがたい
- ・ 事前課題が複雑すぎる。説明考察資料が少なすぎる。もっとシンプルにしてほしかった
- ・ 講師資料がたくさんあり、事前に予習しておきたかった

Ⅲ 森林管理円滑化対策研修の評価

40点未満	(0 名)	
40点台	(2 名)	自分に対しての評価
50点台	(0 名)	
60点台	(0 名)	
70点台	(0 名)	
80点台	(7 名)	事前課題は発表時にもっと効果的な方法によること
90点台	(7 名)	参加者間でもう少し話し合える場があれば良かった
100点	(2 名)	

平均： 82 点

⑥森林経営管理制度円滑化対策研修 四国ブロック実施報告書

1 日程・研修場所 令和2年9月28日(月)～9月30日(水)
研修会場 高知市町村職員共済会館3階大ホール「桜」(高知県高知市)

2 研修受講者数:22名 [男性:17名 女性:5名]
(県職員11名、団体職員9名)

山口県	1名	愛媛県	9名	高知県	12名
-----	----	-----	----	-----	-----

3 研修実施概要

○予定どおり全カリキュラムを修了

○研修運営状況、研修生の様子など

・1日目、森林経営管理制度の概要と現状の説明に続いて、経営管理権集積計画の講義と研修生が事前に作成した集積計画の発表、それらについて講師のコメントがされた。

・2日目、制度運用のための優良民間事業者との意見交換(森林経営管理法と森林組合／中村市森林組合)では同制度の運用状況等の説明、受講生との意見交換がされた。続いて、先進市町村の取組事例(四万十市)の発表がされた。

・3日目、市町村森林経営管理事業のための森林施業について、学術的見地からの視点で講義が行われ、続いて林野庁講師から経営管理権集積計画の作成・実施等に係る留意事項の講義が行われ、3日間の研修を終えた。



制度運用のための優良民間事業者との意見交換(中村市森林組合)



先進市町村の取組事例(四万十市)の講義

○今回の研修で工夫したこと

[工夫点]

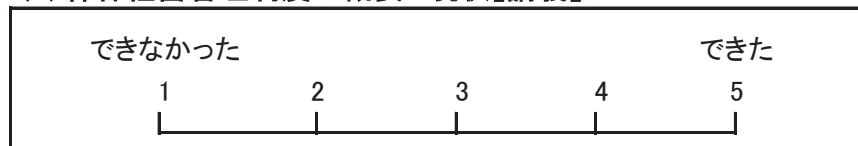
・工夫した点でもあるが、上記の事前に課題を取りまとめるプロセスが本研修のポイントでもあり、研修内容を研修生自らが少しでも掘り下げて習得する機会となったと思われる。

森林管理円滑化対策研修(ブロック研修) 四国ブロック アンケート集計結果

回収率： 20 名 / 22 名 (91%)

I 本研修のねらい・内容をそれぞれの程度理解できましたか？

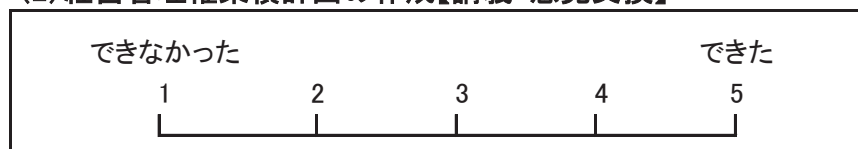
(1) 森林経営管理制度の概要と現状【講義】



平均： 4.2

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (2 名)
- 4 (12 名) 森林の公益的機能の発揮こそが大切なのだと改めることができた
- 5 (6 名) 制度の基礎的な部分を細かい点まで改めて学ぶことができた／分かりやすく良かった

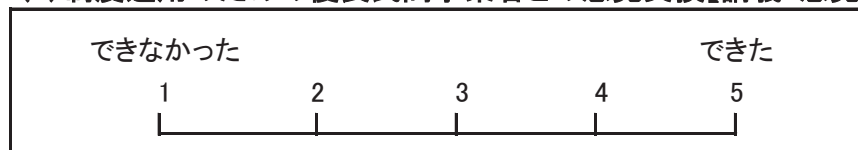
(2) 経営管理権集積計画の作成【講義・意見交換】



平均： 3.8

- 1 (0 名)
- 2 (2 名) 配布資料の読み直しや動機と理解を共有したい
- 3 (4 名) 計画の記載について、丁寧に書く必要がある事が分かった
- 4 (10 名) 他県の取組状況が分かった。回答率を向上させる方法が分かった
- 5 (4 名) 意向調査からの集積計画までの流れを把握することができた

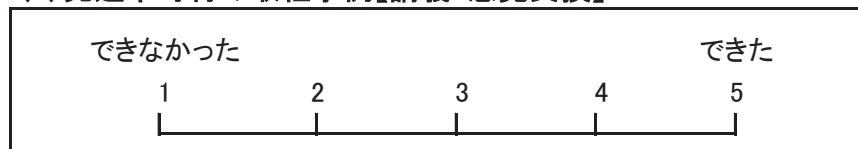
(3) 制度運用のための優良民間事業者との意見交換【講義・意見交換】



平均： 4.2

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (5 名) 民間事業者の現状を直接知ることができた
- 4 (6 名) 事業者の声を聞くことができて良かった／活動状況や課題が分かった
- 5 (9 名) 優良民間事業者を選定等する際の参考になっ

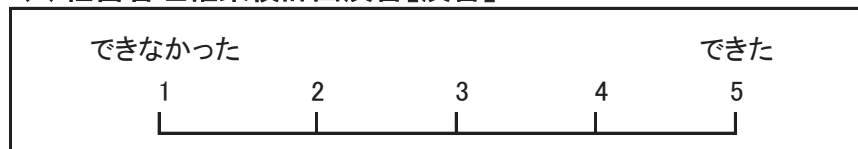
(4) 先進市町村の取組事例【講義・意見交換】



平均：4.3

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (2 名) 手順について分かりやすくまとめられていたので今後の指導に役立てられる
- 4 (10 名) 地籍調査が進んでいないにも関わらず制度運用に前向きに取り組んでいる
- 5 (8 名) どのように当制度を進めているかが良く分かった

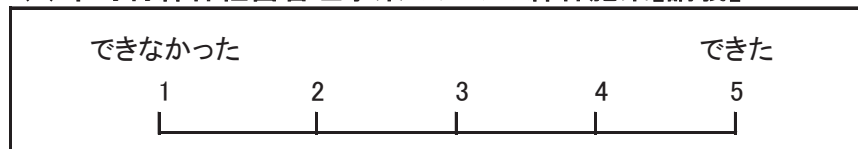
(5) 経営管理権集積計画演習【演習】



平均：3.9

- 1 (0 名)
- 2 (2 名) 難しく理解しきれない点があった／森林の状況を深読みし、勉強していきたい
- 3 (5 名) 自分で集積計画を立てる機会がなかったため、良い機会だった
- 4 (5 名) 各々の集積計画、林野庁からの集積計画がとても参考になった
- 5 (7 名) 様式の文言等を早急に取り組み直したい／着目点、考慮した点が理解できた

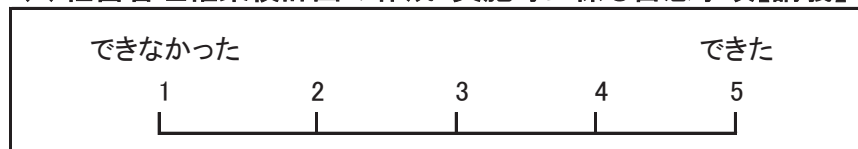
(6) 市町村森林経営管理事業のための森林施業【講義】



平均：4.4

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (1 名) 制度を活用し針広混交林化へと誘導する市町村がある。講義を参考にその山に行きたい
- 4 (9 名) 広葉樹の天然更新について、前生樹、周辺の稚樹等を十分理解し、判断していきたい
- 5 (7 名) 間伐、皆伐施業選択の参考になった／針広混交林への誘導の難しさを理解した

(7) 経営管理権集積計画の作成・実施等に係る留意事項【講義】



平均：4.4

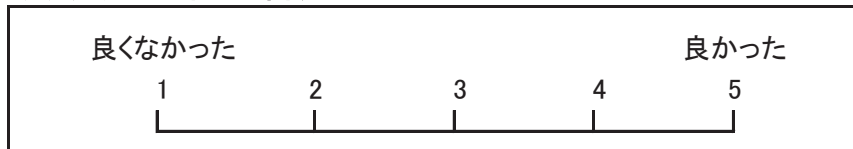
- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (0 名)
- 4 (9 名) 集積計画作成のヒントが多数あり、参考になった
- 5 (7 名) 今あるデータでも進められる例は今後活かしたい／手法として参考になった

IV 研修の進行・運営、研修設備等に関する評価

(1) 研修に係る事務局からの事前連絡等は十分できていましたか？

- 1：できていた（20名）
- 2：できていない（0名）

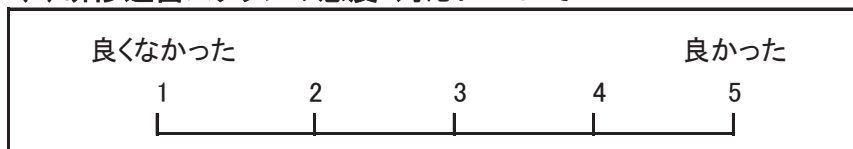
(2) 研修の進行・運営流れについて



平均：4.9

- 1（0名）
- 2（0名）
- 3（1名）
- 4（1名） 演習発表には時間が足りなかった印象がある
- 5（18名） 円滑にまわっており、非常に充実した研修だった／丁寧な説明で分かりやすかった

(3) 研修運営スタッフの態度・対応について



平均：4.9

- 1（0名）
- 2（0名）
- 3（0名）
- 4（2名）
- 5（18名） 心配であった感染症対策もとられていて安心できた

(4) 今後、どのようなサポートや研修等があったら良いとお考えですか？

- ・ 初めて円滑化対策に参加させていただいた。主な対象は市町村を指導する県職員となっていたが、今後は実際に行う市町村を主なターゲットとした研修を行っていただきたい
- ・ なるべく多くの自治体が参加できる体制ができれば良いと思う
- ・ 森林GISの有効活動を推進していきたいと考えているため、今回よりさらに深まった内容の研修
- ・ 毎年度、このような円滑化対策研修を実施していただければとても助かる。配分計画策定済みの市町村の意見も聞いてみたい
- ・ 同様の研修があれば参加したい
- ・ これから市町での取り組み事例がたくさん出てくるであろうと思うので、参考になる取り組みを紹介しつつ、国での法整備状況について解説していただきたい
- ・ 今後、情報が集まれば他県の取り組みなど詳しく紹介する時間があっても良いかと思った
- ・ この制度が数年経過する事により、全国に蓄積された優・悪事例を教えて欲しい
- ・ 実際に各地で作成されている集積計画や配分計画を見ながら色々話し合うような場があると良い
- ・ 先進地（四万十市のような）の話をもっと具体的に聞いてみたかった（集積計画の内容等）
- ・ 事業費算定に関する演習、意向調査地区選定に関する模擬演習
- ・ 林務をあまり分かっていない人のための研修と合わせた森林経営管理制度説明会

(5)その他、自由に感想をお聞かせ下さい。

(研修の中で特に印象に残った講義があれば教えて下さい。)

- ・ 大変中身の濃い研修を開催いただきありがたかった
- ・ 特に四万十町や林野庁講師には良い刺激を受けた。担当地域での未整備林の解消・森林の公益的機能の発揮に尽くす
- ・ 林野庁の生の声を聞いて良かった
- ・ 3日間大変勉強になった。4月から入庁したばかりで分からない部分もあったが、帰って復習したい。印象に残った講義は、林野庁の講義、優良民間事業者との意見交換、市町村森林経営管理事業のための森林施業
- ・ 経営管理権集積計画を自分で作成し、研修時に発表する課題は非常に良かった。やはり、自分で作成してみないと分からないため、事前の勉強になった。また、研修当日に様々な考え方を教えていただくことにより、より理解することができた
- ・ 市町村が担う役割が多く、その分責任が重大。だから県が支援をしていかなければならないが、実際現在の職は2年目であり、なかなか市町村の支援ができる程、林業についての知識が乏しいため、このような研修をしていただければすごく助かる
- ・ 経験が浅いのでその場でお話しされた内容が頭に「スーっ」と入ってこず、事前に資料に目を通していればもっと深く聞けたのかと思う
- ・ 意向調査から配分計画までの詳しい流れ（スケジュール）が分からなかった

Ⅲ 森林管理円滑化対策研修の評価

40点未満	(0 名)	
40点台	(0 名)	
50点台	(0 名)	
60点台	(0 名)	
70点台	(1 名)	公務時間外を研修で使う場合があった。スケジュール等の見直しが必要
80点台	(3 名)	参加者同士の交流議論がもう少しほしい
90点台	(6 名)	出席者は様々な立場、理解度のため、もう少し研修の時間がほしい
100点	(10 名)	

平均： 93 点

⑦森林経営管理制度円滑化対策研修 九州ブロック実施報告書

1 日程・研修場所 令和2年11月10日(火)～11月12日(木)
研修会場 宝山ホール(鹿児島県文化センター)(鹿児島県鹿児島市)

2 研修受講者数:14名 [男性:12名 女性:2名]
(県職員8名、市町村職員5名、国有林職員3名、有林職員団体職員2名)

福岡県	1名	佐賀県	1名	長崎県	2名	大分県	1名
熊本県	1名	宮崎県	2名	鹿児島県	6名		

3 研修実施概要

○予定どおり全カリキュラムを修了

○研修運営状況、研修生の様子など

・1日目、林野庁森林集積推進室から経営管理制度の概要についての講義があり、その後、受講者から意向調査の取組状況や経営管理権集積計画の作成についての発表があり、意見交換が行われた。

・2日目、制度運用のための優良民間事業者との意見交換((有)田中林業)では、会社の行動指針を基に森林経営管理制度やSDGsへの取り組みを行っていることの説明がなされた。先進市町村の取組事例では、鹿児島市からは、森林経営管理制度の取組実績、さらに令和3年度に向けての方向性について説明がなされ、加えて鹿児島県森林組合連合会から鹿児島市への支援の取り組み及び森林経営管理市町村サポートセンターからセンターの概要と取組状況について説明がなされた。

・3日目、森林総合研究所から森林管理をしていく上での考え方などについて講義があった。また、森林集積推進室から筆界推定にかかる手法などについて講義がなされた。



制度運用のための優良民間事業者との意見交換((有)田中林業)



先進市町村の取組事例(森林経営管理市町村サポートセンター)

○今回の研修で工夫したこと

[工夫点]

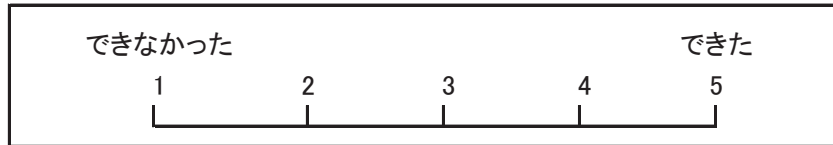
・広い会議室を使用し、研修会場への入室時には消毒液の設置による手指消毒や非接触型体温計による体温測定を行い、さらにアクリル板の設置、一人掛けの座席配置、マスクの着用、講師・進行のフェイスシールド着用等のコロナウィルス感染予防対策を講じた上で開催した。

森林管理円滑化対策研修(ブロック研修) 九州ブロック アンケート集計結果

回収率： 13 名 / 14 名 (93%)

I 本研修のねらい・内容をそれぞれの程度理解できましたか？

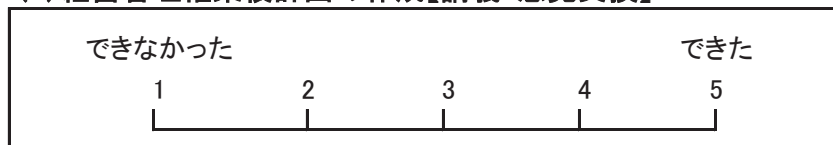
(1) 森林経営管理制度の概要と現状【講義】



平均：4.5

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (1 名) 各地域の事例紹介が参考になった
- 4 (4 名) 譲与税の用途についての考え方など参考になった
- 5 (8 名) 法令や現地の声に詳しく理解の幅が広がった／質問への林野庁回答が業務に役立つ

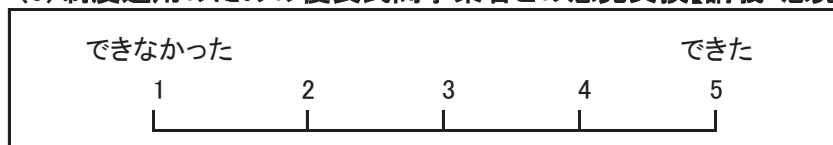
(2) 経営管理権集積計画の作成【講義・意見交換】



平均：4.2

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (3 名) 他の自治体の事業の進め方を詳しく交換できれば良かった
- 4 (5 名) 直接事務に携わった市町の担当の方の話が特に参考となった
- 5 (5 名) 他市町のやり方が分かり、内容をよく調べて取り入れていきたい

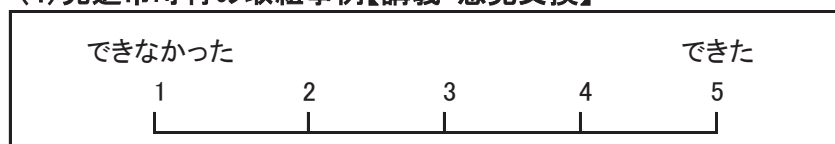
(3) 制度運用のための優良民間事業者との意見交換【講義・意見交換】



平均：4.6

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (0 名)
- 4 (5 名) 安全管理、現場管理の取組方法を地元で普及したい／人材育成の大切さが分かった
- 5 (8 名) 事業体育成に役立てたい／経営理念が素晴らしかった

(4) 先進市町村の取組事例【講義・意見交換】



平均：4.4

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (2 名) 鹿児島県のサポートが分かって良かった
- 4 (4 名) 市、県森林組合連合会、市町村サポートセンターの連携が取れている
- 5 (7 名) 市町、県、関係団体の連携の重要性を改めて感じた

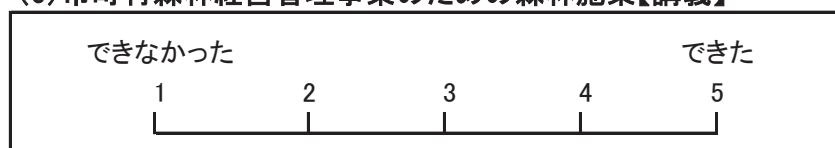
(5) 経営管理権集積計画演習【演習】



平均：3.8

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (6 名) ポイントについて後でしっかり見直しておきたい
- 4 (3 名) 集積計画作成に当たり、基本的な考え方が理解できた
- 5 (3 名) 色々な考え方を聞くことができ参考になった

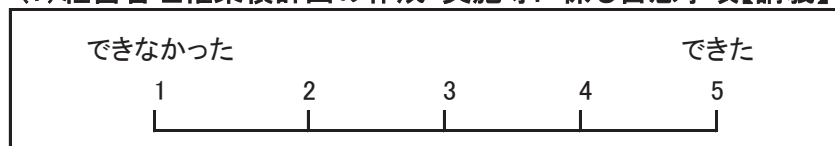
(6) 市町村森林経営管理事業のための森林施業【講義】



平均：4.2

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (3 名) 複層林化がいかに大変な施業であるかを痛感した
- 4 (4 名) 天然更新も難しいのだと認識できた。計画地選定について市町と共に考えていきたい
- 5 (6 名) 針広混交林への誘導の困難さを理解／人工林→複層林化の難しさ

(7) 経営管理権集積計画の作成・実施等に係る留意事項【講義】



平均：4.5

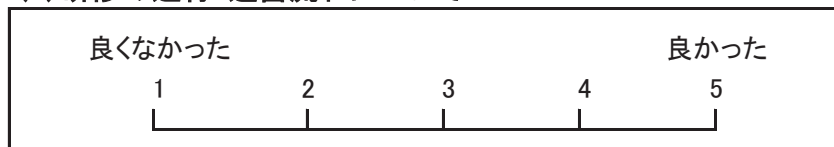
- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (2 名) 制度が多く難しいと思ったが、有効な手段は活用していけるよう、勉強していきたい
- 4 (2 名) 境界についてはよく懸案ともなるので今後参考にしたい
- 5 (7 名) 意向調査後の実務の進め方が分かった／関連する法改正の話まで聞け有意義だった

IV 研修の進行・運営、研修設備等に関する評価

(1) 研修に係る事務局からの事前連絡等は十分できていましたか？

- 1：できていた（12名）
- 2：できていない（0名）

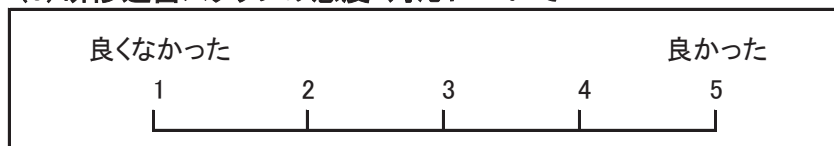
(2) 研修の進行・運営流れについて



平均：3.9

- 1（0名）
- 2（0名）
- 3（3名） 集積計画作成の演習方法は見直しが必要
- 4（8名） 時間オーバーがあったが、それ以外は良かった
- 5（2名）

(3) 研修運営スタッフの態度・対応について



平均：4.5

- 1（0名）
- 2（0名）
- 3（1名）
- 4（5名） 大変丁寧な態度・対応だった
- 5（7名） 大変快適に受講できた／親切で良かった

(4) 今後、どのようなサポートや研修等があったら良いとお考えですか？

- ・ 手探り状態は皆同じかと思うので、今後も研修等を通じ、情報共有しながら地域の森林経営、整備が進めていければと思う
- ・ 各市町村で色々な進め方が出てくると考えられるので、先進的な事例などを紹介して、自分の地域に合ったやり方を考えることができる研修
- ・ 当制度の具体的対応事例
- ・ 市町村毎の森林所有者状況等に則した研修及びサポート
- ・ 自治体を対象とした研修（林野庁からの）もあると良い
- ・ 市町村森林経営管理事業の取り組み方（設計書の作り方、検査等）について受講してみたい
- ・ 混交林化、複層林化を目指す上で稚樹の確保が重要とのこと、伐採の安全確保との兼ね合いもあり、作業方法の指導方法を考える必要があると思うため、その研修等があったら良い
- ・ 意見交換の場を増やしてほしい
- ・ Webシステムによる受講

(5)その他、自由に感想をお聞かせ下さい。

(研修の中で特に印象に残った講義があれば教えて下さい。)

- ・ 市町村森林経営管理事業のための森林施業の講義が印象に残った。ただ、森林経営管理事業の中で取り組み事項を示して頂きたかった
- ・ 林野庁の講義、話し方が分かりやすかった
- ・ 制度を作った林野庁の方々のお話しやつながりができて良かった
- ・ 直接林野庁の考えが聞けて非常に良かった
- ・ 皆様の熱意が伝わった。有難かった

Ⅲ 森林管理円滑化対策研修の評価

40点未満	(0 名)	
40点台	(0 名)	
50点台	(0 名)	
60点台	(0 名)	
70点台	(0 名)	
80点台	(2 名)	資料は参考になるが、説明を受けていないものも多く、後で確認したい
90点台	(6 名)	課題解決演習において意見交換ができれば良かった
100点	(3 名)	大変有意義だった

平均： 92 点

VI. アンケートからみる研修の成果

1. アンケート結果の概要

(1) 評価アンケート調査結果

アンケートは受講生全員を対象とし、研修成果の確認と今後のカリキュラムの検討・研修運営に役立てることを目的に実施した（70頁／アンケートの雛形）。主に各科目の理解度、研修の進行・運営、設備等に対する評価、研修の評価について、集計結果を取りまとめた。アンケートの回収率は、92%（受講者数 132 名、回答総数は 122 名*）。

*研修の一部を欠席した受講者がいるため、回答総数とアンケート各項目の回答者数とは異なる。

(2) 本研修のねらい・内容の理解度

アンケートは、1（理解できなかった）から5（理解できた）までの5段階評価で実施した。

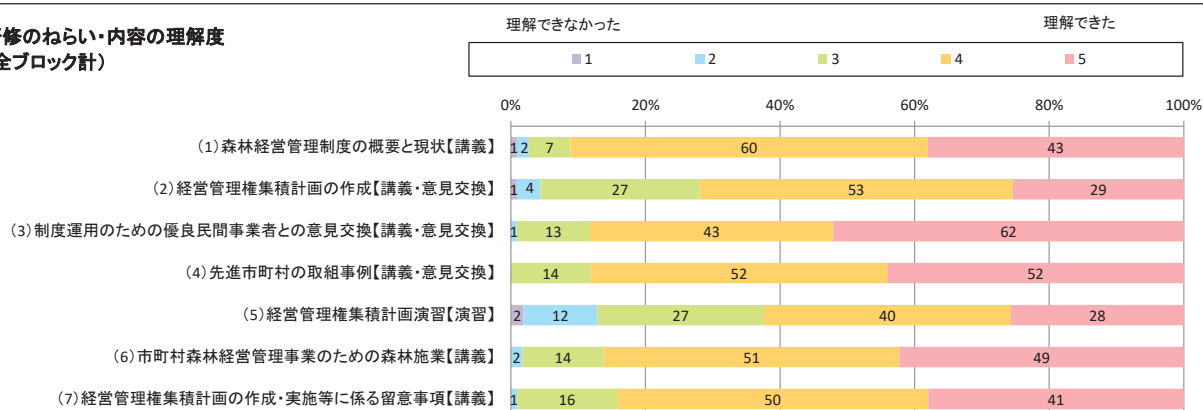
各講義の内容の理解度では4（おおむね理解できた）が最も多く、次いで5（理解できた）の評価で、受講生の理解度は高く、研修のねらいや目的に応じた成果が得られたと考えられる。

各コマの理解度5と4の割合は、62～91%と総じて高い結果となった。

研修のねらい・内容の理解度 (全ブロック計)

	理解度の評価					平均	回答者数	4、5の割合(%)	5の割合(%)
	1	2	3	4	5				
(1) 森林経営管理制度の概要と現状【講義】	1	2	7	60	43	4.3	113	91	38
(2) 経営管理権集積計画の作成【講義・意見交換】	1	4	27	53	29	3.9	114	72	25
(3) 制度運用のための優良民間事業者との意見交換【講義・意見交換】	0	1	13	43	62	4.4	119	88	52
(4) 先進市町村の取組事例【講義・意見交換】	0	0	14	52	52	4.3	118	88	44
(5) 経営管理権集積計画演習【演習】	2	12	27	40	28	3.7	109	62	26
(6) 市町村森林経営管理事業のための森林施業【講義】	0	2	14	51	49	4.3	116	86	42
(7) 経営管理権集積計画の作成・実施等に係る留意事項【講義】	0	1	16	50	41	4.2	108	84	38

研修のねらい・内容の理解度 (全ブロック計)



「森林経営管理制度の概要と現状」【講義】

初日に実施した「森林経営管理制度の概要と現状」【講義】は、理解度5と4の割合が91%と最も高くなった。「森林経営管理制度の運用方法について最新の考えを知ることができた」といった制度への理解が深まったというコメントや、「制度の基礎的な部分を細かい点まで改めて学ぶことができた」といった制度を再確認できたというコメントが見られた。このことは、全ブロック共通の研修資料に加えて、受講生が事前課題として提出した森林経営管理制度の全般に係る質問に対する回答集をブロックごとに作成し、配布資料として講義を進めたことが、理解度評価の高さにつながった要因の一つと考えられる。

「経営管理権集積計画の作成」【講義・意見交換】

初日2コマ目の「経営管理権集積計画の作成」【講義・意見交換】は、理解度5と4の割合が72%となった。「直接事務に携わった市町の担当者の話が特に参考となった」「意向調査の考え方やコツについて理解が深まった」といった具体的なコメントからは、市町村を支援するための知見を広げ、応用力を養うという本研修のねらいに沿った講義であったと考えられる。一方で、理解度3と評価した研修生からは「意見質問の時間をもっととってほしい」「基礎的な事項を理解できるように知識を深めたい」とのコメントが見られた。

「制度運用のための優良民間事業者との意見交換」【講義・意見交換】

2日目「制度運用のための優良民間事業者との意見交換」【講義・意見交換】については、理解度5と4の割合が88%、5の割合については52%と研修の講義の中で最も高い理解度となった。「森林経営管理制度に対する熱意を感じることができた」「従業員確保、森林所有者への利益還元確保の内情が分かった」などのコメントから、制度に適合する民間事業者のイメージを掴むという講義目的にかなった講義となったことが伺える。一方で、理解度2と評価した研修生の「制度に関する取組がなく、今回の研修にそぐわないと思った」とのコメントからは、講義の意図を研修生に伝えることの難しさが示された。

「先進市町村の取組事例」【講義・意見交換】

「先進市町村の取組事例」【講義・意見交換】については、理解度5と4の割合が88%、5の割合については44%と高い理解度となった。コメントには、「意向調査をコンサルに委託した内容が参考になった」「アドバイザーと市との連携の重要性、有意性がよく理解できた」等が記載され、研修生が制度を推し進める上で講義の具体的なポイントが参考となったことが伺えた。

「経営管理権集積計画演習」【演習】

2日目午後「経営管理権集積計画演習」【演習】については、理解度5と4の割合が62%、理解度の平均も3.7と研修の講義の中で最も低い数値となった。コメントには「自らが考えた集積計画に対する添削・指導を直接いただけたことは大きな収穫だった」「集積計画を考える様々なヒントを得ることができた」「集積計画を立てるにも画一的な考えで無くてもよいと分かった」といった記載が見られた。このことから、受講生が事前課題を作成したことで生じた不明事項が、講義の質疑、林野庁からのアドバイスによって、一部解消され、修正計画への理解が深まったことが伺える。

「市町村森林経営管理事業のための森林施業」【講義】

3日目「市町村森林経営管理事業のための森林施業」【講義】については、理解度5と4の割合が86%となった。「天然更新の難しさを知ることができた」「天然更新完了基準を基本として考えていたがそれだけでは難しいことが分かった」等の天然更新の難しさを改めて認識したというコメン

トや、それゆえに「計画地の選定について市町と共に考えて行きたい」等の市町の経営管理の具体的な進め方に言及するコメントも見られた。

(3)全体評価

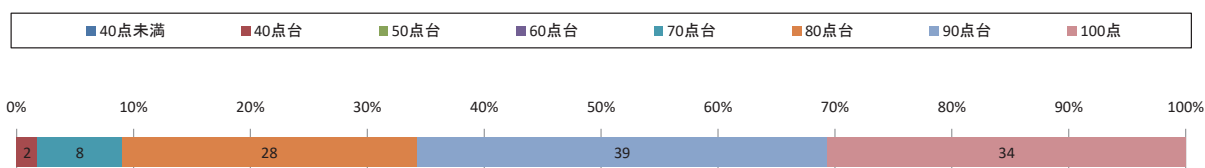
研修全体の評価については、100点満点での評価を実施した。

研修の評価は、平均点が100点満点中89点で、全体の9割が80点台以上をつけ、高評価と見て良いと考える。しかしながら「研修の時間が十分でなく、駆け足で進んでしまったところがある」等、研修の時間不足を指摘する意見が多く寄せられ、カリキュラム内容と各コマの時間配分について検討・調整が必要である。また、「研修生間での意見交換がもう少しできたらよかった」「他県と全く話ができてなくて残念」という意見も多く寄せられた。コロナウイルス感染予防を第一に考え、密を避け、意見交換の場を制限した研修ではあったが、集合研修の大きな意義である他の研修生との意見交換ができるような工夫・検討が必要である。

森林経営管理制度円滑化対策研修の評価(100点満点で記載)

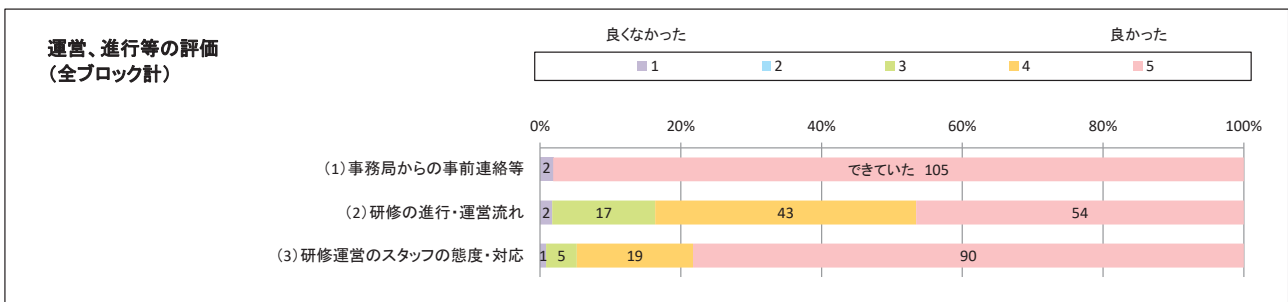
	北海道・東北	関東	中部・近畿①	中部・近畿②	西日本	四国	九州
40点未満	0	0	0	0	0	0	0
40点台	0	0	0	0	2	0	0
50点台	0	0	0	0	0	0	0
60点台	0	0	0	0	0	0	0
70点台	3	3	1	0	0	1	0
80点台	7	1	6	2	7	3	2
90点台	6	2	5	7	7	6	6
100点	5	3	4	7	2	10	3
各ブロック平均点	87	86	89	94	82	93	92
全ブロックの平均点	89						

森林経営管理制度円滑化対策研修の評価



(4) 研修の進行・運営、研修設備等に関する評価

運営、進行等の評価 (全ブロック計)	評価					平均	回答者数	4、5の割合(%)	5の割合(%)
	1	2	3	4	5				
(1) 事務局からの事前連絡等				2	105	5.0	107	—	—
(2) 研修の進行・運営流れ	2	0	17	43	54	4.3	116	84	47
(3) 研修運営のスタッフの態度・対応	1	0	5	19	90	4.7	115	95	78



研修の事前連絡

研修の事前連絡は、全回を通し、概ねできていたという評価であった。できていないという評価へのコメントは、事前課題のファイルの受け渡しに関することであり、研修生との連絡についてはより徹底が必要である。

進行・運営の流れ

進行・運営の流れについては、5 (良かった) と 4 (おおむね良かった) の評価が全体の 84% となった。「全体として時間が足りなかった」「時間オーバーが複数回あった」等のコメントが見られ、発表を伴う講義の際の発表時間と質疑の時間配分についての検討・調整が必要である。

研修運営のスタッフの態度・対応

研修運営のスタッフの態度・対応については、5 と 4 の評価が全体の 95% となり、評価が非常に高かった。運営スタッフの丁寧な対応等が評価されたことが受講生のコメントからも伺えた。

(5) 今後の必要なサポートや研修等について

今後、必要なサポートや研修等への要望については、全ブロックにおいて多くコメントが寄せられた。市町村担当者への研修の強化を望む記載が多く見られた。それ以外の要望等について、研修、講義内容、サポートに分けて次に記載する。

(研修)

- ・経営管理制度上、必要な事務の細かな研修(境界明確化、集積計画の作成などポイントを絞ったもの)
- ・意欲能力のある経営者の企画提案スキルアップ研修
- ・事業体育成のための研修 (自らの森林を所有しない先進的な事業体の経営計画、皆伐、再生林の取組)

- ・市町村の取組状況の進捗に応じた研修
- ・優良事例とともに上手く進んでいない事例を紹介し、原因分析と対処方法を話し合う研修
- ・先進・優良事例のみを集めた研修
- ・先進事例地の現地研修等
- ・市、県、事業体のレベルを合わせた協議したい（市のみ、県のみ、事業体のみなど）
- ・事業体へ対する理解を深め、関係を構築できる内容の研修
- ・都道府県や市町村の担当レベルのグループ座談会
- ・務担当者として知っておくべき基礎知識の研修
- ・意向調査、集積計画、配分計画、市町村管理事業などの実例を一通り学習できる研修
- ・森林GISを活用するより具体的な内容の研修
- ・集積計画の実例をもとにした工夫や改善点などを共有する研修
- ・各地の集積計画や配分計画の実践について話し合う研修
- ・市町村ごとの森林所有者状況等に則した研修
- ・市町村森林経営管理事業の取り組み研修（設計書の作り方、検査等）
- ・針広混交林化、複層林化を目指す上で稚樹の確保、伐採の安全確保のための研修

（講義内容）

- ・経験年数に応じて内容を対応させる
- ・市町村を対象とした森林環境譲与税の使い方
- ・森林以外への森林環境譲与税の活用法、考え方など
- ・所得者不明土地に関する法整備の講義
- ・針広混交林化の方法について
- ・森林情報の扱い方（この情報を使えば経営に適する適さないの判断ができる等）。GIS活用方法
- ・失敗事例
- ・応対事例の講義
- ・制度に係る他部局（法律、土木など）横断的な講義
- ・QGISや森林クラウドを含む情報交換会
- ・事業費算定に関する演習
- ・意向調査地区選定に関する模擬演習

（サポート）

- ・研修資料（パワーポイントのデータ）共有
- ・各県より提出された事例書の手直しや共通の特に多い修正すべきところなどが記された資料
- ・県の支援制度
- ・現地検討会
- ・市町村向けの基礎からのサポート
- ・今後適時アップデートされた資料等が閲覧できる体制
- ・実際の意向調査票事例集
- ・集積計画作成時の技術的な助言
- ・制度の詳しい説明や国の動きを説明する場の設定

- ・ 森林経営管理制度の実施で浮き彫りになった内容・成果等の伝達
- ・ 研修のオンラインへの対応
- ・ 市町村ごとの森林所有者状況等に則したサポート

(6)その他、感想(研修の中で特に印象に残った講義)

印象に残った講義として、各ブロックともに実践者が講師となった「制度運用のための優良民間事業者との意見交換」【講義・意見交換】、「先進市町村の取組事例」【講義・意見交換】が多く上げられた。また、研修全体を通じた感想として、「林野庁講師の話を知ることができてよかった」等のコメントが多く見られた。新しい制度が地域に定着していく過程では、発信者から当事者に直接伝えることの意味が伺える。

Ⅶ. 研修の実施における課題と改善点

受講生間の情報交換等について

受講生に行ったアンケートでは、受講生の間で情報交換を行える場がほしいとの意見が多々見られた。このような意見は前年度の研修においても散見されたが、今年度の研修はコロナ禍の中での研修であり、研修時間外での情報交換も困難な状況であったことから、特にこのように感じた受講生が多かったと考えられる。

このような情報交換は集合方式の研修であるから可能となるものであり、研修時間内にも取り入れるような工夫も行ってきた。

受講生からは、受講生のみでグループをつくり情報交換等を行うとの意見も出されていたが、受講生のみでの情報交換、意見交換を行った場合には、その内容の是非を判断できる者がおらず、場合によっては不適切な方法が共有されるおそれもある。林野庁の担当官が参加する研修であるので、このグループに担当官に同席することも考えられるが、グループが多ければこれも困難となる。

このため、研修においては、受講生から特定の事柄について、他の受講生の地域での状況や取組について知りたいとの質問があった場合には、該当する受講生を指名して意見や情報提供を求める対応を行って来た。この方法であれば林野庁の担当官も全ての発言を把握でき、発言の中に不適切な部分について修正・指導できる。このような場を研修の中に意識的に設けることができれば、受講生の満足度を高めることが可能となる。

しかしながら、研修の時間は限られている。このため、講義のうち主として情報提供となるものについては予め録画して、集合研修の前にYouTubeで視聴してもらうことで、集合研修での受講生間の情報交換などの時間を確保することが可能となるのではないかと考えられる。

この場合、YouTubeでの視聴も研修の一貫であり、集合研修においてはYouTubeで視聴した講義についての質疑や意見交換を行うこととなる。

配布資料について

受講生に行ったアンケートでは、研修当日に配付した資料が充実していたという意見が見られた。次のようなコメントである。

- ・ 分かりやすくまとまった資料で説明して頂いたので理解しやすかった
- ・ 配布資料が分かりやすく充実しており受講できて良かった

一方で資料が充実しているがために、事前に配布してほしいという次の意見も聞かれた。

- ・ 講師資料がたくさんあり、事前に予習しておきたかった
- ・ 事前に資料に目を通していればもっと深く聞けたのかと思う

このような意欲ある研修生に対応するために、講義資料は研修当日も配布するが、講義資料が調った時点で、事前に全研修生に対してオンラインストレージ等で講義資料を届ける方法が考えられる。

また資料については、次の意見も聞かれた。

- ・ 資料の綴り方が分かりにくかった

- ・配布資料の整理が不十分と思われる

このことについては、研修開始時のオリエンテーションで配付資料について説明を行い、また講義ごとに使用する資料を示す（ホワイトボードに記す）などで対応できると思われる。

森林經營管理制度円滑化対策研修・参考資料

森林経営管理制度円滑化対策研修研修 評価アンケート調査票(●●ブロック)

今後の研修を効果的に実施するための参考資料としますので、率直なご意見・ご要望等をご記入下さい。
ボールペン等で濃くご記入くださいますようお願いいたします。

所属組織名: _____ 氏名: _____ 受講生No: _____

1 本研修のねらい・内容をそれぞれの程度理解できましたか？
 該当欄の数字に○を付け、理由等を【コメント】欄にご記入下さい。

(1) 森林経営管理制度の概要と現状【講義】(1日目午後)

できなかった					できた
1	2	3	4	5	

【コメント】

(2) 経営管理権集積計画の作成【講義・意見交換】(1日目午後)

できなかった					できた
1	2	3	4	5	

【コメント】

(3) 制度運用のための優良民間事業者との意見交換【講義・意見交換】(2日目午前)

できなかった					できた
1	2	3	4	5	

【コメント】

(4) 先進市町村の取組事例【講義・意見交換】(2日目午前)

できなかった					できた
1	2	3	4	5	

【コメント】

(5) 経営管理権集積計画演習【演習】(2日目午後)

できなかった					できた
1	2	3	4	5	

【コメント】

(6) 市町村森林経営管理事業のための森林施業【講義】(3日目)

できなかった					できた
1	2	3	4	5	

【コメント】

※裏面に続きます。

(7) 経営管理権集積計画の作成・実施等に係る留意事項【講義】(3日目)

できなかった					できた
1	2	3	4	5	

【コメント】

II 研修の進行・運営、研修設備等に関する評価

該当欄の数字に○を付け、理由等をコメント欄にご記入下さい。

(1) 研修に係る事務局からの事前連絡等は十分できていましたか？

できていた	できていない
1	2

※「2」できていないとしたのは何故ですか。理由をご記入下さい。

【コメント】

(2) 研修の進行・運営の流れについて

良くなかった					良かった
1	2	3	4	5	

【コメント】

(3) 研修運営スタッフの態度・対応について

良くなかった					良かった
1	2	3	4	5	

【コメント】

(4) 今後、どのようなサポートや研修等があったら良いとお考えですか？

【コメント】

(5) その他、自由に感想をお書き下さい。(研修の中で特に印象に残った講義があれば教えて下さい。)

【コメント】

III 森林経営管理制度円滑化対策研修の評価

森林経営管理制度円滑化対策研修を100点満点で評価するとしたら何点ですか？
減点した理由等もお書き下さい。

(成果や達成感ではなく、研修の内容等全体を客観的に評価して下さい。)

【ブロック研修】

【減点した理由等】

____ / 100 点

ご協力ありがとうございました。

1日目のふりかえりシート

所属組織名:

氏名:

受講生No.:

<p>講義や演習で学んだことのポイントや キーワード、印象に残った講師や 他の受講者の言葉</p>	
<p>研修後、職場(現場)でさっそく調べたいこと、 確認したいこと・取り組みたいこと</p>	
<p>自分の知見を高めるために、もっと詳しく 知りたい・学びたいこと。 難しかったこと・わからなかったこと</p>	

2日目のふりかえりシート

所属組織名:

氏名:

受講生No.:

<p>講義や演習で学んだことのポイントや キーワード、印象に残った講師や 他の受講者の言葉</p>	
<p>研修後、職場(現場)でさっそく調べたいこと、 確認したいこと・取り組みたいこと</p>	
<p>自分の知見を高めるために、もっと詳しく 知りたい・学びたいこと。 難しかったこと・わからなかったこと</p>	

令和2年度 森林経営管理制度円滑化対策研修
最終日のふりかえりシート

所属組織名: _____ 氏名: _____ 受講生No.: _____

1. 3日間の研修を終えて、新たに獲得したこと、得た知識・情報、ポイント等

2. 3日間の研修を終えて、新たに見えてきた課題等

各ブロックの評価アンケート調査票

「Ⅰ 本研修のねらい・内容(各講義についての理解度)」のアンケートは、1(理解できなかった)から5(理解できた)までの5段階評価で実施した。「Ⅱ 研修の進行・運営、研修設備等に関する評価」は、1(良くなかった)から5(良かった)までの5段階評価で実施した。資料では、評価点数ごとのコメントを集めて掲載した。

■北海道・東北ブロック

Ⅰ 本研修のねらい・内容をそれぞれの程度理解できましたか？

(1)森林経営管理制度の概要と現状【講義】

4点

- ・パワーポイントの一枚当たりの文字数が多い
- ・意向調査について、地域のニーズがあるところから取り組むという視点が重要
- ・林野庁の担当者から直接話が聞けたことはためになった
- ・講師の制度や森林に対する熱意が伝わった
- ・手引きだけの理解だったが、考え方が広がった
- ・再認識できた。質問にたいして、林野庁のコメントはとても参考になる
- ・図解とともに説明を受けたので分かりやすかった
- ・林務担当1年目であるため制度の概要やポイントを改めて講義していただけて良かった
- ・内容はある程度分かっていたので新しい情報も得られてよかった
- ・森林経営管理制度について説明を聞いていたのは初めて。手引きやガイドブックを読んだだけでは意向調査がきもだと伝わらない
- ・誰かが手入れをする森林を増やすことが目的という言葉で、これまでの考えを改めさせられた
- ・やらないのが一番問題ということに感銘を受けた
- ・改めて森林管理制度について学んだ
- ・基本的な考えを学べたのは良かった

5点

- ・概要と現状を再確認したことで、より制度について理解することができた
- ・重要なワードがいくつかあった(森林経営管理制度は「骨」、譲与税は法の原則を守って使う)
- ・内容のおさらいとコメントで理解を深めた
- ・林野庁の考えの趣旨が良く理解できた。
- ・駆け足であったが、丁寧な説明だった

(2)経営管理権集積計画の作成【講義・意見交換】

2点

- ・時間が足りなかった

3点

- ・前半の発表は質疑時間が長くて良かったが、後半は終了時間が迫っていることで質問を控えてし

まった

- ・事前課題の問い（取り組みの課題や意見交換したい項目）が参考になった
- ・意向調査を実際に行う市町村の担当者の意見をもっと聞きたい。また、意見、質問の時間は多く取ってほしい

- ・講義の時間がもう少し欲しかった

4点

- ・要点を絞ったパワーポイントの作成、プレゼンをしてほしい
- ・「計画に伐跡を入れるとモラルハザードになりかねない」との言葉になるほどと思った
- ・各県の取り組みなど参考になった
- ・意見交換の時間がもう少しあると良かった
- ・今後の進め方の参考になった
- ・集積計画は意向調査後の要であると思うので、さらに勉強していきたい(団地設定は地域差があり、容易ではないと思う)
- ・経営管理権集積計画は1つの方法であり、何もしないということが悪化につながる、何か対策をとることが大切
- ・他市町村の意向調査の実施状況が聞けた
- ・ほぼ初心者の方にとっては基本的な作成方法を学べて良かった

5点

- ・他の良い事例があり参考になった
- ・森林境界の明確化と山形県西川町の意向調査後の地図が参考になった
- ・他道県の取組状況や考え方など勉強になった

(3)制度運用のための優良民間事業者との意見交換【講義・意見交換】

2点

- ・地域産業として素晴らしい林業の取り組みであると思ったが、森林経営管理制度に関する取り組み内容がなく、今回の研修にはそぐわないと思った

3点

- ・街づくりの中での林業経営
- ・意欲と能力のある事業者の取り組みを学ぶ事がなかったので良かった。認証林の活用は今後も優先・需要が高まると思う

4点

- ・意欲と能力のある事業者の理想的な姿がイメージ出来た
- ・林業が地域産業の中の1つであるという意識が強く感じられた
- ・先進事例として参考にしたい
- ・事業者の意見を知ることができ貴重な講義
- ・意欲と能力のある経営体の積極的な雰囲気を知ることができ良かった
- ・F S C 認証をツールとして活用している話が参考になった
- ・地域に根差した林業事業者の話を知ることができて参考になった

5点

- ・分かりやすく、話しやすく、意見交換しやすい雰囲気であった

- ・地域のことを真剣に考えている業者さんの姿勢は見習うべきことが多いと思った
- ・震災後の会社経営を検討して所有森林の経営管理と地域との結びつきを大事にしていることが参考となった。キーワードとして森林認証だったが、地元置き換えていきたい
- ・他の事業体(森林組合)の話も聞きたい
- ・F S C 認証の活用方法がためになった
- ・こうした視点(自社の収益だけでなく林業の持続性や地域の中での林業を考える)を持つ経営者を増やしていく必要があると感じた
- ・実施例を分かりやすく説明され、手掛かりとなる FSC®も参考になった
- ・意欲のある経営者の話は良かった
- ・狭い、古い林業ではなく、地域の産業として取り組んでいる、まさに意欲と能力のある事業者さんの話を聞くことができ失敗を恐れない姿勢を学ぶことができた
- ・F S C®を基軸に地域発展に貢献している企業の取り組みを聞くことができ大変参考になった
- ・市町村担当のため、あまり必要のない講義な気がした

(4)先進市町村の取組事例【講義・意見交換】

3点

- ・登米市への県のサポート体制がしっかりしていることに興味した。どうやれば本県でもそういった体制がとれるか検討したい

4点

- ・意向調査で未返答者にハガキでお願いするのは効果的で参考になった
- ・市町村に対してきちんと指導していく必要があると感じた
- ・林務4人体制は比較的市町村としては多いように思うが、それでも大変ということで県へのメッセージ含めて、せめて寄添うことの重要性を感じた
- ・大変うまくやっているという印象を持った
- ・取組事例が大変参考になった。意向調査の進め方のはじまりの方法によって、①組合②コンサルでの差があると思い、改善の目安になる
- ・説明が分かりやすく理解できた
- ・具体的な流れややり方の話を聞くことができ参考となった
- ・参考となる部分もあってよかった
- ・意向調査の実施方法について、直営、森林組合への委託のほかに、コンサルへの委託もあることは分かった。放射性物質の影響で広葉樹(しいたけ原木)はうちの管内でも課題
- ・県の支援が大きく、相談できる環境整備をされていることに感銘を受けた
- ・町として、今後の意向調査業務の参考になった
- ・意向調査の方法など、より詳しく伺いたい

5点

- ・分かりやすく、話しやすく、意見交換しやすい雰囲気であった
- ・圏域協議会における参加団体と森林経営管理制度実行に向けた取り組みが参考となった。県のサポートが不可欠だったことやコンサルタント事例が良かった
- ・意向調査をコンサルに委託した内容が参考になった
- ・参考になることが多いので複数の自治体の話を聞きたい

(5)経営管理権集積計画演習【演習】

2点

・現況の森林が分からない、また実施方針や考え方が分からなくて記載例をそのままにしてしまった

・正直、勉強不足で分からない点が多かった。引き続き勉強する必要性を強く感じた

3点

・発表者が多すぎるような気がする。図面が細かく分かりづらいため、質問が思いつかない

・団地設定の難しさが浮き彫りになった。実際に該当市町村でやってみないと分からないのが本音。それぞれの団地設定の考え方を聞くことができ、参考となった

・他の方の作成例や林野庁の方の作成例で以前よりもイメージができるようになった

・参考となる部分があった。林野庁のコメントもありがたかった

・林野庁の講義をもう少し受けたい

4点

・理解できていなかった部分の気付き、講師の言葉遣いに若干のトゲを感じた。もう少し私たちの目線に合わせた空気が欲しいと感じた。

・集積計画の文面はきちんと精査しないといけないことが分かった

・基本的には森林経営計画推進の思いで聞いていた。集積計画は最終手段と理解している

・もっと勉強する必要があると思った。林野庁作成例の講義が良かった

・対象森林の森づくりをどうしていくかということ考えた上で集積計画の各項目を詰める視点を学んだ(ひながた通りでなくて良い)。ただ、市町村にとっては現時点ではひな型的なものがあった方が取り組みやすいと思う

・今後の進め方の参考になった

・演習形式なので理解しやすかった

・林野庁が示された例とその解説が大変参考になった

・様々な演習結果を聞いたため

・まだ集積計画を作成するのは先だが、今後の参考になると思った

・集積計画を考える、様々なヒントを得ることができた

5点

・市町村担当者の立場になって集積計画が実行可能かの判断について参考にすることができた

・集積計画作成の注意点を振り返ることができた

・適切でない事例の指摘理由が参考になる

(6)市町村森林経営管理事業のための森林施業【講義】

3点

・天然更新の認識不足が分かった

・広葉樹林化は考えているより、手間やコストがかかることが分かった

4点

・中身が広葉樹林化に特化していることが意外だったが、それはそれで参考になった

・講義内容は専門的で難しかったが、天然更新の施業が理解できた

- ・必要本数や樹高などちょこちょこ聞き逃してしまったが、興味深く拝聴した。天然更新が難しいことについての認識がもっとたくさんの人に共有されれば良いと思う
- ・大変参考になった
- ・針広混交林とは漠然としたイメージしかなかった。天然更新はコスト、人手がどうしてもかかることに意味が分かった(ただの放置では混交林として成功しない)
- ・資料が分かりやすかった
- ・天然更新の難しさを知ることができた
- ・勉強になったが、時間が足りなかった
- ・安易に広葉樹林化と考えるべきではなく、よく現場を調べて導入すべきことが良く分かった
- ・天然更新の厳しさを改めて感じた
- ・本市でも伐採後の天然更新が多いが、この対応に不安がある。機能を回復するためには困難であり、そもそも天然更新を認めて良いのかと思う
- ・天然更新の難しさに気づかされた
- ・広葉樹天然更新は安易に考えては行けないことを学んだ

5点

- ・非常に分かりやすい。一つ一つの言葉が心に残る説明であった
- ・天然更新もコストがかかる、など認識が新たになった
- ・天然更新を進めるポイントとして各種データを紹介して分かりやすい講義だった。当管内で不成績造林地の施業提案に活用したい
- ・天然更新は難しいが不成績造林地はできる
- ・針葉樹の広葉樹林化の難しさを再確認した
- ・今後市としての事業に役に立つ内容でとても良かった

(7)経営管理権集積計画の作成・実施等に係る留意事項【講義】

3点

- ・内容が盛りだくさん。覚えるのが大変。しかしながら、市町村には情報提供していく

4点

- ・早足だったが、要点を絞って解説していただいた
- ・ポイントが多すぎて消化しきれない
- ・最後の林野庁講師の話が良かった
- ・大変参考になった
- ・スライドが分かりやすかった
- ・まとめの時間があってよかった。重要なポイントだけが聞けた
- ・境界の確認はどの市町村でも課題。現場立会の前の事前準備に利用できるものが知れたことは成果

- ・所有権界と筆界の違いについて理解した
- ・研修前から気になっていた境界明確化についてのポイントが聞けた
- ・林野庁講師の最後の締めが良かった

5点

- ・まずは「やってみること」ということが分かった。事務所に帰り、分からないことがあれば問い

合わせする

- ・法律改正のポイント、国土地理院の内容が理解できた
- ・所有権界と筆界の説明など大変参考になった
- ・今後の法改正等に期待する
- ・参考になった。理解度が増した
- ・金をかけなくてもある程度どのデータは活用できる。譲与税は地域の森林、公益的機能のために活用を

II 研修の進行・運営、研修設備等に関する評価

(1)研修に係る事務局からの事前連絡等は十分できていましたか？

1. できていた

- ・事前に色々ありがとうございます、お疲れ様です。
- ・GISデータ提供ありがとうございました
- ・事前課題を修正して再度提出したが、差し替えがされていなかったが、結果的にその方法でも良いと言われたので良かった

2. できていない

- ・課題を提出した時に「届きました」の確認メールが欲しかった
- ・当日意見交換をするなら前日までに林野庁コメントなど送ってほしい

(2)研修の進行・運営流れについて

1点

- ・昨年度から引き続きやっているはずなのに、段取りが悪すぎる。時間配分が下手

3点

- ・事前課題の内容が濃すぎて作成及び提出することに不安があった
- ・紙に書いてホワイトボードに張ったのは字が小さくて見えなかった。声が聞こえない人がいた。パワーポイントの色、大きさをもっと大きく見えるものにした方が良かった

4点

- ・丁寧な対応、同じ目線で対応していただいた
- ・1日目は時間配分ができなかったが、2日目以降はスムーズな研修内容と進め方となっていた
- ・2日目発表者が多く同じような考えの発表が続き長く感じた
- ・新しい生活様式での研修の進行は問題なかった
- ・事前課題に対してさらに詳細に調べて丁寧に回答、コメントされていて大変参考になった。感動した

5点

- ・大変良くやっていただいた
- ・スムーズで良かった

無点

- ・盛りだくさんでしようかしきれていない。実務で使う場合の参考になる

(3)研修運営スタッフの態度・対応について

1点

- ・運営側の方が研修に集中していない。今後のブロックでは改善してほしい

4点

- ・特に悪いところはなかった
- ・良かった

5点

- ・丁寧な対応、同じ目線で対応していただいた
- ・スタッフの皆様お世話になった
- ・色々とお気配りが感じられた
- ・ありがとうございました
- ・大変良くやっていただいた
- ・良かった

無点

- ・よかった

(4)今後、どのようなサポートや研修等があったら良いとお考えですか？

- ・今後地域の市町村へ支援するため資料提供を願う
- ・各県より提出された事例書の森林集積推進室での手直しや共通の特に多い修正すべきところなどが記された資料
- ・パワーポイントのデータ共有
- ・後学のため、研修資料のファイル提供をお願いしたい
- ・林野庁の熱量は、県、市町村、末端まで伝わっているとは言えないため、説明会、研修は数多く続けてほしい
- ・経営管理制度上、必要な事務の細かい研修(境界明確化、集積計画の作成などポイントを絞ったもの)
- ・経験年数に応じて内容を変えてほしい
- ・新しい制度等に対応した研修にしてほしい
- ・意欲能力のある経営者の企画提案スキルアップ研修
- ・事業体の育成向けの研修。特に自分の森林を持っていない先進的な事業体の経営計画、皆伐、再造林の取組
- ・市町村を対象とした税の使い方
- ・森林以外への譲与税の活用法、考え方など
- ・国、県のサポート体制が良くとれているので、特に無し

(5)その他、自由に感想をお書き下さい。(研修の中で特に印象に残った講義があれば教えて下さい。)

- ・全て参考になった
- ・国からのコメント等、非常に参考になる
- ・林野庁担当者の熱を感じた。率直なお話しが聞けて良かった
- ・今回の研修を受けて「自分の頭が固い」と感じた。もっと柔軟に業務を進めていきたいと感じた
- ・集積計画作成方法。事前の課題が出され、それについての振り返りをする研修方法で知識を深め

ることができた

- ・優良民間事業者(株式会社佐久)の講義
- ・林野庁の講義は具体的で大変分かりやすかった
- ・集積計画の演習発表は様々な意見、考えが聞けて良かった
- ・事前課題3つの課題設定の難易度が高いと感じた
- ・グループ討議がないならリモートでの研修でも良いと思う
- ・他県の人と話さない、話せない研修は初めてだった。せめて席順をかえるなり話しやすいようにしてほしかった
- ・研修時間が少ないためメニューは広くしないで作成書類の内容検討の具体的な指導としてほしい
- ・林野庁との意見交換の時間をもっと増やしてほしい
- ・講義を撮影していたようなので、動画をDVDで欲しい。聞いた内容を改めて市町村に伝えるが、時間、能力的に厳しい
- ・意見交換が多いので、学校形式より口の字の方が良いと思った
- ・時間がないため、ふりかえりシートは1日目のはじめに配ってほしかった

Ⅲ 森林経営管理制度円滑化対策研修の評価

(1)森林経営管理制度円滑化対策研修を100点満点で評価するとしたら何点ですか？減点した理由等もお書き下さい。

70点

- ・資料は極力少なく、要点を分かりやすく私たちと同じ目線の言葉遣いをしてほしい
- ・時折進行がスムーズでなかった
- ・研修の受講を考える時、どんなレベルの受講生を対象としているか分かるとありがたい。内容が盛りだくさん過ぎる

80点

- ・他県と全く話ができなくて残念。集まる意味があったのか
- ・2日目演習の発表者はもう少し絞りこんでも良いと思う。3日目1コマの時間がもっと長くても良かった(質問時間が少なかった)
- ・林務1年目には少し難しいと感じた
- ・紙に書いてホワイトボードに張ったのは字が小さくて見えなかった。声が聞こえない人がいた。パワーポイントの色、大きさをもっと大きく見えるものにした方が良かった
- ・事前に勉強をもっとしておくべきだったと思った
- ・もう少し時間的に余裕があれば良い

90点

- ・最後の質問の時間をもう少しとっていただきたい
- ・1日目の研修時間配分が十分でなかったため
- ・時間が少し不足
- ・民間林業事業者の講義が興味深かったものの、今回の研修目的とはあまり合っていなかったため
- ・もう少し説明に対する時間に余裕があれば良かった

■関東ブロック

I 本研修のねらい・内容をそれぞれの程度理解できましたか？

(1)森林経営管理制度の概要と現状【講義】

3点

- ・制度の意義を改めて認識したのと同時に、市町村がおかれている実情に相違があるため、説明内容に納得できない点もあった
- ・制度概要について理解できるが、自分の担当地域で集積計画をどのように活用できるかメリットを見出しにくい

4点

- ・意向調査を実施した後は経営管理権を設定するだけでなく、既存事業の活用も選択肢になり得るのが驚きだった
- ・制度についての確認と全国の現状についての情報は今後の参考になると感じた
- ・制度全体の仕組み等について理解を深めることができた
- ・ある程度理解した

5点

- ・分かりやすくまとまった資料で説明して頂いたので理解しやすかった

(2)経営管理権集積計画の作成【講義・意見交換】

3点

- ・意識調査の目的が”森林所有者の想い”を把握するためのもの！ちょっとカルチャーショックです。ちょっと認識ずれてました。意識調査の実施方法について先進地事例を参考にして対応する必要があると感じた
- ・意識調査がどのようなものか理解が深まった
- ・再度資料を自分なりに整理していきたい

4点

- ・様々な事例が紹介されたが、取り組み方は様々であった。帰ったら紹介された事例についてより詳しく調べたい
- ・意識調査についての正しい理解を得ることが出来たと感じた
- ・質問に対する回答について他の受講生のものがすぐ理解できないものがあった。改めて読み返して理解したい

(3)制度運用のための優良民間事業者との意見交換【講義・意見交換】

3点

- ・林分の材積の量、価格の算出方法を知ることができ有益だった
- ・条件の良い地域でうまく仕事を回している事例
- ・参考になった

4点

- ・当方の森林組合と経営理念に相違(対象：組合員、事業：国有林の対象としていない)があり、とても参考になった
- ・積極的に事業を行っている森林組合の事例に触れることができた。組合員の意向を考えることが

最優先であると感じた

5点

- ・優良な森林組合は新たな事業を増やすほどの余力は無い可能性がある
- ・多角経営や山林所有者が納得がいき、作業員のモチベーションが上がる賃金システムにするなど経営努力が感じられた
- ・見積額の提示が重要

(4)先進市町村の取組事例【講義・意見交換】

3点

- ・市の先進的取組を聞いて興味深い

4点

- ・当市と比較して約2年先行している(経営管理実施権の設定)今後の進め方を考える上で大変参考となった
- ・既に意向調査を行い集積計画の作成を行っている市町村の考え方等に触れられることができた。今後の参考にしたい

- ・同じ県内における積極的な取り組みに触れ、参考にしたいと考えた
- ・アドバイザーの役割が重要
- ・今後の方針の参考になった

5点

- ・どのような経過で制度に取り組んできたかや意向調査に向けてどんな事前準備をされたのか、その後の流れなどを知ることができた

(5)経営管理権集積計画演習【演習】

3点

- ・計画を立てる上での参考になった

4点

- ・集積計画作成にあたってのポイントを確認することが出来た
- ・今回の理解不足で記載方法が読み解けていなかったが、林野庁の方のコメントを踏まえてより理解を深めたい
- ・課題を提出するために時間は要したが、自ら取り組む良い機会でも効果的に理解が進んだと感じる
- ・他の発表者が集積計画にあたり検討した要素・要件は本市で参考にしたいと思う
- ・集積計画を作成するにあたって経営管理内容にどんなことを書くと良いかや場所を選定する際にどんなところに注目すると良いかなどを学ぶことができた
- ・自分で作成してみて理解不足の点があった
- ・他の研修生の計画を学べて自分の中に無かった考えを知ることができて有意義だった

(6)市町村森林経営管理事業のための森林施業【講義】

4点

- ・複層林化という言葉がこの制度でよく耳にするが、一筋縄ではいかない難しい施業であることに驚いた

・現状では市町村は針広混交林への意識は低いと技術的なハードルもあると今後の方向性に不安を感じる(優先度は極めて低くなるか・・・)

・針広混交林をテーマにした講義だったが、実際の森づくりにあたっての考え方を知ることができた

・間接的に聞いたことのあったテーマ。今回直接聞くことができ理解を深めることができた

・広葉樹の植栽の難しさを知った

・実務上、不採算の民有林を市が管理するか、間伐までのイメージだった。複層林まで手入れしての施業となると負担が大きいと感じた

5点

・広葉樹林化について、いかに大変で時間がかかることなのか理解することができた

・具体的な育林方法を知りたい

(7)経営管理権集積計画の作成・実施等に係る留意事項【講義】

3点

・意向調査もまだであるためすぐイメージはできなかったが、今後取り組む際の参考としたい

・短い時間の中での説明だったので、もう少し時間をとって説明してもらえると良かった

4点

・集積計画策定後は再委託が望ましいとこの研修に参加するまではそう思っていた。カルチャーショックだ

・全く知らない内容だったので新鮮だった。参考資料の説明をもう少し聞きたかった

II 研修の進行・運営、研修設備等に関する評価

(1)研修に係る事務局からの事前連絡等は十分できていましたか？

(2)研修の進行・運営流れについて

3点

・事前課題が大変であった

・配布資料の整理が不十分と思われる

・もう少し問題を議論する雰囲気が必要だと思う

4点

・講義の進捗に合わせて時間の管理をされていた

・大きな流れは良かったと思うが、全体として時間が足りないように感じた

5点

・事前の入念な準備のおかげでストレスなく取り組めた

(3)研修運営スタッフの態度・対応について

5点

・丁寧に案内して頂けて大変助かった

・コロナ対策等大変な中ご対応いただき感謝

(4)今後、どのようなサポートや研修等があったら良いとお考えですか？

- ・林野庁の方が何時でも連絡すれば対応して頂けるのは有難いですが、県でも支援制度をとって頂けると大変助かる
- ・研修の内容が充実している分、庁内に持ち帰って展開するのが心配。このような有益な機会が増えると良い
- ・市町村職員は森林施業について詳しく学ぶ機会が少ないのでそのようなサポートや研修があると良い
- ・現地検討会

(5)その他、自由に感想をお書き下さい。(研修の中で特に印象に残った講義があれば教えて下さい。)

- ・全てが印象的であった
- ・広葉樹の天然更新について

Ⅲ 森林経営管理制度円滑化対策研修の評価

(1)森林経営管理制度円滑化対策研修を 100 点満点で評価するとしたら何点ですか？減点した理由等もお書き下さい。

70 点

- ・内容が多すぎて十分に理解する時間が不足している
- ・資料が整理されていない
- ・森林総研の講義は質問が多いので 15 分くらいは質疑の時間を取るべき

80 点

- ・ややスピードが速くてついていけないところがあった

90 点

- ・研修の時間が十分でなく、駆け足で進んでしまったところがあると感じたから

■中部・近畿①ブロック

I 本研修のねらい・内容をそれぞれの程度理解できましたか？

(1)森林経営管理制度の概要と現状【講義】

4 点

- ・専門知識が不足しており理解に苦しむところもあったが、説明は分かりやすかった
- ・県などから色々な研修を聞いていたので
- ・講義でより理解を深められた
- ・分かりやすかった
- ・森林経営管理制度の担当では無いので基本から話を聞けて良かった
- ・自身で説明している内容が多く共感する部分があり、今後の参考になった

5 点

- ・譲与税の活用の検討の視点、市町村指導の参考となる
- ・気になっていた譲与税 300 億の理由が聞けて満足
- ・来月管内市町さんと当制度の勉強会を開催するので制度の裏にある課題が分かり良かった

- ・制度の概要と現状を他県の事例を紹介いただきながら分かりやすく説明頂いた
- ・通常業務で実施しているので入りやすかった
- ・復習になった

(2)経営管理権集積計画の作成【講義・意見交換】

3点

- ・専門知識が不足しており理解に苦しむところもあったが、説明は分かりやすかった
- ・近県の情報をもっと知ってみたい
- ・近畿中部ブロックの各県の状況は境界明確化が問題となっている点など共通していることが分かったので今後参考としていきたい
- ・他県の状況が把握できた

4点

- ・受講生の多くが現在直面している課題であり、もう少し時間を取って意見交換できれば良かった
- ・対象森林決定のプロセスにGIS活用できれば格好良いが、全員誰でもできることではないと思うのでどういう事務をしていくか
- ・意向調査を実施している町が多く、参考にさせていただきたい

5点

- ・講義：基本的な内容、意見交換：各県苦労していることが聞けた
- ・他の市町との情報共有が出来た
- ・実際に意向調査を行った市町さんがどのようにして地区を選定したのか聞いて良かった
- ・他府県の取組状況や課題を知ることが出来た
- ・各県の悩みや問題点が聞いて有意義だった

(3)制度運用のための優良民間事業者との意見交換【講義・意見交換】

3点

- ・当市と全く違う状況の中での取組事例を当事者から聞いたことが良かった

4点

- ・県内情報なので多少聞いていた
- ・加賀森林組合の特徴的な取り組みの話を聞いた
- ・森林組合が積極的で羨ましい
- ・知っている事業体だが、森林経営管理制度に対する熱意等を聞いて良かった
- ・良い事例だけではなくできなかったことも知りたい
- ・良い事例で参考となった

5点

- ・森組の経営制度に対する積極的な取組姿勢は大変参考になり、県内の森組に対する指導に生かしてまいりたい
- ・境界画定から森林整備、森林所有者への利益配分まで一貫した体制整備
- ・刺激的で興味深いお話を聞いた
- ・地域の森林組合と協力して制度を運用する方法が分かった
- ・林産組合制度や境界管理室の設置等、非常に先進的な取り組みをされていた

- ・経営管理制度のメリットに関する生の声を聞け有意義だった
- ・これまでの取り組みや今後の方向性等が分かりやすく的確に説明されていた
- ・理想とする取り組み
- ・森林組合の特徴について理解できた

(4)先進市町村の取組事例【講義・意見交換】

3点

- ・担当者の市職員からは是非ご講義頂きたかった
- ・市職員の生の声をやはり聞きたかった

4点

- ・県内情報なので多少聞いていた
- ・地理や土地柄に合わせた制度運用があり、様々な視点があると感じた
- ・境界明確化の専門部署のあるかが森林組合でも集積計画の箇所のはではできなかつたと聞いて難しさを感じた

5点

- ・アドバイザーと市との連携の重要性、有意性がよく理解できた
- ・実際の取り組み(近県のよく似た状況)は参考になる
- ・白山市のモデルを見ることが出来た
- ・市、森林組合、県の関わり方が参考になった
- ・白山市野地町での意向調査や集積計画の作成等の実際の取組事例を知ることができ大変参加になった
- ・意向調査及び集積計画の作成について具体的な話が聞けた
- ・市町の温度差がある中、熱心な取り組み
- ・森林管理制度の取り組みについて理解できた。意向調査から集積計画の作成まで詳しく説明をして頂けた

(5)経営管理権集積計画演習【演習】

1点

- ・課題が深まった

2点

- ・集積計画そのものが無知で取っ掛かりがつかみにくい
- ・林野庁の作成例はまだ考えが追いついていけないので、よく見直して身につけていきたい
- ・実際の業務に生かせる研修だと思いますが、集積計画の作成をしたことが無いので難しかった

3点

- ・受講生の理解度や取り組みの差が大きかった。筆数をもう少し絞り、作業にあたっての着眼点などを示してもよかったのではないかと感じた
- ・学ぶべき事がまだまだたくさんあると感じた

4点

- ・自らが考えた集積計画に対する添削・指導を直接頂けたことは大きな収穫であった
- ・集積計画満期後の事業体へのつなぎ方

- ・市町村は他業務と併行してやるのは大変だと発表を聞きながら感じた

5点

- ・経験により演習の差がでていた
- ・集積計画の規模感をつかむことが出来た
- ・計画作成するにあたっての対象森林の考え方や経営管理の内容検討等のポイントを学ぶことができた
- ・各県市町ご担当の実情がよく分かった

(6)市町村森林経営管理事業のための森林施業【講義】

2点

- ・森林の経験がなく、用語から覚えていく必要を感じた

3点

- ・内容の専門性が高く私の理解力が追いつかなかった

4点

・県の林務職員には大変有意義な内容であったが、林務以外の市町村職員にはかなり難しかったのでは

- ・天然更新の難しさ、広葉樹林化の奥深さ
- ・広葉樹林化は難しいということは分かったが、実際流れは広葉樹林化なのでそのギャップをどう埋めようか悩む

- ・天然更新完了基準を基本として考えていたがそれだけでは難しいことが分かった

5点

・市町村(関係者を含めた)が混交林森林整備の内容を決める必要がある(知識が必要)。県(試験機関)の支援による指導

- ・森林整備の課題を聞くことが出来た
- ・市が預かった人工林は更新伐ではなく切り捨て間伐が良いと思った
- ・広葉樹化はかなり難しいこと、100~200年の長期間を要することを学んだ
- ・大変興味深い内容であった
- ・針広混交化の理想と実態を踏まえるのに大変勉強になった
- ・天然更新が最適だと思っていた
- ・具体的な事例を交えた講義で分かりやすかった
- ・広葉樹林化がいかに難しいことなのか理解できた
- ・目標林型(広葉樹林化)の考え方が参考になった
- ・現地に合わせた施業が重要であることが分かった

(7)経営管理権集積計画の作成・実施等に係る留意事項【講義】

3点

- ・全国的な事から地元に使えそうなものを考えていく必要を感じた

4点

・境界明確化の進め方について参考になった(しかし、本県においても金沢市や津幡町と同様、これまで手の入ってこなかった森林については現地と森林簿の不整合、境界の不明確など課題が多

い)

- ・個人的な事業体に再委託の選択肢はない。市の事務とトラブルリスクが大き過ぎる
- ・色々今後課題となると想定される事について現段階での知見が聞けた
- ・境界明確化について少しモヤモヤが解消された

5点

- ・この研修に参加した目的に沿うような大変良い内容であった
- ・空中写真の活用→実施している(県の指導の場合)、発注の事務→積算について確認
- ・国土地理院のホームページがとても便利だと感じた
- ・市がやるべき事務について自分で説明できるようにならないといけない。市に寄添います
- ・集積計画の作成等を行うにあたって、市町村等に指導、助言するポイントを学ぶことができた
- ・航空写真の活用を実際に過程から見られたのは良かった
- ・内容が濃くて良かった
- ・非常に分かりやすい説明だった

II 研修の進行・運営、研修設備等に関する評価

(1)研修に係る事務局からの事前連絡等は十分できていましたか？

1. できていた

- ・定期的にメールが来ていた

(2)研修の進行・運営流れについて

3点

- ・時間配分というか、事務局側でもう少しスムーズに行ってもらえないかと感じた(例えば、アンケートは記入した人から提出でよいのではないか)
- ・演習科目において林業職(技師)の方の作成したものも聞きたかった
- ・研修のボリュームが大きいので資料の量が増えるのは仕方ないが、少し使いにくいと感じた(例えば、事前のファイリング、付箋がつけなどされているとスムーズかと感じた)

4点

- ・初日の終了時刻の遅延(約30分)
- ・休息のタイミングを(時間が長くなった場合)
- ・受講生の問題だと思うが、発表の際の持ち時間をオーバーしていたのはどうなのだろうと思った

5点

- ・振り返りシートは提出後各自解散で良かったのではないと思う
- ・2日目昼から途中で休憩が欲しかった
- ・スムーズな進行・運営がされていたと思う
- ・講義・意見交換ともに適切な時間配分がされていた

(3)研修運営スタッフの態度・対応について

4点

- ・最前列で受講したが、スタッフとの距離が近すぎた(最前列をもう一列下げてもよかったのではないか)

5点

- ・席を左側にしてほしいという希望にご対応頂き有難かった
- ・懇切丁寧にご対応頂いた
- ・遅くなつての参加表明にも関わらず受け入れて頂きありがとうございます。お世話になりました
- ・大変お世話になった
- ・研修運営の円滑化に努力されていた
- ・コロナ対応がしっかりできた

(4)今後、どのようなサポートや研修等があったら良いとお考えですか？

- ・この研修の実施箇所(ブロック)が増えれば良いと考える(距離的な問題、社会情勢等から、このような有益な研修に参加できないのはもったいないと考えるため)
- ・県単位で良いのももう少し市町村向けの内容の研修をお願いしたい
- ・市町村向けの基礎からのサポートがあると良いと思う
- ・制度開始から1年半が経ち、市町村の取組状況に差ができていることから進捗に応じた市町村向け研修を複数用意
- ・事例がでたとき、事例を含めた内容の研修
- ・優良事例とともに上手く進んでいない事例を紹介し、原因分析と対処方法を話し合う研修の実施
- ・先進・優良事例のみを集めた研修
- ・先進事例地の現地研修等
- ・市、県、企業のレベルを合わせて協議したい(市のみ、県のみ、企業のみなど)
- ・配布資料が分かりやすく充実しており受講できて良かった。今後適時アップデートされた資料等が閲覧できる体制を充実してほしい
- ・このような森林経営管理法の研修や所得者不明土地に関する法整備の講義があると助かる
- ・税の用途に関する研修(森林整備以外の取り組み)
- ・事業者へ対する理解を深めたり良い関係を構築できる内容の研修

(5)その他、自由に感想をお書き下さい。(研修の中で特に印象に残った講義があれば教えて下さい。)

- ・資料1のスライド9「制度による効果」
- ・かが森林組合専務の講義(意見交換)
- ・広葉樹更新の手法などは今後に掛かる話なので特に印象に残った
- ・3日目・市町村森林経営管理事業のための森林施業の講義
- ・各県の意向調査実施状況について聞けて良かった
- ・勉強になった講義、市町での実務の状況等、全てが印象に残った。ありがとうございます
- ・このような研修は大変有意義であり市町村にはもっと参加してほしい
- ・もっと多くの事業者の取組事例を聞きたかった
- ・意向調査実施後、集積計画に至る過程での課題について意見交換する場があれば良い(今後増加するものと思われる)
- ・森林経営管理制度は民法等を踏まえて慎重に対応すべき点もある事を補足されていた講義を聞いて、制度運用の注意点についてより詳しく説明があればと思った
- ・法律関係の講義を今後もお願いしたい

- ・林野庁からの説明時間がもう少しゆっくりと説明してほしい
- ・3日間大変お世話になりありがとうございました。今後ともご指導のほどどうぞよろしくお願いいたします

Ⅲ 森林経営管理制度円滑化対策研修の評価

(1)森林経営管理制度円滑化対策研修を100点満点で評価するとしたら何点ですか？減点した理由等もお書き下さい。

70点

- ・市町村でやっていない内容があったため

80点

- ・グループ討議など意見交換の時間があると良かった
- ・都道府県向けであったため
- ・参加者の市町村と都道府県を分けた方が良かった
- ・市町担当者への内容としてはどうなのか
- ・全て受けていないので

90点

・ブロックによって内容は違うと思うが、今日の私のような立場(初任者の市職員)の職員にとっては、あまりにも専門的なものも含まれており、個人的な理由ではあるが減点とした。県職員の育成を主としている研修だと考えていたが、市職員も参加すべきとても良い研修だと感じた

- ・休息のタイミング
- ・教室が思ったより狭く、換気頻度が少ない
- ・3日間では足らなかった
- ・地籍部局等、他関連部局や関係者の方の見解も聞ければ良かった

100点

・減点した理由は市町村の現状を踏まえ地域林政アドバイザーの活用、府県の協力の得方等の講義により、業務を効率的に進める内容もあれば良かったと個人的に感じた。最終講義で前述した内容が含まれており良かった(=業務を効率的に進める内容が含まれていた)

■中部・近畿②ブロック

I 本研修のねらい・内容をそれぞれの程度理解できましたか？

(1)森林経営管理制度の概要と現状【講義】

4点

- ・概要をつかむことができ大変有意義だった
- ・業務上で気になっていた箇所を分かりやすく講義して頂き参考になった
- ・経営管理制度の運用方法について最新の考え方を知ることができた
- ・意向調査の順序当決めるについてもやはり市町の基本的な方針をしっかりと立ててあることが大事であることが確認できた

5点

- ・地域の森林を誰かが面倒を見ていくことが重要であって、そういう状況にするのがこの制度の目

的とのコメントを受け、自分の中では経営管理権集積計画の作成が目的化していることに気づかされた。地域の森林・林業が良くなるにはどうすべきか広い視点を持つよう心がけたい

- ・改めて制度について復習することができた。あやふやなところや忘れていたところを思い出すことができ良かった
- ・疑問が解消できた部分もあった
- ・森林整備の必要性や意向調査から森林経営管理権までの流れが理解できた
- ・大事なところに絞って話をして頂けたので集中して聞いた
- ・意向調査は林地台帳の制度を上げるための手段でもあるという視点を持って取り組もうと思った
- ・とても分かりやすく、また、新たな有用な知識を得ることができた

(2)経営管理権集積計画の作成【講義・意見交換】

3点

- ・大変参考になった
- ・他事例も聞けて良かった

4点

- ・意向調査の考え方やコツについて理解が深まった
- ・各自治体、様々な取組方がある
- ・他市の取組状況を知られて参考になった
- ・他県の状況を知ることができた
- ・質問、コメント者を先に決めていたのは効率が良かったと思う。もう少し参加者の発表時間があれば良いと思う
- ・集積計画にむけた意向調査をしている皆様の意見をお聞きし参考になった

5点

- ・他自治体の意向調査への取組状況や考え方について知ることができ大変勉強になった
- ・各市町村手探りで取り組みを進めている中、他市町村の取組内容の情報を共有できることは大変有難い
- ・他県の取り組みや進捗について知ることができた。今後の業務に活かせる場所があったので参考にしたい
- ・意向調査は範囲によっていろいろある。その後を考える必要がある
- ・各市町村の手法で学び参考になった。進行具合は森町と同じくらいのところが多い模様
- ・他の市町村の優良事例を伺うことができ勉強になった
- ・皆さまが様々なリスクを考えながら調査されていることを強く実感し、ある種の危機感を持つことができた

(3)制度運用のための優良民間事業者との意見交換【講義・意見交換】

4点

- ・民間事業者を選定する上で、優れた事業者の経営姿勢や現場の活動などがどのようなものなのか(実感として)知っておく必要があると思うので良い機会だった。時間的制限があるが、1事業体でなく、複数の事業体の話しを伺えればと感じた
- ・民間事業者(白糸植物園)の経営戦略に驚いた

- ・理念に基づいた森林経営で信頼できると思った
- ・間伐手遅れ材でも収益をあげる方法があることが分かった

5点

- ・とても参考になる話ばかりだった。各種論文も後日読み込みたい
- ・実施権者の生の声を聞くことができ大変参考になった
- ・今まで知らなかった技術や施業方法を知ることができて良かった
- ・民間事業者（白糸植物園）の考え方は他の事業体も参考にすべき
- ・森林組合以外の事業体でも努力次第では林業としてやっていくことができることが分かった
- ・長期的な経済林を目指す具体的なプランを持っていることに刺激を受けた
- ・林業をバリバリに進めている事業体の声を聞ければ良いと思う
- ・普通じゃない事業者の考え方や施業の実績が参考になった
- ・経験や感覚ではなく、理論に基づく施業を行うことで本来の林業の在り方を実現できることが分かった
- ・大変興味深く聞かせて頂いた
- ・信念を持った会社の取り組みで興味深かった

(4)先進市町村の取組事例【講義・意見交換】

4点

- ・他市町村の取組内容は大変参考となるので共有して頂けるのは有難い
- ・計画的に素早い取り組み
- ・具体的な事例を聞いて参考になった
- ・富士市の分析を自身の町にも活かしたい
- ・配分計画まで進んでいる事例を聞くことができ参考になった

5点

- ・トップランナーである富士市のやり方や考え方は参考になった
- ・事例を交えながらの話で実務に活かせる内容ばかりだった
- ・昨年度の状況は知っていたが、今年度の状況を知ることができたので良かった
- ・実際にどのように取り組むかイメージができた
- ・富士市の取り組みとして市単独ではなく、事業体との連携が必要であることが分かった
- ・方向性を決めて進められていて参考になった
- ・配分計画を立てることが前提とされた集積計画の話は新鮮味があった
- ・集積計画を決める上でのポイントが分かった
- ・とても参考になった。計画制作時の資料にさせて頂く
- ・実務の流れが分かって今後の参考となった

(5)経営管理権集積計画演習【演習】

2点

- ・全体を説明するのではなく、重要なポイントだけを説明した方がよかったのでは

3点

- ・概要、作成方法が分かり助かった

- ・集積計画作成のポイントを講義と課題発表を通して理解できた
- ・レベルの高い意見発表となった

4点

- ・区域の設定、計画の内容の理解が深まった
- ・正解はない、自治体毎はよく考えなければいけない
- ・研修生による様々な考えを聞き勉強になった
- ・自分の課題の考え方は伝えられたと思う。皆さんの課題を深く読み取ることができず質問や意見を上げづらかった

5点

- ・集積計画の考え方(経営の仕方)が様々あることを実感した
- ・林野庁作成事例は分かりやすくとても参考になると思う。演習についてグループワークのようなことをすれば、より理解が深まるのではないかと感じた
- ・事前課題で集積計画作成に取り組むことで作成の判断や内容の精査の難しさを知り、演習でポイントを知ることができて良かった
- ・人によって集積計画が違う。何が正しいかは分からない
- ・今まで集積計画を作ることにハードルがあったが、小規模でもできることが分かったのでモデル的にやってみたいと思う
- ・実際に作業をすることにより、見えてこなかった問題点を発見できた

(6)市町村森林経営管理事業のための森林施業【講義】

3点

- ・人工林を天然林に帰化することは困難だと分かった

4点

- ・課題が分かり、今後どうするべきか悩む内容だった
- ・混交林化が難しいことが分かった
- ・針広混交林化の難しさがデータから分かった
- ・広葉樹林化が難しく年数もかかりコストも高いことが良く分かった
- ・針広混交林化は難しい施業技術であることを再認識した。逆に安易に針広混交林化や複層林化は叫ばない方が良いのではないかと個人的に思う
- ・技術的問題点が理解できた

5点

- ・広葉樹植栽の際にリスクヘッジとして針葉樹も植栽するという考えが興味深かった
- ・目標林型の考え方、それに誘導するための方法等、今後の業務に役に立つものになった。町有林の施業にも活用させていただきたい
- ・天然更新がいかに難しかったかについて統計や事例を交えた説明を受けたことにより、初めて聞く内容であったため、理解が深まった
- ・前生稚樹がないと更新は難しいこと、天然更新はコストがかかることが分かった
- ・人工林化は難しいと思った
- ・針広混交林化を甘く考えてはいけないと学んだ
- ・森林を施業していくにあたって大きな方向性が分かった

- ・新たな見識を得ることができ大変参考になった
- ・分かりやすい説明だった。今後役に立つと思う

(7)経営管理権集積計画の作成・実施等に係る留意事項【講義】

3点

- ・境界を明確にするにあたり、所有者同士の合意が必要だと分かった

4点

- ・総務省、国交省の動きは参考になった
- ・関連法改正が進んでいる
- ・民法改正を注意深く見守りたい
- ・法令関係の最新の話が聞けて参考になった
- ・他事例の詳細部分が聞けて良かった。固定資産税の情報をすぐ手に入れたと思う
- ・民法改正情報が役に立ちそうである
- ・おもしろい説明だったが、少し説明が早すぎた。ゆっくり聞きたかった

5点

- ・最新の情報が得られて良かった
- ・境界の明確化について北海道での事例がとても参考になった。本町でも同様のやり方を検討したいと思う
- ・発注方法や最近の制度を取り巻く状況が分かって良かった
- ・プロセスだけはしっかりする
- ・もう少し時間がほしかった
- ・森林経営管理制度に係る他の法律や制度のことが分かった
- ・土地の扱いに係る講義について大変参考になった

II 研修の進行・運営、研修設備等に関する評価

(1)研修に係る事務局からの事前連絡等は十分できていましたか？

1. できていた

- ・丁寧な説明ありがとうございました
- ・十分にできていた

(2)研修の進行・運営流れについて

3点

- ・内容を詰め込みすぎた部分があると思う

4点

- ・事前に講師のリストが頂ければ有難かった
- ・親切に対応して頂けた
- ・時間オーバーが複数回あった
- ・一日の始まりに前のスクリーンでスケジュール表を出すと良いと思う。また、講義の始まる前に「資料はこれを使います」と示してもらえると良いと思う

5点

- ・準備等有難かった
- ・講義前に講義の目的や概要の説明があったのが良かった
- ・受講者も発言できて良かった
- ・問題なかったと思う
- ・能動的に参加できるよう工夫されていて知識が定着した
- ・大変受講しやすかった

(3)研修運営スタッフの態度・対応について

5点

- ・有難かった
- ・講義中も資料を見つけられなかった方に配慮して頂くなど、丁寧な対応がされていた
- ・コロナへの配慮などしっかりやって頂いた
- ・良かった
- ・丁寧に対応頂いた
- ・丁寧で良かった
- ・丁寧に対応して頂けて良かった
- ・皆さま大変親切でとても有難かった

(4)今後、どのようなサポートや研修等があったら良いとお考えですか？

- ・今回のような研修を各都道府県に行って頂けると嬉しい
- ・全国の事例を知る研修
- ・先進事例や各市町村の取組例についてこれまで以上に展開して頂きたい。今回の研修でも、他市町村の取り組みがとても参考になった
- ・更に市町村取組情報を流してほしい
- ・コロナ対策で難しいと思うが、都道府県や市町村の担当レベルのグループ座談会
- ・集積計画作成時の技術的な助言
- ・今後も集積計画を作ってみるという演習は実施してほしいと思う
- ・制度の詳しい説明や国の動きは丁寧に説明する場を設けて頂きたい
- ・針広混交林化のやり方について
- ・森林情報の扱い方(この情報を使えば経営に適する適さないの判断ができる等)。GIS活用方法
- ・林務担当者として知っておくべき基礎知識の研修があれば受講したい
- ・林学に関する知識を深められる研修があったら良い
- ・県へのお願いになるが、統一の見解が欲しい

(5)その他、自由に感想をお書き下さい。(研修の中で特に印象に残った講義があれば教えて下さい。)

- ・3日通して非常に分かりやすかった。特に林野庁からの講義がとても勉強になった
- ・森林管理制度の概要、集積計画の作成例
- ・研修の内容は理解できたが難しかったと思う。管理制度の市町の責任を取り上げたところが参考になった
- ・静岡県の中の市町村の動向を聞いて良かった

- ・ 3日間有難かった
- ・ 大変勉強になった。有難かった
- ・ 書面等では見えない事情等を教えて頂き大変興味深かった
- ・ 他県、他市町村ともっと意見交換等をしたかった(休憩時間での話しに限界があった)
- ・ 事前課題が難しかった。進め方のサポートとなる資料等がもっと欲しかった

Ⅲ 森林経営管理制度円滑化対策研修の評価

(1)森林経営管理制度円滑化対策研修を 100 点満点で評価するとしたら何点ですか？減点した理由等もお書き下さい。

80 点

- ・ 事前課題に日常業務が圧迫されてしまった。研修は非常に分かりやすかった
- ・ 研修のやり方のせいではなく、新型コロナ対策で研修参加者と突っ込んだ話、お酒の席で心を許して話し合うことができなかつたことが残念だった。研修自体はバランス良く出来ていたと思う

90 点

- ・ 意見交換の場が大事だがある程度時間を守ってほしかった
- ・ 演習については、グループワークの方が研修生の理解が深まったかと思う。優良事業体の話については、もう 1つ 2つあっても良かったと思う
- ・ 事前課題は少し取り組みにくかった
- ・ 事前課題が難しかった
- ・ コロナ対策のこともあり、難しいと思うが受講生間での意見交換がもう少しできたら良かった
- ・ 時間が不足している

100 点

- ・ 大変良かった、参考になった

■西日本ブロック

I 本研修のねらい・内容をそれぞれの程度理解できましたか？

(1)森林経営管理制度の概要と現状【講義】

1 点

- ・ 質問の意図が資料でくまれていなかった

2 点

- ・ 言いたいことは分かるが、頭の中で整理できていない。説明はよく分かった
- ・ 説明は分かりやすかったが、初めての制度でやや難解

3 点

- ・ 退職後の再任用で今の業務に就き、初めて携わる業務研修で予習もあまりしていなかったため、中程度の理解度
- ・ ポイントをおさえて具体的な説明が良かった

4 点

- ・ 時間が短いので内容を現状に絞っての良いのかと思った
- ・ 聞きたいことが明快に聞けてとても参考になった。質問にも丁寧に回答いただけて助かった

- ・制度概要等概ね理解できた
- ・昨年度から取り組みを始め、ふりかえりながら受講した。改めて制度のポイント(3点)を確認できた

・既に何回も説明をいただき理解をしてきたつもりだったが、改めて説明を受け、考えを改める部分もあることが分かった

5点

- ・100年かかる場合の優先順位は難しいと感じた
- ・事前学習と本日講義で理解が深まった
- ・市町村への指導について今後の進め方の参考になった
- ・林野庁担当の方の本音が聞けて、なお良い話であった。意向調査や集積計画作成は市町村の選択でしないことも可能だが、市町村の労力に見合うようになるべく成果を上げるべきと感じた
- ・制度の本旨が理解できた。林野庁からのコメントが参考になった
- ・林野庁としての考え方を聞けて良かった。認識が変わった
- ・システムに対する林野庁の姿勢が確認できた

(2)経営管理権集積計画の作成【講義・意見交換】

1点

- ・参加者として議論が深まらなかった

2点

- ・制度を軽視していたと感じた

3点

- ・各県市町等の実際の状況も把握でき参考となった
- ・意向調査等における各市町の現状と課題が生の声で聞けて勉強になった
- ・自分が直に市町職員として手をつけるわけではないが、指導時のポイントは押さえられた
- ・他の自治体の事例が参考になった

4点

- ・基本の流れを確認できた
- ・他の市町村の事例とどのような事が聞きたいのか(質問があるのか)を知れて良かった
- ・意向調査が制度の第一歩目なので、実際の状況などを聞けて良かった
- ・地籍や明確化が終了していなくても意向調査や集積計画作成をどんどん進めているという事例が聞きたい

・司会の方が話をするとき、声が小さくて聞き取りにくい。マイクを使ってほしい

・既に何回も説明をいただき理解をしてきたつもりだったが、改めて説明を受け、考えを改める部分もあることが分かった

5点

- ・各市町村の意向調査の状況を本市での実施に役立てたい
- ・各地で工夫して意識調査を実施されている
- ・様々な角度から意見を聞くことができ参考になった
- ・意見交換において、他自治体の事例発表に対して質問しても回答できないと思う

(3)制度運用のための優良民間事業者との意見交換【講義・意見交換】

3点

- ・優良事業者の特徴について理解が深まった

4点

- ・東部森林組合は組合長が着任されてから大きくなったと感じた
- ・これまで伺った森林組合の方はかなり保守的な傾向が大きかったので、講義で民間のように意欲的・改革的・先進的な事例をお聞きできて良かった
- ・東部森林組合のように将来を見据えて活動することは、いきなりは難しいかもしれないが、部分的にでも今後の助言等に活用したいと思った
- ・優良事業体であり、先進的な取り組みだった
- ・従業員確保、森林所有者への利益還元確保の内情が分かり勉強になった
- ・組合長の話は経営に特化していた。地域の森林をどうしたいのか聞きたかった

5点

- ・事業体の姿勢は大切であると実感した
- ・素材生産に係る林業機械導入によるコスト削減、安心な雇用体制、山元への利益還元に至るまで一貫した経営理念が素晴らしい
- ・組合経営者の覚悟が素晴らしい
- ・大変優良な民間事業者の事例で参考となった。今後一般的な(平均的な)民間事業体の実態について聞きたい
- ・組合長の話は明確で分かりやすかった。ここまで経営を安定させるまでの苦労話、失敗したことを聞きたい
- ・優良な事例でとても参考になった
- ・他の事業体の考えが分かって良かった。優れた森林組合があることに驚いた
- ・意欲が高く、創意工夫されている状況が理解できた

(4)先進市町村の取組事例【講義・意見交換】

3点

- ・仕事上担当しているが新しい事を聞けて良かった。八頭町は町民のため進捗状況が聞きたかった
- ・2自治体の抱える実情と課題が全部ではないが、少し分かった
- ・鳥取県内の市町は非常に進んでいる

4点

- ・市町村でも悩みながら意向調査、境界調査を行っていることが分かった
- ・最後に補足いただいたが、なかなか外の情報が入り辛い市町村へと他の市町村の事例をもっと伝えられるよう工夫していきたい
- ・意向調査結果の解析など参考となった
- ・どちらもよく知っている内容だが、改めて今何をしているか確認できた
- ・八頭町の取組状況について非常に参考となった

5点

- ・特に鳥取市の本制度への取り組みは本市にとって大いに参考になる
- ・市町の現状と課題はどこも同じ。人の問題と考える程簡単ではない

- ・具体的な実態を教えてもらえ大変参考になった
- ・実際の市町の取り組みの経験による事例発表、市においては困っていることを八頭町においては意向調査の取り組みの経験による様々な提案がなされて良く理解できた
- ・鳥取市八頭町は同じ管内のため他県の事例が知りたかった
- ・市町村の工夫や苦勞が良く分かった
- ・他の自治体の考えが分かって良かった
- ・現場での悩み、アドバイスが参考になった

(5)経営管理権集積計画演習【演習】

1点

- ・基礎知識が無く難しかった

2点

- ・再配分計画は現時点では兵庫でやられていないが、行うとなった時に適した計画を提案できるよう精進する
- ・発表には準備が必要
- ・自分にとってはかなり難解であった。経験が必要

3点

- ・自分で取り組むことでどのような点で困るのかを知ることができた。実際に地元にはめた時にどうなるかを今後考えなければいけない
- ・多様な作成例があり、色々な再度から見ることができた
- ・なかなか奥深い様々な事例や制約が考えられる制度で十人十色の計画が解説付きで聞くことができ勉強になった
- ・急遽代理での対応だったため予習が足りなかった。設定をしっかりと自分で考えその筋にそって対応していくべきと考えた

4点

- ・意向調査等、事業の実施における優先順位の付け方はやはり難しい
- ・集積計画を計画するかどうかの選択の基準にやりやすさ、経済性以外の要素が更に設定したい
- ・十分な発表ができなかった。他の方の発表や作成例をみて森林管理の心を入れ込むことが必要だと気づいた
- ・集積計画を立てるにも画一的な考えでなくても良いと分かった

5点

- ・集積計画策定に係る様々な思いや考えが聞けて良かった
- ・事前説明が長く、肝心の課題の方が不十分だった
- ・集積計画の様々なパターンが示され参考になった。持ち帰って再度検討したい

(6)市町村森林経営管理事業のための森林施業【講義】

2点

- ・食害対策か、事前の判断が重要と感じた

3点

- ・混交林化など実務として知識が身についた

- ・針広混交林についての検討は全くしていなかった。目標林型の話はとても興味深い
- ・広葉樹林化は現実には長いスパンとなり所有者の人に話をするのは難しいと感じた
- ・広葉樹林化の課題や問題点を知ることができた

4点

- ・実際の事業実施時に迷うこともあるだろう
- ・混交林化で絶対に広葉樹を植栽する必要はなく過程として針葉樹を植栽しても問題ないことが再確認できた
- ・天然更新の入り口を市町村管理で行うという話があったが、所有者さんに返した後、しばらくしてから確認、再度預かることが必要になりそうだと感じた
- ・久しぶりに大学の講義を受けているような感触で受講した。大変勉強になった
- ・一番重要なのは森林であること、荒らさないこと、前生稚樹、原則など勉強になった

5点

- ・現場での長年に渡る植生調査は信憑性を高く感じた
- ・大いに参考になった
- ・広葉樹林化はかなり困難ということで残念である。この分野の研究が更に進められていただければと思う。
- ・広葉樹林化の難しさを改めて理解することができた
- ・大変勉強になった

(7)経営管理権集積計画の作成・実施等に係る留意事項【講義】

2点

- ・理解という意味では全部の講義に言えるが自信はない。活用できるかという点では十分に活かせる

3点

- ・自分で手を動かしていない部分なので要勉強事項と感じている
- ・各種法改正の利点と積極的に活用していきたい
- ・「やってみるしかない」と感じた
- ・「配分計画」は初めて聞く名称だったが分かった。質問に的確に答えていただきありがたい
- ・法改正の情報提供などは非常に参考になった

4点

- ・実際の計画作成実施時には迷うこともあるだろう
- ・市役所と話ができるまでの理解ができなかった
- ・今後を見据えた説明がありがたい
- ・説明されるには時間が不足
- ・配分計画の指導になると思うので予め内容を勉強できて良かった

5点

- ・実際の発注事務に至った時には再度確認を求めたい
- ・国の法改正のポイントが分かったのが良かった

II 研修の進行・運営、研修設備等に関する評価

(1)研修に係る事務局からの事前連絡等は十分できていましたか？

1. できていた

- ・事前課題の意図が十分分かっておらず提出が遅くなって申し訳ありませんでした。

2. できていない

- ・課題の添付ファイルがPDFだったので資料の解像度が悪かった。生ファイルが良かった

(2)研修の進行・運営流れについて

1点

- ・会場設営は講義中のトイレの導線がつぶれている。進行は、講師の方への拍手を促しても良かったと思う

3点

- ・説明は予定の時間内でできるように準備してほしい
- ・休憩の頻度がもう少しほしい
- ・決められた時間通りに進行すると流れの良い研修となる
- ・全体的に時間が不足していたと思う

4点

- ・内容が盛りだくさんだったが、うまく運営していた
- ・時間内に終われなかった
- ・良い環境で受講でき有難かった
- ・最終日の終了時間をもう少し早くできなかったか？

5点

- ・事前の説明で研修が取り組みやすかった
- ・全体の時間をもう少し長くとっても良いのではないか
- ・特に問題は感じなかったが、受講生の質問内容に十分対応しきれていなかった

(3)研修運営スタッフの態度・対応について

5点

- ・新型ウイルス対策等大変な中、気持ちよく受講できた
- ・大変お世話になった
- ・感染拡大にも配慮されており良かった
- ・良かった
- ・V e r y G o o dだった
- ・お世話になり、ありがとうございました

(4)今後、どのようなサポートや研修等があったら良いとお考えですか？

- ・森林経営管理制度についてはもう少し走ってから浮き彫りになった内容・成果等を伝達してもらえる研修があればありがたい
- ・制度も進み、多くの事例が集まってきていると感じるが、これらを基に情報提供、共有が進めば良いと思う。特に失敗事例が知りたい
- ・重箱の隅をつつつくような対応事例の講義

- ・初級編の開催
- ・市町村担当者が替わっても実施いただける体制をお願いしたい
- ・集積計画の実例をもとにした工夫や改善点などを共有する研修会の開催
- ・同制度に係る他部局(法律、土木など)横断的なもの
- ・意向調査、集積計画、配分計画、市町村管理事業などの実例を一通り学習できる研修
- ・QGISや森林クラウドを含む情報交換会
- ・QGIS研修
- ・自分の理解が追いついていないところがあるが、内容はとても濃く有意義なものなのでオンラインへの対応をお願いしたい

(5)その他、自由に感想をお書き下さい。(研修の中で特に印象に残った講義があれば教えて下さい。)

- ・全て良い勉強になった
- ・民間事業者（東部森林組合長）の話
- ・林野庁講師の説明はよく理解できた。説明が上手
- ・市町村の現状を知られたこと
- ・森林管理のための森林施業。実践的で分かりやすかった
- ・研修を受けて個人の考え方により計画が変わる。答えがあるようでない。本当に奥が深い制度
- ・少ない人数での研修だったため、重すぎず発言しやすい空気感だった
- ・公用車の駐車について会場の厚意で駐車料が無料となったのはありがたい
- ・事前課題が複雑すぎる。説明考察資料が少なすぎる。もっとシンプルにしてほしかった
- ・講師資料がたくさんあり、事前に予習しておきたかった

Ⅲ 森林経営管理制度円滑化対策研修の評価

(1)森林経営管理制度円滑化対策研修を100点満点で評価するとしたら何点ですか？減点した理由等もお書き下さい。

40点

- ・頭の中で整理ができず、何を質問して良いかも分からない自分に対しての評価
- ・一番大事な2日目を欠席してしまったため

80点

- ・時間が足りないように感じた
- ・時節柄難しいかもしれないが、グループワークがあった方がよい(情報交換)
- ・事前課題は発表時にもっと効果的な方法によること。優良民間事業者との意見交換は必要なし。

事例の検討・説明が少ない

・参加県にかたよりがあつた。多くの県が参加できるよう、時期を検討してもらえると有難い。研修は勉強になった

・事前課題で与えられた集積計画の見本ファイルの森林簿データへの貼り付けがうまくいかず時間がかかった。フォーマットを整えるなど受講生の負担軽減をしてほしい

・研修が長く感じた。休憩が少ない

・講師の説明が参考になることが多かったので、事前課題など参加者の発表のウェイトは小さくした方がよいと思う

90 点

- ・もう少し活発な意見交換になる様にできたら良い
- ・受講生側にも差があり、自分には難しい場面もあったが、全ての講義が参考になるものだった
- ・実際に所属の市町村森林を例にとって、モデル的に集積計画の作成練習を行った方が良かった
- ・「綴り〇の〇ページです」と言われたい限り、どの資料を見ればよいのか分かりにくかった。(資料の綴り方が分かりにくかった。量もすごい量だった)
- ・各研修生の書いた質問への対応時間がみてなかったこと。あとはとても良かった
- ・自分の知識不足で演習課題ができなかったため
- ・進行や議題設定は適切と考えた。あとは、参加者間でももう少し話し合える場があれば良かったと思う

■四国ブロック

I 本研修のねらい・内容をそれぞれの程度理解できましたか？

(1)森林経営管理制度の概要と現状【講義】

4 点

- ・法制度がより理解できた
- ・制度の概要についてはこれまで何度か県の研修である程度は理解していたが、県のフィルターを通して(県下5地域への推進センター設置ありき)の研修より、林野庁からの全国の現状などケーススタディー的な説明の方が分かりやすかった
- ・職場では聞きにくかった細かい疑問点についてご教授いただいたので大変ためになった
- ・県の目標の一つとして、皆伐再生林があり、森林経営管理制度でもそれを意識して進めなければならないという縛りを感じていたが、決してそうではなく、森林の公益的機能の発揮こそが大切なのだと改めることができた
- ・改めて制度について復習ができて良いおさらいになった
- ・第一に公益的機能の発揮を考え進めていくこと
- ・制度の主旨、活用にあたってのポイントなど改めて確認できた
- ・制度の活用について理解が深まった。制度の活用について狭く考えすぎている
- ・全国の事例など参考になった
- ・改めて制度の概要を理解できた。全国の取組状況が8割の市町村で行われている現状。管内市町村の支援を手厚くし、意向調査にまで持っていきたい
- ・話を聞くのが精一杯で、研修が終わってから再度資料をじっくり読み返し、自分の中に取り込みたいと思う
- ・森林経営管理制度の目的や意義を知ることができた

5 点

- ・当制度の基礎的な部分を細かい点まで含めて改めて学ぶことができた
- ・必ず集積計画を策定しなくてもよいとの説明あり
- ・分かりやすく良かった

(2)経営管理権集積計画の作成【講義・意見交換】

2点

- ・部分的になるほどと思うことはあったが、ねらいをきちんとおさえられたかと言われると少々自信がない。配布資料の読み直しや動機と理解を共有したい

- ・発表するのに緊張し抜けた部分が多かったので他の取り組みを活かせるよう研究していきたい

3点

- ・計画の記載について経営管理内容など認められない文言や後々の事業円滑化のため、留意事項を丁寧に書く必要がある事が分かった

- ・客観的なご意見が大変参考になった。まだ、基礎的な事項で理解できていない部分があり、他市町村の現状を聞かせていただいたものの、質問をできるほど理解が追いつけなかった。この反省を活かしてもっと知識を深めたいと思った。

4点

- ・意向調査における所有者不明対応の方法例が分かるとより良かった

- ・各市町の活動状況が分かり参考にすべきところがあった

- ・林野庁がチェック作成を手助けしてくれると知れたことがありがたかった

- ・集積計画作成に際しての注意点が確認できた

- ・他市町村の現状が理解できた。日高村のビジョンが参考となりそう

- ・どれだけ汗をかけるか。近道はないと感じた

- ・研修後にもう少し皆さんの事例を読み込み参考にしたい

- ・他県の取組状況が分かった。回答率を向上させる方法が分かった

5点

- ・意向調査からの集積計画までの流れを把握することができた

- ・市町村の集積計画の勉強になった

(3)制度運用のための優良民間事業者との意見交換【講義・意見交換】

3点

- ・民間事業者の現状を直接知ることができた

- ・中村市森林組合の組織努力自体はよく理解できたが、当制度や当研修の中でどう位置付けているのかよく分からなかった

- ・アンケートに条件を付するなど参考になった。作業員の賃金改善などの取り組みが参考になった

- ・中村市森林組合の理念を知ることができた

4点

- ・職員の平均年齢も34歳と若く、森林に関する全ての業務に従事されるとのことでまさに山のプロだと感じた。新たな森林管理システムを円滑に進めるために、地元森林組合、事業体を認定する県とも情報を共有し、協議したい

- ・組合としての理念から始まり、普段の運営の仕方など特徴が多かった

- ・中村市森林組合についての活動状況や課題についてわかりやすかった

- ・作業員が足りないのはどこも同じだとわかった

- ・市町村及び所有者の声は聞けても事業体の声は聞けなかったので今回聞けることができて良かった

5点

- ・制度開始にあたり事業者の体制の変更をしたなどの実例が知りたい
- ・優良民間事業者を選定等する際の参考になった。今後もできるだけ多くの事業体について知り、目を養っていききたい。
- ・いろいろな考え方の元、集積計画が立てられることが理解できた
- ・森林組合の理解が足りていなかったのも勉強になった
- ・作業員を全ての業務に従事させることによって組合内のバランスがよく取れており大変参考になった
- ・「恒常的な班を作っていない」作業の流れが上の者から一方的に教わるのではなく、色んな考え方を出し合い、またモチベーションを上げるよう工夫されていてやりがいのある職場だと感じた。制度についても多方向から活用して頂けそう
- ・中中市森林組合の特徴が分かりやすく勉強になった。作業員の賃金の問題はなるべく早く解決できると良いと感じた

(4)先進市町村の取組事例【講義・意見交換】

3点

- ・手順について分かりやすくまとめられていたので今後の指導に役立てられる

4点

- ・具体的な方法、改善点が分かり良かった
- ・今まで先進市町村の取組内容を直接担当者より講義を頂いたことが無かったので大変参考になった
- ・自分の勤務地における優良民間事業体の実績しか知らなかったのも、大変ためになった。もっと様々な事業体の話を聞いてみたい。四万十市さんの活動内容に感銘を受けた
- ・先日開催した愛媛県の新たな森林管理制度の説明会では、地籍調査が進んでいないため、なかなか制度運用が進まないという理由を聞いていたので同様の状況でありながらも制度運用を前向きにしている四万十市には、尊敬の念を覚える。自県でも参考にしていきたい
- ・先進事例を参考に制度の実施を進めていきたい
- ・意向調査のやり方について前回は踏まえ改善しながら進めていかれている
- ・熟読し、市町村にアドバイスできるよう、いいところを拾い出したい
- ・具体的な事務の進め方や考え方がわかった

5点

- ・特異な地域での取り組みが参考になった
- ・四万十市の取り組みについてとても参考になった
- ・近くにここまでちゃんと進んでいる地域があるのを知らなかったのも良かった
- ・四万十市がどのように当制度を進めているかが良く分かった
- ・本庁を通して四万十市の取り組み方は情報提供いただいたが詳細な情報が直接聞けて良かった
- ・四万十市の事例が分かりやすかった。意向調査は場合にもよるが、直接訪問が一番分かりやすく、所有者も安心できるのではないかと思います

(5)経営管理権集積計画演習【演習】

2点

・対象森林の決定、経営管理権の存続期間など各担当者によって考え方が様々だということが分かった(とても参考になった)。記載内容については市が何をを行い、何をしないかを明確にすることや不適切な内容があったとコメントを頂いたが、難しく理解しきれない点があった

・森林に携わった初心者にはとてもハードな課題だった。森林の状況を深読みし、別添の文言についても勉強すること等、課題が山積み

3点

・自分で集積計画を立てる機会はこれまでになかったので良い機会を与えていただけて感謝。今後は、積極的に経験を積みたい。

・ひたすら難しいと思った。勉強したい

・集積計画の作成の仕方が概ね理解できるようになった

・難しかった

4点

・紹介された注意点等を振り返り、今後に活かしていきたい

・各々の集積計画、林野庁からの集積計画がとても参考になった

・様々な考え方が大変参考になった。計画策定上のポイントの捉え方(保安林、地形、周辺公共施設)など今後に活かしたい

5点

・集積計画にあたり着目点、考慮した点が理解できた

・色々な見方、考え方があることがわかった

・考え方や方向性は間違っていないと思うので後はどうやって形にするか(様式の文言等)を早急に取り組み直したい

・実際に集積計画を作成する際に非常に役立つ内容だった

・参加者それぞれ様々な視点で計画を立てているのかわかったし、講師が実際に例を作成してくれたのが良かった

・受講生の発表を聞き、色々な考え方があり、勉強になった。このような機会があれば集積計画を作成したい

・集積計画を作成する上で注意すべきことがわかった

(6)市町村森林経営管理事業のための森林施業【講義】

3点

・管内市町村にこの制度を活用し、針広混交林化へと誘導するところがある。講義で聞いたことを参考に山を見に行きたいと思った

4点

・広葉樹林化は様々な点でハードルが高いと感じたが、今後の業務の参考にしたい

・広葉樹林化は容易でないことが良く分かった

・職場に持ち帰り検討したい

・広葉樹の天然更新については安易に考えず、前生樹、周辺の稚樹等を十分理解し、判断していきたいと考えている

・市町村がお預かりした森林を、100年後を目指しての施業を考えるということはとても責任がある仕事だと痛感した

- ・広葉樹林化は容易ではなく、むしろ人工造林より難しいことが分かった

5点

- ・間伐、皆伐施業選択の参考になった
- ・今治市では長伐期非皆伐複層林施業を進めてきた。公益性の高い施業で市としても(個人的にも)推進したいが、高度な知識と技術が必要であり、100~200年オーダーのモニタリングが必要とのことで集積計画に「複層林化を図る」と明記しづらい
- ・とても興味深い講義だった。今後も情報提供がいただけるとありがたいと思った。
- ・結局どのような施業が良いのかわからなかった
- ・針広混交林の話が聞けて良かった
- ・すごく分かりやすく充実した内容だった
- ・天然更新、針広混交林への誘導の難しさが理解できた

点なし

- ・森づくりの考え方についてとても参考になった。様々なことを考えながら地域に合わせた森林施業が必要と感じた
- ・大変興味深いお話しであった。森づくりの基本的な考えが勉強になった

(7)経営管理権集積計画の作成・実施等に係る留意事項【講義】

4点

- ・境界の見える化について大変分かりやすく講義いただき勉強になった。GISについて知識が少ないので帰って勉強したい
- ・集積計画の作成・実施について、今後は自分からやってみたいと思えた(これまではそのような気持ちになれなかった)
- ・無料のソフトウェアやオープンデータを使用してここまでできるのかと感心した。参考にしたい
- ・作成・実施の際、参考としたい
- ・集積計画作成のヒントが多数あり、参考になった
- ・集約化を進める上で国調が進んでいなくても一定可能な範囲で情報を整理できる術を教えていただいた
- ・具体事例を見ながらの講義は分かりやすかったのですが、実際身近な作業ではないので、市町村にアドバイス等できるようになるにはまだまだハードルが高い
- ・境界の明確化の復習になって良かった

5点

- ・想定ではあるが、手法として参考になった
- ・使えるものは使ってうまく活用していこうと思う
- ・今あるデータでも進められる例は今後を活かしたいと思う
- ・具体的なGISを見せながら示していただけてどういうことをやればよいのか良くわかった
- ・林野庁の正直な感想等が聞けて有意義であった

点無

- ・管内市町村は国調の進捗率が良い、悪いところの差がある。国調がおわっていないから意向調査ができない、との声がある。しかし、今回講義を聞いて当事者同士の合意があれば境界を確定できるということを再度伝えたいと思う

Ⅱ 研修の進行・運営、研修設備等に関する評価

(1)研修に係る事務局からの事前連絡等は十分できていましたか？

1. できていた

- ・丁寧に連絡されていた

(2)研修の進行・運営流れについて

4点

- ・演習発表には時間が足りなかった印象がある

5点

- ・大変勉強になった。ありがとうございました
- ・質疑応答が大変中身のあるものとなったのは、進行の方のおかげであると思う。ありがたい
- ・丁寧な説明で分かりやすかった
- ・会が円滑にまわっており、非常に充実した研修だった
- ・良かった
- ・進行は分かりやすく示していただいた
- ・分かりやすかった
- ・スムーズにできていた
- ・3日間お疲れ様でした、ありがとうございます
- ・円滑な運営ありがとうございます

(3)研修運営スタッフの態度・対応について

5点

- ・すごく丁寧に対応していただいた。コロナ渦で大変だったと思うが、開催していただきありがとうございました
- ・個別質問をさせていただいた際は大変丁寧な回答をいただいた。皆さん優しくて温かい研修だった
- ・特に心配であった感染症対策もとられていて安心しました
- ・感染拡大対策もされており良かった
- ・コロナ対策の徹底がされていた
- ・室温も気にしていただけ良かった
- ・丁寧な対応ありがとうございます

(4)今後、どのようなサポートや研修等があったら良いとお考えですか？

- ・初めて円滑化対策に参加させていただいた。主な対象は市町村を指導する県職員となっていたが、今後は実際に行う市町村を主なターゲットとした研修を行っていただきたい
- ・なるべく多くの自治体に参加できる体制ができたら良いと思う
- ・森林GISの有効活動を推進していきたいと考えているため、今回よりさらに深まった内容の研修
- ・毎年度、このような円滑化対策研修を実施していただければとても助かる。配分計画策定済みの

市町村の意見も聞いてみたい

- ・同様の研修があれば参加したい
- ・これから市町での取り組み事例がたくさん出てくるであろうと思うので、参考になる取り組みを紹介しつつ、国での法整備状況について解説していただきたい
- ・今後、情報が集まれば他県の取り組みなど詳しく紹介する時間があっても良いかと思った
- ・この制度が数年経過する事により、全国に蓄積された優・悪事例を教えて欲しい
- ・実際に各地で作成されている集積計画や配分計画を見ながら色々話し合うような場があると良い
- ・先進地(四万十市のような)の話をもっと具体的に聞いてみたかった(集積計画の内容等)
- ・事業費算定に関する演習、意向調査地区選定に関する模擬演習
- ・林務をあまり分かっていない人のための研修と合わせた森林経営管理制度説明会

(5)その他、自由に感想をお書き下さい。(研修の中で特に印象に残った講義があれば教えて下さい。)

- ・大変中身の濃い研修を開催いただきありがたかった
- ・特に四万十町の主幹や林野庁講師には良い刺激を受けた。担当地域での未整備林の解消・森林の公益的機能の発揮に尽くしたい
- ・林野庁の生の声を聞いて良かった
- ・3日間大変勉強になった。4月から入庁したばかりで分からない部分もあったが、帰って復習したい。印象に残った講義は、林野庁の講義、優良民間事業者との意見交換、市町村森林経営管理事業のための森林施業
- ・経営管理権集積計画を自分で作成し、研修時に発表する課題は非常に良かった。やはり、自分で作成してみないと分からないため、事前の勉強になった。また、研修当日に様々な考え方を教えていただくことにより、より理解することができた
- ・市町村が担う役割が多く、その分責任が重大。だから県が支援をしていかなければならないが、実際現在の職は2年目であり、なかなか市町村の支援ができる程、林業についての知識が乏しいため、このような研修をしていただければすごく助かる
- ・経験が浅いのでその場でお話しされた内容が頭に「スーっ」と入ってこず、事前に資料に目を通していただければもっと深く聞けたのかと思う
- ・意向調査から配分計画までの詳しい流れ(スケジュール)がわからなかった

Ⅲ 森林経営管理制度円滑化対策研修の評価

(1)森林経営管理制度円滑化対策研修を100点満点で評価するとしたら何点ですか？減点した理由等もお書き下さい。

70点

- ・公務時間外を研修で使う場合があったのでスケジュールなどの見直しが必要

80点

- ・減点は受講者である自分の受け皿が十分でなかったため
- ・参加者同士の交流議論がもう少しあるのかなと思っていた(コロナの影響もあるかと思いますが)
- ・2日くらいで行うとありがたい

90点

- ・少し時間が不足していると感じた

- ・様々な立場、理解度の方が出席していると思うのでもう少し時間をかけて研修していただきたいかった
- ・今回は全く知識がない状態だったので講義形式が多くためになったが、次回参加する際は、アウトプットを目的とでもう少し討論等を行い研修も組み込んでいただけると嬉しいと感じた
- ・参加同士のディスカッションがあれば情報共有が図れる(コロナのため今回はなかっただけかもしれない)
- ・森林組合の話は制度とはあまり直結していないと思ったため
- ・時間配分

■九州ブロック

I 本研修のねらい・内容をそれぞれの程度理解できましたか？

(1)森林経営管理制度の概要と現状【講義】

3点

- ・スライドのピントが合わなく見にくかった。各地域の事例紹介が参考になった

4点

- ・譲与税の使途についての考え方など参考になった
- ・制度の考え方を改めて見直すことができた

5点

- ・分かっているようでよく分かっていないモヤッとしたところが解消された気がする
- ・現状等の確認ができた
- ・疑問点についてピンポイントで講義頂いた
- ・意向調査の目的、森林関係者の責務など、考え方の基本について説明があり、ありがたい内容だった
- ・法令や現地の声に詳しく理解の幅が広がった
- ・改めて制度の趣旨、贈与税の使途について林野庁の見解が確認できて良かった
- ・質問に対する林野庁回答については今後の実務に大いに役立つものと感じた。参考にさせて頂く

(2)経営管理権集積計画の作成【講義・意見交換】

3点

- ・事例発表をもう少し長くして良いのではないのでしょうか
- ・他の自治体の事業の進め方を詳しく交換できれば良い
- ・質問への回答は良く理解できたが、発表者は事前に教えて頂ければ良かった。自分の発表をまとめるのに他の人の発表が頭に入らなかった

4点

- ・直接事務に携わった市町の担当の方の話が特に参考となった
- ・各市町村の進め方・考え方について情報収集できた
- ・他県の現状がよく分かった
- ・集積計画の作成についてももう少し時間を割いてほしかった。2日目PMはしっかり聴く
- ・受講生皆様のご苦勞が分かった

5点

- ・他市町のやり方が分かり、内容をよく調べて取り入れていきたい
- ・疑問点についてピンポイントで講義頂いた
- ・他市町村の取組状況が確認できた

(3)制度運用のための優良民間事業者との意見交換【講義・意見交換】

4点

- ・人材育成の大切さが分かった。行動指針をデスクマットにはさみます
- ・安全管理、現場管理の取組方法について参考となるものが多く、地元の事業体にも是非普及させていきたい

- ・田中林業の優良企業の中身の一端を見た気がする

5点

- ・本市の事業者にも研修内容を紹介し、より良い事業を行ってもらえるように助言していきたい
- ・具体的な取組事例を伺い、また経営理念の在り方など今後の事業体指導に是非活かしていきたい
- ・林業事業者の意識の高さ
- ・ビジョンの意識が高い事業者の話が聞いて良かった
- ・同じ立場の林業事業体として、大変興味深く聞くことが出来た。安全管理についても大変参考になった

- ・優良事業体の経営の進め方が参考になった
- ・模範的な林業経営者。当管内にも欲しい経営者。とても良い内容だった
- ・事業体育成に役立てたい
- ・経営理念が素晴らしかった

(4)先進市町村の取組事例【講義・意見交換】

3点

- ・鹿児島県のサポートが分かって良かった

4点

- ・市町村サポートセンターの話は参考になった
- ・サポート体制が整っていると感じ、当県でも参考にさせて頂きたい
- ・市、県森林組合連合会、市町村サポートセンターの連携が取れている

5点

- ・市町、県、関係団体の連携の重要性を改めて感じた
- ・県、林業団体の連携が良く取れていた
- ・やってきた方向性が認められて自信がついた
- ・当制度の解釈によって、それぞれの行政の取組が変わるということが分かった
- ・取り組みについては鹿児島市のモデル事業を参考に進めてきたので特にコメントはなし

(5)経営管理権集積計画演習【演習】

3点

- ・自分の説明がまとまりなくて申し訳なかった

・多くの考え、説明を聞くことができたのは良かったが、全体を総括した林野庁の作成例についての説明を少し詳しく伺えればより良かった(全国的な事例も踏まえてのお考えがあると思うので)。

・考え方も様々であるが、ポイントについて後でしっかり見直しておきたい

・図面を分析する能力を高めないといけない

・もっと時間が必要

・受講生の取り組みに濃淡があり、あまり参考にならなかった

4点

・集積計画は人それぞれ

・林野庁の説明はよく分かった。研修生の発表はそれぞれ考え方が異なることが確認できた

・集積計画作成に当たり、基本的な考え方が理解できた

5点

・色々な考え方を聞くことができ参考になった

(6)市町村森林経営管理事業のための森林施業【講義】

3点

・民有林で行政が目標林型を設定することは難しいとの固定概念がある

・常緑広葉樹の混交林化の可能性についてもう少し詳しく聞けると良かった

・大変有意義な講義で有難く拝聴した。複層林化がいかに大変な施業であるかを痛感した

4点

・天然更新も難しいのだと認識できたため、計画地選定について市町と共に考えていきたい

・広葉樹林、複層林化への更新の難しさ

・九州に限ってこの事業に沿った話を聞きたかった

・基本的な考え方は十分理解できた。しかし、現実の林分においてどのように施業を行っていくのかは非常に難しい課題であると思う

5点

・混交林化にするには長い期間が必要であり難しいこと

・人工林→複層林化の難しさ

・新たな知見を得ることができた

・針広混交林化については地理的・地域的要因による部分が大変大きいので取り入れる際は検討が必要かと思った

・針広混交林への誘導の困難さを理解

・意見を言えなかった事が残念だった

(7)経営管理権集積計画の作成・実施等に係る留意事項【講義】

3点

・制度が多く難しいと思ったが、有効な手段は活用していけるよう、勉強していきたい

・当市でも税務部局との対応に苦慮している

4点

・北海道の森林組合が行っている境界明確化の資料(送付文書等)があれば頂きたい

・境界についてはよく懸案ともなるので今後参考にしたい

5点

- ・意向調査後の実務をどう進めていけばいいのかが分かった
- ・内部的に理解できた
- ・疑問点についてピンポイントでご講義頂いた
- ・関連する法改正の話まで聞けたので有意義だった
- ・色々な事例を紹介して頂いて参考になった
- ・各種制度の見直しや事例紹介が参考になった

II 研修の進行・運営、研修設備等に関する評価

(1) 研修に係る事務局からの事前連絡等は十分できていましたか？

1. できていた

- ・課題の印刷等大変お世話になった
- ・研修課題で自分のミスで何回かやり取り、親切にして頂いた。ありがとうございました

(2) 研修の進行・運営流れについて

3点

- ・集積計画作成の演習方法は見直しが必要

4点

- ・時間オーバーがあったが、それ以外は良かった
- ・時間配分は難しいと思う。多くの資料の整理ご苦労様でした
- ・発表させたり、名指しされたり緊張感のある研修で良かった。初日だけが終了が遅くなった
- ・本来はグループ討議して発表する研修だったと思う。コロナで難しかったことと思うが、他研修生の様々な考え方を聞きたかった
- ・タイムスケジュールがちょっとコントロールできていなかった

(3) 研修運営スタッフの態度・対応について

4点

- ・大変丁寧な態度・対応だった
- ・フレンドリーに対応して頂いた

5点

- ・大変快適に受講できた。ありがとうございました。
- ・お世話になった
- ・親切で良かった

(4) 今後、どのようなサポートや研修等があったら良いとお考えですか？

- ・手探り状態は皆同じかと思うので、今後も研修等を通じ、情報共有しながら地域の森林経営、整備が進めていければと思う。
- ・各市町村で色々な進め方が出てくると考えられるので、先進的な事例などを紹介して、自分の地域に合ったやり方を考えることができる研修
- ・当制度の具体的対応事例

- ・市町村毎の森林所有者状況等に則した研修及びサポート
- ・自治体を対象とした研修(林野庁からの)もあると良い
- ・市町村経営管理事業の取り組み方(設計書の作り方、検査等)について受講してみたい
- ・混交林化、複層林化を目指す上で稚樹の確保が重要とのこと、伐採の安全確保との兼ね合いもあり、作業方法の指導方法を考える必要があると思うため、その研修等があったら良い
- ・意見交換の場を増やしてほしい
- ・Webシステムによる受講

(5)その他、自由に感想をお書き下さい。(研修の中で特に印象に残った講義があれば教えて下さい。)

- ・市町村森林経営管理事業のための森林施業の講義が印象に残った。ただ、森林経営管理事業の中で取り組み事項を示して頂きたかった
- ・林野庁の講義、話し方が分かりやすかった
- ・制度を作った林野庁の方々のお話しやつながりができて良かった
- ・直接林野庁の考えが聞けて非常に良かった
- ・皆様の熱意が伝わった。有難かった

Ⅲ 森林経営管理制度円滑化対策研修の評価

(1)森林経営管理制度円滑化対策研修を 100 点満点で評価するとしたら何点ですか？減点した理由等もお書き下さい。

80 点

- ・資料が多く、非常に参考になるが、説明を受けていないものも多く、後から目を通して確認していきたい
- ・林野庁の説明をもう少し聞きたかった

90 点

- ・時期的に早かったから仕方ない部分もあるが集積計画作成後の進め方や事例の紹介をもう少し勉強したかった
- ・駐車場がある会場を選定して頂きたかった。時節柄、懇親会が出来なかったのが残念
- ・初日の遅れだけがマイナス点
- ・課題解決演習において意見交換ができれば良かった
- ・演習の実施方法についての改善
- ・タイムスケジュール

100 点

- ・大変有意義だった、ありがとうございました

ブロック事務局名簿

*運営スタッフは主な者である。

北海道・東北ブロック事務局

名称	宮城県林業振興協会		
所在地	〒981-09141 宮城県仙台市青葉区堤通雨宮町4-17 宮城県仙台合同庁舎10F		
電話番号	022-301-7501		
運営スタッフ	事務局長	田畑正紀	
	スタッフ	金澤孝之	光岡志保 小山とも子

関東ブロック事務局

名称	公益社団法人 とちぎ環境・みどり推進機構		
所在地	〒321-0974 栃木県宇都宮市竹林町1030-2		
電話番号	028-643-6801		
運営スタッフ	事務局長	瀬田正幸	
	スタッフ	大塚初恵	

中部・近畿①ブロック事務局

名称	石川県山林協会		
所在地	〒920-0362 石川県金沢市古府1-197		
電話番号	076-240-7950		
運営スタッフ	事務局長	坂口浩一郎	
	スタッフ	野村史絵	

中部・近畿②ブロック事務局

名称	公益社団法人 静岡県山林協会		
所在地	〒420-8601 静岡県静岡市葵区追手町9番6号 県庁西館9階		
電話番号	054-255-4488		
運営スタッフ	事務局長	西島 潔	
	スタッフ	河合征彦	高尾篤史

西日本ブロック事務局

名称	鳥取県林業普及の会		
所在地	〒680-0947 鳥取県鳥取市湖山町西2丁目413番地 鳥取県山林樹苗協同組合内		
電話番号	0857-28-4886		
運営スタッフ	事務局長	有吉邦夫	
	スタッフ	谷口奈々	

四国ブロック事務局

名称	一般社団法人 高知県山林協会内		
所在地	〒783-0055 高知県高知市伊勢崎町8-24		
電話番号	088-822-5331		
運営スタッフ	事務局長	長澤佳暁	
	スタッフ	橋本達夫	永野俊彦

九州ブロック事務局

名称	鹿児島県森林組合連合会		
所在地	〒892-0816 鹿児島県鹿児島市山下町9番15号		
電話番号	099-226-9471		
運営スタッフ	事務局長	後藤 猛	
	スタッフ	西 太志	久野真実 淵脇咲季
		加世田加奈子	

新型コロナ・ウイルスに対応した森林経営管理制度円滑化対策研修の 実施方法について

1 基本的な考え方

- ・ コロナであっても何らかの形で研修を行う。（予定したものには及ばないが一定の成果は確保したい。）
- ・ コロナによる制約の下で可能な限りの効果が上がる方法を探る。

2 コロナによる制約の区分ごとの対応方法

（1）参加者が会場に集まらない場合（緊急事態宣言など）

＜研修講義＞

- ① オンデマンド配信（予め録画・編集した動画を配信）及び資料配布を行う。
 - ・ 各講義を録画し、参加予定者等に対してアプリインストールの手間が少ない YouTube を配信に利用する。
 - ・ YouTube のリンク（URL）を参加予定者に連絡し、一定期間視聴可能とする。（一般の者には内容を誤解される場合があるので録画の視聴は参加予定者に限定し、都合がよい時間に見られることと、質問の回答のため締切日を設ける必要があることなどを勘案して、視聴可能な適切な期間を設ける。）
 - ・ 講義への質問については期限を区切って事務局のメールアドレスに送ってもらい、林野庁等の講師と共有する。林野庁等の講師からの回答は事務局から参加者に送信する。
 - ・ ライブ配信（リアルタイム）は発信場所が複数になり、円滑に配信できない恐れがある。また、発信してもらおう講師への大きな負担となるので行わない。

②動画配信・資料配付の準備

- ・ 林野庁講師、森林総合研究所講師（森づくり）の講義については、全林協が録画を行い、配信する。
- ・ 講義資料の配布はブロック単位とせず、開催不能となった全ブロックに共有するものとする。
- ・ 配信動画及び資料配付を踏まえた、事後質問については、林野庁及び全林協で精査し、書面回答の必要性があるものにとり、講師に取りつなぐこととし、講師の負担軽減に努めることとする。

<事前課題>

- ・コロナ対応の有無にかかわらず、各ブロックで予定している研修開始日の2カ月前（ただし、1回目北海道・東北、2回目四国は、日程に余裕がないため6週間程度前）に、受講生には「受講の手引き」とともに事前課題を送付する。
- ・事前課題は当初予定の締切日で、研修開始の3週間前に提出を促し、2週間前までには受講生には提出してもらう。
- ・緊急事態宣言などで、集合研修が出来なくなった時点で、オンデマンドで研修を行うことを（県窓口もしくは事務局を通じて）2週間前には受講生に伝える（状況により、これより短い期間とならざるを得ない場合もある）。
- ・オンデマンド研修となった場合、事前課題として提出された質問、事例等は各ブロックで集約して、受講生に共有する。
- ・共有の際に、質問に対する回答および課題についての模範解答例（林野庁作成）を受講生に送付する。

<研修修了判断>

- ・各講義（YouTube）の受講感想・質問記入用紙を受講生に送付し、講義視聴後に事務局に送付してもらう。
- ・受講感想・質問記入用紙により、すべての講義を視聴したことが確認できた者に修了書を発行する。

（2）参加者は研修会場に集まれるが、全林協、林野庁、森林総研は会場に行けない場合

（1）と同様の対応とする。

（3）参加者、林野庁、全林協は研修会場に集まれるが、外部講師（森林総研、市町村講師、事業体）が会場に行けない場合

研修を当初案どおりに実施し、研修会場に来られない外部講師のうち、森林総研については録画、市町村及び事業体については、可能な限り資料と音声通話とする。

3 研修の開催方法と上記2の対応方法の関係について

本研修では、講師からの一方的な講義だけではなく、受講生から事前に提出してもらう森林経営管理制度に関する質問や、制度の要である意向調査の取組事例、模擬的に作成した経営管理権集積計画等を研修素材として活用し、質問や発表（報告）、意見交換など対話形式による講義も交えながら進めていくことが特徴であり、研修効果を上げる方法となっている。

また、この研修は、全国各地から森林経営管理制度に取組む関係者が集まるため、

これを機に、組織を超えた技術者間の連携・協力関係の形成にもつながることも、併せて期待する方法でもある。

よって、森林経営管理制度に取り組む関係者が研修会場に集まり、講師の話を聞いてもらい、さらに質疑応答を通じて制度の円滑な導入と運用についての理解を深めてもらうというこれまでの研修の形が理想的である。

上記の考え方からすると、(1)の録画配信の場合は効果が低下することは否めないが、コロナの状況が許さないことからやむを得ない。

しかし、研修に参加予定であった関係者に対して、森林経営管理制度の円滑な導入と運用についての可能な限りの情報を提供することで一定の効果が期待できる。

4 対応変更判断のタイミング

2 (1) の場合には参加予定者に研修を中止することを伝えなければならないことから、前述のとおり、2週間前に判断を行う（状況により、これより短い期間とならざるを得ない場合もある）。

研修における新型コロナウイルス感染症の感染防止対策について (研修生への要請事項)

森林経営管理制度円滑化対策研修の研修実施に当たって、下記のとおり新型コロナウイルス感染症（以下「新型コロナ」という。）の感染防止対策を実施しますので、下記の要請事項等の遵守をお願いします。

記

1 研修受講前に関する事項

(1) 研修受講前の体調管理について

万全の体調で研修に臨むため、日頃から体調管理に努めてください。また、受講前の2週間は毎日（できれば朝夕2回）検温の上、各自の体調等について、別紙「体温・体調等記録用紙（表）」に記録し、受講の可否の判断材料としてください。

なお、当該記録用紙は、研修14日前から研修開始日を（表）面に、研修開始日から研修終了日までを（裏）面に記載する様式になっていますので、両面印刷の上、研修開始日までの状況を（表）面に記載し、研修に持参してください。

(2) 研修受講の可否の判断について

ア 受講の取りやめ

以下のいずれかに該当する方は、受講を見合わせてください。

- ① 研修前2週間以内に発熱等の症状が見られた者（※新型コロナが疑われる場合以外であっても、体調不良者は参加を見合わせてください）
- ② 国・地域を問わず、海外からの帰国後2週間以内の者
- ③ その他、同居親族等の家庭内又は職場の同僚などの感染が確認される等、感染のおそれがある者

イ 受講を要検討

以下のいずれかに該当する方は、受講の可否を慎重に検討願います。

- ① 基礎疾患（糖尿病、心不全、呼吸器疾患ほか）がある者、透析を受けている者、免疫抑制剤や抗がん剤等を用いている者など、重症化しやすいとされている者
- ② 研修前2週間以内に大規模イベント等（ライブハウス、コンサート等）に参加した者

ウ その他

感染が拡大している地域等からの研修生は、当該都道府県等の方針（県外への移動自粛要請等）に基づき、研修受講について判断願います。

(3) 来場までの間の感染防止等について

ア 研修会場への来場の際、公共交通機関の利用にあたっては、感染防止にご留意ください。なお、利用した移動ルート（自宅最寄駅等⇔研修会場最寄駅等）

の便名・座席番号等を控えておいてください。

イ 来場時に検温を実施し、体調の聞き取りを行います。その際、発熱症状等がある場合は、研修参加を取りやめ、そのまま帰宅等していただきます。

(4) 厚生労働省配布の接触確認アプリの活用（スマートフォン所有者のみ）

各自のスマートフォンに、厚生労働省が配布する新型コロナの陽性者と接触した可能性について通知を受け取ることのできるアプリをインストールし、研修受講の可否の判断材料としてください（※詳しくは厚生労働省HPを参照）。

2 研修中に関する事項

(1) 持参品について

各研修生は、マスク、体温計を必ず持参願います（マスクは研修期間中に必要な枚数）。

(2) 研修中の感染防止対策について

ア 毎朝、研修スタッフが体調不良者の有無を確認しますので、研修生は各自で毎朝夕検温し、別紙「体温・体調等記録用紙（裏）」に体調その他参考事項等（メモ欄）を記録いただきます（記録用紙は研修最終日に提出）。

イ 研修初日に実施していた意見交換会は、開催を見合わせます。

ウ 研修時間外においても不要な外出は避け、常識的判断に基づく、節度ある行動をとるよう心掛けてください。

(3) 講義・実習中の感染防止対策について

ア 研修中は、可能な限り、人を密集させない環境の整備に努め、講義では換気を励行します。

イ 研修会場内では、マスクを着用していただきます。

(4) 体調不良者の取扱いについて

ア 新型コロナの疑い如何に関わらず、体調不良者は即時研修を中止し、帰宅等していただきます。

イ 感染のおそれがない体調不良者の場合、必要に応じて病院で診察後、医師の診断結果に基づき帰宅・入院等していただきます。

ウ 感染が疑われる場合（濃厚接触者であることが判明した場合等を含む）、保健所等の指示に基づき対処します。また、帰宅方法等は、保健所や研修生の所属機関とも協議の上、決定します。

3 研修受講後に関する事項

研修終了（帰任）後2週間以内に体調不良となる等、当該研修受講時には既に新型コロナに感染していたおそれがある場合は、至急、研修事務局に連絡願います。

4 その他

感染拡大状況等によっては、研修開始前に、急遽、研修を中止する場合があります。また、研修生に新型コロナが疑われた場合等は、研修実施中であっても、保健所等の指示に従い、即時研修を中止し、全研修生を帰宅等させる場合があります。

体温・体調等記録用紙（表）
（研修受講14日前からの状況）

参考資料1-7

*新型コロナウイルスの最大潜伏期間はおおむね14日間といわれています。
*本記録用紙には、研修14日前から研修開始日までの発熱等の症状と健康状態をセルフチェックしていただくものです。
*この期間に体調不良を感じた場合には、無理せず、職場と相談の上、他の研修生のためにも受講について再検討してください。
*個人情報の取り扱いには十分注意し、感染対策以外では使用しません。

所 属		研 修 名	森林経営管理制度円滑化対策研修
ふりがな		研修区分	北海道・東北ブロック（宮城県仙台市）
氏 名		研修期間	令和2年9月16日（水）～9月18日（金）

日付	体温測定時間	体温(°C)	【新型コロナ感染症を疑う症状】 発熱、咳、呼吸困難、全身倦怠感、咽頭痛、鼻汁・鼻閉、頭痛、関節・筋肉痛、下痢、嘔気・嘔吐、味覚や嗅覚の異常など		【参考1】 医療機関の受診・解熱鎮痛薬の内服など	【参考2】 「三密」状態になるなど感染リスクが高いと思われる外出先(場所)・相手方など
			<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有()		
9月2日	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有()		
	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有()		
9月3日	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有()		
	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有()		
9月4日	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有()		
	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有()		
9月5日	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有()		
	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有()		
9月6日	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有()		
	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有()		
9月7日	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有()		
	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有()		
9月8日	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有()		
	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有()		
9月9日	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有()		
	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有()		
9月10日	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有()		
	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有()		
9月11日	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有()		
	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有()		
9月12日	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有()		
	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有()		
9月13日	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有()		
	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有()		
9月14日	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有()		
	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有()		
9月15日	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有()		
	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有()		
9月16日 (当日)	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有()		
	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有()		

【注】「三密」状態:①換気の悪い密閉空間、②大勢がいる密集場所、③間近で会話する密接場面が重なる状態

体温・体調等記録用紙（裏）

（研修期間の状況）

*本記録用紙には、研修開始日から研修終了日までの発熱等の症状と健康状態をセルフチェックしていただくものです。

*研修期間に体調不良を感じた場合には、速やかに研修スタッフに申し出てください。

*本記録用紙は、最終日に提出してください（本記録用紙は研修終了後2週間保存後、廃棄します）。

*個人情報の取り扱いには十分注意し、感染対策以外では使用しません。

所 属		研 修 名	森林経営管理制度円滑化対策研修
ふりがな		研修区分	北海道・東北ブロック（宮城県仙台市）
氏 名		研修期間	令和2年9月16日（水）～9月18日（金）

日付	体温測定時間	体温(°C)	【新型コロナ感染症を疑う症状】 発熱、咳、呼吸困難、全身倦怠感、咽頭痛、鼻汁・鼻閉、頭痛、関節・筋肉痛、下痢、嘔気・嘔吐、味覚や嗅覚の異常 など		【参考1】 医療機関の受診・解熱鎮痛薬の内服など	【参考2】 ・宿泊施設名称 ・研修中に利用した食堂等の名称など
			<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有（ ）		
9月16日	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有（ ）		
	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有（ ）		
9月17日	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有（ ）		
	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有（ ）		
9月18日	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有（ ）		
	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有（ ）		

【メモ】
 班のメンバー以外で研修中(時間外を含む)に間近で会話する場面があった方(スタッフを含む)の氏名

①	②	③
④	⑤	⑥
⑦	⑧	⑨

【注】濃厚接触:1mの距離(目安)で、マスク等を着用せずに15分以上の接触があった者(喫煙所・会食など)

技術力維持・向上対策研修

技術力維持・向上対策研修

I. 研修の実施概要

1. 運営体制

別図(132 頁参照)のとおり研修運営を行った。

2. 技術力維持・向上対策研修の実施概要

(1)研修の目的

市町村への指導・助言の役割を担うべき森林総合監理士をはじめとする技術者の技術水準の維持・向上を図ることを目的として、森林経営管理制度、地域の森林・林業の再生、林業の成長産業化等の課題をテーマに、現地検討及び討議等を通じて現場レベルでの課題解決策を共有する研修(以下「実践研修」という)を実施する。

(2)対象者

森林総合監理士、都道府県職員、市町村職員、森林管理局署職員、団体職員等

(3)研修内容

研修は全国を6ブロック(北海道、東北、関東、中部、近畿中国、四国)に区分し、各ブロックでテーマ及びカリキュラムを設定。2泊3日の日程で研修を実施した。なお、九州では実施していない。

各ブロックの研修テーマ一覧

ブロック	テーマ
北海道	成熟した高齢級人工林における森林づくり～伐採と更新方法を考える～
東北	路網配置計画と情報化技術を用いた現地踏査
関東	主伐・再造林に向けた、ニホンジカ被害対策全体構想の作成と実行について
中部	伐採・造林一貫作業システム(架線+路網)と木材流通
近畿中国	一斉人工造林地における地位区分に応じた森林施業
四国	地形に応じた効率的な架線と作業路網を組み合わせた集材作業システムと木材流通について

①北海道ブロック・技術力維持・向上対策研修(実践研修)のカリキュラムと概要(シラバス)(133 頁参照)

②東北ブロック・技術力維持・向上対策研修(実践研修)のカリキュラムと概要(シラバス)(135 頁参照)

③関東ブロック・技術力維持・向上対策研修(実践研修)のカリキュラムと概要(シラバス)(137 頁参照)

④中部ブロック・技術力維持・向上対策研修(実践研修)のカリキュラムと概要(シラバス)(139 頁参照)

⑤近畿中国ブロック・技術力維持・向上対策研修(実践研修)のカリキュラムと概要(シラバス)(141 頁参照)

⑥四国ブロック・技術力維持・向上対策研修(実践研修)のカリキュラムと概要(シラバス)(143頁参照)

(4)研修実施場所・研修日程

全国6ブロックにおいて9月から11月に実施した。

ブロック	開催場所	研修会場	現地実習箇所	日程
北海道	北海道函館市	函館コミュニティプラザ Gスクエア	北海道亀田郡七飯町 城岱国有林2098林班外	9月1日～3日
東北	岩手県盛岡市	アイーナ いわて県民情報交流センター	岩手県岩手郡雫石 雫石町御明神荒沢山国有林735は1林小班外	9月2日～4日
関東	群馬県沼田市	利根沼田文化会館	群馬県利根郡 利根郡昭和村赤城山第2国有林159い4 林小班外	10月14日～16日
中部	岐阜県中津川市	中津川市にぎわいプラザ	岐阜県中津川市 湯舟沢国有林2206い林小班外	9月16日～18日
近畿 中国	岡山県新見市	新見商工会館	岡山県新見市 古谷国有林527林班	9月8日～10日
四国	高知県高知市	四国森林管理局	高知県中土佐町 島ノ川山国有林3229林班外	11月11日～13日

(5)研修受講者

都道府県別修了者数(全区分)

ブロック別修了者数(全区分)

ブロック	都道府県名	修了者				修了者					
		都道府県	市町村	国有林	民間	都道府県	市町村	国有林	民間		
北海道	北海道	12	10	0	2	0	12	10	0	2	0
東北	青森県	2	2	0	0	0	13	7	1	1	4
	岩手県	7	3	1	1	2					
	宮城県	3	1	0	0	2					
	秋田県	0	0	0	0	0					
	山形県	0	0	0	0	0					
	福島県	1	1	0	0	0					
関東	茨城県	1	0	0	0	1	9	3	0	1	5
	栃木県	2	0	0	1	1					
	群馬県	0	0	0	0	0					
	埼玉県	2	1	0	0	1					
	千葉県	0	0	0	0	0					
	東京都	0	0	0	0	0					
	神奈川県	2	1	0	0	1					
	新潟県	0	0	0	0	0					
	山梨県	1	1	0	0	0					
	兵庫県	1	0	0	0	1					
中部	福島県	1	1	0	0	0	12	10	0	1	1
	富山県	0	0	0	0	0					
	石川県	0	0	0	0	0					
	福井県	0	0	0	0	0					
	長野県	1	0	0	0	1					
	岐阜県	4	3	0	1	0					
	静岡県	2	2	0	0	0					
	愛知県	1	1	0	0	0					
	三重県	0	0	0	0	0					
	滋賀県	1	1	0	0	0					
	奈良県	1	1	0	0	0					
和歌山県	1	1	0	0	0						
近畿中国	京都府	1	1	0	0	0	9	5	0	2	2
	大阪府	0	0	0	0	0					
	兵庫県	3	2	0	0	1					
	和歌山県	1	0	0	1	0					
	鳥取県	0	0	0	0	0					
	島根県	1	0	0	1	0					
	岡山県	3	2	0	0	1					
	広島県	0	0	0	0	0					
山口県	0	0	0	0	0						
四国	兵庫県	2	0	0	0	2	16	4	1	4	7
	奈良県	1	1	0	0	0					
	徳島県	4	0	1	1	2					
	香川県	0	0	0	0	0					
	愛媛県	1	1	0	0	0					
	高知県	6	0	0	3	3					
	福岡県	1	1	0	0	0					
	佐賀県	0	0	0	0	0					
	長崎県	0	0	0	0	0					
	熊本県	0	0	0	0	0					
	大分県	1	1	0	0	0					
	宮崎県	0	0	0	0	0					
	鹿児島県	0	0	0	0	0					
沖縄県	0	0	0	0	0						
合計		71	39	2	11	19	71	39	2	11	19

(6)研修修了者の年齢構成、男女比

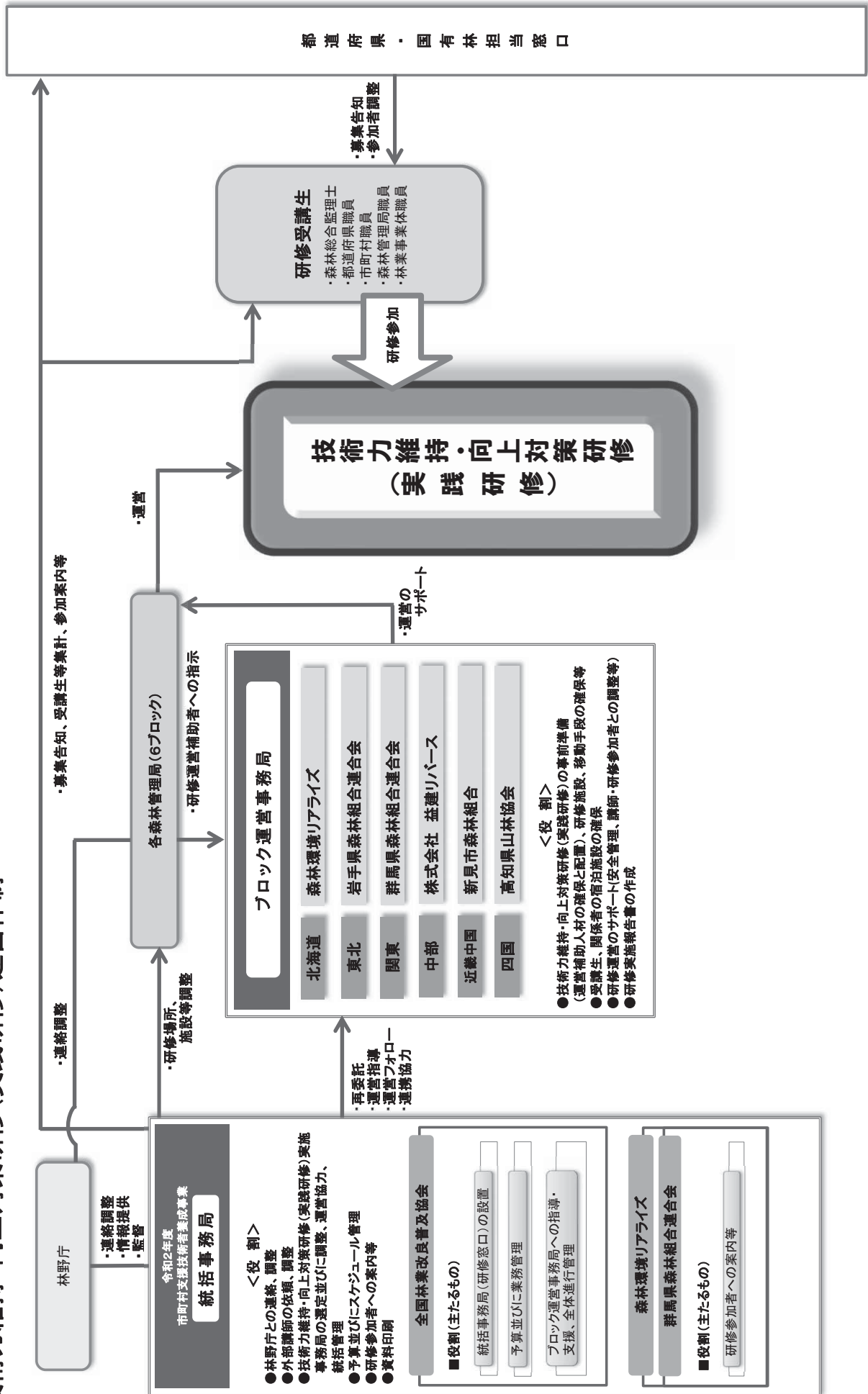
○年齢構成

年代	総数	20代	30代	40代	50代	60代	全体平均年齢(歳)
人数(人)	71	6	16	24	22	3	45.1
比率(%)	100.0	8.5	22.5	33.8	31.0	4.2	

○男女比

	総数	男性	女性
人数(人)	71	64	7
比率(%)	100.0	90.1	9.9

1. 技術力維持・向上対策研修(実践研修)運営体制



①北海道ブロック・技術力維持・向上対策研修(実践研修)のカリキュラムと概要(シラバス)

【研修テーマ:成熟した高齢級人工林における森林づくり～伐採と更新方法を考える～】

		午 後						
		13:00～ 13:30 (30分)	13:30～13:50 (20分)	13:50～ 14:10 (20分)	14:20～15:20 (60分)	15:20～ 15:40 (20分)	15:50～17:10 (80分)	17:10～ 17:20 (10分)
9月 1日 (火)		集合	オリエン テーショ ン (担当: 局研修 担当官)	研修の目的・ 内容 (担当:局研修 担当官)	【講義】 背景・現 状に関 する基 礎知識 (担当: 局講師)	【講義】 木材需給・流通に関する 基礎知識 (担当:外部講師)	【机上演習】 グループ演習① 施業案を机上作 成 (担当:局研修担 当官)	まとめと 翌日の 現地検 討の進 め方説 明 (担当:局 研修担 当官)
9月 2日 (水)	8:30～12:00 (バス移動含む)	12:00～13:00	集合	【現地見学】 コンテナ苗の生産現場の見学 (担当:局研修担当官、外部講師、局講 師)	13:00～15:00 (バス移動含む)	15:00～17:00	【机上演習】 グループ演習③ 机上案の修正 (担当:局研修担当官)	
		昼食						
9月 3日 (木)	9:00～10:40 (100分)	10:40～12:00 (80分)	12:00～13:00	13:00～15:00 (120分)	15:00～17:00	17:00～18:00 (60分)	18:00～19:00 (60分)	19:00～20:00 (60分)
	【机上演習】 グループ演習④ 机上案の発表準備 (担当:局研修担当官)	【発表】 検討結果の発表⑤ 質疑応答 (担当:局研修担当官、外部 講師、局講師) 15分(発8、PKT2、質5)×3 班 45分	昼食	【講評等】 検討結果に対する講師 講評 (外部講師/内部講師)	解散			

技術力維持・向上対策研修(実践研修)の概要

北海道ブロック

テーマ	成熟した高齢級人工林における森林づくり ～伐採と更新方法を考える～				
研修場所	函館市	実施日	9月1日～3日	該当する大目標	施業コスト低減の戦略を描ける能力の習得
【研修のねらい・目標】					
「主伐期を迎えた林分の施業案作成」等を実践的に学ぶことを通じて、低コストな更新技術等を習得する。					
【本研修の必要性】					
人工林資源が利用期を迎えていることから、森林資源の循環利用が課題であり、公益的機能を発揮しつつ資源の齢級構成の平準化も見据えた森林造成が重要である。このためには、中長期的かつ面的広がり視点を持ち、適時適切な施業を行う他、自然条件等に応じて多様な森林へ誘導する必要がある。					
【講義のポイント】					
【講義】					
①「背景・現状に関する基礎知識」 ②「木材需給・流通に関する基礎知識」 ③「北海道森林管理局における低コスト施業の事例」					
【グループ演習】					
演習地とするトドマツ人工林における伐採・更新計画を考える。					
・机上案作成：各グループ内で検討。グループの伐採・更新計画の机上案を作成する(初日)。 ・現地演習：演習の現地において、机上案の実現性・妥当性等を確認・再検討し、伐採・更新計画案を確定する(2日目)。 ・発表・講評：各グループの伐採・更新計画案をプレゼンテーションし、全員で共有し講師から講評を受ける(3日目)。					
【現地見学】					
コンテナ苗の生産現場を見学する(2日目)。					
【まとめ】					
技術の普及に向けた、今後の取り組みについて。					
地域における伐採・再生林の現状(問題点等)について、把握しておく。					
【研修講師】					
鳴瀬拓也((研)森林研究・整備機構 森林総合研究所 北海道支所 地域研究監)					

②東北ブロック・技術力維持・向上対策研修(実践研修)のカリキュラムと概要(シラバス)

【研修テーマ: 路網配置計画と情報化技術を用いた現地踏査】

9月2日(水)(午後)					
13:00～13:30	13:40～14:40	14:50～15:50	16:00～16:30	16:30～17:30	17:30～17:45
30分	60分	60分	30分	60分	15分
開講式 オリエンテーション等	【講義】 森林作業道とは	【講義】 森林作業道配置計画の基礎知識	【演習】 情報技術を用いた森林路網計画の手順と方法	【グループワーク】 森林作業道配置図の作成	連絡報告等
局研修担当	休息	休息	休息	外部講師 局講師	

9月3日(木)(午前)				9月3日(木)(午後)	
8:30～9:10	9:10～9:20	10:30～11:00	11:00～12:00	12:00～12:50	16:10～17:15
40分	10分	30分	60分	50分	65分
バス移動 「栗石町御明神公民館」へ	前日のふりかえり、現地検討の進め方	公民館から「演習箇所」へ移動	【演習】 森林作業道配置事例の研究	昼食	バス移動 研修会場へ
局講師	外部講師 局講師	外部講師 局講師	外部講師 局講師		外部講師 局講師

9月4日(金)(午前)					
9:15～9:20	9:20～10:30	10:40～11:25	11:25～11:55	11:55～12:05	12:05～12:15
5分	70分	45分	30分	10分	10分
日程説明	【グループワーク】 森林作業配置図の作成 路網配置の決定とその評価	発表	講評	アンケート記入	閉講式
局研修担当	外部講師 局講師	外部講師 局講師	外部講師 局講師	局研修担当	局研修担当

技術力維持・向上対策研修(実践研修)の概要

東北ブロック

テーマ	路網配置計画と情報化技術を用いた現地踏査				
研修場所	盛岡市	実施日	9月2日～4日	該当する大目標	循環的な木材生産の戦略を描ける能力の習得
【研修のねらい・目標】					
<p>情報化技術を活用し、地形・地質及び立木の資源状況に応じた適切な森林作業道の配置計画を考えることができ、実践的な指導・助言ができるようにする。</p>					
【本研修の必要性】					
<p>地域の森林を整備・管理し、木材を搬出して森林・林業を再生していくためには、路網が適切に整備されていることが重要である。しかしながら、地域における森林作業道の計画を立案できる技術を有する者は少ない状況にある。</p> <p>そのため、情報化技術を活用した森林作業道の路網配置計画を有するとともに、現地の林況に応じた効率的な森林作業道の配置を計画できる者を育成していくことが必要不可欠である。</p> <p>本研修によって、既設の森林作業道を検証するとともに新たな森林作業道の計画及び現地における検討を通じて、実践的な指導・助言ができるようになる。</p>					
【講義のポイント】					
【講義：外部講師】					
<p>現地検討を深めるため、テーマに関連した技術的な最新の知見、現地検討のポイント等についての講義を実施する。</p>					
【グループ演習】					
<p>講義の実施後に机上で、1/5,000図面(白図)および、CS立体図に森林作業道を計画する。</p>					
【現地演習】					
<p>現地の既設森林作業道を確認・検証する。</p> <p>机上の森林作業道計画図面により現地踏査を行い、図面と実際の現地の違いを確認する。</p> <p>情報化技術によって表現された情報と現地での実態を理解する</p>					
【グループ演習・発表・意見交換】					
<p>机上の森林作業道計画図面に基づいて、現地を確認した上で、班ごとに地形・地質等により森林作業道の計画位置変更等、効率的な森林作業道作設に向けた検討・発表・意見交換を行う。</p>					
【研修講師】					
斎藤仁志(岩手大学農学部 准教授)					

③ 関東ブロック・技術力維持・向上対策研修(実践研修)のカリキュラムと概要(シラバス)

【研修テーマ:主伐・再造林に向けた、ニホンジカ被害対策全体構想の作成と実行について】

期間10月14日(水)～16日(金)

		午 前			午 後		
1日目 (10/14)	研修の ねらい	オリエンテー ション等 (13:30～14:00)	【講義】 ①シカの生態と 被害の現状 (14:00～14:45)	【講義】 ②捕獲と密度管理 (14:45～15:45)	【講義】 ③防除対策事例と コスト (15:45～16:45)	現地実習 内容及び 【ふり かえり】 (16:45～ 17:15)	研修 担当 者
	担当 講師等	研修担当 者	外部講師	外部講師	外部講師		
2日目 (10/15)	日程説明 等 (8:45～8:50)	【現地実習】 ①シカ被害の調査法と 行動特性の観察 (現地検討)	【現地実習】 ②くくりわな設置方法の実習 及びシカ柵設置の留意事項 (現地検討)	【グループワーク】 ③シカ被害対策 全体構想の検討 (現地踏査)	(移動) 昼食 (12:15～ 12:45)	【ふり かえり】 (17:00～ 17:15)	研修 担当 者
	研修の ねらい	実習地周辺の被害状況とシカ の行動特性を示す痕跡等を観 察し、被害調査手法や捕獲方 法別の留意点等を学ぶ。	わな設置における、シカ道の見 分け方、設置ポイント、設置方 法等について、実技実習を行 う。	シカの被害状況に応じた、主伐 再造林計画と生息調査、捕獲 手法、防除対策までの構想を 企画・立案するための現地調 査・検討を行う。	(12:45～ 13:30)		
	担当 講師等	外部講師	外部講師	内部講師	現地 バス		研修 担当 者
3日目 (10/16)	日程説明 等 (8:45～8:50)	【グループワーク】 ② (発表、ディスカッション) (8:50～10:00)	【講義】 講評及び 総括講義 (10:00～11:00)	【ふりかえり】 及び 【閉講式】 (11:00～11:30)			
	研修の ねらい	各グループ毎に取りまとめた今後の対 策計画等を発表し、疑問点や気付かな かった点等をディスカッションし、シカ被 害対策の全体構想の企画・立案に当た り重要となる技術的ポイント等を共有す る。	各地の被害対策計画 事例及び研修を通して ポイントとなる部分をお さらいする。	研修担当 者			
	担当 講師等	2日目午後と同じ	2日目午後と同じ				

技術力維持・向上対策研修(実践研修)の概要

関東ブロック

テーマ	主伐・再造林に向けた、ニホンジカ被害対策全体構想の作成と実行について		
研修場所	沼田市	実施日	10月14～16日
		該当する大目標	シカ被害対策における全体構想の作成と実現能力の習得
【研修のねらい・目標】			
<p>現在、シカの生息数の増加及び生息域の拡大により、森林の被害は深刻な状況にあることから、地域の被害対策の取組を総合的かつ効果的に推進するための知識・技術をさらに向上させ、対策の中核となるリーダーやコーディネーターとして関係機関等周囲と連携しつつ、被害対策の全体構想を作成し、実現に向けた取組が出来る人材の育成を目標とするものである。</p>			
【本研修の必要性】			
<p>ニホンジカによる森林被害の増加が著しい昨今、全国各地で様々な被害対策等が試行錯誤しながら取り組まれているところであり、民有林・国有林共通した重要な課題である。</p> <p>現在、それぞれの地域や団体等において、生息数調査、捕獲事業(狩猟・わな等)、侵入防止対策等(柵設置、忌避剤等)が研究開発され、成果を上げているところであるが、森林総合監理士にあっては、3本の大きな役割(構想の作成・合意形成・構想の実現)を果たすために必要なスキルを身につけ、今後の主伐・再造林の推進を見据えつつ、計画的な森林整備と一体的な獣害防止の取組を推進するため、これまでの最新の知見や各地の実行結果を踏まえた、地域に適合した被害対策の全体構想を計画・立案する技術の習得が必要であると考えられることから、当該テーマについての研修を実施することが必要と判断した。</p>			
【講義のポイント】			
【講義】			
<p>①森林被害の現状、シカの生態、生息状況の調査、密度管理手法、防除対策方法等(外部講師) →シカ被害対策に係る、最新の知見を踏まえて、被害把握から防除対策まで、幅広い知識を習得し、地域の被害対策全体構想を計画・立案できるためのスキルを身につける。 また、地域の関係者・団体、被害対策コーディネーター等と連携した取組事例等を学ぶ。</p> <p>②総括講義 →研修を通してポイントとなる部分をおさらいするとともに、今後の展望を学ぶ。</p>			
【現地演習】			
<p>①シカ被害の調査法と行動特性の観察手法の留意点等の実習 ②シカ捕獲作業(わな猟)現場の実例と、わな設置(場所選定方法、設置方法、わなの仕組み)の実習及びシカ柵設置の留意点等を学ぶ ③主伐・再造林の時期を向かえた林分における、今後のシカ被害対策の全体構想の企画・立案検討のための調査検討</p>			
【グループ演習】			
<p>①シカ被害対策の全体構想の企画・立案 →実習対象エリアの伐採方法～植栽方法の検討から、生息調査、捕獲手法、防除対策までの全体構想を作成する。</p>			
【研修講師】			
<p>岡 輝樹 ((研)森林研究・整備機構 森林総合研究所 野生動物研究領域 領域長) 永田純子 ((研)森林研究・整備機構 森林総合研究所 野生動物研究領域 主任研究員) 飯島勇人 ((研)森林研究・整備機構 森林総合研究所 野生動物研究領域 主任研究員) 八代田千鶴 ((研)森林研究・整備機構 森林総合研究所 関西支所 生物多様性研究グループ 主任研究員) 竹之内政勝(関東森林管理局 群馬森林管理署 総括治山技術官)</p>			

④中部ブロック・技術力維持・向上対策研修(実践研修)のカリキュラムと概要(シラバス)

【研修テーマ:伐採・造林一貫作業システム(架線+路網)と木材流通】

場所:岐阜県中津川市(中津川市にぎわいプラザ5Fコミュニティホール)、岐阜県中津川市(湯舟沢国有林2201ろ林小班)ほか

1日目 9月16日 (水)	13:00~13:30 (30分)	13:30~17:10 (3時間40分)	17:10~17:15 (5分)
	・開講式 ・オリエンテーション	・伐採・造林一貫作業システムについて ・採集・仕分けについて ・伐採計画の演習について	・2日目の 現地後討について
	研修担当	林野庁講師	研修担当

2日目 9月17日 (木)	8:00~12:40 (4時間45分)	12:40~13:25 (45分)	13:30~15:00 (1時間30分)	15:00~17:10 (2時間10分)	17:10~17:15 (5分)
	・搬出の実施状況 ・増替え、シク防除対策等の確認 ・伐採・造林一貫作業システムによる主伐計画の後討	屋食	・市場情報・意図交換 ・流通・販売等の講義、意図交換	・伐採一貫作業による主伐及び低コスト造林について図面、シート等作成	・3日目の 日程について
	林野庁講師・外部講師		外部講師	林野庁講師	研修担当

3日目 9月18日 (金)	9:00~9:10 (10分)	9:10~11:15 (2時間05分)	11:25~11:55 (30分)	11:55~12:15 (20分)
	・日程説明 ・発表方法 等説明	・架線系作業システムによる主伐計画について図面、シート等作成 ・発表、ディスカッション	・講師講評	・集合写真 ・アンケート ・閉講式
	研修担当	研修担当	林野庁講師	研修担当

中津川市にぎわいプラザが9:00開館のため、3日目は9:05開始

技術力維持・向上対策研修(実践研修)の概要

中部ブロック

テーマ	伐採・造林一貫作業システム(架線)と木材流通				
研修場所	中津川市	実施日	9月16日～18日	該当する大目標	循環的な木材生産の戦略を描ける能力の習得
【研修のねらい・目標】					
<p>林業の成長産業化に貢献するためには、主伐・再造林を適切かつ低コストで実施する必要があることから、伐採・造林一貫作業システムについて現地検討・意見交換を行うことにより、課題解決力の向上、実践的な指導・助言ができる技術者の育成を図る</p>					
【本研修の必要性】					
<p>主伐・再造林を進めるためには、地拵え等の造林コストの縮減や作業効率化を図るために、林地残材の活用、コンテナ苗の利用推進が重要 そのためには、伐採・造林一貫作業システムを導入することにより作業効率・コスト面及び木材流通等の課題に対応できる技術者の育成が必要</p>					
【講義のポイント】					
【講義等】					
<p>①伐採・造林一貫作業システムについて(内部講師) →搬出計画(架線)の作成について講義、実習 →採材・仕分けについて講義 →造林コストの低減に向けた作業システムについて講義</p> <p>②流通・販売について(外部講師) →市場での有利販売に向けた取組、木材流通等に関する最新の情報について講義</p>					
【現地実習・視察・意見交換】					
<p>①1日目に作成した主伐計画の机上案により、伐採・造林一貫作業システム実施箇所の現地確認および集材方法・搬出系統等について検討し、効率的な搬出・造林作業ができるよう現地実習、意見交換</p> <p>②市場、木材流通等について視察、意見交換</p>					
【グループ演習・発表】					
<p>①講義・現地実習及び視察を踏まえ、伐採・造林一貫作業システムによる搬出計画の検討を行い、主伐から植栽、流通までを班内で検討してとりまとめ、発表・全体討議・講評</p>					
【研修講師】					
鈴木貴志(木曽官材市売協同組合 常務理事)					

⑤近畿中国ブロック・技術力維持・向上対策研修(実践研修)のカリキュラムと概要(シラバス)

【研修テーマ:一斉人工造林地における地位区分に応じた森林施業】

日程:令和2年 9月8日(火)～10日(木)(2泊3日)
新見商工会議所

		午後						
		13:00～ 13:10	13:10～ 13:20	13:20～ 13:40	13:40～15:40(休憩10分含む)	15:40～16:10	16:10～17:00	17:00～ 17:30
1日目	開講式 (10分)	オリエン テーション (10分)	実践研修方 イダンス (20分)	【講義】 ①今後の森林づくりの考え方について (30分) ②多様な森林づくりの構想について (60分) 班内共有＋質疑(20分)	外部講師 局講師	進行役	外部講師 局講師	進行役
		進行役	研修担当官					

2日目	8:30～ 9:25	9:25～ 9:35	9:40～12:00	12:00～ 12:30	12:30～13:30	13:35～ 14:30	14:40～17:00(休憩10分含む)	17:00～ 17:20	
	車移動	現地検 討の進 め方説 明 (10分)	外部講師 局講師	【現地検討】古谷国有林 (140分) 一斉人工造林地における今後の森林施業 (地位等の森林の状況の調査)	昼食	【現地検討】古谷国有林 (60分) 天然力を活用した森林づくり (天然生広葉樹の活用事例の調 査)	車移動	【グループ演習2】 (130分) 現地検討結果を踏まえて、「一斉人工造林地における今後の 森林施業」をテーマとして、目標林型等について検討(70分) し、発表をとりまとめ(60分)	外部講師 局講師

3日目	8:30～ 8:40	8:40～ 10:45(休憩10分含む)	10:45～ 11:25	11:25～ 11:55	11:55～ 12:00
	本日の 進め方 説明 (10分)	外部講師 局講師 進行役	【グループ演習3(発表・意見交換) (115分) 発表準備:45分 休憩:間に10分 (発表10分、班内共有5分、質問10分)×2班 =50分 全体を通じた意見交換:20分	外部講師 局講師 林野庁	外部講師 局講師 進行役
	進行役		講評 (40分)	ふりかえり、 アンケート記 入 (30分)	閉講式 (5分)

技術力維持・向上対策研修(実践研修)の概要

近畿中国ブロック

講義等名	一斉人工造林地における地位区分に応じた森林施業				
研修場所	新見市	実施日	9月8日～10日	該当する大目標	森林を科学的に評価する能力の習得
【研修のねらい・目標】					
<p>・既存の人工林について、目的を再確認・再設定し、その目的を達成するために最適な目標林型を導き出す能力の習得。</p> <p>・天然力を活用した森林づくりに関する知見及び意識の向上。</p>					
【本研修の必要性】					
<p>森林の管理を正しく進め、適切な施業技術を適用するためには、森林の現況やそこで発揮が求められる機能(木材生産、生物多様性の保全など)に対応した森林の将来像を描き、森林施業を進めていくことが重要であり、森林総合監理士には、そのような将来像を描く力が求められている。</p> <p>人工林は、多くの場合、木材生産を目的として造成され、現存する人工林の多くは、短伐期施業による柱材生産を生産目標としてきた。しかしながら、木材需要動向の変化や森林の持つ多面的な機能への期待の高まりなどを受け、目的を再確認(場合によっては再設定)し、その目的を達成するために最適な目標林型を明確にする必要が生じている。既存の人工林で生産目標を再設定する際には、地位や林木の形状からみて、達成可能なものでなければならない。</p> <p>平成28年5月に策定された「森林・林業基本計画」では、木材等生産機能の発揮が特に期待される育成単層林を整備するなど森林資源の循環利用を図るとともに、公益的機能の一層の発揮を図るため自然条件等を踏まえつつ育成複層林への誘導を推進するなど、多様で健全な森林へ誘導するとされている。</p> <p>また、平成31年4月から運用が開始された森林経営管理制度では、森林所有者自らが森林の経営管理を実行できない場合に、市町村が森林の経営管理の委託等を受け、そのうち自然条件が悪く再委託ができない等の森林は市町村が管理を実施することとなる。その際には、公益的機能を発揮しつつ、管理コストが小さくなるよう、針広混交の育成複層林等へと誘導する必要がある。森林総合監理士には、この市町村による公的管理の取組への技術的支援が求められている。</p>					
【講義】					
<p>① 今後の森林づくりの考え方について【内部講師:計画課 流域管理指導官】今後の森林づくりに関する政府方針</p> <p>② 多様な森林づくりの構想について【外部講師:森林総研関西支所 森林生態研究グループ長】目標林型や地位について</p>					
【現地検討】					
<p>① 一斉人工造林地における今後の森林施業 45haの一斉人工造林地をフィールドとして、図面、衛星画像、森林調査簿等を用いて机上調査するとともに、地位等の森林の状況を現地調査</p> <p>② 天然力を活用した森林づくり 天然生広葉樹を活用して針広混交林の造成を行っている林分を調査</p>					
【グループ演習】					
<p>班ごとに、45haの一斉人工造林地をフィールドとして、現地検討の結果を踏まえて、「一斉人工造林地における今後の森林施業」をテーマに、以下の手順で検討し、発表をとりまとめる。</p> <p>①森林の現況(地位、森林被害状況等)と生産活動の可能性(路網、効率的な作業システム導入の可否等)の2つの視点から木材生産機能を評価するとともに、生物多様性などの他の公益的機能の発揮が重視される区域を検討。</p> <p>②①の結果から、区域と区域毎の目的を設定し、それぞれの目的を達成するために最適な目標林型(木材生産を目的とする場合は、伐期齢、伐期における主林木の胸高直径と本数密度。それ以外を目的とする場合には、混交林等)を検討。</p> <p>③目標林型に導くための森林施業について検討するとともに、近い将来更新を行うことを想定した場合には更新方法等を検討。</p> <p>各班から検討結果の発表を行ったのち、全員でディスカッションすることにより、技術的ポイント等を共有する。</p>					
【研修講師】					
山下直子((研)森林研究・整備機構 森林総合研究所 関西支所 森林生態研究グループ長)					

⑥四国ブロック・技術力維持・向上対策研修(実践研修)のカリキュラムと概要(シラバス)

【研修テーマ:地形に応じた効率的な架線と作業路網を組み合わせた集材作業システムと木材流通について】

実施期間: 令和2年11月11日(水)～13日(金)

日程	午 前				午 後					
	11/11 (水)	13:00 13:30	13:30～15:00	15:10～16:10	16:20～16:40	16:40 ～17:00	13:00 13:30	13:30～15:00	15:10～16:10	16:20～16:40
	開講式(森林整備部長)研修主旨、意図、留意点の説明(四国森林管理局会議室)	【講義】(90分) 大型製材工場の現状と課題 地域の特性に合った木材流通等	【講義】(60分) 集材架線システムの資料作成の説明 (コスト計算等) 簡易な架線集材の見学等	【実習】(20分) 各班、机上で1/5000の図面に搬出系統図(集材線・路網)を記入	(20分) ふりかえり (四国森林管理局会議室)	研修担当	外部講師	外部講師	外部講師	研修担当
11/12 (木)	8:00～10:00 (120分) 現地(トイレイレ休憩含む) 【バスにて移動】 鳥ノ川山3229	10:10～11:10 (60分) 採材研修	11:10～11:50 (40分) 架線集材作業現場見学及び説明 (元柱付近)	11:50～12:30 (40分) 昼食	12:30～13:50 (80分) 架線集材作業現場見学及び説明(先柱付近)及び架線集材作業現場見学及び各班、事前に1/5000の図面に記入した、搬出系統図(集材線・路網)を現地踏査確認	14:00～16:00	16:10～16:40 (30分) 各班で現地踏査等を踏まえた、集材架線システムの資料作成 (四国森林管理局会議室)	16:40 ～17:00 (20分) ふりかえり (四国森林管理局会議室)	研修担当	研修担当
11/13 (金)	8:15～10:00 (105分) 各班で現地踏査等を踏まえた、集材架線システムの資料作成 (四国森林管理局会議室)	10:10～11:40 (90分) 各班発表 ①16名(4班) ②各班20分(10分:発表、8分質疑応答) ×4班=72分 ・講評:18分 (四国森林管理局会議室)	11:40～12:05 (25分) ・ふりかえり(10分) ・アンケート(10分) ・閉講式(5分) ・終了/解散 (四国森林管理局会議室)	研修担当	外部講師	外部講師	外部講師	外部講師	外部講師	外部講師
	8:00～10:00 (120分) 現地(トイレイレ休憩含む) 【バスにて移動】 鳥ノ川山3229	10:10～11:10 (60分) 採材研修	11:10～11:50 (40分) 架線集材作業現場見学及び説明 (元柱付近)	11:50～12:30 (40分) 昼食	12:30～13:50 (80分) 架線集材作業現場見学及び説明(先柱付近)及び架線集材作業現場見学及び各班、事前に1/5000の図面に記入した、搬出系統図(集材線・路網)を現地踏査確認	14:00～16:00	16:10～16:40 (30分) 各班で現地踏査等を踏まえた、集材架線システムの資料作成 (四国森林管理局会議室)	16:40 ～17:00 (20分) ふりかえり (四国森林管理局会議室)	研修担当	研修担当

技術力維持・向上対策研修(実践研修)の概要

四国ブロック

講義等名	地形に応じた効率的な架線と作業路網を組み合わせた集材作業システムと木材流通について				
研修場所	高知市、須崎市	実施日	11月11～13日	該当する大目標	循環的な木材生産の戦略を描ける能力の習得
【研修のねらい・目標】					
急峻な地形に応じた効率的な架線系と作業路網を組み合わせた集材作業システムや大型製材工場の木材利用・流通事情について現地検討・意見交換を行い、地域における木材の安定供給について実践的な指導・助言ができる人材の育成を図る。					
【本研修の必要性】					
<p>四国においては、地形が急峻な箇所が多いなか地域の特性に応じた、効率的な架線集材システム、現地特性に応じた林業機械の組み合わせによる生産の効率化等が課題となっていることから、架線集材、高性能林業機械等を組み合わせた事業現場で現地検討等を行う。</p> <p>また、大型製材工場や木質バイオマス発電所が操業開始後、約8カ年が経過、その後他県においても大型工場やバイオマス発電プラント等が操業されていることから、最新の木材利用・流通事情及び今後の動向等について、情報を共有し、それぞれの地域における取組に資する。</p>					
【カリキュラムのポイント】					
[1日目]					
【講義】					
①大型製材工場の現状と課題〔外部講師〕					
②架線系作業システムについて説明(コスト計算に必要なデータは、内部講師より提供)〔内部講師〕					
③架線集材の基本(簡易な策張見学)〔内部講師〕					
④各班、机上で1/5000の図面に搬出系統図(集材線・路網)を記入する					
[2日目]					
【現地視察】					
①事業地の集材作業システムについて説明。〔外部講師(素材生産請負事業者)〕					
②各班、事前に1/5000の図面に記入した、搬出系統図(集材線)を現地踏査の上、再検討を行う。〔外部・内部講師〕					
③採材研修を実施〔外部・内部講師〕					
[3日目]					
【意見交換】					
①各班で現地視察等を踏まえた、集材架線システムの発表(コスト計算含む)の資料づくり。					
②発表・意見交換・講評					
【研修講師】					
砂田和之(株式会社サイプレス・スナダヤ 代表取締役社長)					
大川容平(高知県森林組合連合会 高幡共販所 所長)					
太郎田佑一(須崎地区森林組合 業務主任(造林・林産))					

Ⅱ. 各ブロックの研修実施状況

実践研修の実施状況を共有する資料として、各ブロックの研修の概要をまとめた「実施報告書」、研修運営を通じた問題点と改善策をまとめた「運営改善報告」、受講生のアンケートを集計した「アンケート結果」を作成した。

なお、「実施報告書」は、受講生サイトに掲載した。

1. 北海道ブロック

(1)実施報告書

実践研修 実施報告書(北海道ブロック)

- 1 日程・研修場所 令和2年9月1日(火)～9月3日(木)
研修会場 函館コミュニティプラザGスクエア イベントスペースB(北海道函館市)
現地実習 城岱国有林2098林班外(北海道亀田郡七飯町)

- 2 研修受講者数:12名 [男性:10名 女性:2名]
(道職員10名、森林管理局職員2名)

北海道	10名	森林管理局	2名
-----	-----	-------	----

途中欠席者数 0名

3 研修実施概要

○研修運営状況、研修生の様子など

- ・1日目は開講式の後、受講生は自己紹介カードを使って自己紹介を行った。工藤内部講師より「森林・林業の背景・現状に関する基礎知識」についての講義が行われ、嶋瀬外部講師から「木材需給・流通に関する基礎知識」についての講義が行われた。次に、長崎内部講師より、国有林での低コスト施業の事例の紹介があった。その後、各班ごとに机上で施業計画案の作成を行った。
- ・2日目は貸切バスを利用して、七飯町国有林へ移動し、現地演習を行った。研修スタッフよりスケジュール等の説明が行われた後、班ごとに分かれ、前日に作成した施業計画案修正のため、現地確認を行った。次に北斗市の谷口精光園へ移動し、コンテナ苗の生産現場の見学を行った。見学後は会場へ戻り、最終案に向けての検討を行った。
- ・3日目は各班ごとに発表・質疑応答を行った。発表後、嶋瀬外部講師らによる各班の施業計画案についての講評及び今後の留意点等の補足が行われた。講評を受けて、受講生より最終的な意見等を交換・共有を行い、当研修は閉講した。

○今回の研修の工夫

- ・施業計画案を検討する際、「計画の各項目(伐採・更新・保育)に、森林総合監理士として、どのように応えるか考える」との研修であることを1日目のイントロで説明し、受講生の思考の目合わせを行った。
- ・全天球カメラを受講生に使用させた(使用経験者が少なかったため関心が高かった)。
- ・施業計画案の考え方に唯一の正解は無いものの、複層林への誘導、造林コストの低減、木材需給・流通についても、施業案作成の際に考慮するよう導いた。

4 記録写真



嶋瀬外部講師による講義:1日目



グループワークによる施業計画の机上案作成:1日目



現地演習での机上案の確認・修正:2日目



コンテナ苗生産現場の見学:2日目



施業計画の修正と計画概要作成:2日目



検討結果の発表:3日目

(2)運営改善報告

研修に同行した運営補助者の所感、研修後のミーティングから問題点、改善策を取りまとめる

項目	問題点	今後に向けての改善策
研修テーマ・カリキュラム	特記事項なし。	○次年度以降も、研修テーマ(演習地)と講義内容が合致するよう検討する。
講義・演習	○予定時間を越えた講義があり、内容を含め検討が必要(少し詰め込みすぎた感あり)。	①講義内容については、外部講師との兼ね合いについても考慮する。 ②演習においては、「補助金」を考えずに検討することへの戸惑いの声が毎年度聞かれるため、次年度以降も、「森林総合監理士」の視点での研修であることを講義の中に盛り込む。
現地実習	○特になし(実習地と見学地への移動時間も程よく、実習に当てる時間を十分に取ることが出来た)。	○次年度以降も、移動時間を極力短縮し、現地確認や検討時間を確保する。また、トイレ休憩時間(場所)の検討を忘れないようにする。
その他	特記事項なし。	○次年度以降も、受講生への負担を減らす工夫(会場の設定や、交通機関、駐車場、現場用品の準備、宿泊場所など)をしていく。

(3)アンケート結果

回収率: 12名/12名 (100%)

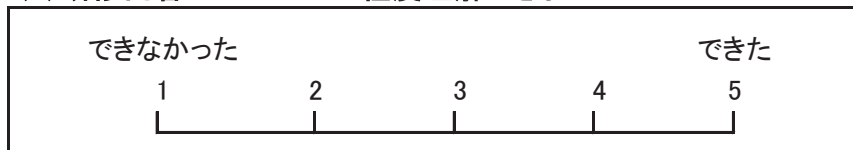
I 森林総合監理士資格の有無

(1)森林総合監理士資格の有無

- 1 : 森林総合監理士 (7 名)
- 2 : 資格なし (5 名)

II 本研修に対する理解度、活用度

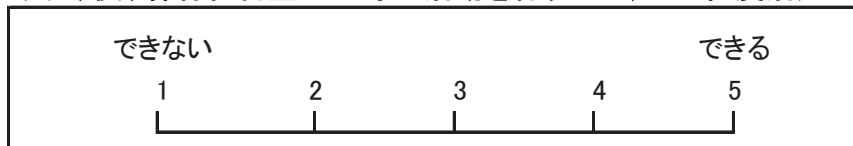
(1)研修内容についてどの程度理解できましたか？



平均: 4.1

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (2 名)
- 4 (7 名) 理解が足りない部分は資料で再確認したい／一部難しい部分もあったが理解できた
- 5 (3 名) 分かりにくい点は少なかった／かなり興味を引いて聞くことができた

(2)今後、森林総合監理士等の活動を行う上で、どの程度活用できそうですか？



平均: 3.8

- 1 (0 名)
- 2 (1 名) 研修の前提条件が実態と異なる
- 3 (4 名) 全天球カメラを使った林況調査／考え方の補強ができた
- 4 (4 名) コンテナ苗、林産の情報などに活用／森林所有者への提案に活用できる
- 5 (3 名) 森林総合監理士に求められていること、心構えを再考する良いきっかけとなった

Ⅲ 本研修に対する全体としての満足度、運営に対する評価

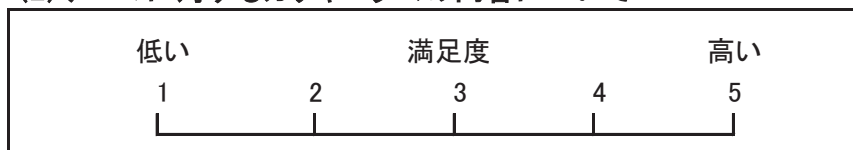
(1)テーマの設定について(※森林総合監理士等の活動を行う上での評価として下さい)



平均: 3.8

- 1 (0 名)
- 2 (1 名) 森林総合監理士の業務よりプランナーに近いと感じた
- 3 (2 名) 高齢級林分への対応は地域でも求められている
- 4 (8 名) 高齢級人工林は全道的に問題となっている／伐採と更新方法は最重要テーマ
- 5 (1 名)

(2)テーマに対するカリキュラムの内容について



平均: 3.7

- 1 (0 名)
- 2 (2 名) 国有林の事例を現地で見たかった
- 3 (2 名) 時間が少ない分、密度が濃く充実感があった
- 4 (6 名) 木材需要の知識が少なく講義はとても参考になった／実践すべき内容だった
- 5 (2 名) 一つの森林に対しても色々な見方があることを学んだ

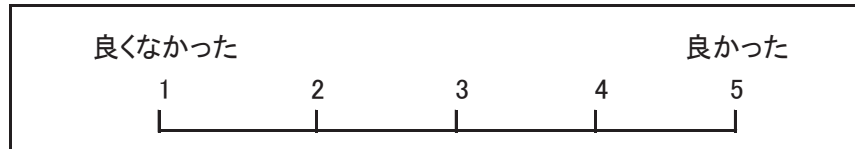
(3)カリキュラムの時間について



平均: 2.6

- 1 (1 名) 時間が少なく、現地も見きれないところがあった
- 2 (6 名) 木材流通の講義、グループ討議の時間が短い／質問時間が少なかった
- 3 (3 名) 時間が少ない部分もあったが3日間という内容ではちょうど良いと思う
- 4 (1 名) 適正だったと思う
- 5 (1 名)

(4) 研修の進行・運営の流れについて



- 1 (0 名)
- 2 (2 名) 色々気遣いを感じたが、後から補足することが多かった
- 3 (3 名) 進行役の方が丁寧で良かった
- 4 (4 名) 状況に応じた対応をしてもらうなどスムーズな流れで進行されていた
- 5 (3 名) 時間がない中でも進行がスムーズだった

IV その他

自由に感想をお書き下さい。(研修の中で特に印象に残ったこと、来年に向けての提案等)

- ・各地で様々な経験を持っている方とお話する良い機会となった
- ・森林環境贈与税を導入すべき森林について今回の研修を通して見えてきたような気がした
- ・川中、川下のことを考え、川上をデザインする必要があると感じた
- ・森林総合監理士としての視点等について改めて認識したことが多くあった
- ・盛土地拵も見学したい。ドローンを活用した内容を加えてほしい
- ・全天球カメラの有効性は本研修の本題ではないので、3日目発表終了後、講評前に時間調整的に行って良いのではないかと
- ・国有林、道有林、民有林と3者の受講生でやってみてはどうか
- ・1泊2日で良いのでカリキュラムをしばって時間をかけてやったほうが良いのではないかと(現地調査、立木評価、プレゼン)
- ・事前に地域の現状を把握するよう通知されていたが、研修内で触れられなかった
- ・コストの話をするのであれば標準単価や簡単に積算できるようにすべき。そうではなくて、低コスト施業の事例を勉強するだけなのか。研修を始める際に目的(着地点)が説明されているがよく分からなかった
- ・遠方から参加する以上、フルに時間を使ってほしい
- ・全道での研修も大事かと思うが各地区での研修会を開催してほしい
- ・研修の実施時期は北海道庁の出席者側は厳しい時期(造林検査)だったので配慮してもらえるとありがたい

2. 東北ブロック

(1)実施報告書

実践研修 実施報告書(東北ブロック)

- 1 日程・研修場所 令和2年9月2日(水)～9月4日(金)
研修会場 アイーナ いわて県民情報交流センター 会議室501(岩手県盛岡市)
現地実習 雫石町御明神荒沢山国有林735は1林小班外(岩手県岩手郡雫石町)

- 2 研修受講者数:13名 [男性:11名 女性:2名]
(県職員7名、市職員1名、森林管理局職員1名、民間事業者4名)

青森県	2名	岩手県	3名	宮城県	1名	福島県	1名
盛岡市	1名	森林管理局	1名	民間事業者	4名		

欠席者数 1名

3 研修実施概要

○2日目の現地踏査で天候を考慮した時間配分の調整を行ったが、予定どおりにカリキュラムを修了した。

○研修運営状況、受講生の様子

・1日目は、開講式で東北森林管理局東海林課長が挨拶を行った後、講義に先立ち中嶋企画官から研修主旨等の説明があった。岩手大学斎藤講師の講義では、近年の情報化技術を用いた路線配置計画について行われ、現地実習での森林作業道の配置図の作成を班ごとに検討・作成した。

・2日目は、実習地へ移動し、斎藤講師によるスマートフォン等を活用した現地踏査方法等の説明、操作確認を行った後に、各班で予定線形ルートを踏査した。

・3日目は、現地での踏査結果をもとにして森林作業道の配置図を作成し、所有者への説明を想定した発表を班ごとに行った。終了後、斎藤講師による講評・補足説明が行われ講義が終了した。その後、アンケートと振り返りシートの記入を行い、閉講式では、林野庁高麗課長補佐、東北森林管理局東海林課長から挨拶があり、記念撮影後、研修の全日程を終了した。

・全体としては、ほぼ時間通りに進行され、参加者間の積極的な質疑のある活発な研修であった。

・新型コロナウイルス感染症予防対策については、事前の検温シートへの協力のほか、注意事項による説明、会場内の各除菌対応等を行った。

○今回の研修の工夫点

・事前に当日の進行や利用施設についての確認と現地確認を行った。

・新型コロナウイルス感染症予防対策として、事前に掲示物や備品等の確認を行い備えた。

4 記録写真



講義「森林作業道配置計画の基礎知識」:1日目



現地に関わる資料や着眼点等の説明:2日目



演習「森林作業道配置図の作成等」:2日目



現地実習「森林作業道配置の現地検討～情報化技術を用いた現地踏査～」:2日目



森林作業道配置計画の発表:3日目



集合写真:3日目

(2)運営改善報告

研修に同行した運営補助者の所感、研修後のミーティングから問題点、改善策を取りまとめる

項目	問題点	今後に向けての改善策
研修 キテ キュ ラマ ム・カ	①本研修を受講したうえで、自分の守備範囲をどうしていくかということを明確にさせたい。 ②林野庁担当者から、挨拶を開会式で行いたい(研修の目的を事前に説明したい)との要望があった。	①日々の業務に関連付けるなど、もっと興味を持たせられるように研修内容等を工夫していく必要がある。 ②研修スケジュールの見直しを検討する。
講義・ 演習	①受講生から、GISの操作時間がもっと欲しかったとの声があった。 ②班の作業パソコンを操作者一人が独占する状態になってしまう。	①日程の問題で、QGISの説明にはあまり時間が取れないため、受講生募集の段階で、ある程度QGISの知識があることを前提にした方が望ましい。 ②モニターを用意等、班全体でパソコン画面を見られるように工夫する必要がある。
現地 実習	①受講生から、現地実習の時間がもっと欲しかったとの声があった。 ②計画通りにすべて踏査できなかった班がみられた。	①今回は悪天候の影響もあり、現地実習の時間を1時間ほど早く切り上げたが、2泊3日の日程では、今回の予定時間以上は確保しにくい。 ②無理にすべて踏査する必要はないが、時間配分等も計画時点で考慮する必要がある。
その他	○コロナ対策について、グループワークでの距離が近くなってしまうことなど、対策が難しい点があった。	○グループワークの距離等は仕方ない部分ではあるので、マスクやフェイスシールドの着用の徹底や、こまめな消毒の徹底を引き続き呼び掛けることで対応を考える。

(3)アンケート結果

回収率:13名/13名(100%)

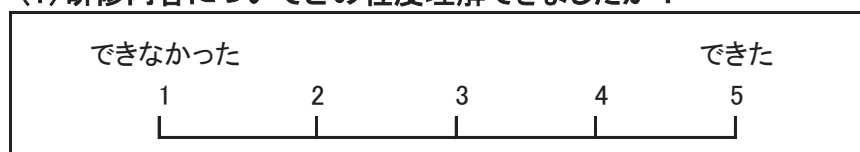
I 森林総合監理士資格の有無

(1)森林総合監理士資格の有無

- 1 : 森林総合監理士 (5名)
- 2 : 資格なし (8名)

II 本研修に対する理解度、活用度

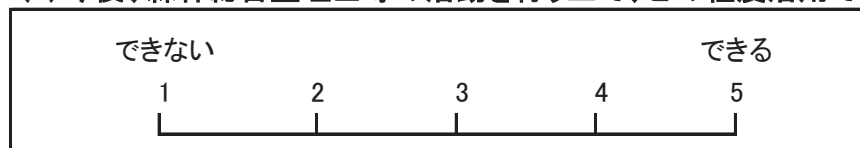
(1)研修内容についてどの程度理解できましたか？



平均: 3.9

- 1 (0名)
- 2 (0名)
- 3 (2名) ある程度理解したが、繰り返し勉強してさらに理解を深めたい
- 4 (10名) 道の考え方や便利なツールの紹介があり有意義だった／新しい技術が勉強できた
- 5 (1名) 作業量作設の考え方が理解できた

(2)今後、森林総合監理士等の活動を行う上で、どの程度活用できそうですか？



平均: 4.1

- 1 (0名)
- 2 (0名)
- 3 (1名) 市町村や森林組合への説明に利用したい
- 4 (9名) 路網計画の審査・指導に活用できる／省力化につながる技術で広く普及したい
- 5 (2名) GISを活用すれば通常業務の幅が広がると感じた

Ⅲ 本研修に対する全体としての満足度、運営に対する評価

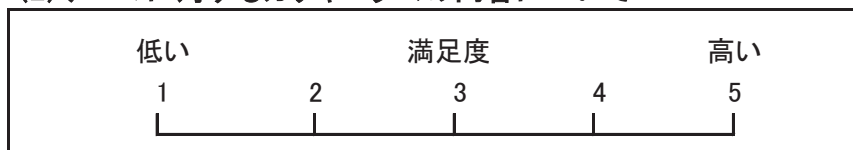
(1) テーマの設定について(※森林総合監理士等の活動を行う上での評価として下さい)



平均: 4.1

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (1 名) 災害発生リスクや収益を考慮する必要性を考えさせられたよい研修だった
- 4 (9 名) 現場で求められるタイムリーなテーマ/データとデバイスの併用は説得力がある
- 5 (2 名) 路網のことを学びたかったのでありがたい/地形の見方への理解が深まった

(2) テーマに対するカリキュラムの内容について



平均: 4.2

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (1 名) 現地の時間をもっと増やしたらさらによい
- 4 (9 名) これまで活用したことのないソフトについてとても勉強になった
- 5 (3 名)

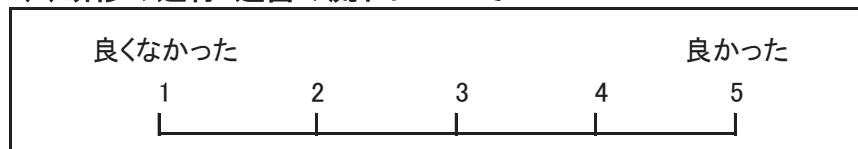
(3) カリキュラムの時間について



平均: 3.8

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (3 名) 現地の時間がもう少しあるとよい
- 4 (9 名) ちょうどよい/もう1日あるとQGISに関する内容が充実すると思った
- 5 (1 名)

(4) 研修の進行・運営の流れについて



- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (2 名) 適切だった
- 4 (4 名) スムーズな進行・運営だった
- 5 (7 名) 大変良かった

IV その他

自由に感想をお書き下さい。(研修の中で特に印象に残ったこと、来年に向けての提案等)

- ・ 開設場所の検討の大切さを学んだ。災害の起きにくい、使いやすい作業道の開設に役立てたい
- ・ 地山の可視化のデータが路線選定に非常に有効なツールだと感じた
- ・ 林業業務経験と知識が浅く不安だったが、非常に理解しやすく吸収しやすい内容であり楽しく受講できた
- ・ とても興味深く学ばせていただいた。Avenza Mapsなどは、関係職員へ広く情報提供し、普及するべきだと感じた
- ・ GIS活用前提であれば、ある程度GISの話と合わせてやった方が更に実務的な研修になると思う
- ・ QGISやAvenza Maps等を利用した森林調査をメインにした研修を検討してほしい
- ・ ドローンを活用した技術研修を希望したい
- ・ 航空レーザーの有効性は認識していたので、広く一般（市町村等）にも知られるよう、研修を続けてほしい
- ・ 森林総合監理士の活躍の実務的な展開・方法の具体化が必要ではないかと感じた（林政アドバイザー業務など）

3. 関東ブロック

(1)実施報告書

実践研修 実施報告書(関東ブロック)

- 1 日程・研修場所 令和2年10月14日(水)～10月16日(金)
研修会場 利根沼田文化会館(群馬県沼田市)
現地実習 利根郡昭和村赤城山第2国有林159い4林小班外(群馬県利根郡)

- 2 研修受講者数:9名 [男性:9名]
(県職員3名、森林管理局職員1名、民間事業者5名)

埼玉県	1名	神奈川県	1名	山梨県	1名	森林管理局	1名	民間事業者	5名
途中欠席者数 0名									

3 研修実施概要

○研修運営状況、研修生の様子など

・1日目は、開講式・オリエンテーションの後、岡講師による「シカの生態と被害の現状」、並びに飯島講師より「捕獲と密度管理」「防除対策事例とコスト」の講義が行われた。

・2日目は、貸切りバスで赤城山第2国有林へ移動し竹之内局講師より現地演習を行った。また、当日捕獲したシカの個体観察やとめさし器具の使用方法などの説明を行った。その後、3班に分かれ対象林分を踏査し「シカ被害対策全体構想」の検討を行った。午後は研修室へ戻り、飯島講師よりプレゼン資料作成に関する林分状況の解説・補足及び計画シミュレーション(各班にPC1台用意、Excel作成)についての説明が行われた。その後、現地演習の踏査結果を基に、班毎に現況とシカ捕獲、防除対策、モニタリングの実施の有無や方法を検討し、発表資料の作成を行った。

・3日目は、前日に作成した「ニホンジカ被害対策全体構想」について班毎に発表とディスカッションを行った。最後には、各外部講師より講評があり、主伐再造林を実施するにあたり、シカ被害対策への知識・技術等の習得と科学的知見に基づき各関係機関と連携し効率的な森林管理を行っていく事が重要であると述べられた。

・全体としては、現地演習やグループワークで班内受講生同士のコミュニケーションが良く取れスムーズに研修を進めることができ、講義・演習共に質問等が活発に行われた。

○今回の研修の工夫点

・現地演習地図等を模造紙サイズに拡大印刷し、講義及び現地演習で受講生に理解しやすいよう掲示した。

・現地での演習時間を長く確保するため演習地での昼食とした。

4 記録写真



岡講師による「被害対策全体構想」に関する講義:1日目



現地実習(シカ被害の調査方法と行動特性観察):2日目



現地実習(シカ捕獲個体の観察及びとめさし方法説明):2日目



踏査結果による計画シミュレーション作成の様子:2日目



発表準備のグループワークの様子:2日目



現況の判断とシカ捕獲、防除対策、モニタリングの実施方法の検討についての発表風景:3日目

(2)運営改善報告

研修に同行した運営補助者の所感、研修後のミーティングから問題点、改善策を取りまとめる

項目	問題点	今後に向けての改善策
研修テーマ・カリキュラム	①3日間(実質2日)の研修では短いと言う意見があった。 ②研修時間の効率を考慮し、事前学習実施の可否について意見があった。	①3日目の終了時間延長等も検討する。 ②事前学習の実施について検討する。
講義・演習	①2日目演習時の計画シミュレーション作成に時間がかかり過ぎた。 ②意見や質問が多く休憩時間を省略した場面があった。	①計画シミュレーションの簡素化を検討する。 ②質問時間等の時間配分を検討する。
現地実習	特記事項なし。	特記事項なし。
その他	○研修全体のふりかえり(最終日のふりかえりシート)はあったが、3日目の研修のふりかえりシートがないため、各班の発表などに関する意見や感想がないという意見があった。	○3日目のみの「ふりかえりシート」を検討する。

(3)アンケート結果

回収率:9名/9名(100%)

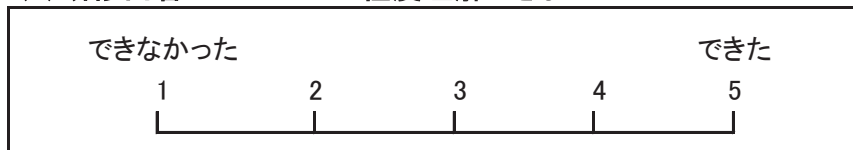
I 森林総合監理士資格の有無

(1)森林総合監理士資格の有無

- 1 : 森林総合監理士 (2名)
- 2 : 資格なし (7名)

II 本研修に対する理解度、活用度

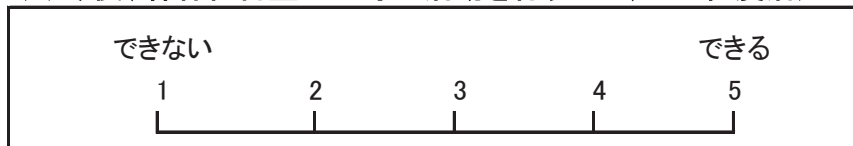
(1)研修内容についてどの程度理解できましたか？



平均: 4.4

- 1 (0名)
- 2 (0名)
- 3 (0名)
- 4 (5名) シカ対策の重要性がよく分かった/生態、対策、試験など多くを学べた
- 5 (4名) 講師陣の話は分かりやすく質問に対する回答も明確だった

(2)今後、森林総合監理士等の活動を行う上で、どの程度活用できそうですか？



平均: 4.1

- 1 (0名)
- 2 (0名)
- 3 (2名)
- 4 (4名) 森林総合監理士として知識の補強ができた/今後の森林組合指導等に役立てたい
- 5 (3名) 各種事業へ活用できると思う

Ⅲ 本研修に対する全体としての満足度、運営に対する評価

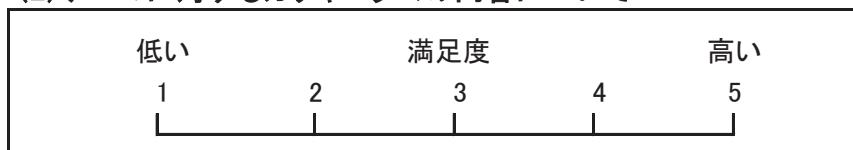
(1) テーマの設定について(※森林総合監理士等の活動を行う上での評価として下さい)



平均: 4.7

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (0 名)
- 4 (3 名) シカの問題は適切だった/説明の仕方が分かりやすく簡潔だった
- 5 (6 名) 近年の重要な課題である/これからの林業には必要な知識

(2) テーマに対するカリキュラムの内容について



平均: 4.4

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (0 名)
- 4 (5 名) 実践的な内容でよかった/順序よくまとめられていた
- 5 (4 名) 分かりやすく様々な箇所での応用が効きそう

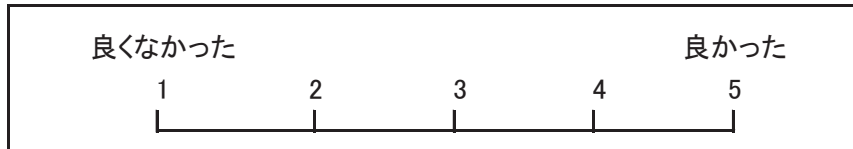
(3) カリキュラムの時間について



平均: 4.2

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (2 名) 適切だった
- 4 (3 名) 内容が充実し時間配分も負担が少なく良かった
- 5 (4 名) ちょうどよい

(4) 研修の進行・運営の流れについて



平均: 4.4

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (1 名)
- 4 (3 名) カリキュラムに記載された内容が全てできたので良かった
- 5 (5 名) スムーズで特に問題ないと思われる／グループ討議が活発にできた

IV その他

自由に感想をお書き下さい。(研修の中で特に印象に残ったこと、来年に向けての提案等)

- ・ 大変楽しく有意義な研修だった
- ・ 電動一輪車は色々なことに役立ちそう
- ・ シカの獣害被害の決定的対策、シカの生態系を詳しく説明してほしい
- ・ 重要な問題は常に出てくるので、今後も色々な情報を提供してもらいたい
- ・ 各者(国、県、民、団体)の現状や動向について事前に知ることができたらよかった
- ・ あらかじめ研修資料を送付していただければなおよかった

4. 中部ブロック

(1)実施報告書

実践研修 実施報告書(中部ブロック)

- 1 日程・研修場所 令和2年9月16日(水)～9月18日(金)
研修会場 中津川市にぎわいプラザ(岐阜県中津川市)
現地実習 湯舟沢国有林2206い林小班外(岐阜県中津川市)

- 2 研修受講者数:12名 [男性:10名 女性:2名]
(県職員10名、森林管理局職員1名、民間事業者1名)

福島県	1名	静岡県	2名	岐阜県	3名	愛知県	1名	滋賀県	1名
和歌山県	1名	奈良県	1名	森林管理局	1名	民間事業者	1名		

途中欠席者数 0名

3 研修実施概要

○研修運営状況、研修生の様子など

- ・1日目は欠席・遅刻なく集合し、川戸英騎森林整備部長の挨拶の後、伐採・造林一貫作業システム、採材・仕分けの講義や伐採計画の演習などを行った。
- ・2日目は、現地到着時に小雨が降っていたが、その後は降雨もなくスムーズに現地研修が進められた。伐採・造林一貫作業システム計画箇所の現地検討後、木曽官材市売協同組合において採材・仕分け流通について講義と土場の視察を行い、研修会場に戻り発表準備をまとめた。今年も3日間を通して班ごとに専属の講師がついたことから、細やかな指導を受けることができた。
- ・3日目は、各班の発表に対し活発な意見交換や質問等が行われた。発表後の講師陣からのフィードバックも行われ、短時間ながら充実した内容となった。
- ・全体としては、研修時間が短い中でも内容の濃い研修が行われた。受講生は、健康状態等問題なく全員が最後まで受講することができた。コロナ禍の中だったが、ソーシャルディスタンスを保ちながら、受講生同士の交流やコミュニケーションが積極的に取れていた。

○今回の研修の工夫点

- ・コロナ禍のために研修会場の貸し出し許可がおりず、2箇所会場を仮予約した。最終的には会議室の変更はあったものの、第1希望の研修会場を借りることができた。
- ・会場及び移動時において、コロナ感染防止及びCSF(豚熱)対策の実施と、参加者への注意喚起を行った。また、フェイスシールドも配布し、机上演習等でも対策を行った。

4 記録写真



開講式: 1日目



演習の様子: 1日目



現地検討、伐採・造材の一貫作業: 2日目



現地検討・市場視察: 2日目



発表の様子: 3日目



集合写真: 3日目

(2)運営改善報告

研修に同行した運営補助者の所感、研修後のミーティングから問題点、改善策を取りまとめる

項目	問題点	今後に向けての改善策
研修 キ テ ラ マ ム ・ カ リ	○パソコンが各班1台のため、情報共有が難しい	○予算の関係もあるが、モニターの設置や印刷物の配布などが考えられる
講 義 ・ 演 習	①ドローンを使ったデータがあると理解しやすかった ②架線集材を実際に見た人が少なかった ③伐造一貫作業を実施している業者の話を知るとよかった	①編集等作業に時間がかかるが検討する ②映像があれば準備したい ③研修時期に施業している業者がいれば依頼していきたい
現 地 実 習	特記事項なし。	特記事項なし。
そ の 他	○空調機器の音が大きく気になった	○コロナ感染・対策の状況によっては昨年度までの部屋の使用を検討したい

(3)アンケート結果

回収率:12名/12名(100%)

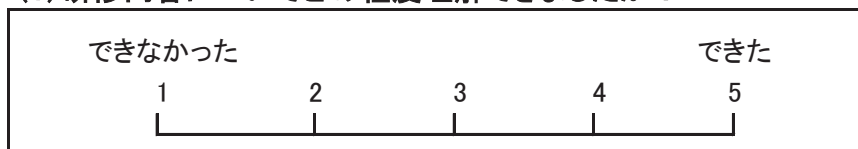
I 森林総合監理士資格の有無

(1)森林総合監理士資格の有無

- 1 : 森林総合監理士 (6名)
- 2 : 資格なし (6名)

II 本研修に対する理解度、活用度

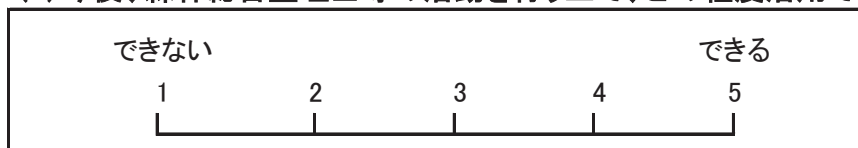
(1)研修内容についてどの程度理解できましたか？



平均: 3.8

- 1 (0名)
- 2 (0名)
- 3 (3名) 架線集材について何の知識もなかったが、講師の方がていねいに教えてくれた
- 4 (8名) 主伐・再生林の基本を理解することができた／架線計画の立て方なども理解できた
- 5 (1名) 時間配分が良く落ち着いて学べた

(2)今後、森林総合監理士等の活動を行う上で、どの程度活用できそうですか？



平均: 4.1

- 1 (0名)
- 2 (1名)
- 3 (2名) 索道による集材の知識がなく、事業者との施業方法検討の引き出しが増えた
- 4 (4名) 平均勾配の算出方法は現場で活用できる／どのような情報が必要かイメージできた
- 5 (5名) 架線現場の設計指導・巡回指導に活用できる／架線系を選択肢にできる

Ⅲ 本研修に対する全体としての満足度、運営に対する評価

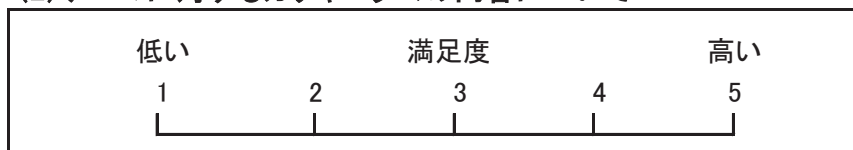
(1) テーマの設定について(※森林総合監理士等の活動を行う上での評価として下さい)



平均: 4.1

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (2 名) 架線システムの一環施業をもう少し掘り下げてほしい
- 4 (7 名) 馴染みのない架線集材を体験できて良かった／造林経費の削減面からも良かった
- 5 (3 名) 販路まで見据えた一環施業は地元でも要望が多く非常にありがたかった

(2) テーマに対するカリキュラムの内容について



平均: 3.8

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (6 名) 設計はとても勉強になった／一貫施業に取り組んでいる事業体の話が聞きたかった
- 4 (3 名) 講義→演習→実習→発表の形式が良かった／架線の基本を習得後、演習したかった
- 5 (3 名) 短い日数での厳選された内容だった

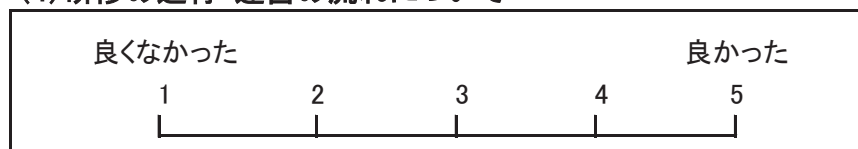
(3) カリキュラムの時間について



平均: 3.8

- 1 (0 名)
- 2 (1 名) 検討内容が多く、3日間では理解しきれない部分もあった
- 3 (3 名) 現場での作業手順を写真・動画で紹介する時間を中心に配分してほしい
- 4 (6 名) 少し短い気がするが参加しやすく集中できた／発表準備の時間をもう少し長く
- 5 (2 名) 現地検討の時間が十分とられていたのが良かった

(4) 研修の進行・運営の流れについて



- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (1 名) とても良かった
- 4 (5 名) 各班に講師の方が専任でついていただいたのがとても良かった
- 5 (6 名) コロナ対策を取りながらもスムーズに受講することができた

IV その他

自由に感想をお書き下さい。(研修の中で特に印象に残ったこと、来年に向けての提案等)

- ・ 2日目の現地検討は今後の役に立ちそうで、非常に良かった
- ・ 講師から架線集材、販売について、きめ細かなアドバイスをいただいた
- ・ 1班に1人講師がつき、質問しやすかった
- ・ 発表、意見交換は様々な意見が出て良かった
- ・ 今後もこのような研修に定期的に参加したい
- ・ 様々な点でコロナ感染防止対策に配慮いただいた
- ・ 受講生同士で意見交換する時間をもっと設けてほしかった
- ・ コスト計算をカリキュラムに加えてほしかった
- ・ 計画と実行で変わった点、工夫した点が良い計画を立てるためのノウハウになるため、既施業地についての計画内容と実行者(受注者)の感想・意見をまとめた方が良いと思う
- ・ ドローンによる苗木運搬などが実用化できそうなので、研修で取り上げてほしい
- ・ 集材方式や用語(器械の名称)などの資料があるとありがたかった

5. 近畿中国ブロック

(1)実施報告書

実践研修 実施報告書(近畿中国ブロック)

- 1 日程・研修場所 令和2年9月8日(火)～9月10日(木)
研修会場 岡山県新見市高尾 新見商工会館 会議室(岡山県新見市)
現地実習 古谷国有林527林班(岡山県新見市大佐上刑部)

- 2 研修受講者数:9名 [男性:8名 女性:1名]
(府県職員5名、森林管理局職員2名、民間事業者2名)

京都府	1名	兵庫県	2名	岡山県	2名	森林管理局	2名	民間事業者	2名
途中欠席者数 0名									

3 研修実施概要

○研修運営状況、研修生の様子など

・1日目、林野庁中村対策官の挨拶の後、オリエンテーション、ガイダンスを経て、森林管理局講師による「今後の森づくりの考え方について」、外部講師による「多様な森林づくりの構想について」の講義が行われた。「現地検討の進め方及び発表の取りまとめ方」の説明の中では、明日の現地検討地について、ドローンによる映像を使い説明を行った。その後、各班で机上での調査、検討を行い、1日目の研修を終えた。

・2日目、古谷国有林へバスで移動し、現地の概況説明の後、最初の1時間は全員で踏査し、後半は各班に分かれて各々の調査ポイントを調査した。昼食後、「天然力を活用した森林づくりの踏査」を行い、質疑応答の後、帰路についた。研修会場では、各班持ち帰った情報を共有、とりまとめをし、明日の発表の準備を行った。

・3日目、日程説明の後、各班で発表の準備を行った。発表は一班から発表し、質疑応答が活発に行われた。最後に講師陣による講評の後、閉講式が行われ、研修の全日程が終了した。

・全体としては、スムーズな進行となった。新型コロナウイルス感染症の影響で参加者が少なかったが、全員が作業に参加し活発に意見を述べるなど、充実した研修となった。

○今回の研修の工夫点

- ・現地踏査の際、最初に全員で歩き現場の状況、概況を共有・把握することができた。
- ・新型コロナウイルス感染症対策として、体温計を設置し、会場入室時に検温、記録した。また、各テーブルに消毒液、除菌ウェットシートを置き、研修終了時には机や椅子などの除菌を行った。

4 記録写真



ドローン撮影映像による説明:1日目



外部講師による講義:1日目



現地検討 概況説明:2日目



現地検討を踏まえたグループ討議:2日目



発表・意見交換 1班発表:3日目



発表・意見交換 2班発表:3日目

(2)運営改善報告

研修に同行した運営補助者の所感、研修後のミーティングから問題点、改善策を取りまとめる

項目	問題点	今後に向けての改善策
研修テーマ・カリキュラム	<p>①発表がKP法で行う必要はあるか。パワーポイントに慣れている人の方が多いので、そちらでもよいのではないか。</p> <p>②山林所有者への説明を想定した発表ならば、所有者が一番知りたい情報はいくら収入が得られるかということになる。そのことについての材料が少ない。</p> <p>③広葉樹についての情報が少ない。</p>	<p>①パワーポイントの場合も検討する。</p> <p>②材価表などの資料を提示する。</p> <p>③広葉樹に関する資料を提示する。</p>
講義・演習	<p>○新型コロナウイルス対策で、受講生の間隔を全て2メートル開けて机の島を大きくしたことで、5人班の場合、一人が離れる形となり話に参加しにくくなった。</p>	<p>○班付講師による誘導で解消された。</p>
現地実習	<p>①天然力を活用した森づくりの説明箇所、ヤードが狭く、一班ごとの説明となり、班それぞれでの質問を共有できなかった。</p> <p>②踏査の際、今どこにいるか分からない受講生がいたのではないかと。もう少し分かり易くした方がよい。</p> <p>③踏査箇所の成長データなど、資料を配布したほうが良い。</p>	<p>①全ての班がそろった時点で質疑応答を行い、共有できるようにする。</p> <p>②持って歩く図面にポイントを落とし、現地でも場所が分かるようテープなどで印を付ける。班ごとにモバイルマップを携帯させる。</p> <p>③27年までの成長データを提供する。</p>
その他	<p>○研修資料に通し番号を記載してほしい。</p>	<p>○全ての講義資料に通し番号を入れるには、資料の作成者が異なることで印刷のタイミングがずれることや、印刷時間に余裕がない場合は、難しい。図面にも資料番号を入れることで、参照箇所・頁を指定しやすくなるよう徹底する。</p>

(3)アンケート結果

回収率:9名/9名(100%)

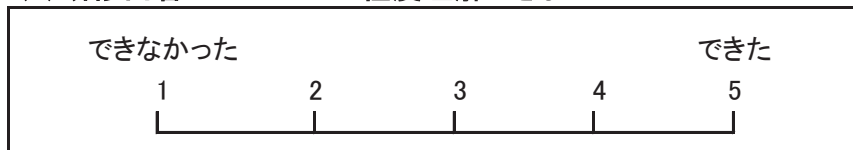
I 森林総合監理士資格の有無

(1)森林総合監理士資格の有無

- 1 : 森林総合監理士 (2名)
- 2 : 資格なし (7名)

II 本研修に対する理解度、活用度

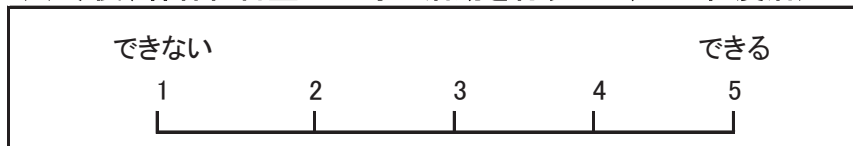
(1)研修内容についてどの程度理解できましたか？



平均: 4.0

- 1 (0名)
- 2 (0名)
- 3 (1名)
- 4 (7名) 現地で実際に実物を見て説明を受けることができる等理解が進みやすかった
- 5 (1名) どの講義も大変分かりやすく勉強になった

(2)今後、森林総合監理士等の活動を行う上で、どの程度活用できそうですか？

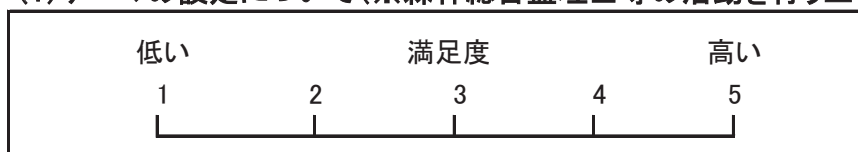


平均: 4.0

- 1 (0名)
- 2 (0名)
- 3 (1名) 直接すぐの活用はないが、今後はあると思う
- 4 (6名) 新たな森林管理システムの候補地等検討を行う際に活用していける
- 5 (1名) 学んだことをより深めて、現場に生かしていきたい

Ⅲ 本研修に対する全体としての満足度、運営に対する評価

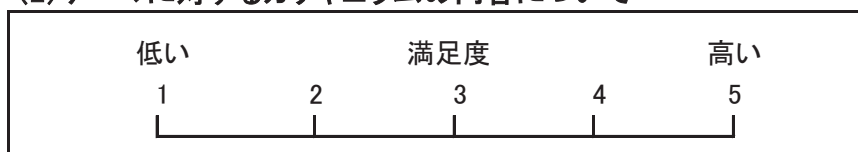
(1)テーマの設定について(※森林総合監理士等の活動を行う上での評価として下さい)



平均：4.4

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (0 名)
- 4 (5 名) 表題だけではイメージがしづらかったが、活動に活用できる内容だった
- 5 (4 名) 地位の違いがよく分かる現場で、地位の違いを実感できた

(2)テーマに対するカリキュラムの内容について



平均：4.3

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (1 名)
- 4 (4 名) 木材の販売価格を検討し所有者への収入の提案ができれば良かった
- 5 (4 名) 山づくりの今後を考える上で非常に参考になった

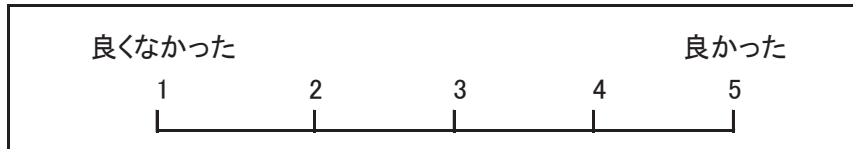
(3)カリキュラムの時間について



平均：4.1

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (2 名)
- 4 (4 名) 一歩進めた提案をする場合は、時間が不足するかもしれない
- 5 (3 名) 短い時間の中でも濃い内容だった／ちょうど良かった

(4) 研修の進行・運営の流れについて



平均: 4.9

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (0 名)
- 4 (1 名)
- 5 (8 名) 説明が丁寧／間延びせず、メリハリのあるスムーズな進行が参考となった

IV その他

自由に感想をお書き下さい。(研修の中で特に印象に残ったこと、来年に向けての提案等)

- ・ 広葉樹林化について様々なお話を聞くことができ、とても勉強になった
- ・ 様々な立場の人からの話や話し合いの場を通して大変刺激となった
- ・ 森づくりについて科学的に検討でき、今後の業務に生かせる知識や情報を多く学べたので、参加して良かった
- ・ 森林総合監理士の資格を有していないため、来年は受験しようと思う
- ・ 広葉樹の需要先等の話が聞けると良い
- ・ 市町村の林務担当との意見交換があると良い。研修にも参加してもらいたい
- ・ 新型コロナウイルスの影響で、意見交換の場が持てないことが残念だった

6. 四国ブロック

(1)実施報告書

実践研修 実施報告書(四国ブロック)

- 1 日程・研修場所 令和2年11月11日(水)～11月13日(金)
研修会場 四国森林管理局会議室(高知県高知市)
現地実習 島ノ川山国有林3229林班外(高知県中土佐町)

- 2 研修受講者数:16名 [男性:16名]
(県職員4名、町職員1名、森林管理局職員4名、民間事業者7名)

奈良県	1名	愛媛県	1名	福岡県	1名	大分県	1名	上勝町	1名
森林管理局	4名	民間事業者	7名						

途中欠席者数 0名

3 研修実施概要

○研修運営状況、研修生の様子など

・1日目は開講式後、砂田講師((株)サイプラススナダヤ)から動画によるCLTを中心とした製品需給状況の説明があった。その後、局駐車場内に設けたエンドレスタイラー式集材模型による研修とGISによる架線設計等についての講義が行われ、それらを基に各班が搬出系統図作成の演習準備を始めた。

・2日目は採材研修及び搬出系統等の資料作成に向け、実際に間伐施業を行っている島ノ川山国有林で現地実習を行った。採材研修は、経験豊富な受講生が多かったことから、急遽、各班2本づつの採材検討に変更した。現地実習終了後、会場に戻り、搬出系統等の資料作成作業を行った。

・3日目は前日の現地実習を踏まえ、班ごとに集材架線システム等の関連資料を作成後、発表・質疑応答と続き、全てのカリキュラムを終了した。

・全体としては、過年度と同じ2泊3日の日程の中で、前年の実績と改善を基にしたカリキュラムとすることで、実務への寄与度がより大きくなった内容であった。

○今回の研修の工夫点

・昨年、受講生の関心が高かった砂田講師の講義時間を30分延長し、活発な質疑応答が行われたことで、広範なCLT情報等が提供できた。

・各班の発表方法をKP法からパワーポイントでの発表に変更され、より技術水準の維持・向上につながった。

4 記録写真



砂田講師のCLT等川下状況説明:1日目



エンドレスタイラー集材模型による研修:
1日目



生産現場における採材研修:2日目



ダブルエンドレス方式集材架線の先柱での説明:2日目



現地確認を経て集材架線システム作設演習:3日目



各班作成の集材架線システム発表状況:
3日目

(2)運営改善報告

研修に同行した運営補助者の所感、研修後のミーティングから問題点、改善策を取りまとめる

項目	問題点	今後に向けての改善策
研修 キ ュ ー ラ マ ム ・ カ リ	特記事項なし。	特記事項なし。
講義 ・ 演習	○各班の演習パソコンに入れておくべきデータが入っておらず、演習が中断する場面があった。	○限られた時間内で演習がスムーズにできるよう、データ準備に抜けがないようにする。
現地 実 習	○現地実習地が変更になり、現地までの移動時間(往復約4時間)が長いことから、研修日程内でのカリキュラム実施がタイトになった。	○2泊3日の日程が受講生も参加しやすいことから、現地実習地に近い場所で研修を実施することも検討。今年度と同じ会場で次年度も実施する場合は、近傍の貯木場で川下側を関連付けた採材研修を実施する等、研修日程と合致したカリキュラム内容を検討する。
その他	○現場等の経験が豊富な受講生が多く、また、年齢・経験年数等の幅が広がったため、演習説明などで標準をどこに設定するか等、外部講師・内部スタッフ・運営側も対応が難しかった。	○受講生募集の段階において、本研修対象者(経験年数等)を具体的に示すことを検討する。他方、講師レベルの経験豊富な受講生の存在が、他の受講生にとって新たな情報及び経験習得といったメリットもあった。

(3)アンケート結果

回収率: 16名/16名(100%)

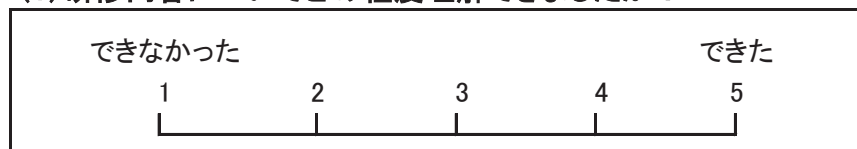
I 森林総合監理士資格の有無

(1)森林総合監理士資格の有無

- 1 : 森林総合監理士 (3名)
- 2 : 資格なし (13名)

II 本研修に対する理解度、活用度

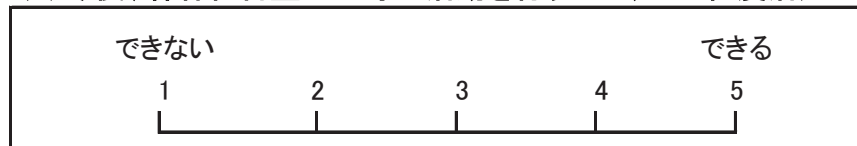
(1)研修内容についてどの程度理解できましたか？



平均: 3.3

- 1 (0名)
- 2 (2名) 理解はできるが活用としては難しかった
- 3 (8名) 搬出の計画は難しかったがとても勉強になった／設定を明確にしてもらいたい
- 4 (5名) 架線設置計画の概要を理解することができた
- 5 (1名)

(2)今後、森林総合監理士等の活動を行う上で、どの程度活用できそうですか？



平均: 3.3

- 1 (0名)
- 2 (3名) 森林経営計画の計画立案に一部参考にできる
- 3 (6名) 架線集材が必要な区域において指導ができる／業務内でコストを気にしていきたい
- 4 (5名) 間伐・皆伐を発注、施行する機会に集材手法を考え応用していきたい
- 5 (1名) 大いに役立つ

Ⅲ 本研修に対する全体としての満足度、運営に対する評価

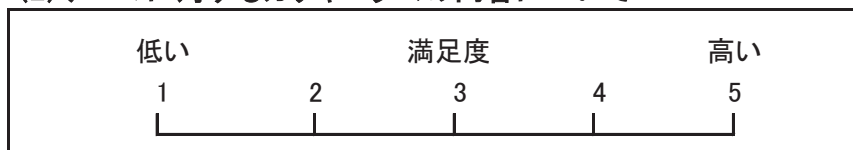
(1) テーマの設定について(※森林総合監理士等の活動を行う上での評価として下さい)



平均: 3.7

- 1 (0 名)
- 2 (1 名)
- 3 (6 名) 山での作業計画を立てていく中で大切だと思う
- 4 (6 名) 急峻な奥地人工林対策として有効/木材生産の実践を考えるうえで役立つ
- 5 (3 名) 実践できる内容だと思った

(2) テーマに対するカリキュラムの内容について



平均: 3.6

- 1 (0 名)
- 2 (1 名)
- 3 (7 名) 実際の現場が見られて良かったが遠かった/現場の時間がもっと取れるとよかった
- 4 (5 名) 現場指導に活用できる内容だった/現場の考え方等を聞くことができ刺激になった
- 5 (3 名) 現場も見ることができて良かったと思う

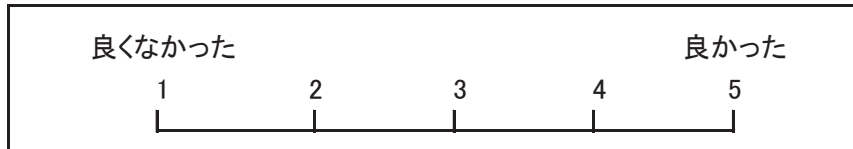
(3) カリキュラムの時間について



平均: 3.6

- 1 (0 名)
- 2 (3 名) 移動時間が長く、研修も詰め込み過ぎている気がした
- 3 (3 名) 現地実習がある場合の移動時間・方法について検討が必要ではないか
- 4 (8 名) 短い期間でも濃密な内容だった/発表に向けた検討時間がもう少しあってもよい
- 5 (2 名) 現地実習も予定されていた時間通りに進んだと思う

(4) 研修の進行・運営の流れについて



- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (6 名) 良かった／パソコンへのデータ取り込み等は先にしてほしかった
- 4 (3 名) 1日目はついていけなかったが2日目からは実際の演習ができて良かった
- 5 (7 名) スムーズに行われていた／フォローも細かくしていただけて良かった

IV その他

自由に感想をお書き下さい。(研修の中で特に印象に残ったこと、来年に向けての提案等)

- ・ 行政、民間の合同開催は非常に刺激になった
- ・ 生の意見が聞けて大変良かった
- ・ 現地実習において講師等の生の声を聞くことができ、現状をふまえて大変参考になった
- ・ 若干、専門的すぎる内容もあったと思うが実践的な研修になったと思う
- ・ 同じ班の人に様々なことを教えてもらいありがたかった。実際に仕事をしている人の考え方や言葉には力がある。他の班の人と交流できなかったのが残念だった
- ・ 班内のパソコンをもう少し多くしてはどうか
- ・ 現地実習地までが少し遠いと思った

Ⅲ. 主な意見と課題の整理及び総括

1. 外部講師の主な意見

今年度の研修内容、時間等に関し、外部講師から寄せられた主な意見を整理したものである。

意見等
1. 研修目標に見合った研修内容となっていましたか(受講生の印象、講師を担当しての感想を含む。)
研修目的に見合った研修内容になっていたと思う。 受講生の印象は、初対面の人たち同士で編成された班で、互いに打ち解けるまでにはそれ相応の時間が必要だが、グループ演習の開始後、ただちに役割分担が決まり、実質的な議論が始まり驚いた。課題であった施業案作成についても、班ごとにそれぞれが個性を有しつつも説得力のある計画が制限時間のうちに完成し、能力と意欲の高さを感じた。木材産業と木材市場(マーケット)の歴史を追ってきた講義は、「基礎知識」を謳いながらも、おそらくかなり個人的な内容であったと自認しているが、なぜそのような変わった話をするのかということについても、理解をしている手応えを感じた。
おおむね合っていた。
受講生の年齢層、所属等が昨年度の状況から予想していたものと違い最初は戸惑ったが、受講生の様子を見ながら引き込むことができ、全日程を完遂できた。また、座学、フィールド、グループワークとうまくつながっており、昨年度よりも洗練されていたのではないかと。
研修内容は適切だったと思う。講義、現地での確認、それを踏まえた演習という順序は、目的達成のために効果的だと思う。
昨年度と比較すると、すでに現場での実務経験がある受講生が多かったこともあり、現場で直面している問題について解決方法を得るため、質問や議論の方向性がより具体的だったのが印象的だった。一方で、シカ密度が非常に低い地域からの受講生は、シカの生態や行動特性に関するより広い知識を欲しているようだった。 今年度は多様なバックグラウンドをもつ受講生に最初は正直驚いたが、外部講師陣が現場での実践があるため、受講生のニーズに応えられたと感じた。
目標に見合った内容だった。受講生も活発に質疑をしていたので、興味を持ってもらえる内容と構成だったと思う。
個人的な反省点は、もう少し説明を分かりやすく話したらよかった。受講生に熟練者が多く、熟練者の目線で話が進んでしまい、分からなかった受講生が多かったと感じた。 研修内容は、架線を張っている現地より、これから施業する箇所、または施業が終わった箇所の方が各班の意見も違ってくるのではないかと考えた。
受講生の中に熟練者がいたことでスムーズに研修を進めることができた。また、その熟練者に引っ張られるように全員が意識高く受講できたのではないかと。ただし、中には進行が速すぎてついていけない受講生がいたのではないかと。

<p>2. 講義時間、実習現地等の設定は適切でしたか</p>
<p>意見等</p>
<p>もう少し余裕を持たせた方が受講生も運営側も楽ではないかと感じたが、時間当たりの研修効果を最大とする観点からすれば適切だったと思う。日程からみて詰め込みすぎの印象を持っていたが、受講生に十分な能力と意欲があったことで、それぞれの講義や実習に含ませられた意図や目的がしっかり受け止められており、消化不良に陥ることもなく、十分な研修効果があったのではないかと感じている。運営側に、長年の経験を通じて、受講生の能力や意欲についての見極めがしっかりできていたため、このような高密度・高レベルの研修が実現したものとする。</p>
<p>適切であったが、雨の場合、現地踏査が困難になるので対応方法を検討する必要がある。</p>
<p>適切だったと思う。講師陣からの講評の時間は事前にそれぞれが担当する時間を割り振って調整しておくべきだったと反省している。</p>
<p>おおむね適切だったと思う。ただ、最終日のスタッフミーティングで指摘があったように、エクセルのシミュレーションについては、操作性を向上させるなどして、作業にかかる時間を減少させる改善が必要だと思った。</p>
<p>講義時間と現地実習の時間は適切だったと思う。 グループワーク中、作業時間の配分が難しかったようだった。進行状況の確認をもう少し頻繁にするとよいかも。現地実習時に感じたのが、グループワークでの具体的な作業が把握できていないことだった。最終日のスタッフミーティングで話が出たが、例えば、1日目の講義で具体的な手順について説明し、2日目の現地実習の時に、現地調査と並行してグループワークでのまとめ方の方向性をグループ内で相談してもらおうということ、各班について講師が促す必要があるかもしれない。</p>
<p>受講生からすると、グループワークの時間が短いように感じられたかもしれない。最終日のスタッフミーティングで話があったように、グループワークで取り組む内容を事前に具体的に伝え、研修前にエクセルファイルを送付し慣れておいてもらうなどすると良いのではないか。</p>
<p>講義時間等は適切だと思う。ただ、実習現地等が少し遠かったのではないかと感じた(移動によりスケジュールがずれ込む)。</p>
<p>全体的にスムーズに進み、今回の形式であれば講義時間に関しては最適であったと思う。 研修場所についても、各班が広くスペースを確保できたので、時間、場所ともに最適であったのではないか。</p>

3. その他、お気づきの点や改善点等がありましたらご記入下さい

意見等

主催者・受講生にとっても、これ以上の研修日数は難しいと思うので、その制約の中では十分な研修効果が得られていたと感じている。受講生・主催者ともに、意識・練度が高く、スポーツ競技の強化指定選手向けに行われる強化合宿の趣を感じた。

各年度、研修にテーマが設定されることを少し不思議に感じていたが、研修に参加し、テーマが設定されていることがよく理解できた。今年度に関しては、時機を得た、適切なテーマであったと思う。次回以降、どのようなテーマになるのか楽しみだし、もし次回以降も機会があれば、自分もそのテーマをきちんと意識した講義内容にしていきたいと思う。

自分の反省として、元々タイトなスケジュールなので、講師が講義時間を厳守することが重要と感じた。

研修のテーマ設定の段階から関わっていないので何とも言えないが、どのようなニーズがあって内容を設定したのかが分からない。テーマの路網といってもニーズは様々であり、講師に内容を丸投げしている感もあり、いつまで誰を対象に行うのかよく分からない。全体として研修の整合、統合が必要ではないか。

受講生が感じている課題解決につながることを本研修に期待していると思うので、研修時間が限られる中だが、現在感じている課題や取り組んでいることについて発表してもらい、情報共有するのも良いのではないかと思った。

今回は経験値の高いベテランの受講生がいたことでスムーズに進めることができたが、その方々がいなかったと仮定すると、時間に余裕は生まれていなかったと思う。

研修の目的として、経験が少ない等の現場未経験者が理解を深められたのかどうかは不安が残るものだった。どちらが正しいか判断が難しいとは思いますが、今後の課題ではないか。

2. アンケート結果の概要(ブロック別)

アンケートは受講生全員を対象とし、研修成果の確認と今後の研修運営に役立てることを目的に実施した。本研修に対する理解度、役立ち度、全体の満足度、運営評価について、ブロック別の集計結果をグラフ化し、そのうち、「森林総合監理士資格の有無」、「研修内容の理解度」、「業務への活用度」、「テーマ設定の満足度」についてはブロックごとに詳細結果を取りまとめた。

なお、ブロックごとにテーマ、カリキュラムなどが多様であるため、ブロック別の結果を示しているが、ブロック間の単純な比較ではなく、ブロックごとの傾向や課題の明確化を意図している。また、今後さらに良い研修にしていくためには、各ブロックで評価の高かった点、改善すべき点について、全ブロックで共有することが非常に重要だと考える。

アンケートの回収総数は、修了者 71 人中 71 人(回答率 100%)であった。

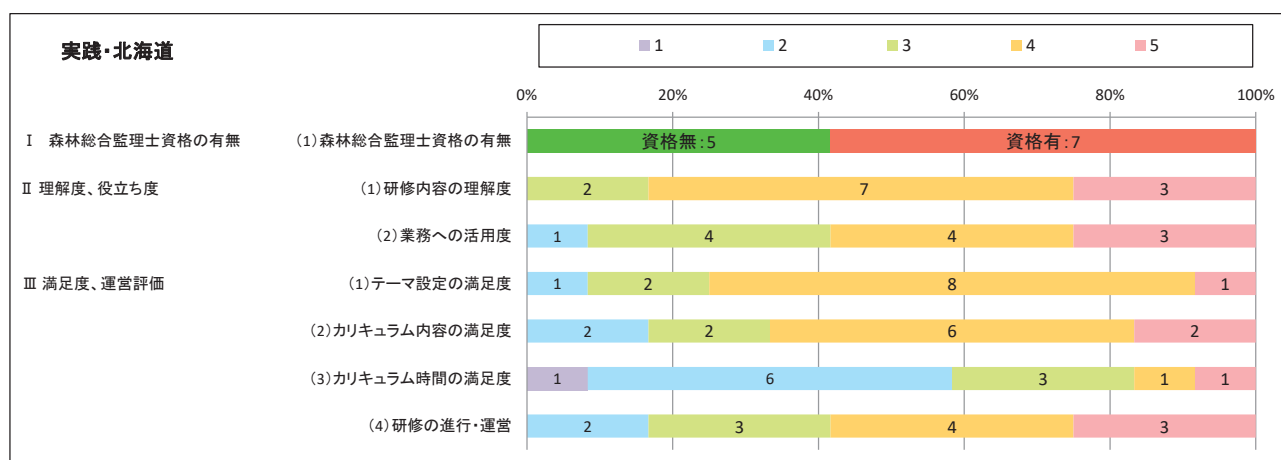
アンケートは、「森林総合監理士資格の有無」は 1 (資格あり)、2 (資格なし)とし、その他の各項目は 5 段階評価で「研修内容の理解度」は 1 (理解できなかった)から 5 (理解できた)まで、「業務への活用度」は 1 (活用できない)から 5 (活用できる)まで、「テーマ設定の満足度」と「カリキュラム内容の満足度」、「カリキュラム時間の満足度」は 1 (満足度が低い)から 5 (満足度が高い)まで、「研修の進行・運営」は 1 (良くなかった)から 5 (良かった)までの評価で実施した。

「森林総合監理士資格の有無」の状況は、各ブロックで異なっており(以下、(1)～(6)のブロック毎を参照)、各受講生の評価を判断する上でも参考にした。

新型コロナウイルス感染防止対策を取り、全ブロック 2 泊 3 日で実施した。

(1)北海道ブロック

テーマ: 成熟した高齢級人工林における森林づくり～伐採と更新方法を考える～



①森林総合監理士資格の有無

「森林総合監理士資格の有無」は森林総合監理士が 58%、資格なしが 42%であった。

②研修内容の理解度

「研修内容の理解度」は 5 と 4 の回答が 83%を占め、昨年度(H31 : 100%)より評価が下がったが、過半数を超えていた。「かなり興味を引いて聞くことができた」、「分かりにくい点は少なかった」、「一部難しい部分もあったが理解できた」などのコメントが寄せられ、おおむね研修内容が理解されたことがうかがえる。

③業務への活用度

「業務への活用度」は 5 と 4 の回答が 58%と、昨年度(H31 : 88%)より下がったものの、「森林総合監理士に求められていること、心構えを再考する良いきっかけとなった」「コンテナ苗、林産

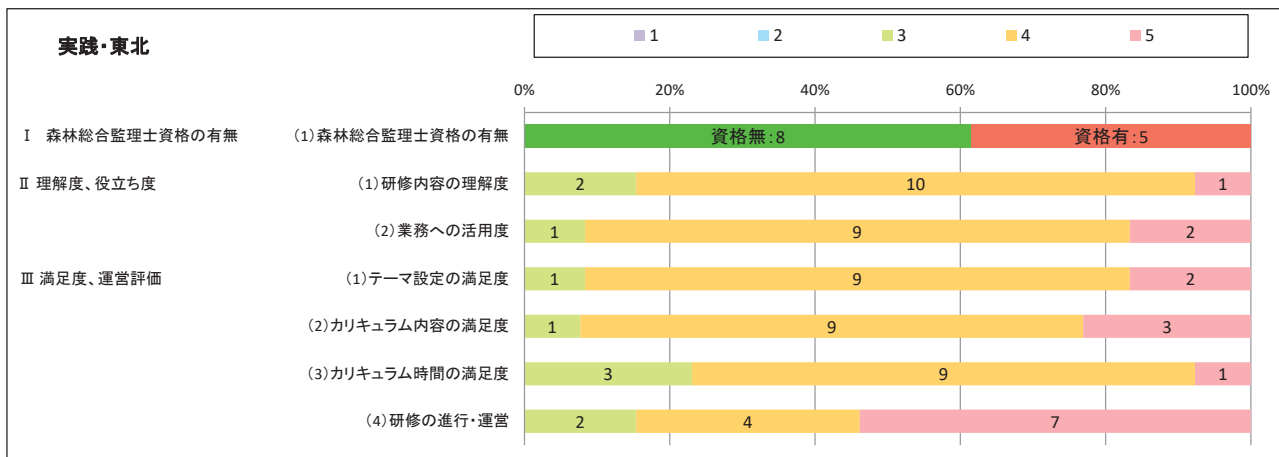
の情報などに活用できる」など前向きな意見も多く寄せられた。活用度が3以下の回答からは「考え方の補強ができた」、「研修の前提条件が実態と異なる」などの意見があった。

④テーマ設定の満足度

「テーマ設定の満足度」は5と4の回答が75%と昨年度(H31:88%)より若干減少した。「伐採と更新方法は最重要テーマ」「高齢級人工林は全道的に問題となっている」「人工林施業は常に取り組みざるを得ない課題」等のコメントが多く寄せられ、受講生の要望に応えるテーマであったと考えられる。

(2)東北ブロック

テーマ:路網配置計画と情報化技術を用いた現地踏査



①森林総合監理士資格の有無

「森林総合監理士資格の有無」は森林総合監理士が38%、資格なしが62%だった。

②研修内容の理解度

「研修内容の理解度」は5と4の回答で85%を占め、高い理解度を得た。「道の考え方や便利なツールの紹介があり、有意義だった」、「作業道の路線選定を行うだけでなく、CS立体図を用いて、また、踏査の際にはスマホを利用という新しい技術を勉強することができた」等の意見が寄せられ、新たな技術やツールを用いた実践的な内容によりICT活用への関心や理解が深まったことがうかがえる。

③業務への活用度

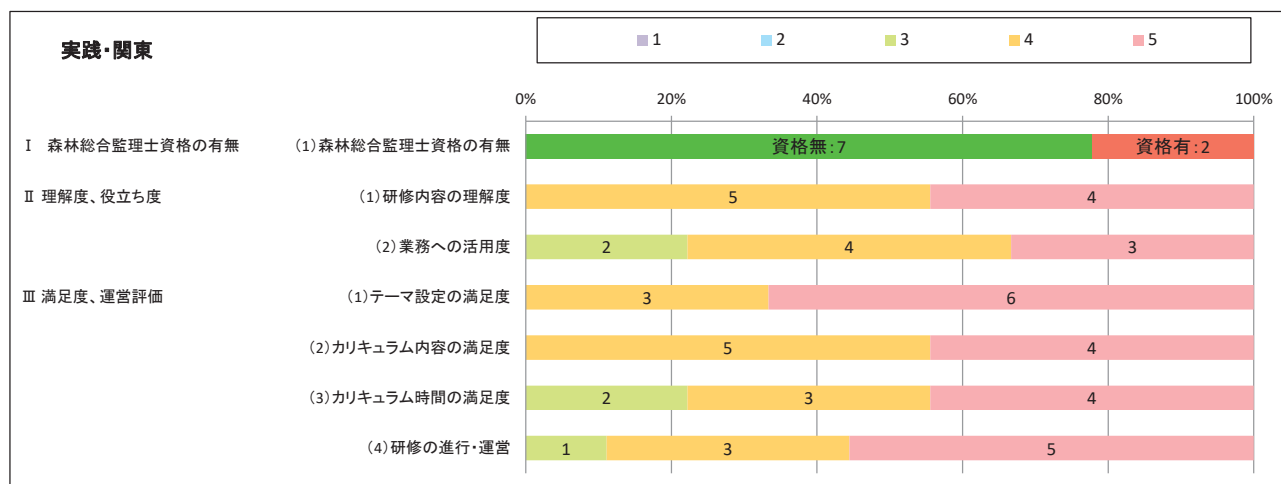
「業務への活用度」は5と4の回答で92%と非常に高い評価を得た。「省力化につながる技術で広く普及していきたい」、「GISを活用すれば通常業務の幅が広がると感じた」等、活用に積極的な意見が多数寄せられた。

④テーマ設定の満足度

「テーマ設定の満足度」も5と4の回答で92%と非常に高い満足度となった。「興味があり、現場で求められるタイムリーなテーマだった」、「デジタルデータとデバイスの併用は非常に説得力があると感じた」等の意見が寄せられた。受講生の需要や関心が高いテーマ設定と研修内容だったことが高い評価を得たと考えられ、研修内で取り扱ったICT活用に特化した内容の研修を求める意見も寄せられた。

(3)関東ブロック

テーマ:主伐・再生林に向けた、ニホンジカ被害対策全体構想の作成と実行について



①森林総合監理士資格の有無

「森林総合監理士資格の有無」は森林総合監理士が22%、資格なしが78%だった。

②研修内容の理解度

「研修内容の理解度」は5と4の回答が100%を占め、全員が高い理解度を示した(H31:92%)。「シカ対策の重要性や生態などがよく分かった」、「講師陣の話は分かりやすく質問に対する回答も明確だった」といったコメントが多く寄せられ、研修内容の理解の向上がうかがえる。

③業務への活用度

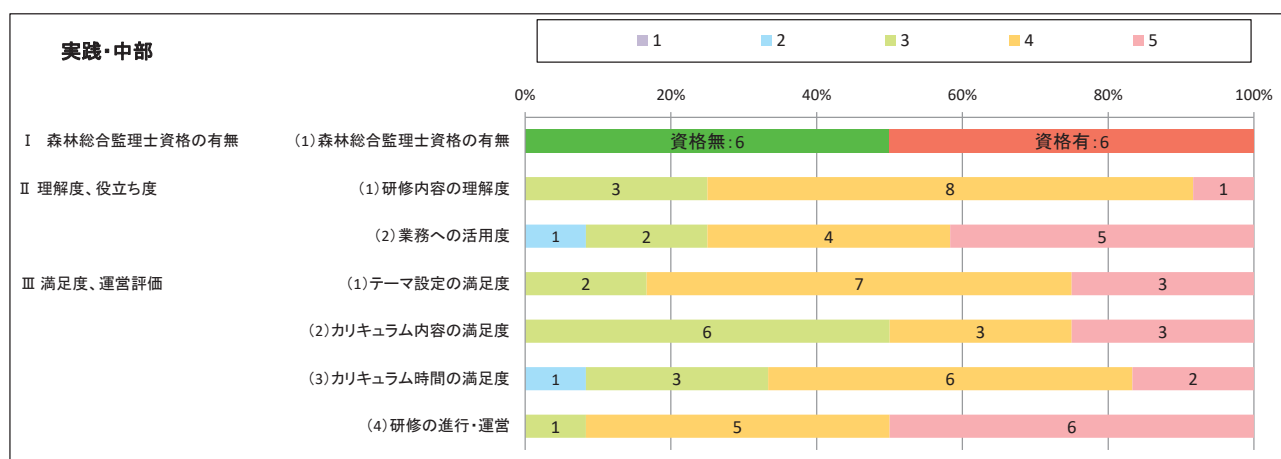
「業務への活用度」は、5と4の回答が78%で、昨年度(H31:75%)と同等だった。「森林総合監理士として知識の補強ができた」、「今後の森林組合指導等に役立てたい」といった前向きな意見が寄せられた。

④テーマ設定の満足度

「テーマ設定の満足度」は5と4の回答が100%で、理解度同様に全員の満足度が高かった。「近年の重要な課題である」、「これからの林業には必要な知識だ」などのコメントが寄せられ、今後、森林管理を進めていくうえで重要なテーマであることがうかがえる。

(4)中部ブロック

テーマ：伐採・造林一貫作業システム(架線+路網)と木材流通



①森林総合監理士資格の有無

「森林総合監理士資格の有無」は森林総合監理士が50%、資格なしが50%だった。

②研修内容の理解度

「研修内容の理解度」は5と4の回答が75%を占め、昨年度(H31:83%)より若干低くなったが、「架線集材について何の知識もなかったが、講師の方がていねいに教えてくれた」、「主伐・再造林の基本を理解することができた」といったコメントが寄せられた。

また「1班に1人講師が付き質問しやすかった」との感想も寄せられた。

③業務への活用度

「業務への活用度」は5と4の回答が75%を占め、こちらは昨年度(H31:72%)とほぼ同様であった。「事業体との施業方法検討の引き出しが増えた」、「架線系を選択肢にできる」といったコメントの他に、「架線現場の設計指導・巡回指導に活用できる」といった声が寄せられた。

④テーマ設定の満足度

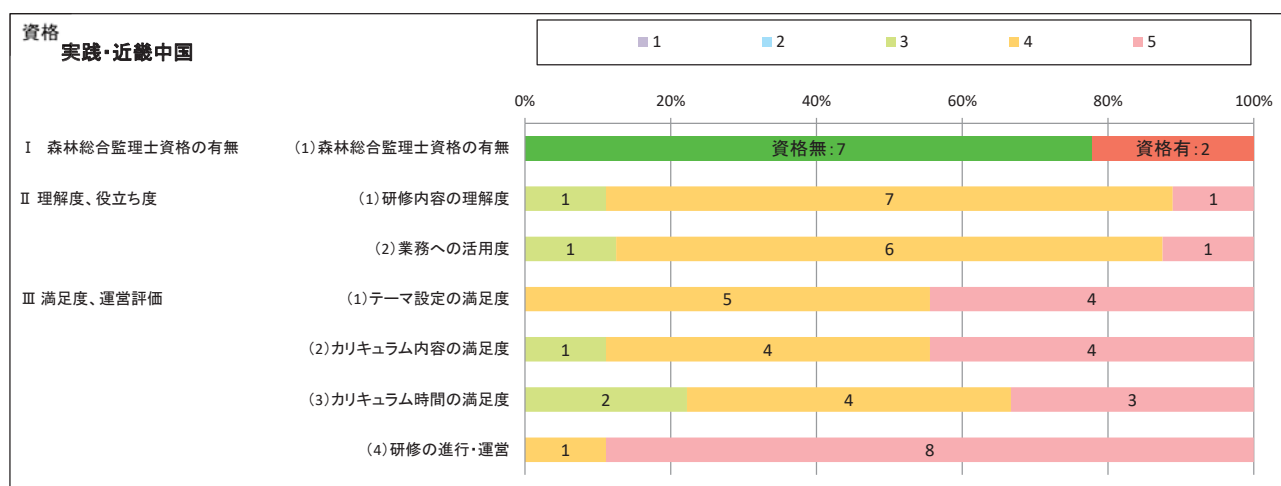
「テーマ設定の満足度」は5と4の回答が83%で、昨年度(H31:77%)より若干高くなった。

「架線システムの一貫施業をもう少し掘り下げてほしかった」との要望もあったが、「販路まで見据えた一貫施業は地元でも要望が多く非常にありがたかった」、「馴染みのない架線集材を体験できて良かった」、「造林経費の削減面からも良かった」など満足する受講生が多かった。

なお、受講生12名のうち3名は他ブロックからの参加であり、テーマ(伐採・造林一貫作業システム(架線+路網)と木材流通)に惹かれた受講生も多かったものと思われる。

(5)近畿中国ブロック

テーマ：一斉人工造林地における地位区分に応じた森林施業



①森林総合監理士資格の有無

「森林総合監理士資格の有無」は森林総合監理士が22%、資格なしが78%だった。

②研修内容の理解度

「研修内容の理解度」は5と4の回答が89%で、昨年度(H31:93%)とほぼ同等で「現地で実際に実物を見て説明を受けることができる等理解が進みやすかった」、「知識、経験の少ない中での参加だったが、広葉樹林化等多くのことを学べた」などのコメントが寄せられた。

③業務への活用度

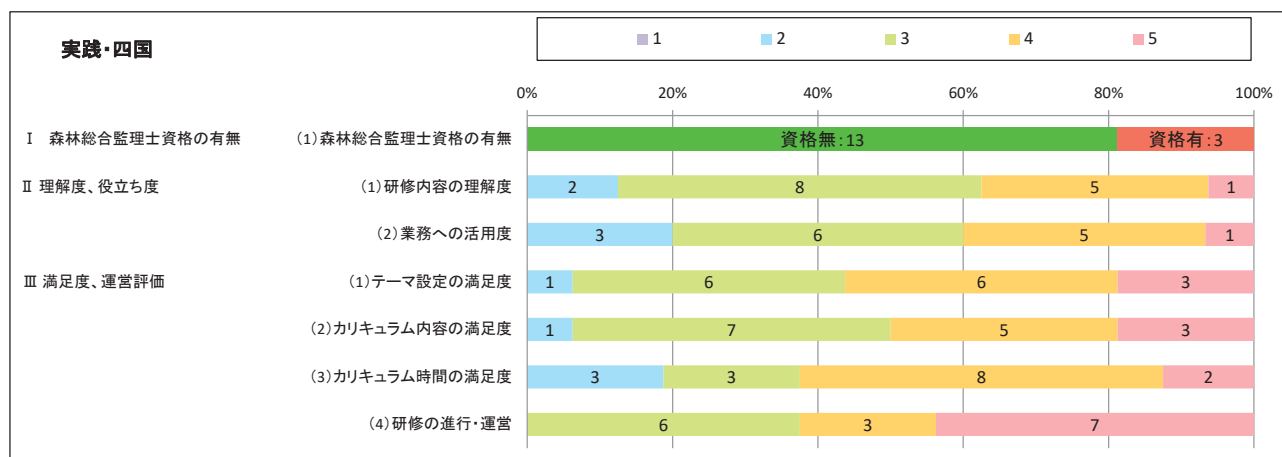
「業務への活用度」は5と4の回答が88%で、昨年度(H31:53%)より大幅に上昇し、「新たな森林管理システムの候補地等検討を行う際に活用していける」というコメントに代表されるように、直接的に業務への活用度の高さがうかがえる意見が寄せられ、本研修のねらいに沿った成果がみられた。

④テーマ設定の満足度

「テーマ設定の満足度」は5と4の回答が100%で、昨年度(H31:80%)より上昇し、一昨年度から段階的に上昇してきている。「地位の違いがよく分かる現場を見ることができ、地位の違いを実感できた」、「目標林型の検討に大いに参考になった」など、今まさに必要とされているテーマと評価された意見が多く寄せられた。

(6)四国ブロック

テーマ：地形に応じた効率的な架線と作業路網を組み合わせた集材作業システムと木材流通について



①森林総合監理士資格の有無

「森林総合監理士資格の有無」は森林総合監理士が19%、資格なしが81%だった。

②研修内容の理解度

「研修内容の理解度」は5と4の回答が38%と他ブロックと比較し若干評価が低かったが、「架線設置計画の概要を理解することができた」といったコメントが寄せられ、3以下の評価でも「架線集材については初めての研修であったので難しい時間もあったが概要については理解できた」、「搬出の計画は大変難しかったがとても勉強になった」といったコメントもあり、架線の経験がない受講生からもおおむね良い評価であった。

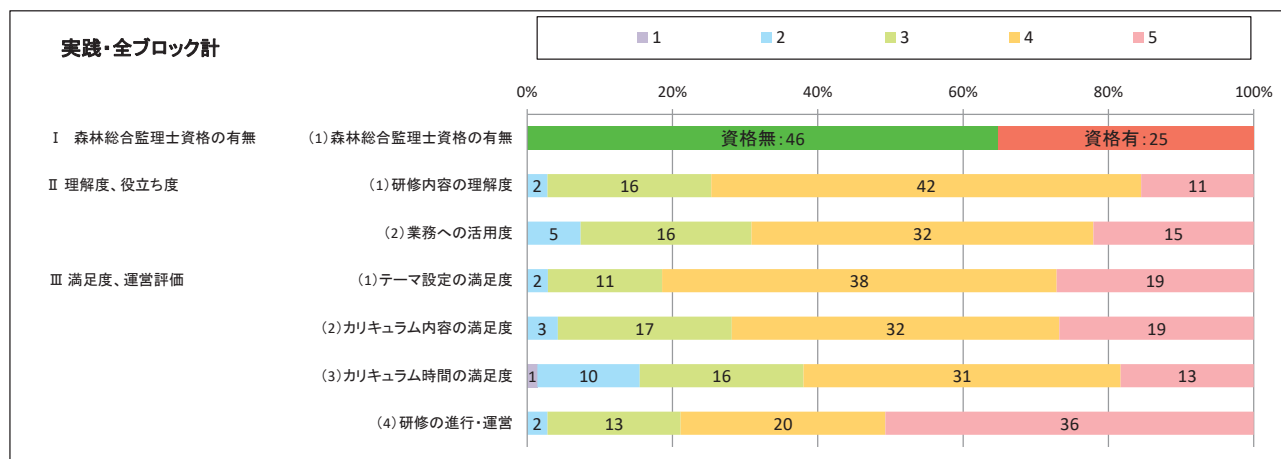
③業務への活用度

「業務への活用度」は5と4の回答が40%で、昨年度(H31:55%)より割合が若干低くなったが、「市町村の林務担当者に森林の構想を示すときに作業路網や作業システムの提案をする際に活用できる」、「間伐・皆伐を発注、施行する機会に集材手法を考え応用していきたい」といったコメントが寄せられ、また、3以下の評価では「活用できるよう数をこなしたい」、「勉強すれば活用できそう」といった前向きなコメントが寄せられた。

④テーマ設定の満足度

「テーマ設定の満足度」は5と4の回答が56%と昨年度(H31:92%)より低くなったが、「急峻な奥地人工林対策として有効」、「木材生産の実践を考えるうえで役立つ」といったコメントが寄せられ、受講生にとって有効なテーマであったことが推察される。

3. アンケート結果の概要(全体)



(1) 森林総合監理士資格の有無

「森林総合監理士資格の有無」は各ブロックさまざまだが、北海道と中部は森林総合監理士が約半数を占め、その他のブロックは約2～3割が森林総合監理士だった。

(2) 研修内容の理解度、業務への活用度、テーマ設定の満足度

実践研修全体の評価として、全ブロックの計をみると、5と4の回答は、「研修内容の理解度」75% (H31: 88%)、「業務への活用度」69% (H31: 72%)、「テーマ設定の満足度」81% (H31: 84%)と昨年度と比べ全ての項目で若干評価は低くなった。また、ブロックごとでは、「研修内容の理解度」38～100% (H31: 55～100%)、「業務への活用度」40～92% (H31: 53～90%)、「テーマ設定の満足度」56～100% (H31: 78～92%) (※2. アンケート結果の概要(ブロック別)参照)と、昨年度と同様ブロックによってバラつきがあった。

① 研修内容の理解度

「研修内容の理解度」は、5と4の回答で7割以上を占めるブロックがほとんどで、講師陣の話が分かりやすかったことや、実践的な内容により理解が深まったとうかがえる。特に関東が高い評価であった。一方、3以下の回答が多かったブロックについては、カリキュラム内容に関する知識がないうえでの参加だったといった自身の知識・経験不足を述べるコメントが少なからず寄せられた。

② 業務への活用度

「業務への活用度」は、例年、各ブロックで研修テーマが異なっていることからブロックによって評価にバラつきが出るが(※2. アンケート結果の概要(ブロック別)参照)、今年度も同様の結果だった。5と4の回答では、「今後の森林組合指導等に役立てたい」、「新たな森林管理システムの候補地等検討を行う際に活用していける」などのコメントに代表されるように、直接的に業務への活用度の高さがうかがえる。また、3以下の回答からも「考え方の補強ができた」、「森林経営計画の計画立案に一部参考にできる」といった意見があり、今後の業務に生きる内容であったことがうかがえた。東北と近畿中国は高い評価であった。

③ テーマ設定の満足度

「テーマ設定の満足度」は、5と4の回答で7割以上を占めるブロックがほとんどで「近年の重要な課題である」、「現場で求められるタイムリーなテーマだった」といったコメントが多く寄せられ、受講生にとってタイムリーかつ必要とされるテーマであったことが評価につながったと推察される。特に関東は5の割合が6割以上を占め、高い満足度だった。

(3)カリキュラム内容・時間の満足度

①カリキュラム内容の満足度

「カリキュラム内容の満足度」は、5と4の回答で72%(H31:82%)と、昨年度より若干評価が下がったものの、おおむね高評価であった。しかしながら、ブロックごとで見ると50~100%(※2. アンケート結果の概要(ブロック別)参照)とブロックによってバラつきがあった。特に関東と近畿中国の評価が高く、「分かりやすく様々な箇所で応用が効きそう」、「山づくりの今後を考える上でとても参考になった」といったコメントが寄せられ、今後の業務に役立つ内容だったことが高評価につながったと推察される。一方、3以下の評価からは、次項目「②カリキュラム時間の満足度」にも関連するが、現地実習地が遠方だったことにより現地実習の時間不足を感じた受講生がいたことや、より掘り下げた話が聞きたかったという要望の声が寄せられた。

②カリキュラム時間の満足度

「カリキュラム時間」に対する満足度は、5と4の回答が62%(H31:67%)で、昨年度とほぼ同様であったが、ブロックごとで見ると17~78%(※2. アンケート結果の概要(ブロック別)参照)とバラつきとともに、ブロックによって大きな差が出た項目となった。5と4の回答が多いブロックからは、「短い時間の中でも濃い内容だった」、「内容が充実し時間配分も負担が少なく良かった」といったコメントが寄せられ、2泊3日の研修日程の中で、濃密な研修時間だったことがうかがえた。一方、評価の低いブロックでは、例年課題にあがっているが、「移動時間が長く、研修も詰め込み過ぎている気がした」、「グループ討議の時間が短い」といったコメントが見られ、本研修は、演習・検討後に各班から発表を行う構成にしていることから、現地実習と検討時間の確保がどれだけできるかが受講生の満足度にもつながり、引き続き検討課題と言えるのではないかと。

(4)研修の進行・運営

「研修の進行・運営」は、5と4の回答が79%(H31:84%)で、昨年度と同様、高評価だった。ブロックごとで見ると58~100%(※2. アンケート結果の概要(ブロック別)参照)と、ブロックによってバラつきはあったが、全ブロックから「間延びせず、メリハリのあるスムーズな進行が参考となった」といったコメントがあり、滞りなく進行されたことがうかがえた。他方、3以下のコメントからは、「後から補足することが多かった」、「パソコンへのデータ取り込み等は先にしてほしい」といったカリキュラムを進行するうえで、段取りや事前準備の重要性を改めて感じるコメントもあり、今後も注意して進行していくべきである。

(5)その他感想、来年に向けての提案など

本研修はブロックごとに取り扱う研修テーマが異なっていることから、各ブロックさまざまな感想等が寄せられたが、今回の研修で得られた知識を役立てたいといった前向きな意見が多く見られた。また、毎年寄せられる意見だが、「様々な立場の人からの話や話し合いの場を通して大変刺激となった」、「行政、民間の合同開催は非常に刺激になった」といったコメントに代表されるように、講師だけに限らず、受講生同士の意見交換・ディスカッションを通して、多くの学びや刺激があったことがうかがえる。多様な属性や現場経験を持った受講生が集うことは、本研修のメリットと言え、今後も引き続きバランスの良い受講生の構成で研修を続けていくことが重要である。

4. 運営改善報告書の概要

当日運営補助者から研修ごとに作成された運営改善報告書の概要は、以下のとおり。

ブロック	研修テーマ・カリキュラム	講義・演習・現地実習	その他
北海道	特記事項なし。	・予定時間を超過した講義があり(少し詰め込みすぎた)、内容を含め検討が必要。講義内容は、外部講師との兼ね合いについても考慮する。	特記事項なし。
東北	・日々の業務に関連付けるなど、もっと興味を持たせられるように研修内容等を工夫していく必要がある。	・受講生から、GISの操作時間がもっとほしかったとの声があった。	・新型コロナウイルス感染対策について、グループワークでの距離が近くなってしまうことなど対策が難しい点があったが、マスク・フェイスシールドの着用の徹底、こまめな消毒の徹底を引き続き呼び掛ける。
関東	・研修時間の効率を考慮し、事前学習実施の可否について意見があった。	・2日目演習時の計画シミュレーション作成に時間がかかり過ぎたため、計画シミュレーションの簡素化を検討する。	・研修全体のふりかえり(最終日のふりかえりシート)はあったが、3日目の研修のふりかえりシートがないため、各班の発表などに関する意見や感想がないという意見があった。
中部	・パソコンが各班1台のため、情報共有が難しい。	・ドローンを使ったデータがあると理解しやすかった。編集等作業に時間がかかるが検討する。	・空調機器の音が大きく気になった。
近畿 中国	・各班の発表をKP法で行っているが、パワーポイントに慣れている人の方が多いので、そちらでもよいのではないかと意見があり、検討する。	・天然力を活用した森づくりの説明箇所、ヤードが狭く、一班ごとの説明となり、各班の質問を共有できなかった。全ての班がそろった時点で質疑応答を行い、共有できるようにする。	・研修資料に通し番号を記載してほしいという意見があったが、資料作成者が異なるため、印刷時間に余裕がない場合は難しい。図面にも資料番号を入れることで、参照箇所・頁を指定しやすくなるよう徹底する。
四国	特記事項なし。	・現地実習地が変更になり、現地までの移動時間(往復	・現場等の経験が豊富な受講生が多く、また、年齢・

		約4時間)が長いことから、研修日程内でのカリキュラム実施がタイトになった。	経験年数等の幅が広がったため、演習説明などで標準をどこに設定するか等、外部講師・内部スタッフ・運営側も対応が難しかった。
--	--	---------------------------------------	--

5. 実践研修の課題の整理

本研修は森林管理局が大きな役割を果たす中で、各ブロックともほぼカリキュラムどおりに研修を実施することができた。

本研修は、市町村への指導・助言の役割を担うべき森林総合監理士をはじめとする技術者の技術水準の維持・向上を図ることを目的とし、森林総合監理士、都道府県職員、市町村職員、森林管理局署職員、団体職員等を対象に、全ブロック2泊3日で実施した。

受講生の平均年齢は昨年とほぼ同じであった(H31: 43.0歳→R2: 45.1歳)。

以下、受講生アンケート、各ブロックの運営改善報告書から、主な課題を抽出・整理した。

(1) ブロック別の課題

ブロック	アンケート結果を通じての課題	運営改善報告書を通じての課題
北海道	・「カリキュラム時間の満足度」の評価が低く、「グループ討議の時間が短い」、「質問時間が少なかった」といったコメントが寄せられ、時間配分の検討が必要である。	・予定時間を超過した講義があり(少し詰め込みすぎた)、内容を含め検討が必要。
東北	・全体的にアンケートの評価は高く、今後の業務に役立つツールの紹介が組み込まれ、関心や需要が高いテーマだったことが高評価につながったと推察される。	・受講生から、GISの操作時間がもっとほしかったとの声があった。
関東	・総じてアンケートの評価が高く、「近年の重要な課題である」といったコメントに代表されるように、特にテーマ設定の満足度が高かった。	・2日目演習時の計画シミュレーション作成に時間がかかり過ぎたため、計画シミュレーションの簡素化を検討する。
中部	・「発表準備の時間をもう少し長く」、「検討内容が多い」といったコメントが寄せられ、カリキュラム内容と時間のバランスは今後も検討が必要である。	・演習の流れをイメージし、動画も含め、どういった資料が演習に必要なか、今後も検討が必要である。
近畿中国	・昨年度は「カリキュラム時間の満足度」の評価が若干低かったが、今年度は改善され、総じてアンケートの評価は高かった。	・現地実習地での説明において、現場が狭かったことから、一班ごとの説明となった箇所があり、各班の質問を共有できなかった。全ての班が揃った時点で質疑応答・共有ができるよう改善が必要。
四国	・架線集材というコアな内容を扱っていることから、「研修内容の理解度」と「業務への活用度」の評価が若干低かった。	・現地実習地までの移動時間(往復約4時間)が長いため、研修日程内でのカリキュラム実施がタイトだったことから、研修日程と合致したカリキュラム内容を検討する必要がある。

(2) 全体を通しての課題の整理(アンケート結果を通じて)

アンケートは、「森林総合監理士資格の有無」以外は、全項目5段階評価で実施した。「研修内容

の理解度」、「業務への活用度」、「テーマ設定の満足度」は、5と4の割合が38～100%とブロックによって非常にバラつきがあった。今まさに課題となっているテーマやタイムリーな課題を扱ったブロックは評価が高い傾向があった。他方、3以下の回答であっても、「考え方の補強ができた」、「森林経営計画の計画立案に一部参考にできる」といった前向きな意見が寄せられている。また、低い評価の理由として、自身の知識・経験不足を述べる意見が少なからず寄せられた。技術者の技術水準の維持・向上を図ることを目的としていることから、今後も森林総合監理士等として指導・助言などを行っていく上で、実践的なテーマ・内容で実施することが重要である。

「カリキュラム内容」に対する満足度は5と4の割合が50～100%とブロックによってバラつきがあった。また、「カリキュラム時間」に対する満足度も5と4の割合が17～78%と、ブロックによってバラつきがあり、かつブロックによって大きな差が出た項目だった。例年あがる意見だが、ブロックによって「現地踏査・検討時間が短い」などのコメントが見られ、カリキュラム内容に現地実習と検討・演習時間をどのように組み込んでいくか、また、時間配分を引き続き検討・改善していくべき課題と言える。

「研修の進行・運営」は5と4の割合が58～100%でバラつきがあったものの、全ブロックからスムーズな進行であったといったコメントが寄せられ、おおむね問題なく、進行・運営されたことがうかがえる。今後も、カリキュラムや講義・演習の中で盛り込むべき内容を検討し、こういった資料やデータ等を準備して研修を実施するか、ブラッシュアップしていくことが重要である。

(3)全体を通しての課題の整理(運営改善報告書を通じて)

各ブロックでカリキュラムや現地実習地までの移動時間等が異なるため、今年度の課題にそれぞれ違いはあるが、受講生が地域に戻って指導や助言を行う際のヒントになるよう、各ブロックのテーマに合った講義・演習とし、また限られた時間内での研修であることから、進行の流れを止めることのないよう、資料内容や伝え方の工夫をしていくことが重要である。

6. 総括

(1)全体設計・テーマ・カリキュラム

本研修は、市町村への指導・助言の役割を担うべき森林総合監理士をはじめとする技術者の技術水準の維持・向上を図ることを目的としている。そのため今年度も森林総合監理士を受講対象としたが、森林総合監理士の受講者数はブロックによってバラつきがあり、森林総合監理士の参加率は19～58%と昨年度(H31:20～94%)より低く、研修受講者数については、新型コロナウイルスの影響から、各ブロックの受講者数が9～16名と若干少ないブロックもあった。また、ブロックによっては、現場経験が豊富な民間事業者の受講生の割合が多いブロックがあり、演習の説明レベルの標準をどこに設定するか等、対応が難しいブロックもあった。本研修の目的及びカリキュラム内容の周知、受講生の選定、受講者数の確保について検討が必要であると考えます。

テーマ設定については、ブロックごとに地域の特性や現状及び都道府県のニーズ・意見を踏まえて設定しているが、ブロックによって評価にバラつきがあり、今まさに課題となっているテーマやタイムリーな課題を扱ったブロックは評価が高かった。今後も地域の実情や課題に即し、森林総合監理士等として市町村へ指導・助言などを行っていく上で、実践的かつ業務で活用できるテーマを選定することが重要である。

カリキュラム内容・時間の評価についてもブロックによってバラつきがあった。評価が低いブロックについては例年あがる意見だが、本研修は演習がメインの構成となっていることもあり、「現地踏査・検討時間が短い」といったコメントが寄せられ、限られた時間内に詰め込み過ぎないように、現地実習や演習をどのように組み込むことができるかは引き続き検討が必要である。また昨今のICT化に伴い演習にパソコンを取り入れるブロックも増えていることから、演習のシミュレーションは重要である。

(2)研修運営

今年度は新型コロナウイルスの感染状況により、当初の実施予定日より開催を遅らせたブロックもあったが、6ブロックとも開催することができた。また当初計画では会場定員の少なかった関東、近畿中国ブロックでは近隣のより広い会場へ変更し、全ブロックとも現地実習でのバスの乗車人数調整や台数を増やす等、対策を講じた。室内においても、換気や日々の検温、マスクの着用、マイクや備品等の消毒を徹底し、受講生や講師・関係者等が安心して研修を実施できるよう努めた。受講生等研修参加者は、研修2週間前から自身の「体温・体調等記録用紙」を記入し、最終日の提出とともに、受講後2週間以内に体調の悪化が生じた場合は統括事務局へ連絡することとしたが、研修中及び後日においても参加者からの連絡はなかった。その他にも、受講生、講師・関係者等が必要としていることを事前に想定し準備を行った。

本研修では、テーマやカリキュラムは森林管理局が作成した。統括事務局ではブロックごとに担当者を配置してブロック事務局の担当者とチームをつくり、研修実施に向けた森林管理局の研修担当官と連絡・調整を密に図った。また、統括事務局は、受講生・外部講師への連絡・調整、安全管理マニュアルの作成、タイムスケジュールの確認、資料印刷等を行うことで、受講生が研修に集中できる環境を整えた。

研修当日は、森林管理局が進行役を務め、ブロック事務局スタッフと連携して運営した。過年度の実践研修の経験や知識が蓄積されていることから、おおむねスムーズに運営できたが、研修担当者の経験等により差異が生じることもあることから、後継者育成、引継ぎ等の工夫は引き続き重要な課題であり、今後も各ブロックでの良い点や工夫点を全ブロックで共有し、良い点は取り入れて

いくことも円滑な研修運営につながると考えられる。今後もさまざまなことを想定した運営準備をしていくことは、全ブロック共通して意識する事項である。

(3)おわりに

現地検討及び討議を通じて現場レベルでの課題解決策を共有する研修を実施したが、外部講師・森林管理局講師からだけでなく、県職員や国有林職員、民間受講生といった多様な属性の受講生同士が意見交換し、お互いからも学びのあるカリキュラム構成となっている。今年度見えた課題をふまえ、ブラッシュアップしていくことが重要であり、地域のニーズに合った研修を実施していくことが森林総合監理士等の技術者の技術水準の維持・向上につながると期待したい。

情報共有ネットワーク化

情報共有ネットワーク化

I. サイトの開設状況

1. 市町村支援技術者養成事業ポータルサイト

(1)目的

実践研修の実施概要・カリキュラム(年度当初は計画)、森林総合監理士のPR等を掲載し、広く一般への本事業の理解促進に資する。

(2)対象者

一般国民、森林・林業関係者、実践研修の対象者等

(3)構成・イメージ

○コンテンツ

- ・事業概要：本事業実施の目的、本事業の概要
- ・実践研修：研修の目的、対象者、研修概要、研修実施時期等
- ・森林総合監理士PR：サイトの概要
- ・森林総合監理士ネットワークサイト：サイトの概要

市町村支援技術者養成事業ポータルサイト

ネットワークサイトログイン

事業概要 実践研修 森林総合監理士PR ネットワーク サイトマップ

新着情報

2020.9.16 参考情報：森林総合監理士活動事例集 令和2年度版をアップしました。

2020.8.25 参考情報：森林総合監理士(フォレスター)基本テキスト【令和2年度 PDF版(林野庁HPにてダウンロード)】【平成29年度 冊子版(全林協HPにて購入・申込み)】
・販売冊子は平成29年度版になりますのでご注意ください。
・令和2年版は内容が一部改定されています(令和元年度の冊子販売はありません)。

2020.8.25 令和2年度 市町村支援技術者養成事業ポータルサイトを開設しました。

↑ PAGE TOP

関連リンク

→ 林野庁

→ 「森林総合監理士(フォレスター)の育成」(林野庁)

▼ 森林総合監理士育成研修各森林管理局のページ

→ 北海道森林管理局

→ 東北森林管理局

→ 関東森林管理局

→ 中部森林管理局

→ 近畿中国森林管理局

→ 四国森林管理局

→ 九州森林管理局

→ 全国林業改良普及協会

ホーム プライバシーポリシー サイトマップ

▲ トップページ

事業概要
令和2年度 市町村支援技術者養成事業
→ 事業の目的及び概要
<p>1 目的</p> <p>森林経営管理法の施工に伴う新たな森林管理システムの円滑な運営をはじめとした市町村による森林・林業行政の円滑な実施を図るため、市町村の森林・林業担当職員に対し適切な指導・助言等の支援ができる都道府県等の技術者の育成・確保を目的とした人材育成事業です。</p> <p>2 概要</p> <p>森林経営管理制度の円滑な運用に向け、市町村に対し適切な指導・助言等の支援を行う都道府県職員等の技術者を養成・確保するため、森林経営管理制度に対応した研修カリキュラムの検討及び技術者養成のための研修の運営並びに技術者（森林総合監理士等を含む）の技術力の維持・向上を図るための実践的な継続教育の実施等を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 実践研修 ● 森林総合監理士PRサイト ● 森林総合監理士ネットワークサイト

▲ 事業概要 (部分表示)

実践研修
概要
市町村への指導・助言の役割を担うべき森林総合監理士をはじめとする技術者の技術水準の維持・向上を図ることを目的として、地域の森林・林業の再生、林業の成長産業化等の課題をテーマに、現地検討及び討議を通じ、現場レベルで活動を実践していく際に必要な知識・技術の習得を図る研修とし、地域特性等を踏まえた課題等をテーマに設定して行う実践研修を全国6ブロックにおいて実施します。
→ 対象者
森林総合監理士、都道府県職員、市町村職員、森林管理局職員、民間職員 等
→ 研修内容
森づくりや木材生産のコスト低減に向けた先進的な取組をテーマに、外部の専門家にも参加して頂き、地域のフィールドを活用した現地検討、課題の背景と解決策を共有するための地域の取組事例発表、現地検討後の意見交換等を行うカリキュラムにより実施します。
→ 研修実施場所等
全国6ブロック（北海道、東北、関東、中部、四国、九州の各森林管理局管内）において9月から11月に実施します。

▲ 実践研修 (部分表示)

2. 実践研修受講生向けサイト

(1) 目的

実践研修受講生への情報提供・共有の場を提供することにより、受講生のフォローアップに資する。

(2) 対象者

令和2年度実践研修受講生、研修運営に関わる者（林野庁・森林管理局の研修講師および研修運営関係者）

※対象者のみのログイン制

(3) 構成・イメージ

○ コンテンツ

- ・ ブロック研修回ごとの配布資料PDF
- ・ ブロック研修回ごとの実施報告書PDF
- ・ 森林総合監理士(フォレスター)基本テキスト(令和2年度版)PDF

【参考：令和元年度実践研修】

- ・ ブロック研修回ごとの配布資料PDF
- ・ ブロック研修回ごとの実施報告書PDF

市町村支援技術者養成事業 技術力維持・向上対策研修（実践研修）受講生サイト

新着情報

- 2020.12.24 [近畿中国ブロック](#) 実施報告書・研修資料をアップしました。
- 2020.12.14 [中部ブロック](#) 実施報告書・研修資料をアップしました。
- 2020.11.26 [四国ブロック](#) 実施報告書・研修資料をアップしました。
- 2020.11.19 [北海道ブロック](#) 実施報告書・研修資料をアップしました。
- 2020.11.11 [関東ブロック](#) 実施報告書・研修資料をアップしました。
- 2020.9.25 [東北ブロック](#) 実施報告書・研修資料をアップしました。
- 2020.8.25 [北海道ブロック](#)・[東北ブロック](#)・[関東ブロック](#)・[中部ブロック](#)・[近畿中国ブロック](#)・[四国ブロック](#) 実施報告書をアップしました。
- 2020.8.25 参考情報：森林総合監理士（フォレストラー）基本テキスト
【令和2年度 PDF版（林野庁HPにてダウンロード可）】
- 2020.8.25 研修実施後に実施報告書を掲載します。
参考までに昨年度の研修実施報告書・研修資料を掲載しています。
- 2020.8.25 令和2年度 技術力維持・向上対策研修（実践研修）受講生サイトをオープンしました。

↑ PAGE TOP

令和2年度

- [北海道](#)
- [東北](#)
- [関東](#)
- [中部](#)
- [近畿中国](#)
- [四国](#)
- [九州](#)

令和元年度

- [北海道](#)
- [東北](#)
- [関東](#)
- [中部](#)
- [近畿中国](#)
- [四国](#)
- [九州](#)

▲ トップページ

四国ブロック		
研修資料		
日程	講義等の内容	資料名
1日目	【講義】 大型製材工場の現状と課題地域の特性に合った木材流通等	株式会社サイプレス・スナダヤの案内 ●講師：砂田 和之（株式会社サイプレス・スナダヤ）
	【講義】 集材架線システムの資料作成の説明（コスト計算等） 簡易な架線集材の見学等	集材架線システム等の資料作成について 取壊、集材方法などの検討
	【実習】 各班、机上で1/5000の図面に搬出系統図（集材線・路網）を記入	
2日目	【現地実習】 採材研修	●講師：大川 容平（高知県森林組合連合会 高幡共販所） 受講生発表資料 採材 1 / 2 / 3 / 4
	【現地実習】 架線集材作業現場見学及び説明（元柱付近）	
	【現地実習】 架線集材作業現場見学及び説明（先柱付近）及び架線集材作業現場見学及び各班、事前に1/5000の図面に記入した、搬出系統図（集材線・路網）を現地踏査確認	●講師：太郎田 佑一（須崎地区森林組合）
3日目	【発表】 各班で現地踏査等を踏まえた、集材架線システムの資料作成	受講生発表資料 パワーポイント 1 / 2 / 3 / 4

▲ 研修資料>四国ブロック

1 架線系作業システムによる効率的な施業方法の確立が課題

我が国の森林資源は、高齢級の森林が増えており、資源として本格的な利用が可能な段階となっている。

このような森林資源の循環利用を図るとともに、森林の有する多面的機能を維持・向上させるための森林整備や持続的な林業経営を進めていくには、生産体制等の整備が重要となり、これまで、路網整備や高性能林業機械の導入・改良等による生産体制等の効率化が進められてきたが、今後は、路網整備が比較的に困難な奥地林の急傾斜地における間伐や皆伐、再造林等の森林施業も必要となることから、架線系作業システムによる効率的な施業は避けて通れない課題となっている。



2

実施結果

→開催日時：令和2年11月11日（水）～13日（金）

研修会場：四国森林管理局（高知県高知市）
 現地実習地：中土佐町島ノ川山国有林

テーマ：地形に応じた効率的な架線と作業路網を組み合わせた集材作業システムと木材流通について

(1) 報告書PDF

▲実施報告書>四国ブロック

実践研修 実施報告書(四国ブロック)

1 日程・研修場所 令和2年11月11日（水）～11月13日（金）
 研修会場 四国森林管理局会議室（高知県高知市）
 現地実習 島ノ川山国有林3229林班外（高知県中土佐町）

2 研修受講者数：16名【男性：16名】
 （県職員4名、町職員1名、愛媛県職員1名、民間事業者7名）

奈良県	1名	愛媛県	1名	福岡県	1名	大分県	1名	上勝町	1名
森林管理局	4名	民間事業者	7名						
途中欠席者数 0名									

3 研修実施概要

○研修運営状況、研修生の様子など

- ・1日目は開講式後、砂田講師（株）サイブラスナダヤから動画によるCLTを中心とした製品供給状況の説明があった。その後、局駐車場内に設けられたエンドレスタイラー式集材機による研修とGISによる架線設計等についての講義が行われ、それらを基に各班が搬出系統図作成の演習準備を始めた。
- ・2日目は採材研修及び搬出系統等の資料作成に向け、実際に開伐作業を行っている島ノ川山国有林で現地実習を行った。採材研修は、経験豊富な受講生が多かったことから、急速、各班2本つづの採材検討に変更した。現地実習終了後、会場に戻り、搬出系統等の資料作成作業を行った。
- ・3日目は前日の現地実習を踏まえ、班ごとに集材架線システム等の関連資料を作成後、発表・質疑応答と続き、全てのカリキュラムを終了した。
- ・全体としては、過年度と同じ2泊3日の日程の中で、前年の実績と改善を基にしたカリキュラムとすることで、実務への寄与度がより大きくなった内容であった。

○今回の研修の工夫点

- ・昨年、受講生の関心が高かった砂田講師の講義時間を30分延長し、活発な質疑応答が行われたことで、広範なCLT情報が提供できた。
- ・各班の発表方法をKP法からパワーポイントでの発表に変更され、より技術水準の維持・向上につながった。

4 記録写真

砂田講師のCLT等川下状況説明：1日目
 エンドレスタイラー集材機による研修：1日目
 生産現場における採材研修：2日目
 デジタル化、E方式集材架線の現場での説明：2日目
 現地研修を経て集材架線システム作成の演習：3日目
 各班作成の集材架線システム発表状況：3日目

3. 森林総合監理士PRサイト

(1)目的

森林総合監理士活動への需要者（市町村、事業者、森林所有者等）に向けた、森林総合監理士活動の需要拡大を支援（PR）することを資する。

森林総合監理士の役割、機能、「依頼できること」、「森林総合監理士とともに実現できること」などをわかりやすく紹介し、森林総合監理士の登場で地域森林経営をどのように向上できるのか、森林総合監理士の活動モデル(実践モデル)を描く内容とした。活動モデルでは、地域レベル、個別レベルでの経営への助言・アドバイス、計画作成、監理、実行など、さまざまな場面の具体的な事例を掲載した。

(2)対象者

山林所有者、素材生産業者、木材流通・加工業者、市町村担当者、消費者、教育機関担当者等

(3)構成・イメージ

○コンテンツ

- ・山林所有者、素材生産業者、木材流通・加工業者、市町村担当者、消費者、教育機関担当者等へ向けた森林総合監理士の活用方法
- ・森林総合監理士(フォレスター)とは？：森林の整備・保全と林業の成長産業化に向けた政策の基本方向、森林総合監理士(フォレスター)の役割・活動内容、森林総合監理士(フォレスター)の制度的位置づけ、必要な施業の勧告等を掲載
- ・あなたの地域の森林総合監理士：各県ごとの森林総合監理士登録者一覧PDF（林野庁ホームページをリンク掲載）
- ・森林総合監理士の活動モデル(実践モデル)：森林総合監理士の活動の立場、森林総合監理士(フォレスター)の活動モデルを掲載

- ・用語辞典：森林総合監理士関係用語の説明
- ・森林・林業情報源：森林林業の技術・普及(出版)関係、林業就業関係、木材関係、森林ボランティア、森林・環境教育関係の事業体等を掲載
- ・関連情報リンク

森林総合監理士PRサイト

市町村支援技術者養成事業

「森林総合監理士がお役に立ってます」

森林総合監理士（フォレスター）は、地域全体の視点に立ち、森林経営と林業技術両面に関する専門知識をもち、求められる役割を担ってまいります。
森林総合監理士が、どのような形で地域の皆様のお役に立てるかということ、イメージし、実際に活用していただけるような情報を提供いたします。

森林総合監理士とは？

あなたの地域の森林総合監理士

森林総合監理士の活動モデル（実践モデル）

用語辞典

森林・林業情報源

関連情報リンク



山林所有者のみなさま



素材生産業のみなさま
(森林組合・林業事業体)



木材流通・加工業のみなさま



市町村担当者のみなさま



消費者のみなさま



教育機関のみなさま

注目情報

参考情報：森林総合監理士(フォレスター) 基本テキスト
[【PDF版（林野庁HPにてダウンロード）】](#)
[【冊子版（全林協HPにて購入・申込み）】](#)
[森林総合監理士活動事例集 令和2年版\(PDF/6MB\)](#)

森林総合監理士(フォレスター)

林野庁
Forestry Agency

全林協
一般社団法人 全国林業改良普及協会

▲ トップページ

北海道南部地域の森林認証取得に向けた地域への支援

<北海道渡島総合振興局東部森林室主幹>

取組のポイント

- ・道南地域（渡島総合振興局・檜山振興局）を広域に担当する主幹（森林総合管理）として、市町村や森林組合、林業・木材産業界への普及指導活動等を通じて、地域での森林認証取得を支援した。

地域の課題

- ・これまで低位利用されていた道南地域材の新たな付加価値化とブランド化を目指すため、地域が一体となって森林認証を取得する。

具体的な取組内容・成果

- 取組内容
 - ・認証取得を目指して発足した協議会への支援
 - ・FM取得者(市町村、森林組合)への支援
 - ・対象森林の精査
 - ・各種マニュアルの整備
 - ・市町村による支援措置の創出
 - ・CoC取得者(素材生産・木材加工)への支援
 - ・林業・木材産業界への合意形成
 - ・各企業の管理体制指導



認証取得森林（FM）
約7万9千ha
2市11町8森林組合1企業

▲ 森林総合監理士活動事例集（部分表示）

山林所有者のみなさま
素材生産業のみなさま
木材流通・加工業のみなさま
市町村担当者のみなさま

山林所有者のみなさま

「地域のまとまり、将来へのそなえ」を確実に

林業で期待できる経済効果は、一人一人で行うより、まとまることでより高めることができます。

例えば、

- 森林所有者の山林をまとめて間伐できるなら、作業効率が上がります。
- 伐採・生産した木材をまとめることで、有利な販売が可能になります。
- 森林所有者の意見をまとめることで、作業道を作り、効率的な良い林業作業ができ、結果として林業の生産コストを下げるすることができます。

こうしたまとまりを地域に作り、経済効果を高めるためには、全体を取りまとめる計画が必要で、地域の森から、将来どのように木材（量・質）を産出し、市場へ売却していくのか、といった経営方針や実行方法を定める計画も必要です。

みなさんがお住まいの市町村では、そのような林業の計画（※1）を作成していますし、山林所有者のみなさん自身の計画づくり（※2）のお手伝いもしています。

森林総合監理士（フォレスター）は、森林経営と林業技術の両面に関する専門的知識を持

▲ 森林総合監理士の活動モデル（部分表示）

4. 森林総合監理士ネットワークサイト

(1)目的

森林総合監理士の活動を公表・共有するなど、活動の「見える化」を促進することで、地域の優れた取り組みを波及し、森林総合監理士のモチベーション向上に資する。森林総合監理士活動を広げるヒント、アイデア集として活用できる、継続的なスキルアップを目指したサイトコンテンツを構築した。

(2)対象者

森林総合監理士(サイトを閲覧するために、事前に登録フォームから申請が必要)

※登録者のみのログイン制

(3)構成・イメージ

○コンテンツ

- ・全国の活動からのヒント：森林総合監理士活動発表、進行形の取り組み、計画作成支援、経営支援、技術・集約化支援、需給調整・木材活用支援、特用林産物利活用支援、鳥獣害対策支援、安全衛生向上、研究開発支援(実証事業)、人材育成、インフォーマルな教育活動支援、意志決定支援等、活動事例を掲載
- ・森林管理局の取り組み：各森林管理局の森林総合監理士に関連した事業内容を掲載
- ・研修関係の蓄積情報：平成 23～25 年度准フォレスター研修・平成 26～28 年度森林総合監理士育成研修の講師一覧、研修フィールド一覧、講義資料等を掲載
- ・全国のネットワーク、連絡先：協議会・ネットワーク、都道府県の普及担当課、森林管理局担当課の問い合わせ先等を掲載
- ・その他のお役立ち情報：森林総合監理士に役立つ情報を掲載
- ・各ブロックのコンテンツ：7つのブロックごとに自由に情報を発信、コメント投稿できるように設定



森林総合監理士(フォレスター)活動を見る化し、みなさんにお役立ていただける『みんなの引き出し』的サイトを目指します。

北海道
ブロック

東北
ブロック

関東
ブロック

中部
ブロック

近畿中国
ブロック

四国
ブロック

九州
ブロック

更新情報

RSS

☐ [登録内容変更申請フォーム](#)

☐ [森林総合監理士ポータルサイ
ト](#)

☐ [森林総合監理士PRサイト](#)

☐ [「森林総合監理士\(フォレス
ター\)の育成」\(林野庁\)](#)

☐ [全国林業改良普及協会](#)

☐ [お問い合わせ](#)

令和2年度版 森林総合監理士 活動事例集をアップしました

2020年9月16日 [更新情報](#)

▲ [トップページ](#)

全国の研修からのご紹介 森林管理の取り組み こんねとまどうする? 研修関係の蓄積情報 全国のネットワーク、蓄積先 その他のお役立ち情報

講師一覧

平成23~25年度准フォレスター研修
平成26~28年度森林総合監理士育成研修 講師リスト

各地域での研修等の開催の際に、参考にしてください。
各ファイルの使用は、森林総合監理士(フォレスター) 限りとしますので、取り扱いには十分ご注意ください。

森林管理局講師 [PDF]
外部講師 [PDF]
本庁講師 [PDF]

研修関係の蓄積情報
講師一覧 研修フィールド一覧 講義資料 各種分析・評価データ

【取り扱い注意】フォレスター限り

氏名	所属	年度	プログラム	講義名
川島 裕	林野庁林野計画課	H26	関東	【演習】資源循環利用構想演習(現地実習を踏まえた森林の整備計画と木材供給シシンの検討、発表準備) 【演習】資源循環利用構想演習(発表・ディスカッション)(講評)
		近畿中部	【演習】資源循環利用構想演習(発表・ディスカッション)(講評)	
		近畿中部	【演習】資源循環利用構想演習(机上演習の検討結果を踏まえ、地質、林況等現地条件の検討) 【演習】資源循環利用構想演習(現地実習を踏まえた森林の整備計画と木材供給シシンの検討) 【演習】資源循環利用構想演習(発表準備、発表、ディスカッション)	
		近畿中部	【演習】資源循環利用構想演習(机上演習) 【演習】資源循環利用構想演習(机上演習の検討結果を踏まえ、地質、林況等現地条件の検討) 【演習】資源循環利用構想演習(現地実習を踏まえた森林の整備計画と木材供給シシンの検討) 【演習】資源循環利用構想演習(発表準備、発表、ディスカッション)	
川村 竜哉	林野庁計画課	H24	関東	【講義】森林・林業再生プランの概要、FPLSの役割、FPLSとの連携 【講義】森づくりの構想 【演習】地域の森林・林業のビジョンと市町村森林整備計画 【演習】森づくりの森林経営計画 【演習】市町村森林整備計画(演習説明、班内共有、作業、発表準備) 【演習】市町村森林整備計画(発表、ディスカッション)
		H26	北海道	【演習】資源循環利用構想演習(発表・ディスカッション)(講評)
小坂 香太郎	林野庁計画課	H24	中部	【講義】森林・林業再生プランの概要、FPLSの役割、FPLSとの連携 【講義】森づくりの構想

▲研修関係の蓄積情報>講師一覧>本庁講師

全国の研修からのご紹介 森林管理の取り組み こんねとまどうする? 研修関係の蓄積情報 全国のネットワーク、蓄積先 その他のお役立ち情報

協議会・ネットワーク

全国の協議会・ネットワーク

全国	地域	名称	連絡先(担当)	備考
全国	全国	フォレスター・ギャザリング	〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1 〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1 TEL: 03-3581-1111	全国のネットワーク、情報先 協議会・ネットワーク 各種分析・評価データ
関東	関東	関東フォレスター協議会	〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1 TEL: 03-3581-1111	
中部	中部	中部フォレスター協議会	〒500-0001 岐阜県岐阜市南町1-1-1 TEL: 057-241-1111	
近畿	近畿	近畿フォレスター協議会	〒600-0001 大阪府大阪市北区中之島1-1-1 TEL: 06-6342-1111	
中国	中国	中国フォレスター協議会	〒730-0001 広島県広島市南区本町1-1-1 TEL: 082-241-1111	
四国	四国	四国フォレスター協議会	〒760-0001 高松市東町1-1-1 TEL: 087-821-1111	
九州	九州	九州フォレスター協議会	〒810-0001 福岡市中央区天神1-1-1 TEL: 092-281-1111	

フォレスター・ギャザリング2020
西栗倉村への道

フォレスター・ギャザリング
@forester.gathering

ホーム
投稿
基本データ
コミュニティ
イベント

投稿
フォレスター・ギャザリングさんイベント参加しました。
1月10日 18:45

Our Story
「日本型フォレスター」の歴史を振り返ります。第1回は2009年8月3日に長野県長野市の次世代森林産業協会にて開催予定です。おめでとうございます。フォレスター、と自覚するみなさんの参加をお待ちしております。
さらに表示

▲全国のネットワーク、連絡先

Ⅱ．総括

森林総合監理士の技術水準の維持・向上、新たな森林管理システムを運営していく上での課題への対応や先進的な地域活動の支援を目的とした、森林総合監理士活動の見える化をねらいとし、森林総合監理士を活用する者対象の『森林総合監理士PRサイト』と、森林総合監理士の登録者限定の『森林総合監理士ネットワークサイト』を作成した。

『森林総合監理士PRサイト』は、森林総合監理士活動をPRし、地域での森林総合監理士の需要を喚起する目的として作成した。各道県の森林総合監理士の活動事例の紹介や対象者(山林所有者、素材生産業者、木材流通・加工業、市町村担当者、消費者、教育機関等)ごとに森林総合監理士の活用の呼びかけをまとめたサイトで、より広い層に森林総合監理士活動を普及・啓発できる意義は大きく、今後も、インターネットや各媒体を活用し、継続的に森林総合監理士活動をPRしていく必要がある。

『森林総合監理士ネットワークサイト』は、情報共有の役割を主として、森林管理局での地域課題への取組や全国林業普及指導職員活動約240事例等の全国の先進的・優良事例、平成23～28年度に実施された森林総合監理士に関わる研修関係の蓄積情報(約290名の講師、フィールド)など、森林総合監理士活動に活用できる情報を掲載している。本サイトはログイン・パスワード制となっており、登録者数は1月22日時点で343名となっている。7ブロックごとにコンテンツを設置し、自由に情報を発信、コメント投稿が可能だが、投稿の利用度が低い状況となっており、森林総合監理士同士の情報交換の場として使用してもらえるよう、引き続き情報・発信の工夫が必要である。

技術力維持・向上対策研修・参考資料

実践研修講師リスト(外部講師、林野庁講師)

令和2年度

北海道ブロック

※所属は研修担当時

講義・演習名	講師	所属
オリエンテーション・研修の目的等の説明・アイスブレイク	横山宏幸	北海道森林管理局技術普及課
【講義・机上案作成】 ・基本講義 (木材需給・流通に関する基礎知識) ・グループ演習①	嶋瀬拓也	(研)森林総合研究所北海道支所
	工藤直樹	北海道森林管理局計画課
	長崎正明	北海道森林管理局森林整備第一課
	横山宏幸	北海道森林管理局技術普及課
	中鍵貴之	北海道森林管理局技術普及課
【現地視察・演習】 ・グループ演習② ・コンテナ苗の生産現場の見学 【演習・発表】 ・グループ演習③ ・グループ演習④ ・発表 ・質疑応答	嶋瀬拓也	(研)森林総合研究所北海道支所
	横山宏幸	北海道森林管理局技術普及課
	中鍵貴之	北海道森林管理局技術普及課
【講評】 ・検討結果に対する講評と意見交換 ・まとめ	嶋瀬拓也	(研)森林総合研究所北海道支所
	工藤直樹	北海道森林管理局計画課
	長崎正明	北海道森林管理局森林整備第一課
	井上 純	北海道森林管理局技術普及課

東北ブロック

講義・演習名	講師	所属
【講義】森林作業道とは	斎藤仁志	岩手大学農学部
【講義】森林作業道配置計画の基礎知識	斎藤仁志	岩手大学農学部
【演習】情報技術を用いた森林路網計画の手順と方法	斎藤仁志	岩手大学農学部
【グループワーク】森林作業道配置図の作成	斎藤仁志	岩手大学農学部
	高木善隆	東北森林管理局森林整備部
	木村秀樹	東北森林管理局森林整備部
	中嶋 一	東北森林管理局森林整備部
【演習】森林作業道配置事例の研究	斎藤仁志	岩手大学農学部
	高木善隆	東北森林管理局森林整備部
	木村秀樹	東北森林管理局森林整備部
	中嶋 一	東北森林管理局森林整備部
【演習】【グループワーク】 森林作業配置の現地検討～情報化技術を用いた現地踏査～	斎藤仁志	岩手大学農学部
	高木善隆	東北森林管理局森林整備部
	木村秀樹	東北森林管理局森林整備部
	中嶋 一	東北森林管理局森林整備部
【グループワーク】森林作業配置図の作成 路網配置の決定とその評価	斎藤仁志	岩手大学農学部
	高木善隆	東北森林管理局森林整備部
	木村秀樹	東北森林管理局森林整備部
	中嶋 一	東北森林管理局森林整備部
【発表・講評】	斎藤仁志	岩手大学農学部
	高木善隆	東北森林管理局森林整備部
	木村秀樹	東北森林管理局森林整備部
	中嶋 一	東北森林管理局森林整備部

関東ブロック

講義・演習名	講師	所属
研修の趣旨等を説明	番場 誠	関東森林管理局森林整備部
【講義】シカの生態と被害の現状	岡 輝樹	(研)森林総合研究所
【講義】捕獲と密度管理	飯島勇人	(研)森林総合研究所
【講義】防除対策事例とコスト	飯島勇人	(研)森林総合研究所
日程説明等	番場 誠	関東森林管理局森林整備部
【現地実習】シカ被害の調査法と行動特性の観察	飯島勇人	(研)森林総合研究所
	八代田千鶴	(研)森林総合研究所
	永田純子	(研)森林総合研究所
	竹之内政勝	関東森林管理局群馬森林管理署
【現地実習】 くくりわな設置方法の実習及びシカ柵設置の留意事項	飯島勇人	(研)森林総合研究所
	八代田千鶴	(研)森林総合研究所
	永田純子	(研)森林総合研究所
	竹之内政勝	関東森林管理局群馬森林管理署
【グループワーク】シカ被害対策全体構想の検討	飯島勇人	(研)森林総合研究所
	八代田千鶴	(研)森林総合研究所
	永田純子	(研)森林総合研究所
	竹之内政勝	関東森林管理局群馬森林管理署
【グループワーク】(発表準備)	岡 輝樹	(研)森林総合研究所
	飯島勇人	(研)森林総合研究所
	八代田千鶴	(研)森林総合研究所
	永田純子	(研)森林総合研究所
【グループワーク】(発表、ディスカッション)	岡 輝樹	(研)森林総合研究所
	飯島勇人	(研)森林総合研究所
	八代田千鶴	(研)森林総合研究所
	永田純子	(研)森林総合研究所
【講義】講評及び総括講義	岡 輝樹	(研)森林総合研究所
	飯島勇人	(研)森林総合研究所
	八代田千鶴	(研)森林総合研究所
	永田純子	(研)森林総合研究所

中部ブロック

講義・演習名	講師	所属
オリエンテーション(ガイダンス)	筒井雅敏	中部森林管理局森林技術・支援センター
【講義・説明・演習】 ・伐採・造林一貫作業システムについて ・採材・仕分けについて ・伐採計画の演習について	佐々伸也	中部森林管理局資源活用課
	永瀬庄栄	中部森林管理局資源活用課
	加藤 孝	中部森林管理局森林整備課
	大森裕司	中部森林管理局名古屋事務所
2日目の現地検討について	筒井雅敏	中部森林管理局森林技術・支援センター
【現地実習】伐採・造林一貫作業システムの現地検討・意見交換	佐々木伸也	中部森林管理局資源活用課
	永瀬庄栄	中部森林管理局資源活用課
	加藤 孝	中部森林管理局森林整備課
	大森裕司	中部森林管理局名古屋事務所
	小竹尚久	中部森林管理局東濃森林管理署
	北沢伸之	中部森林管理局東濃森林管理署
	曾我義孝	中部森林管理局森林技術・支援センター
	筒井雅敏	中部森林管理局森林技術・支援センター
安江清文	中部森林管理局森林技術・支援センター	

講義・演習名	講師	所属
【現地実習】伐採・造林一貫作業システムの現地検討・意見交換	目崎拓海	中部森林管理局森林技術・支援センター
【現地実習】市場視察・意見交換	鈴木隆志	木曾官材市売協同組合
【演習】発表準備 伐採・造林一貫作業による主伐及び低コスト造林について 図面、シート等作成	佐々木伸也	中部森林管理局資源活用課
	永瀬庄栄	中部森林管理局資源活用課
	加藤 孝	中部森林管理局森林整備課
	大森裕司	中部森林管理局名古屋事務所
3日目の発表について	筒井雅敏	中部森林管理局森林技術・支援センター
【演習】発表(発表準備、発表、ディスカッション)・講師講評	佐々木伸也	中部森林管理局資源活用課
	永瀬庄栄	中部森林管理局資源活用課
	加藤 孝	中部森林管理局森林整備課
	大森裕司	中部森林管理局名古屋事務所
	曾我義孝	中部森林管理局森林技術・支援センター
	筒井雅敏	中部森林管理局森林技術・支援センター

近畿中国ブロック

講義・演習名	講師	所属
実践研修ガイダンス	鳥谷和彦	近畿中国森林管理局技術普及課
【講義】今後の森林づくりの考え方について	植田修司	近畿中国森林管理局計画課
【講義】多様な森林づくりの構想について	山下直子	(研)森林総合研究所関西支所
現地検討の進め方及び発表のとりまとめ方説明	平井信彰	近畿中国森林管理局技術普及課
【演習】現地検討前の打合せ(GW)	山下直子	(研)森林総合研究所関西支所
	植田修司	近畿中国森林管理局計画課
	草深和博	近畿中国森林管理局技術普及課
	鳥谷和彦	近畿中国森林管理局技術普及課
	篠原庄次	近畿中国森林管理局森林技術・支援センター
	窪田 武	近畿中国森林管理局森林技術・支援センター
	坪倉 真	近畿中国森林管理局森林技術・支援センター
	坪倉 真	近畿中国森林管理局森林技術・支援センター
現地検討の進め方説明	平井信彰	近畿中国森林管理局技術普及課
【現地検討】 ・一斉人工造林地における今後の森林施業 (地位等の森林の状況の調査) ・天然力を活用した森林づくり (天然生広葉樹の活用事例の調査)	山下直子	(研)森林総合研究所関西支所
	植田修司	近畿中国森林管理局計画課
	草深和博	近畿中国森林管理局技術普及課
	鳥谷和彦	近畿中国森林管理局技術普及課
	篠原庄次	近畿中国森林管理局森林技術・支援センター
	窪田 武	近畿中国森林管理局森林技術・支援センター
	坪倉 真	近畿中国森林管理局森林技術・支援センター
	坪倉 真	近畿中国森林管理局森林技術・支援センター
【演習】発表とりまとめ(GW) 現地検討結果を踏まえて、「一斉人工造林地における 今後の森林施業」をテーマとして、目標林型等について 検討し、発表をとりまとめ	山下直子	(研)森林総合研究所関西支所
	植田修司	近畿中国森林管理局計画課
	草深和博	近畿中国森林管理局技術普及課
	鳥谷和彦	近畿中国森林管理局技術普及課
	篠原庄次	近畿中国森林管理局森林技術・支援センター
	窪田 武	近畿中国森林管理局森林技術・支援センター
	坪倉 真	近畿中国森林管理局森林技術・支援センター
本日進め方説明	平井信彰	近畿中国森林管理局技術普及課
【演習】発表・意見交換・講評	山下直子	(研)森林総合研究所関西支所
	植田修司	近畿中国森林管理局計画課
	草深和博	近畿中国森林管理局技術普及課
	鳥谷和彦	近畿中国森林管理局技術普及課

講義・演習名	講師	所属
【演習】発表・意見交換・講評	篠原庄次	近畿中国森林管理局森林技術・支援センター
	窪田 武	近畿中国森林管理局森林技術・支援センター
	坪倉 真	近畿中国森林管理局森林技術・支援センター
	中村昌有吉	林野庁研究指導課

四国ブロック

講義・演習名	講師	所属
研修主旨、意図、留意点の説明	古味敏光	四国森林管理局森林技術・支援センター
【講義】 大型製材工場の現状と課題地域の特性に合った木材流通等	砂田和之	株式会社サイプレス・スナダヤ
【講義】 集材架線システムの資料作成の説明(コスト計算等) 簡易な架線集材の見学等	吉良 康	四国森林管理局森林整備部資源活用課
	横山敬治	四国森林管理局森林整備部資源活用課
【実習】 各班、机上で1/5000の図面に搬出系統図(集材線・路網)を記入	吉良 康	四国森林管理局森林整備部資源活用課
	横山敬治	四国森林管理局森林整備部資源活用課
【実習】採材研修	大川容平	高知県森林組合連合会高幡共販所
	吉良 康	四国森林管理局森林整備部資源活用課
	横山敬治	四国森林管理局森林整備部資源活用課
	鷹野孝司	四国森林管理局森林技術・支援センター
	江入力男	四国森林管理局森林技術・支援センター
【実習】 架線集材作業現場見学及び説明(元柱付近)	太郎田佑一	須崎地区森林組合
	吉良 康	四国森林管理局森林整備部資源活用課
	横山敬治	四国森林管理局森林整備部資源活用課
【実習】 架線集材作業現場見学及び説明(先柱付近)及び架線集材作業現場見学及び各班、事前に1/5000の図面に記入した、搬出系統図(集材線・路網)を現地踏査確認	太郎田佑一	須崎地区森林組合
	吉良 康	四国森林管理局森林整備部資源活用課
	横山敬治	四国森林管理局森林整備部資源活用課
【実習】 各班で現地踏査等を踏まえた、集材架線システムの資料作成	吉良 康	四国森林管理局森林整備部資源活用課
	横山敬治	四国森林管理局森林整備部資源活用課
【発表・講評】 各班発表、講評	西山靖之	林野庁研究指導課
	吉良 康	四国森林管理局森林整備部資源活用課
	横山敬治	四国森林管理局森林整備部資源活用課
	鷹野孝司	四国森林管理局森林技術・支援センター

実践研修修了者名簿

令和2年度

北海道ブロック

※所属は修了日現在

区分	都道府県	名前	所属	修了者番号
都道府県職員	北海道	相川 浩子	後志総合振興局 森林室普及課	003
都道府県職員	北海道	大坂 誠	胆振総合振興局 森林室豊浦事務所	005
都道府県職員	北海道	小林 慎哉	渡島総合振興局 東部森林室 普及課	007
都道府県職員	北海道	小林 忠勝	檜山振興局 森林室 北檜山事務所	010
都道府県職員	北海道	白川 伸輔	檜山振興局 森林室	009
都道府県職員	北海道	棚橋 元	日高振興局 森林室 平取事務所	006
都道府県職員	北海道	馬場 敏宏	胆振総合振興局 森林室 普及課	004
都道府県職員	北海道	林 優子	石狩振興局 森林室 普及課	002
都道府県職員	北海道	南出 隆司	渡島総合振興局 西部森林室 普及課	008
都道府県職員	北海道	峰岸 章弘	水産林務部 森林環境局 森林活用課	001
国有林職員	北海道	江刺 光浩	北海道森林管理局 後志森林管理署	011
国有林職員	北海道	坂本 有	北海道森林管理局 日高北部森林管理署	012

東北ブロック

区分	都道府県	名前	所属	修了者番号
都道府県職員	青森県	佐藤 文宏	東青地域県民局 地域農林水産部 林業振興課	014
都道府県職員	青森県	成田 真智子	三八地域県民局 地域農林水産部 林業振興課	013
都道府県職員	岩手県	川又 翔子	盛岡広域振興局 林務部 林業振興課	015
都道府県職員	岩手県	佐藤 一哉	一関農林振興センター 林業振興課	016
都道府県職員	岩手県	松田 悟	沿岸広域振興局 農林部宮古農林振興センター林務室	017
市町村職員	岩手県	田村 大輔	盛岡市 農林部 林政課	020
都道府県職員	宮城県	堀籠 健人	北部地方振興事務所栗原地域事務所林業振興部	018
都道府県職員	福島県	油井 竜太	県北農林事務所 森林林業部 林業課	019
国有林職員	岩手県	伊藤 研吾	東北森林管理局 盛岡森林管理署 業務グループ	021
民間	岩手県	小野寺 博信	一関地方森林組合	023
民間	岩手県	西城 英寿	一関地方森林組合	022
民間	宮城県	佐々木 翔太	宮城県森林組合連合会	025
民間	宮城県	鳥居 創太	丸森町森林組合	024

関東ブロック

区分	都道府県	名前	所属	修了者番号
都道府県職員	埼玉県	田畑 琢己	秩父農林振興センター 林業部	047
都道府県職員	神奈川県	松本 開地	県央地域県政総合センター 農政部 森林保全課	048
都道府県職員	山梨県	依田 勇二	峡南林務環境事務所	049
国有林職員	栃木県	岩崎 諭	関東森林管理局 塩那森林管理署 業務グループ	050
民間	茨城県	佐藤 信聡	茨城県森林組合連合会 総務企画部	051
民間	栃木県	関口 啓	(株)栃毛木材工業	052
民間	埼玉県	新井 和幸	新井森林サービス(株)	053
民間	神奈川県	杉本 貴広	(有)杉本林業	054
民間	兵庫県	吉井 輝和	NPO法人バイオマス丹波篠山	055

中部ブロック

区分	都道府県	名前	所属	修了者番号
都道府県職員	福島県	福地 雅弘	県北農林事務所 森林林業部 林業課	035
都道府県職員	岐阜県	徳川 隆之	恵那農林事務所 林業課	038
都道府県職員	岐阜県	古川 明里	西濃農林事務所 林業課	037
都道府県職員	岐阜県	和田 将也	郡上農林事務所 林業課	039
都道府県職員	静岡県	岩間 慎太郎	中部農林事務所 森林整備課	041
都道府県職員	静岡県	鈴木 美南	中遠農林事務所 森林整備課	040
都道府県職員	愛知県	斎場 勇治	豊田加茂農林水産事務所 林務課(普及担当)	042
都道府県職員	滋賀県	柴崎 大樹	西部・南部森林整備事務所 高島支所	043
都道府県職員	奈良県	西 卓宏	食と農の振興部 中部農林振興事務所 農林普及課	044
都道府県職員	和歌山県	山本 将功	西牟婁振興局 農林水産振興部林務課	045
国有林職員	岐阜県	中澤 栄貴	中部森林管理局 東濃森林管理署 治山グループ(中津川治山事業所)	046
民間	長野県	大瀧 秀明	(株)柳沢林業 山林事業部	036

近畿中国ブロック

区分	都道府県	名前	所属	修了者番号
都道府県職員	京都府	川勝 隆之	農林水産技術センター農林センター 森林技術センター	026
都道府県職員	兵庫県	倉橋 路枝	兵庫県立農林水産技術総合センター 森林林業技術センター	028
都道府県職員	兵庫県	山下 毅	中播磨県民センター 姫路農林水産振興事務所 森林課	027
都道府県職員	岡山県	鹿島 拓也	農林水産部 森林企画課	030
都道府県職員	岡山県	古谷 優平	美作県民局 農林水産事業部 森林企画課	029
国有林職員	和歌山県	香川 直樹	近畿中国森林管理局 和歌山森林管理署 業務グループ	031
国有林職員	島根県	掛部 晋	近畿中国森林管理局 島根森林管理署 業務グループ	032
民間	兵庫県	足立 健浩	北はりま森林組合 事業課	034
民間	岡山県	斉藤 純一	山陽商事(株) フォレストデザイン事業部	033

四国ブロック

区分	都道府県	名前	所属	修了者番号
都道府県職員	奈良県	内田 純嗣	森林技術センター 森林管理市町村連携課	056
市町村職員	徳島県	泉原 英和	上勝町 産業課	060
都道府県職員	愛媛県	井手 紀文	東予地方局産業経済部 森林林業課(四国中央森林林業振興班)	057
都道府県職員	福岡県	田中 卓	八幡農林事務所 林業振興課	058
都道府県職員	大分県	小関 崇	農林水産部 林務管理課	059
国有林職員	徳島県	田上 弘樹	四国森林管理局 徳島森林管理署	061
国有林職員	高知県	後藤 和昭	四国森林管理局 安芸森林管理署 業務グループ	063
国有林職員	高知県	中岡 正樹	四国森林管理局 森林整備部 資源活用課	062
国有林職員	高知県	森下 嘉晴	四国森林管理局 安芸森林管理署 安芸・入河内森林事務所	064
民間	兵庫県	寺下 直美	(株)山本木材(寺下林業)	066
民間	兵庫県	山本 定夫	(株)山本木材	065
民間	徳島県	西 利一	一般社団法人かみかつ森林環境公社	067
民間	徳島県	武岡 功展	木頭森林組合	068
民間	高知県	東 弘幸	(株)木こり屋	069
民間	高知県	岡林 栄臣	(株)木こり屋	070
民間	高知県	曾我部 文雄	(有)式地林業	071

実践研修

●●ブロック 1日目 ふりかえりシート

班: _____

所属組織名: _____

氏名: _____

受講生No.: _____

<p>講義や演習で学んだことのポイントやキーワード 印象に残った講師や他の受講者の言葉を記録・整理</p>	
<p>研修後、職場(現場)でさっそく調べたいこと、 確認したいこと・取り組みたいことを記録・整理</p>	
<p>自分の知見を高めるために、 もっと詳しく知りたい、学びたいこと、 難しかったこと・わからなかったこと</p>	

実践研修

●●ブロック 最終日ふりかえりシート

班: _____

所属組織名: _____

氏名: _____

受講生No.: _____

3日間の実践研修を終えて、新たに見えてきた自分自身の課題、
新たに獲得したこと、得た知識・情報、ポイント等を整理・記録しましょう

実践研修アンケート調査票

参考資料1-4

令和2年度 市町村支援技術者養成事業

〇〇ブロック 技術力維持・向上対策研修(実践研修)評価アンケート調査票

今後の研修を効果的に実施するための参考資料としますので、率直なご意見・ご要望等をご記入下さい。

ボールペン等で濃くご記入くださいますようお願いいたします。

所属組織名: _____ 氏名: _____ 受講生No: _____

I 森林総合監理士資格の有無

該当欄の数字に○を付けて下さい。

(1) 森林総合監理士資格の有無

森林総合監理士	資格なし
1	2

II 本研修に対する理解度、活用度

該当欄の数字に○を付け、理由等を【コメント】欄にご記入下さい。

(1) 研修内容についてどの程度理解できましたか？

【コメント】

できなかった	できた			
1	2	3	4	5

(2) 今後、森林総合監理士等の活動を行う上で、どの程度活用できそうですか？

【コメント】

できない	できる			
1	2	3	4	5

III 本研修に対する全体としての満足度、運営に対する評価

該当欄の数字に○を付け、理由等を【コメント】欄にご記入下さい。

(1) テーマの設定について(※森林総合監理士等の活動を行う上での評価として下さい)

【コメント】

低い	満足度	高い		
1	2	3	4	5

(2) テーマに対するカリキュラムの内容について

【コメント】

低い	満足度	高い		
1	2	3	4	5

(3) カリキュラムの時間について

【コメント】

低い	満足度	高い		
1	2	3	4	5

(4) 研修の進行・運営の流れについて

【コメント】

良くなかった	良かった			
1	2	3	4	5

IV その他

自由に感想をお書き下さい。(研修の中で特に印象に残ったこと、来年に向けての提案等)

ご協力ありがとうございました。

実践研修タイムスケジュールの事例

日程	予定		実績		講義等の名称	内容等	形態	担当	
	開始時間	所要時間	開始時間	所要時間					
1日目 11月11日 (水)	11:00	1:00	10:55	0:32	スタッフミーティング	各班にホワイトボードを構える	その他		
	13:00	0:30	12:59	0:31	開講式 自己紹介の時間は、開校式の残り時間とする	<ul style="list-style-type: none"> ・開講あいさつ (四国森林管理局) (林野庁) ・講師 ・スタッフ等の紹介 ・研修の目標・進め方・確認 ・スケジュール紹介 ・事務連絡(受講の手引きと研修運営事務局) ・班内での自己紹介など ・アンケート調査票を配布 	その他	森林管理局	
	13:30	1:30	13:30	1:28	大型製材工場の現状と課題・地域の特性に合った木材流通について		講義	外部講師	
	15:00	0:10	14:58	0:11	休憩		その他		
	15:10	1:00	15:09	1:00	架線系作業システムについて 電動集材機を使って策張り(見学・作業)	架線系作業システムの資料作成の説明 (コスト計算) 簡易な架線取材の見学 研修生等ヘルメット・手袋を持っていくようにアナウンスすること。	講義	森林管理局	
	16:10	0:10	16:09	0:11	休憩		その他		
	16:20	0:20	16:20	0:37	各班、机上で1/5000の図面に搬出系統図 (集材線・路網)を記入。	各班、机上で1/5000の図面に搬出系統図(集材線・路網)を記入。	実習	森林管理局	
	16:40	0:20	16:57	0:23	ふりかえり	1日目のふりかえりシート配布 回収 ※明日の現地実習の説明(簡潔に) 明日の現地説明についてアナウンスすること。	その他		
	17:00		17:20		1日目終了				
	17:00		17:00	17:15	スタッフミーティング				

日程	開始時間	所要時間	開始時間	所要時間	講義等の名称	内容等	形態	担当
11月12日 (木)	8:00	2:00	7:57	2:19	現地へ移動(島ノ川山)	準備物は、前日にD5に積み込む ・布施ヶ坂の駅でトイレ休憩(10分以内) 10:10までに着予定 研修生はジャンボタクシーで移動 (1台へ4人)スタッフ4名がジャンボタクシーに乗る 1号車(森林管理局) 2号車(森林管理局) 3号車 (森林管理局) 4号車(森林管理局)		
	10:00	0:10	10:16	0:17	移動準備	ジャンボタクシーは、集材機手前で下車	その他	
	10:10	1:00	10:33	1:12	採材研修 採材木は、ヒノキ等で各班に1本用意し(全部で4本) 各班で1本毎に採材し、その結果を発表しても らう その結果を、外部講師に講評(結果)をしても らう	全体:外部講師 各班への担当講師 1班:森林管理局 2班:森林管理局 3班:森林管 理局 4班:森林管理局 準備物(電卓、輪尺、メジャー、単価表、野帳、野帳 板) (丸太材積表・立木材積表) パソコン、机、椅子 拡声器	その他	森林管理局 外部講師
	11:10	0:40	11:45	0:15	架線集材作業現場見学及び説明(元柱付近)	・事業地の説明(40分)	説明 演習	外部講師
	11:50	0:40	12:00	0:30	昼食	現地昼食 ※昼休みにドロロンをあげるかも	その他	
	12:30	1:20	12:30	1:22	架線集材作業現場見学及び説明(先柱付近) 搬出系統図(集材線)を現地確認 現地説明等を30分 架線図面修正を50分	・事業地の説明(40分)須崎地区森林組合 ・架線集材の説明後、各班がそれぞれ行きたい所へ ジャンボタクシーで移動する。 ・各班が架線等の確認した後、13時50分までに森林 組合休憩小屋に集合する。	説明 演習	森林管理局 外部講師
	13:50	0:10	-	-	休憩		その他	
	14:00	2:00	13:52	2:08	四国森林管理局へ移動	布施ヶ坂道の駅でトイレ休憩		
	16:00	0:10	16:00	0:10	休憩		その他	
	16:10	0:30	16:10	1:10	集材架線システムの資料作成	資料作成について、再度、説明。		森林管理局

日程	開始時間	所要時間	開始時間	所要時間	講義等の名称	内容等	形態	担当
	16:40	0:20	17:20	0:20	ふりかえり	2日目のふりかえりシート配布 回収	その他	
	17:00		17:40		2日目終了			
			17:30	0:25	スタッフミーティング			
					終了			
3日目 11月13日 (金)	8:15	1:45	8:15	1:45	発表資料作成 パワーポイントで発表	事前に撮影した、ドローン映像を流す。 ・8:15～9:30 図面作成及びプレゼン作成 ・9:30～10:00 プレゼン発表練習	グループワーク	
	10:00	0:10	10:00	0:12	休憩			
	10:10	1:30	10:12	1:19	発表			
	11:40	0:25	11:31	0:20	ふりかえり(記入と共有) アンケート記入 閉講式 解散			
					発表順番は、 ①16名(4班) ②各班20分(10分発表、8分質疑応答) ③講評:18分 資源活用課長			
	12:05	0:30	11:37	0:20	スタッフの3日間の反省会 全日程終了			
					閉講式の挨拶は、森林技術支援センター所長 閉会式後に集合写真撮影	その他		

研修における新型コロナウイルス感染症の感染防止対策について
(研修生への要請事項)

林業成長産業化構想技術者育成研修及び技術力維持・向上対策研修の研修実施に当たって、下記のとおり新型コロナウイルス感染症（以下「新型コロナ」という。）の感染防止対策を実施しますので、下記の要請事項等の遵守をお願いします。

記

1 研修受講前に関する事項

(1) 研修受講前の体調管理について

万全の体調で研修に臨むため、日頃から体調管理に努めてください。また、受講前の2週間は毎日（できれば朝夕2回）検温の上、各自の体調等について、別紙「体温・体調等記録用紙（表）」に記録し、受講の可否の判断材料としてください。

なお、当該記録用紙は、研修14日前から研修開始日を（表）面に、研修開始日から研修終了日までを（裏）面に記載する様式になっていますので、両面印刷の上、研修開始日までの状況を（表）面に記載し、研修に持参してください。

(2) 研修受講の可否の判断について

ア 受講の取りやめ

以下のいずれかに該当する方は、受講を見合わせてください。

- ① 研修前2週間以内に発熱等の症状が見られた者（※新型コロナが疑われる場合以外であっても、体調不良者は参加を見合わせてください）
- ② 国・地域を問わず、海外からの帰国後2週間以内の者
- ③ その他、同居親族等の家庭内又は職場の同僚などの感染が確認される等、感染のおそれがある者

イ 受講を要検討

以下のいずれかに該当する方は、受講の可否を慎重に検討願います。

- ① 基礎疾患（糖尿病、心不全、呼吸器疾患ほか）がある者、透析を受けている者、免疫抑制剤や抗がん剤等を用いている者など、重症化しやすいとされている者
- ② 研修前2週間以内に大規模イベント等（ライブハウス、コンサート等）に参加した者

ウ その他

感染が拡大している地域等からの研修生は、当該都道府県等の方針（県外への移動自粛要請等）に基づき、研修受講について判断願います。

(3) 来場までの間の感染防止等について

ア 研修会場への来場の際、公共交通機関の利用にあたっては、感染防止にご留意ください。なお、利用した移動ルート（自宅最寄駅等⇄研修会場最寄駅等）の便名・座席番号等を控えておいてください。

イ 来場時に検温を実施し、体調の聞き取りを行います。その際、発熱症状等が

ある場合は、研修参加を取りやめ、そのまま帰宅等していただきます。

(4) 厚生労働省配布の接触確認アプリの活用（スマートフォン所有者のみ）

各自のスマートフォンに、厚生労働省が配布する新型コロナの陽性者と接触した可能性について通知を受け取ることのできるアプリをインストールし、研修受講の可否の判断材料としてください（※詳しくは厚生労働省HPを参照）。

2 研修中に関する事項

(1) 持参品について

各研修生は、マスク、体温計を必ず持参願います（マスクは研修期間中に必要な枚数）。

(2) 研修中の感染防止対策について

ア 毎朝、研修スタッフが体調不良者の有無を確認しますので、研修生は各自で毎朝夕検温し、別紙「体温・体調等記録用紙（裏）」に体調その他参考事項等（メモ欄）を記録いただきます（記録用紙は研修最終日に提出）。

イ 研修初日に実施していた意見交換会は、開催を見合わせます。

ウ 研修時間外においても不要な外出は避け、常識的判断に基づき、節度ある行動をとるよう心掛けてください。

(3) 講義・実習中の感染防止対策について

ア 研修中は、可能な限り、人を密集させない環境の整備に努め、屋内での講義では換気を励行します。

イ 研修会場内及び演習地までの移動車中では、マスクを着用していただきます。また、演習中も状況に応じてマスク等の着用をお願いします。

(4) 体調不良者の取扱いについて

ア 新型コロナの疑い如何に関わらず、体調不良者は即時研修を中止し、帰宅等していただきます。

イ 感染のおそれがない体調不良者の場合、必要に応じて病院で診察後、医師の診断結果に基づき帰宅・入院等いただきます。

ウ 感染が疑われる場合（濃厚接触者であることが判明した場合等を含む）、保健所等の指示に基づき対処します。また、帰宅方法等は、保健所や研修生の所属機関とも協議の上、決定します。

3 研修受講後に関する事項

研修終了（帰任）後2週間以内に体調不良となる等、当該研修受講時には既に新型コロナに感染していたおそれがある場合は、至急、研修事務局に連絡願います。

4 その他

感染拡大状況等によっては、研修開始前に、急遽、研修を中止する場合があります。また、研修生に新型コロナが疑われた場合等は、研修実施中であっても、保健所等の指示に従い、即時研修を中止し、全研修生を帰宅等させる場合があります。

体温・体調等記録用紙（表）

（研修受講14日前からの状況）

*新型コロナウイルスの最大潜伏期間はおおむね14日間といわれています。

*本記録用紙には、研修14日前から研修開始日までの発熱等の症状と健康状態をセルフチェックしていただくものです。

*この期間に体調不良を感じた場合には、無理せず、職場と相談の上、他の研修生のためにも受講について再検討してください。

*個人情報の取り扱いには十分注意し、感染対策以外では使用しません。

所属		研修名	技術力維持・向上対策研修
ふりがな		研修区分	北海道ブロック（北海道函館市）
氏名		研修期間	令和2年9月1日（火）～9月3日（木）

日付	体温測定時間	体温(°C)	【新型コロナ感染症を疑う症状】 発熱、咳、呼吸困難、全身倦怠感、咽頭痛、鼻汁・鼻閉、頭痛、関節・筋肉痛、下痢、嘔気・嘔吐、味覚や嗅覚の異常など		【参考1】 医療機関の受診・解熱鎮痛薬の内服など	【参考2】 「三密」状態になるなど感染リスクが高いと思われる外出先(場所)・相手方など
			<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 ()		
8月18日	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 ()		
	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 ()		
8月19日	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 ()		
	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 ()		
8月20日	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 ()		
	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 ()		
8月21日	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 ()		
	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 ()		
8月22日	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 ()		
	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 ()		
8月23日	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 ()		
	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 ()		
8月24日	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 ()		
	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 ()		
8月25日	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 ()		
	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 ()		
8月26日	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 ()		
	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 ()		
8月27日	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 ()		
	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 ()		
8月28日	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 ()		
	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 ()		
8月29日	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 ()		
	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 ()		
8月30日	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 ()		
	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 ()		
8月31日	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 ()		
	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 ()		
9月1日 (当日)	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 ()		
	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 ()		

【注】「三密」状態:①換気の悪い密閉空間、②大勢がいる密集場所、③間近で会話する密接場面が重なる状態

体温・体調等記録用紙（裏） （研修期間の状況）

- *本記録用紙には、研修開始日から研修終了までの発熱等の症状と健康状態をセルフチェックしていただくものです。
 *研修期間に体調不良を感じた場合には、速やかに研修スタッフに申し出てください。
 *本記録用紙は、最終日に提出してください（本記録用紙は研修終了後2週間保存後、廃棄します）。
 *個人情報の取り扱いには十分注意し、感染対策以外では使用しません。

所 属		研 修 名	技術力維持・向上対策研修
ふりがな		研修区分	北海道ブロック（北海道函館市）
氏 名		研修期間	令和2年9月1日（火）～9月3日（木）

日付	体温測定時間	体温(°C)	【新型コロナ感染症を疑う症状】 発熱、咳、呼吸困難、全身倦怠感、咽頭痛、鼻汁・鼻閉、頭痛、関節・筋肉痛、下痢、嘔気・嘔吐、味覚や嗅覚の異常 など		【参考1】 医療機関の受診・解熱鎮痛薬の内服など	【参考2】 ・宿泊施設名称 ・研修中に利用した食堂等の名称など
			<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有（ ）		
9月1日	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有（ ）		
	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有（ ）		
9月2日	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有（ ）		
	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有（ ）		
9月3日	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有（ ）		
	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有（ ）		

【メモ1】
班のメンバーの氏名

①	②	③
④	⑤	⑥

【メモ2】
班のメンバー以外で研修中（時間外を含む）に間近で会話する場面があった方（スタッフを含む）の氏名

①	②	③
④	⑤	⑥
⑦	⑧	⑨

【注】濃厚接触：1mの距離（目安）で、マスク等を着用せずに15分以上の接触があった者（喫煙所・会食など）

技術力維持・向上対策研修（実践研修）

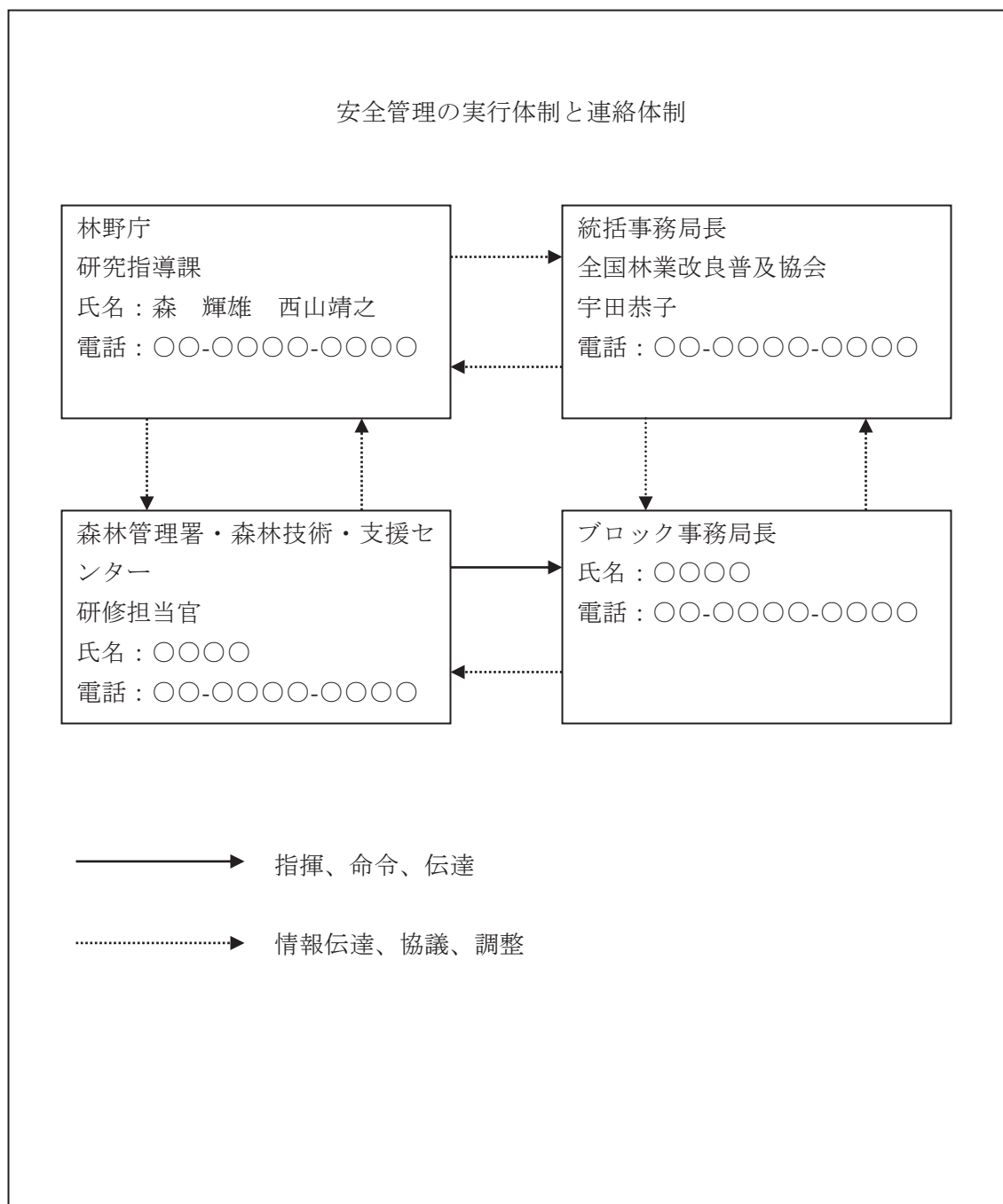
安全管理計画書

安全管理マニュアル

〇〇ブロック

1 安全管理の実行体制と連絡体制

現地においては森林管理局研修担当官の指示のもと、指揮・確認・情報伝達の体制は下記のとおりとする。



2 安全管理の事前確認

(1) 受講者情報の事前確認

下記①、②、③については、統括事務局が事前に照会並びに案内を行うので、①、②については一覧(名簿)にて、③については研修開始時に確認する。

① 受講者及び研修派遣元の情報

【受講者】 氏名、住所、電話番号、救急時連絡先電話番号、年齢、血液型、蜂アレルギーの有無及び蜂アレルギーの程度、研修参加にあたり健康上での留意事項等

【派遣元】 名称、住所、電話番号、緊急時連絡先(担当者氏名、電話番号)

② 受講者の派遣元における保険の加入情報

③ 服装、保安帽の準備

受講者へあらかじめ、袖、裾締まりのよい服装での参加、及び山歩きに適した靴(長靴等)、保安帽等安全具の用意を伝えること。蜂の活動期については、現地実習等で着用する衣服は、黒っぽいものを避けること。

(2) 研修場所、研修機械器具、救急薬品等の整備

① 研修は安全に実施できる場所を選定すること。

② 研修場所及び周辺を研修内容に即して事前に確認し、危険箇所(急傾斜、浮き石、蜂の巣等)を把握し、危険箇所にはテープ等で表示すると共に、現地実習実施前に必ず注意を促し、近づかないよう回避する。

③ 事故時に受講者が退避できる安全場所を確認しておくこと。

④ 救急車との合流場所を確認しておくこと。(救急車は林道等の悪路走行が困難なことがあるので、合流地点は人家近くが望ましい。)

⑤ 現地実習の現場も含め携帯電話の使用の可否を確認し、研修中の連絡体制が確保されていることを確認すること。(図面を作成し、会社によって使用可能なものや不可能なものがあるので複数の会社で試験してみる。)

なお、(特に現地実習現場において)受信範囲が極端に狭い、圏外のエリアがほとんど、というような場合は、統括事務局へ相談する。

⑥ 研修会場まで車で移動する場合は、事前に安全な経路を確認すること。

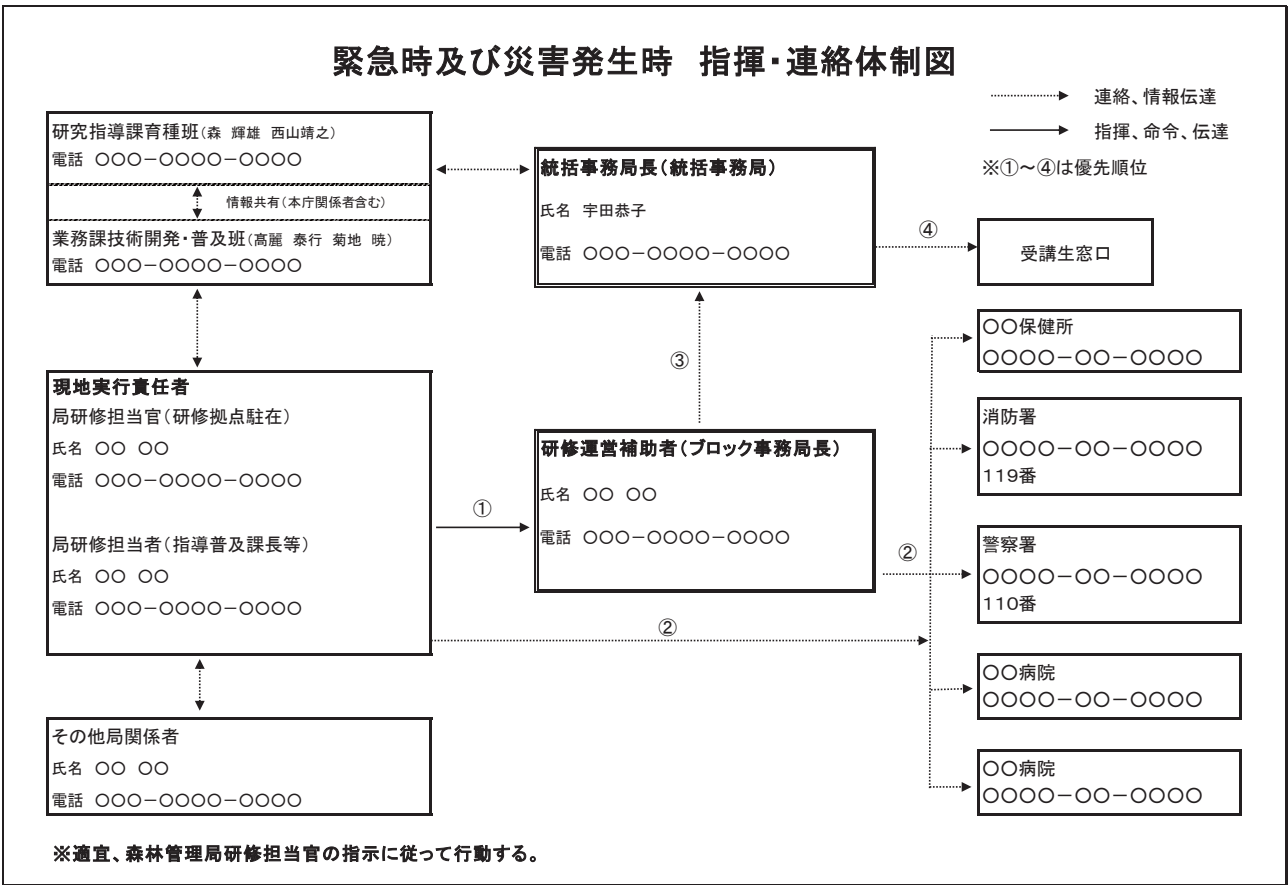
⑦ けが人、急病人等の搬送手段、搬送医療機関を確認しておくこと。

⑧ 研修で使用する器具等の点検を行い、整備不良等に伴う危険因子の排除に努めること。

⑨ 携帯用救急薬品等の点検を行い、不足・不良や期限切れの無いようにすること。

(3) 緊急時及び災害発生時 指揮・連絡体制の整備

緊急時の指揮・連絡体制は、下図のとおりとする。

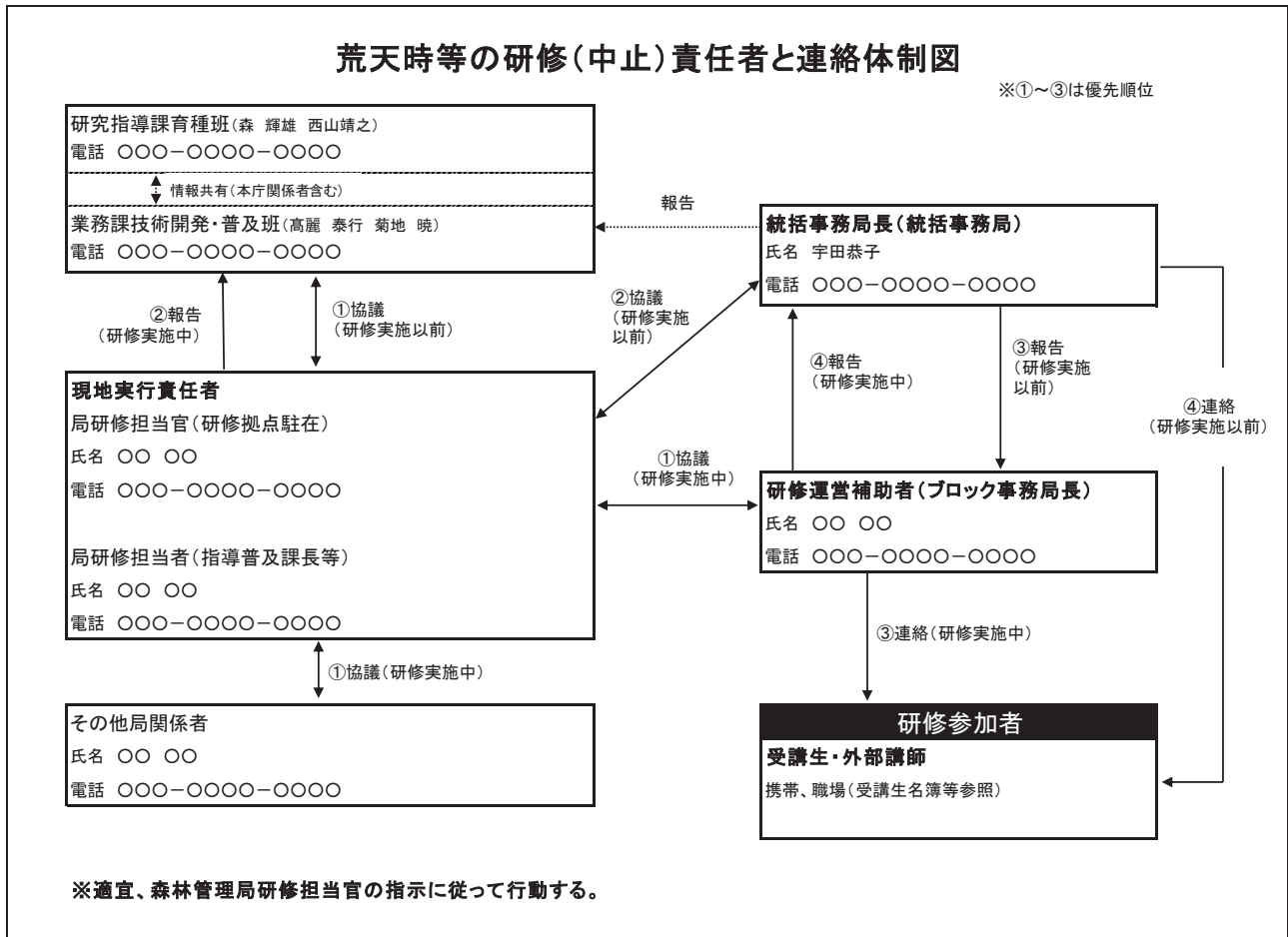


(4) 荒天時の対応(研修開催前)

荒天時の研修の実施について、気象情報等の収集整理を行う者、研修の変更、中止の決定方法、決定の日時、研修参加者への周知方法については下記のとおりとする。

荒天時の研修実行(中止)決定責任者は実行責任者(局研修担当官)とするが、研修運営補助者と協議のうえ決定する。

- ①気象情報の収集整理担当者(ブロック事務局員〇〇〇〇)
- ②決定の日時(研修開催前：令和2年〇月〇日〇時、研修中：令和2年〇月〇日〇時〇分)
- ③受講者・講師・その他研修参加者への周知方法



3 研修実行時の安全管理

(1) 研修の実行

1) スタッフミーティング

研修開始前には、研修スタッフの他、講師、局研修担当官等を交えて、研修の内容、各スタッフの役割、研修の手順、実習内容、人員配置、受講者の出欠状況等の確認を行う。また、研修内容、天候、危険要因等の認識の一致を図る。

さらに、現地実習日の前日に開催される反省会において安全管理について再確認を行う。

2) 研修参加者の安全確保

①研修会場へ車を使用して移動する場合は、交通事故に注意するよう注意喚起を促すこと。現地実習会場へ移動する場合は、当日の工事車両等の有無を確認する。

②研修参加者に対し、安全に関する基本的事項を説明し、身体保護のための被服、防護具は正しく装着するよう指導・確認する。

・保護帽は正しく装着し、あご紐は正しく締めること。

・作業服は袖、裾締まりの良いものを着用すること。

③研修参加者に対し、ヒヤリ・ハット事例があった場合の報告を徹底させること。

④現地実習などでは、次の安全活動を徹底する。

○KYT(危険予知訓練)

危険個所に対する感受性を高めるとともに、問題解決能力の向上を図る。

○リスクアセスメント

現場における災害原因を分析し、事前排除に努める。

○指差呼称による確認

作業行動の要所で対象物を確認し、発声により意識を覚醒させ、うっかり災害を防止する。

○相互注意運動

お互いに不安全行動を指摘し合い、その改善を図る。

○4S運動

整理・整頓・清潔・清掃を行う。研修後の後始末を確実に行う。

○生産・工事現場の確認

機械が動いている生産・工事現場などをあらかじめ確認しておき、近づいたりしないこと。

○研修中の怪我に際しての対応

研修中の怪我により医療機関での処置が発生した場合、その怪我の状況、病院・診療所名、その後の経過を所属機関担当者に報告し対応を引き継ぐ。

3) 救急薬品等の携帯

現地実習の場合は、携帯用救急薬品等を必ず携帯すること。

4) 荒天時の対応(研修中)

研修中の天候急変等異常時には、次によることとする。

①中断、中止の判断は、現地実行責任者が決定し、ブロック事務局長が結果を統括事務局に報告する。

②一時的に避難する箇所を確保するとともに、下山については、集中豪雨、強風等による道路

事情を十分検討し、現地実行責任者等の慎重な判断指揮のもとに、余裕をもった行動をとること。

③退避場所(休憩所を含む)は異常出水、転落石、崩土等の危険を十分点検して選定すること。

④林道等道路上の待機、退避、または駐停車については、谷筋、岩石地、路肩法面の高い所、橋梁上等危険な箇所を避けること。

(2)研修終了後の確認

1)スタッフミーティング

研修終了後は、必要に応じ、局研修担当官等の参加を得て、研修に係る安全管理についての内容等について、事前打ち合わせどおり実施できたか確認を行うとともに、研修全体を振り返り、今後に向け安全で効果的な研修方法についての改善策をまとめる。

さらに、研修中に発生した「ヒヤリ・ハット」事例を報告し合い、発生原因、再発防止対策をまとめる。

【ヒヤリ・ハット事例報告項目】

①日時	
②場所	
③内容	
④状況	
⑤発生原因	
⑥再発防止策	

2)ヒヤリ・ハット事例報告

ヒヤリ・ハット事例と再発防止策を局研修担当官と統括事務局に報告する。

■付表1 チェックリスト

1. 事前確認

- 連絡体制図を(通常時、緊急時)を作成しているか
- 参加者は労災保険又は傷害保険に加入しているか
- 受講者にあらかじめ、袖、裾締まりのよい服装での参加、保安帽等安全具の用意を伝えたか
- 参加者に蜂アレルギー者がいないかを確認したか
- 現地実習箇所について、事前に蜂等の危険因子を回避したか
- 現地の事前確認を行ったか
 - 安全面で研修開催可能な場所か
 - 安全に研修できる地山勾配か
 - 浮き石が無い
 - 蜂の巣(有・無)有の対策：研修箇所から外し、周知を徹底する
 - 危険箇所がないか(崖、水量の多い谷等)
 - 怪我人の搬送方法を確認したか
 - 安全に研修出来るスペースは確保できるか
 - 携帯電話の使用の可否を確認し連絡体制確保を確認出来たか
- 最寄りの病院の位置図、経路を確認したか
- 研修で使用する器具等の点検を行ったか
- 現地の天候(予報)を確認したか
- 携帯電話が繋がらない箇所の場合の対応策はとられているか

2. 持ち物

- マニュアル(緊急連絡網)
- 救急箱
 - バンドエイド
 - 薬(消毒薬、湿布等)
 - 包帯
 - 三角巾(グループ分けした場合は各班毎)
 - タオル
 - ポイズンリムーバー
 - 蜂スプレー(季節による)
 - ガーゼ
 - 抗ヒスタミン軟膏(蜂刺され用)(使用期限を確認すること)

3. 研修中

- 受講者が危険な行為をしていないか
- 怪我または気分の悪くなった受講者はいないか
- 上下作業になっていないか
- 受講者が作業危険区域内に立ち入っていないか(伐採区域等)

付表2 災害発生現場からの連絡事項(チーフ(現地責任者)連絡用)

災害発生現場からの連絡事項

- 1 連絡者の氏名 私は〇〇です。
- 2 災害の概要
(いつ) 〇〇時△△分に
(どこで) 〇〇研修の現場で 〇〇市〇〇町〇〇 付近には〇〇があります
(だれが) 〇〇(氏名)が
(何を) 〇〇作業中に
(どうして) 〇〇したところ
(何により)
(どうなった) 〇〇(部位)を〇〇した。
- 3 傷病者の容態
(意識) ある・ない
(呼吸) している・弱い・ない
(出血) ある(多い・少ない/部位:)・ない
(骨折) 骨折はある(部位:)・ない・不明
(手当等) 止血、薬を服用・塗る 等
(その他)
- 4 救急車の要否
・救急車は必要・不要
・救急車との合流は〇〇地点(合流点までの距離、歩道の距離)
・輸血は必要・不要
・血液型はR h (プラス・マイナス)(A・B・O・AB)型
・搬送等の手段 〇〇で下山、合流地点まで〇〇分くらい
- 5 搬送先の医療機関

※連絡は、救急隊への引き継ぎ後、または、医療機関への搬送後に速やかに行うこと。

事故発生確認事項

連絡者の氏名確認		
災害の概要	いつ	月 日 時 分
	どこで	研修の現場・ (市・郡) (町・村) で
	だれが	(年齢)
	どんな	作業中 でケガをしました。
発生原因		
傷病者の様態		ケガの状況は (意識) ある ・ ない (呼吸) ある ・ ない (出血) ある ・ ない (骨折) ある ・ ない ・ 不明
救急車の要否		必要 ・ 不要
(※)必要に応じて		・救急車の合流地点 ・傷病者の住所 ・傷病者の電話番号 ・輸血 必要・不要 ・血液型 A・B・O・AB型 (Rh プラス・マイナス) ・搬送医療機関
現場概況		天候 : 晴れ、曇り、雨、雪 樹種 : スギ、ヒノキ、その他針()、広葉樹 樹高 : m 太さ : cm 地山 : 勾配、土質(砂質、粘性、礫混じり、岩、その他()) その他 :

緊急時の現場行動マニュアル



通報 研修中断指示・現場安全確保
(発見者) (チーフ、サブ)

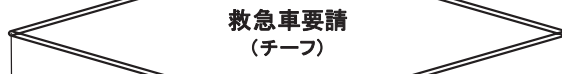
- ①発見者はチーフ(〇〇〇〇)、サブ(〇〇〇〇)に通報、直ちに研修を中断
- ②チーフ、サブは現場確認・安全確保(落石、蜂等)
- ③受講生は予め決めた安全場所で待機
- ④チーフは救急車要請、サブは森林管理局・統括事務局へ第1報

現場携帯用

チーフ: 局研修担当官
(担当者 氏名、電話番号)

サブ: 研修運営補助者
(ブロック事務局)
(担当者 氏名、電話番号)

情報の流れ



必要なし

必要

- ・頭をぶつけた
- ・マムシに噛まれた
- ・ハチに刺された
- ・出血が激しくとまらない
- ・骨が折れているようだ
- ・呼吸・脈拍が感じられない

助務者確保 (チーフ)
受講生に助務を依頼

消防通報・研修中止・助務者確保(チーフ)

- ①消防(119番)へ通報、サブへ救護指示
- ②研修を中止し、受講生に助務を依頼
- ③チーフは森林管理局・統括事務局へ第2報、サブは被災者救護等

第1報

サブ

第2報

チーフ

被災者救護・応急対応(サブ)

- ①助務者と協力して被災者を安全場所へ誘導
- ②助務者と協力して被災者の応急対応(統括事務局用意の緊急対応マニュアル等を参考にできる範囲で手当て)
- ③チーフは被災者の負傷程度を林野庁・管理局に、サブは統括事務局へ報告(第3報)

第3報

チーフ

現場安全確認後
研修再開・中止
(チーフ)

被災者搬出(サブ)

- ①サブは被災者を人家近くの救急車合流地点まで搬送
- ②助務者は救急車誘導指示

チーフ

救急車で搬送(サブ)

- ①サブが救急車に同乗、助務者は救急車に随行
- ②救急車が到着したらチーフは森林管理局・統括事務局へ報告(第4報)、サブは救急車で搬送(搬送後の状況についてはチーフに報告)

第4報

チーフ

公用車等で搬送
(研修関係者)

搬送後の現場対応(チーフ)

チーフは現場に残り、

- ①救急車が出発したら報告(第5報)
- ②受講生に研修会場の後片付け、帰宅指示
- ③警察の現場検証に協力・立会
または、現場記録(写真・見取り図)作成

第5報

チーフ

医療施設での対応(サブ)

- ①サブは医療施設に到着後チーフへ報告、所属関係機関にチーフは報告(第6報)
- ②サブは処置後チーフへ状況報告

第6報

チーフ

管理局・統括事務局

林野庁

本事業で使用している研修関係用語の説明

実践研修では、より研修効果を上げるため様々な工夫をしながら実施している。それらの取り組みに関係する用語を中心として説明する。

○アイスブレイク

「アイスブレイク」とは、参加者の心や、初対面の参加者同士、スタッフ間との間に張った緊張の氷(アイス)を壊す(ブレイキング)時間である。研修の初日のオリエンテーション等で取り入れている。一般的には自己紹介の時間などを兼ねて簡単なゲームを行う。班内の受講生同士の自己紹介や課題等を決められた時間で話したり、誕生日でグループになり文等を交えた自己紹介などその場の雰囲気に合わせて多様なアイスブレイクを行っている。

○アイランド形式

演習(グループワーク)が多いことから、班(4～5人)ごとに机を配置する「アイランド形式」を取り入れている(ブロックによっては、開講式からこの形式で行っている)。アイランド形式は、講師やホワイトボード(スクリーン)が見えにくい場所もあるが、班の受講生同士のコミュニケーションを促し、気軽に意見交換し、意識を共有しやすい環境づくりに役立つ。

その他の配置としては、教室型、シアター型、半円型、円型がある。

○OKP法

演習においてプレゼンテーションなどを行う際に使用している。

ポイントが書かれたA4版の紙(紙芝居)を黒板やホワイトボードに貼り付けながら話を進める手法をKP(紙芝居プレゼンテーション)法といい、発表者がポイントを分かりやすく整理、見える化し、伝える手法である。

○スタッフミーティング

研修を円滑に実施していくため、カリキュラムの進行や参加者についての情報をすべてのスタッフで共有するため、研修実施前、研修期間中、研修終了後に全スタッフ、外部講師も参加してミーティングを行っている。

特に研修終了後のミーティングでは、最後に書いたふりかえり用紙やアンケートを全参加者が読み、そこから気がついたことや自分が思ったことを発表していく(このミーティングでは、建設的な意見が出やすい雰囲気づくりを心掛けることが大事である)。

なお、この場に出された改善点やアイデアなどは、運営補助者が作成する実施報告書等で共有するようにしている。

○ふりかえり

学んだことを自分のこととして考えてもらうため、カリキュラムの中に「ふりかえり」の時間を設けている。

自身でふりかえりの時間で考えたことや新たな気づき、帰ってからすぐに活用できそうな点、自

分なりにもう一度整理、確認しなければならない点等を具体的に書き、言葉化することである。また、グループで読み合い、共有する。そして、なによりも重要なことは、研修の成果として、言葉にしたことを受講生に持ち帰ってもらうことを目的としている。

なお、ふりかえりの際に使用する用紙を「ふりかえりシート」という。

○ペチャクチャタイム(PKT)

講義の合間や演習での発表後に、講義や発表を受けての感想や疑問点、助言等を班ごとに話し合う時間を適宜設けている。この時間を「ペチャクチャタイム」と呼んでいる。この時間を設けることにより、他の受講生の考えを聞くことで、自分の立ち位置や別の視点からの気づきを促し、より理解を深め、質問や意見を出しやすい雰囲気を作ることができる。

○ワークショップ

「ワークショップ」は一方通行的な知識や技術の伝達でなく、参加者が自ら参加・体験し、グループの相互作用の中で何かを学び合ったり創り出したりする、双方向的な学びと創造のスタイルとして定義されている。ワークショップの実施に当たっては、ファシリテーターと呼ばれる司会進行役の人が、参加者が自発的に作業する環境を整える重要な役割を担っている。このことにより、参加者全員が体験・運営することによりグループの合意形成が図られる。

令和 2 年度市町村支援技術者養成事業
報告書

発行日：令和 3 年 2 月 2 6 日

発行：令和 2 年度市町村支援技術者養成事業統括事務局
一般社団法人 全国林業改良普及協会

〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-13 三会堂ビル2階

TEL 03-3584-6625